704
H72

476

H 32

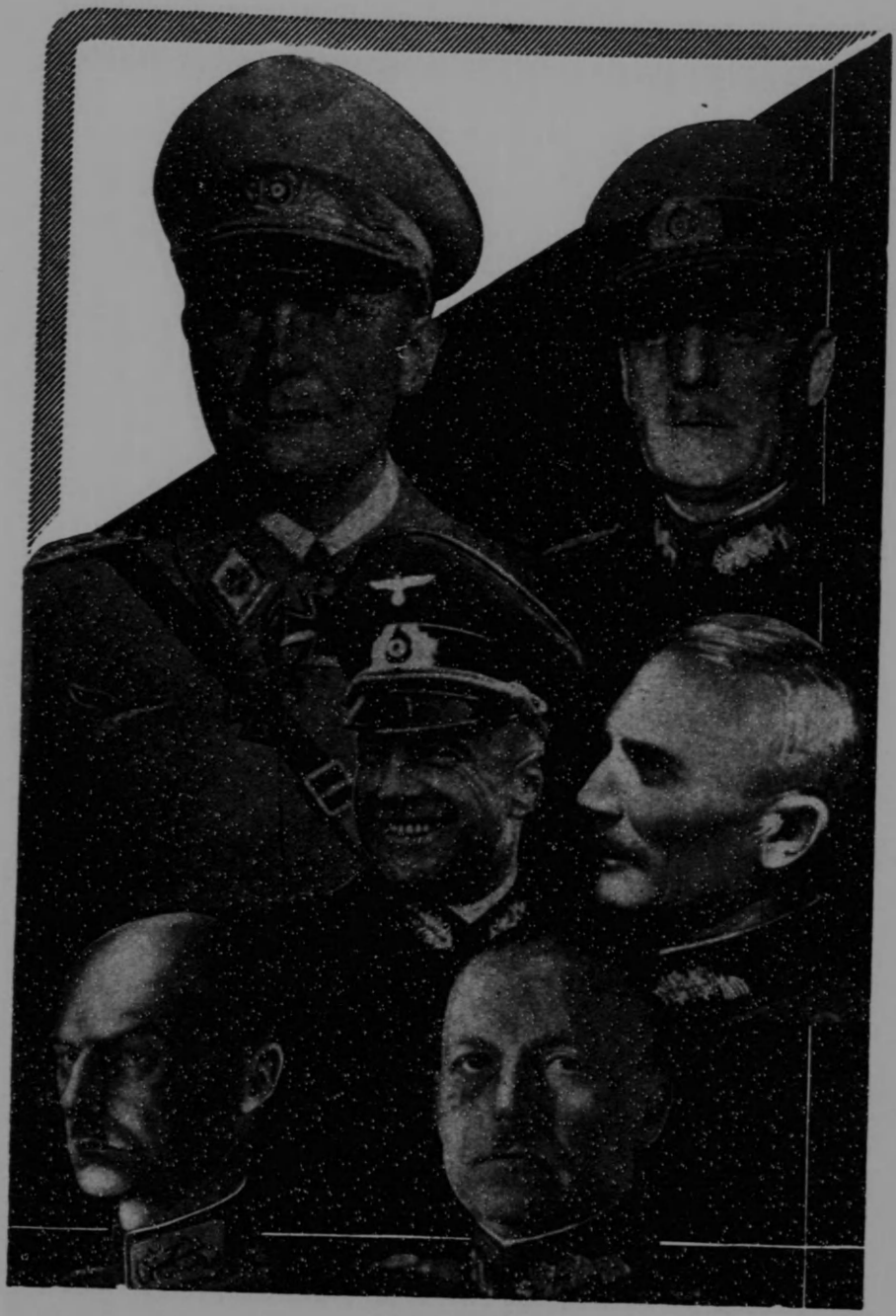
原田瓊生著

反共十字軍

（獨ソ戰の眞相とその經過）

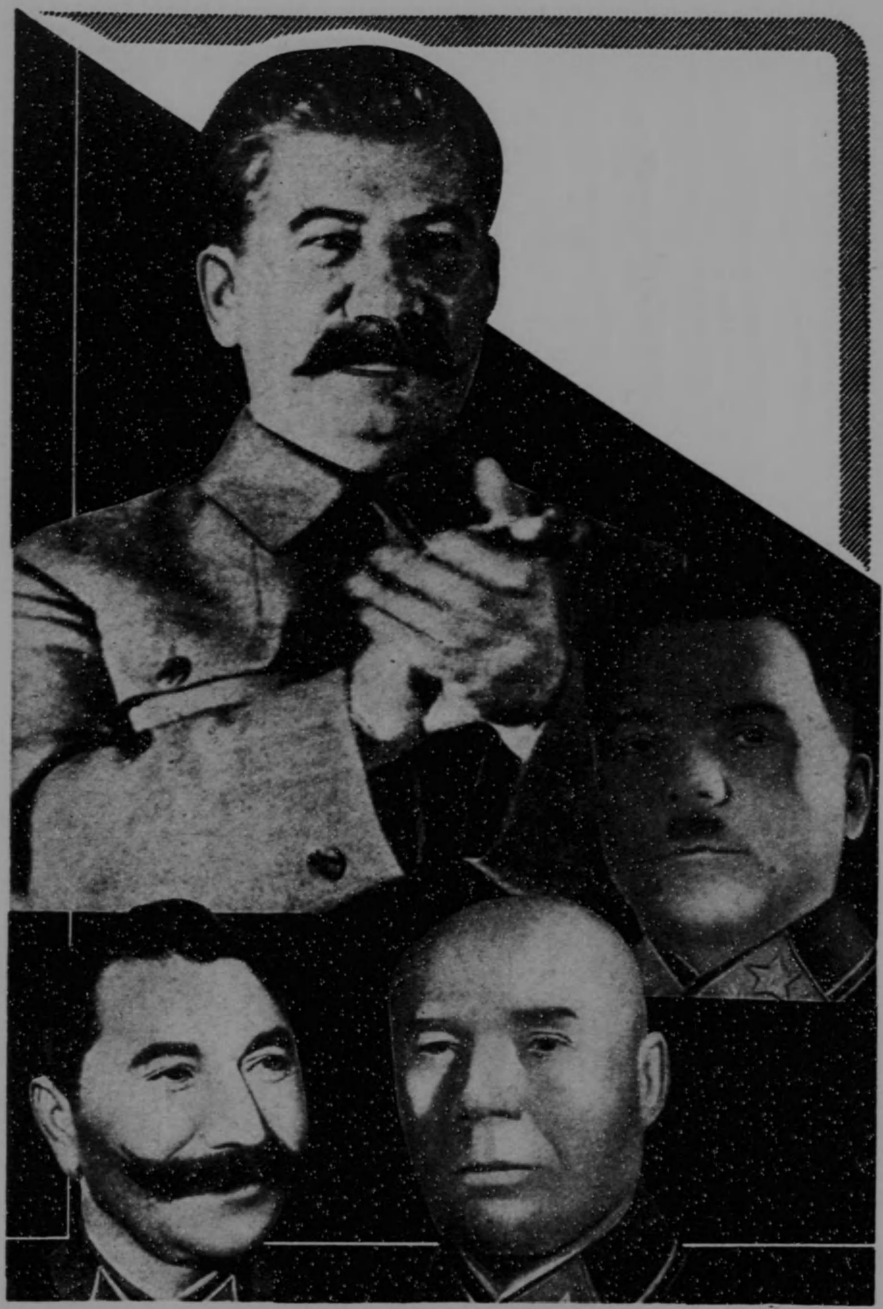
日獨出版協會發行

ヒツトラー總統



獨逸軍の首腦部

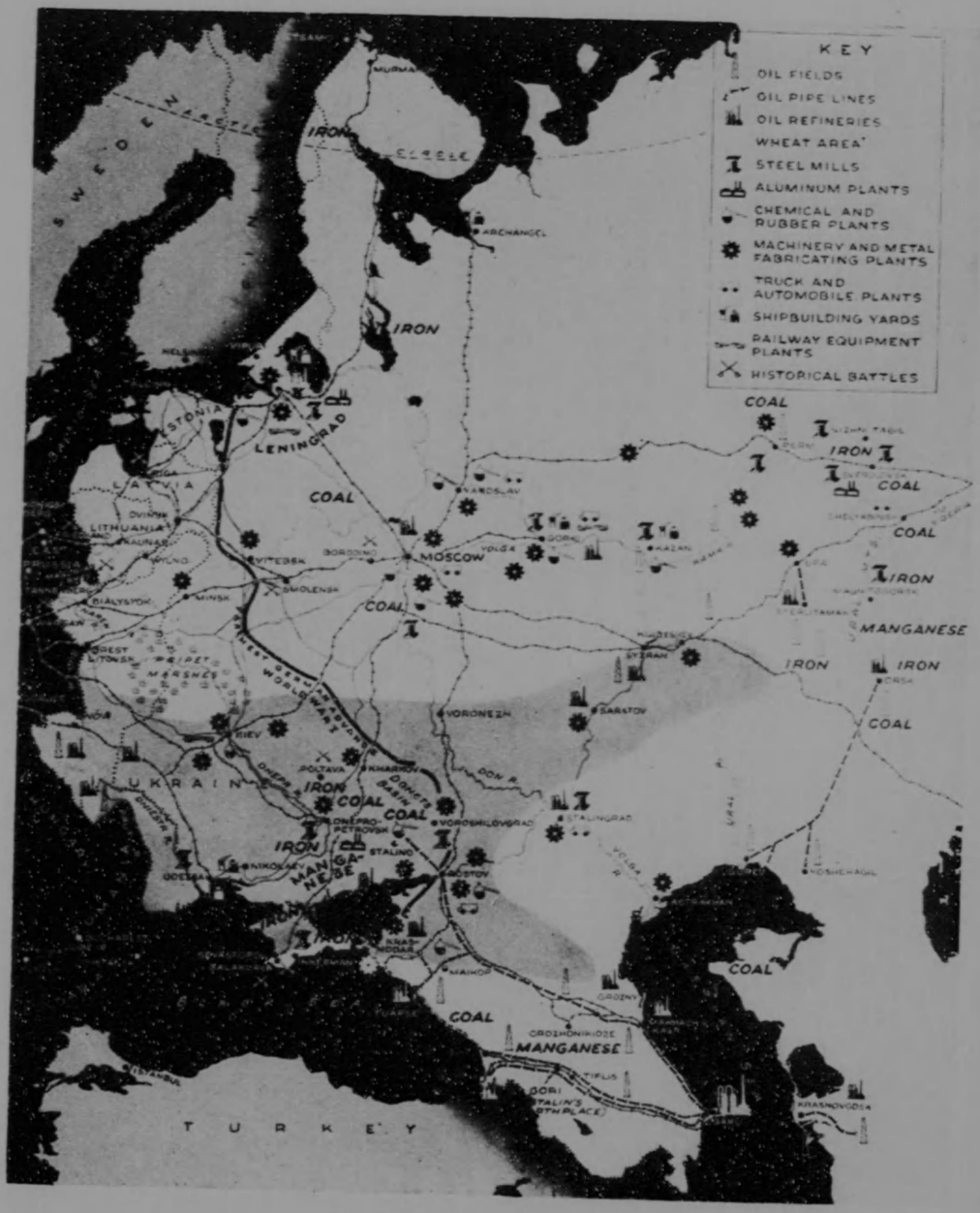
帥元グンリーゲ　帥元ルチイカ
帥元チツヒウラブ　帥元クツボ
帥元ブーレ・ンオフ　帥元トツテスドンル



赤軍の首腦部

スターリン國防委員會議長

元帥ヴォロシーフ　元帥チモシエンコ　元帥ブジョンイヌ


KEY
OIL FIELDS
OIL PIPE LINES
OIL REFINERIES
WHEAT AREA
STEEL MILLS
ALUMINUM PLANTS
CHEMICAL AND RUBBER PLANTS
MACHINERY AND METAL FABRICATING PLANTS
TRUCK AND AUTOMOBILE PLANTS
SHIPBUILDING YARDS
RAILWAY EQUIPMENT PLANTS
HISTORICAL BATTLES
IRON
COAL
MANGANESE
LENINGRAD
MOSCOW
ESTONIA
LATVIA
LITHUANIA
UKRAINE
TURKEY
ARCHANGEL
KIEV
VORONEZH
SARATOV
STALINGRAD
ROSTOV
GROZNY
TIFLIS
KRASNOVODSK
ODESSA
MINSK
SMOLENSK
VITEBSK
KAZAN
UFA
SVERDLOVSK
CHELYABINSK
KUZNETSK
KHARKOV
DNIEPROPETROVSK
VOROSHILOVGRAD
STALINO
KRASNODAR
MAIKOP
ORDZHONIKIDZE
GORI
(STALIN'S BIRTHPLACE)
KRASNOYARSK
NOVOSIBIRSK
ARKHANGEL
NIKOLAYEV
BIALYSTOK
BRIEST LITOVSK
PRIPET MARSHES
WESTERN DEFENSIVE WORKS
DONETS BASIN
DON R.
DNIEPER R.
VOLGA R.
VOLGA
DVINSK
KAUNAS
VILNO
BORODINO
SVERDLOVSK
POLTAVA
MAIKOP

圖地布分源資要重聯ソ

931
140

緒言

獨露の相剋は宿命的である。政治組織が帝政から一方では國家社會主義の全體國家となり、他方では勞農社會主義の共産國家と變つても、國亡びて山河ありで、地政學的の因果關係には何の變りもない。兩雄竝び立たずとは、獨露の國交關係に最もよく當嵌る格言である。而も攻擊の鋒先はいつも東から西へ向ひ、獨逸は常に受身の抵抗を餘儀なくさせられた。民族心理的にも獨逸人は非文明とか半東洋的とか、常に優越觀を以て露西亞人を眼下に見下したがるが、その實は內心竊に露西亞の有つ人的、物的資源の量と國土の廣さに對して怖をなしてゐた。さればこそ十九世紀の最も放膽にして最も細心なる大外交家ビスマルクは、一面墺太利と攻守同盟を締結して置きながら、他面露國との間に密約を結んで平和の再保險を掛ける程の愼重な外交振を發揮したのである。然るに老宰相の外交政策を踏襲することを潔としなかつたウヰルヘルム二世は、まんまと英佛露三國の包圍策に掛つて、遂に帝冠のみならず父祖三百年の普魯西王冠までも棒に振つてしまつたのである。

ワイマール共和制初期の獨逸政府は、露西亞の新主人公たるソ聯邦政府に對しては、世界觀の

相似から自然宥和の態度を示し、ゼーグト將軍時代の獨逸國防軍も亦、赤軍に毒瓦斯工場を供給させた程の親露振を發揮したことは、ヴェルサィユ體制への反抗と見るべきラパロ協約が最も雄辯に之を物語つてゐる。

第一次世界大戰の終幕を飾るべくウィルソン大統領が、歐洲の政治地理と歴史を無視して創作した三畸形新國家の内、それでも波蘭だけは、爾來二十年獨ソ間の緩衝地帶としてバルト三國と共に、中歐へのボルシェヴィズムの氾濫を遮ぎる堰堤としての役目を果した。然るに一昨年の九月波蘭第五次の分割により、獨ソ兩國は又もや直接接壤の國とはなつた。波蘭戰の餘燼がまだ燻りを止めぬ頃既に、戰勝の獨逸軍隊と、進駐して來た赤露軍との間に衝突の危險があつたので、リッペントロップ獨外相は急遽モスクワへ飛び、一九三九年九月二十八日の修交境界條約を締結して漸く事無きを得たのである。

獨露國交の著しき冷却は一九三三年の『ナチ』政權獲得以來、詳しく言へば一九三四年一月二十六日獨波兩國政府間に結ばれた共同宣言この方と言つてよい。獨逸人が露西亞人を莫迦にしながらも畏怖してゐるやうに、露西亞人も先天的に獨逸人に對して一目置いてゐるのである。この敬畏の念はピヨトル大帝の開國政策以來の遺物で、相當に根强く露人の胸底に浸潤してゐる。この相互敬畏の感情が、相互友愛の感情にまで發達しなかつたのは果して何の罪であるか。互に最

も理解し易き、殆ど同文同種とも言ふべき英獨兩國民が、一度ならず二度までも死鬪すべく運命づけられた如く、世界最大の兩陸軍國がまたもや喰ふか喰はれるかの格鬪を演ずることは、正に人類世界史上の一大悲劇である。

獨ソ兩國の主權者、ヒットラーもスターリンも、出來得る限り兩國間の衝突を回避すべく努力した。スターリンは嘗て英國必死の策動を斥け、親英のリトヴィーノフ外相を罷めてモロトフを後任となし、遂に獨ソの間に一九三九年八月二十三日の不侵略條約を締結して、世界をアッと言はせたのである。併しヒットラー總統がソ聯と協調する爲に拂つた犧牲は並大抵ではなかつた。一九二〇年以來絶叫し續けたマルキスト、ヴォルシェヴィッキーの排擊を停めて彼等と握手すると云ふことは、如何に國家利害（シュタートツレーソン）の爲とは言へ、彼にとつては非常な克己を要したことと想像される。獨逸はソ聯の歡心を繫いで兩面作戰の苦境を脱する爲に、波蘭占領地の過半をソ聯に與へ、建國以來の誼を忘れたかの如く、手を拱いて弱小芬蘭をソ聯が攻擊するのを傍觀した。それのみではない。十三世紀獨逸騎士團の進出以來營々としてバルト沿岸に築いた文化的經濟的地盤を惜し氣もなく拋擲して、バルト三國から五十萬に垂んとする獨逸人の大量引揚げを斷行した。ソ聯は間もなくエストニヤ、ラトヴィヤに海、陸、空軍の基地を建設し、昨年六月中旬獨逸が西部戰線に沒頭してゐる機に乘じ、バルト三國を苦もなく併合してしまつた。まだその上に翌七月ソ聯

は羅馬尼からベッサラビヤと北部ブコヴィナを奪つて平然としてゐる。ソ聯にとつてはこの領土擴張は第一次世界大戰による失地の回復に過ぎまいが、隣國である獨、匈、羅三國にとつては一方ならぬ脅威である。而も獨逸は心中の不滿をひた隱しに隱して、昨年二月十一日に調印された獨ソ經濟協定の推移を見守つた。對英戰完遂の爲に獨逸は、ソ聯から怎うしても石油百萬噸、穀物百五十萬噸、大豆五十萬噸、棉花二十萬噸、鋼鐵二十萬噸供給の約束を果して貰はねばならぬ。然るにソ聯側では獨逸から送らるべき代償機械類の積出遲延を口實に、前記物資の引渡を濟つた。それのみならずソ聯は獨逸の弱味に附け込んで、バルカンを攪亂し、眞向から獨逸の政策に反抗の氣勢を示し出した。これはバルカンを兵站補給地と考へる獨逸の忍び得ざる所である。これがやがてモロトフ外相のベルリン招致となつたのである。

モロトフのベルリン訪問に就ては、その當時この會談により獨ソ關係が一層緊密敦厚を加へたかの如く大袈裟に報道されたが、事實は全くその正反對であつた。ヒットラー總統の對ソ宣戰の宣言にもあるやうに、モロトフは勃牙利に對しユーゴースラヴィヤに對し、將また土耳古に對ソ聯の制覇を認め獨逸の總退却を要求したので、折角の談判も遂に不調に歸したのである。かくてモロトフは意見不一致の儘十一月中旬モスクワに歸還したが、それかあらぬか十一月二十日には匈牙利は公然樞軸陣營に走り、同二十三日には羅馬尼も三國同盟に加盟した。

事茲に到つてはソ聯は最早獨逸に對し遠慮して居られぬ。そのバルカン工作は益々露骨となつて來た。勃牙利が獨逸軍隊の同國内進駐を許したことに對し、ソ聯は公然その不都合を詰つた。ユーゴースラヴィヤではシモヴィッチ將軍が三月二十七日拂曉突如としてクーデターを斷行し、同二十五日前首相ツヴェトコヴィッチがウィーンに於て調印した三國同盟加入の條約を反古にした陰謀の蔭には、ソ聯と英米の魔手が動いたことは今や公然の秘密となつた。而もそれを裏書するかの如く、ソ聯は四月六日ユーゴーとの間にモスクワに於て不可侵條約を締結した。

事態がかうなつては獨ソ兩國の關係は冷却する許りである。獨ソ兩國は孰れも新國境に沿ふて要塞線修築の工事を熱心に進めたが、ソ聯は次第に大兵力を國境線に集結し、獨逸側でも負けて居らず、自然に一觸卽發の形勢となつて來た。

その上痛く獨逸政府の神經を苛立たしたのは、ソ聯の獨逸國内赤化の運動である。ソ聯は一昨年八月の獨ソ提携の當時から昨年のモロトフ會談の頃までは、獨逸に對するコミンテルンの赤化工作を停止してゐた。然るにベルリン會談が不調となるや、ベルリン駐劄の大使を更迭し、デカノゾフ外務人民委員次長を現職の儘駐獨大使に任命して、盛んに獨逸赤化に乘出したことは、恰もブレスト・リトウスク媾和條約締結の直後、當時の駐獨ソ聯大使ラデックが、外國使臣治外法權の特權を惡用し、大使館を赤化宣傳の策源地として、遂に獨逸の銃後を革命にまで導いたのと

同工異曲である。

斯くて獨ソ間の緊張が加速度を以て破局に向つて進んで行つた刹那、總統を初め獨逸の指導階級を震憾せしめた警鐘は、ソ聯が英國と共謀して遲くも本年の八月、獨英決戰の虚に乘じて獨逸の背後を衝き、その絶大なる機甲部隊を以て、スチーム・ローラーの如く一舉に全歐洲を席捲してしまうことに謀議一決したとの諜報である。今や一刻の猶豫もならぬ。骰子は遂に投げられた。ヒットラー總統は六月二十二日陸、海、空三軍に向つてソ聯膺懲の出師を下令した。爾來征戰六箇月。十二月八日冬季停戰の聲明までの戰果と、その間に起つた外交上の推移を叙することが本書の目的である。

開戰三ヶ月で城下の盟をさせると豪語したのは、いづれ新聞關係の無責任な人であつたらうがそれにしてもソ聯軍は善く戰つたと言はねばならぬ。三百八十萬の捕虜を獲られ、二萬一千の戰車を失ひ、一萬七千の飛行機を擊破されても、猶未だ鬪志を喪はず、『嚴冬將軍』の來援を得て漸く一息つくことが出來た赤軍の抵抗力に對しては、敵ながらも天晴と獨逸軍は來春を期して一先づモスクワ攻圍の陣を撤し、戰線を短縮して冬季の休養に入らんとしてゐるのである。

然るに獨ソ戰線に於て獨逸國防軍が冬營に入る決心を發表したその日、叡聖文武なる　天皇陛下は、米英に對する宣戰の詔勅を渙發し給ふて、歐洲大戰は遂に世界大戰と變貌したのである。

また我國は十二月十一日の條約により三國同盟を強化して、互に單獨媾和をなさざることを約した。而もソ聯に對しては武裝中立の態勢を維持する現狀である。飽くまでも平和に眷々として隱忍自重した帝國の態度を『與し易し』と誤認して、遂に眞珠灣頭の一擊に太平洋艦隊を全滅せられ、また英國東洋艦隊の主力二艦を轟沈せられて周章狼狽するのは自業自得であるが、チャーチル英首相がまたしてもワシントンにローズヴェルト大統領を訪ねて鳩首凝議するのは何であるか獨逸の一時的退陣を好機にソ聯をABCD反日陣營に引張り込み、既に南に於て破綻した對日包圍網を、北に於て彌縫せんものと、焦慮することは想像するに難くない。しかし英米からの援助が事實問題として到底望み難くなつた今日、骨の髓まで現實政治家であるクレムリン宮裡のソ聯首腦者が、英米金權政治家斷末魔の甘言に魅せられて、日獨兩强國を相手に兩面作戰の愚舉に出づるとは怎うしても考へられない。寧ろこの際斷然と前非を悔ひ、資本主義國家と斷つて、曲りなりにも社稷を全うすることを試みた方が賢明な策ではあるまいか。これが明年に持越された課題である。

本書は日々稿を續けたので政治篇では既に陳腐に屬するものが無いでもない。軍事篇では日誌の體裁を採つて獨逸國防軍總司令部發表の公報を採錄して之に拙ない解說を加へたのは、ドクトル・エーリヒ・ムラウスキー少佐の名著『西部戰線の突破』を模したからである。唯シベリヤ鐵

道不通の爲研究の資料を得ることが全く不可能となつたので、我ながら不滿足の點が多いのは洵に遺憾である。附圖等にしても自分ではベストを盡した積りではあるが、正確を缺く點は御寛容を願ひたい。

最後に私は獨逸大使館附陸軍武官クレッチュマー大佐に對し、深甚の謝意を表する義務を感ずるものである。同武官が某所に於てせられた講演が東日紙上に連載されたので、その儘拙著に載錄することを請ふたが、謙遜な同武官は之を許されず、寧ろそれを資料に用ひて私の戰評を書けと言はれた。卷尾の『獨ソ戰役の概評』がそれである。その爲に完璧の名論文を瀆した點は、幾重にも御容赦を乞ふ次第である。

獨ソの交戰は嚴寒の爲に當分大規模の機動を見ないが、小競合はなほ隨所に行はれてゐる。若し私の希望的意見に反して獨ソの角逐が來春もなほ續くならば、本書の增補或は續篇を出して完全を期することは、著者竝に出版者の義務である。

昭和十六年臘月ワイナハテン前日

著者

目次

緒言……一

政治篇

獨ソ戰爭の政治面……三

獨逸國民に對するヒットラー總統の布告……六

ソ聯邦に對する獨逸外務省の覺書……一七

モロトフ・ソ聯外務人民委員の聲明……二四

獨ソ開戰に對する英米の態度……二六

チャーチル英首相の聲明……二七

米海軍のアイスランド進駐……三一

反共十字軍への歐洲列國の參加……三五

日本の態度……三九
スターリン全國民に愬ふ……三
英ソ軍事協定……四八
米國大統領の戰爭挑發……五〇
スターリン表面へ乘出す……五三
第三次近衞內閣の外交方針……五四
日佛印共同防衞成立す……五五
佛領印度支那の共同防衞に關する日佛間の議定書……五六
日佛印共同防衞に對する英米側の反對工作……五八
佛國に對する米國の憤慨……六三
ソ波援助協定の成立……六五
米ソ通商協定の更改……六八
泰國の向背に關する英國の焦慮……七〇

獨佛兩國の接近……七四
英ソの土耳古獨立援助……七六
樞軸打倒の英米共同宣言……七七
英ソ兩國軍隊のイラン侵入……八九
英首相の暴言を駁す……九五
ヒットラー總統ムッソリーニ首相と東部戰線に於て會談す……九九
帝國を繞る列國の外交……一〇一
グリーヤ號事件……一〇七
米大統領の發砲命令……一〇九
チャーチル英首相の放言……一一三
羅馬法王米大統領を一蹴す……一一四
對ソ問題を繞る米國宗教界の反對……一一六
英米ソ三國モスクワ會談……一一九

冬季救濟事業開始式場に於けるヒットラー總統の演說……一二一
獨土經濟協定の成立……一二七
近衞內閣の退陣と東條內閣の成立……一三〇
ソ聯政府のモスクワ拋棄……一三三
米國中立法の改正……一三四
米大統領の惡罵……一三六
怪文書に關する獨逸政府の公式反駁……一三九
ミュンヘン記念祭典席上の總統演說……一四一
防共協定の延長と擴大……一五六
英國芬、匈、羅三國に宣戰す……一五九
日本帝國戰を米英兩國に宣す……一六〇
日獨伊間の單獨不媾和協定と獨伊の對米參戰……一六三
ヒットラー總統の對米宣戰演說……一六六

軍事篇

獨ソ交戰日誌……二〇九
國境突破の序戰……二一一
東部戰線戰況特報……二一七
スターリン線の攻擊開始……二三五
ミンスク及びビヤリストック戰の戰果發表……二三八
スターリン線の突破……二四一
スターリン線とは何であるか……二四五
スターリン線の突破完遂……二七四
スモレンスク會戰の經過……二八〇
ウクライナ方面の戰鬪……二八五
ウマン包圍戰に關する特報……二八五
獨ソ開戰二箇月の戰果……三〇五

レニングラード包圍戰の序幕……三一一
レニングラード包圍完了……三三四
キエフ包圍戰……三四二
ヒットラー總統の演說要旨……三五八
中部戰線の突破……三六七
モスクワ攻擊の開始……三七九
クリミヤ半島の攻略……三九五
ブリヤンスク及びウヤズマの包圍戰……四〇五
獨ソ開戰以來の獨空軍戰果……四一四
むすび……四三〇

獨ソ戰役の概評

反共十字軍の意義……四三七

獨逸はなぜソ聯を討たねばならなかつたか……四三九
對ソ戰の困難なる理由……四四一
勝利の秘訣……四四五
獨逸軍の攻撃開始……四四七
開戰一箇月目の戰績……四五一
戰線整備の二箇月目……四五一
開戰三箇月目の特徴……四五四
開戰四箇月目の戰果……四五七
ソ聯軍は立直ることが出來るか……四六三
十月末迄の赤軍の損害……四六八
開戰五箇月目の戰果……四六九
冬期停戰……四七五

反共十字軍進擊日誌……四八一

政治篇

獨ソ戰爭の政治面

一九四一年六月二十二日の午後、全世界は電擊的の衝動にあつと驚いた。まさかと我も人も思つた獨ソ間の戰爭が突然勃發したのである。暗雲低迷の二ケ月。息詰まるやうな緊張が獨ソの間に漲つて、歐洲諸國は沈痛な低氣壓に包まれた。ニューヨーク電報は頻に獨露兩軍衝突の報を打電して來る。然るにモスクワからは政府通信機關のタスが獨ソ兩政府間には何等の紛爭もなく、談判も亦行はれてゐないと、英米のデマ一掃を試みたが、誰も彼も半信半疑の態である。獨逸が對英決戰の矢先に、强露と戰端を開くやうな冒險を敢てするであらうか。しかし數週この方、兩國共に戰備おさおさ怠りなかつたのは事實である。ソ聯が百五十八箇師の大軍を西部國境へ集結してゐたに對し、獨逸側も百二十五箇師を集中して萬一に備へてゐたやうだ。いやそれ許りではない。數箇師團の兵が芬蘭の北氷洋岸へ派遣された。希臘駐屯の獨兵が北の方へ引揚げ、伊太利兵が代つて守備に着いた。羅馬尼駐屯の獨逸空軍がベッサラビヤ近くへ移駐したなどの報が續々這入つて來る。戰爭の息吹が犇々と身邊に感じられる。

然らば一體全體何が獨ソの間に論議されてゐるのか。說を成すものは誠しやかに云ふ。

一、獨逸はソ聯に對してコーカサスからの石油供給量の增加を要求してゐる。

二、またウクライナからの小麥の供給增加を要望してゐる。

三、そしてその實行を促進するために、獨逸人の監視と協力とを提議した。

と云ふのである。これは有りさうな想像說である。バルカンの資源を手中に收めた獨逸は、自國の食糧問題に限つては極めて樂觀的であり得る。然し英國の大陸封鎖に惱む歐洲全體として觀るとき、諾威、白耳義、佛蘭西、西班牙の四國は目下極度の食糧難に陷つてゐる。法律的には戰勝國獨逸に責任がないと嘯くことも出來やうが、實際問題としては非常に重大な人道問題である。わけても白耳義の食糧難は難澁を通り越して、悲慘な狀態である。同國はもともと食糧に於て海外依存の國柄であつた。それが戰爭の慘禍を滿喫したのであるから、その窮狀は眼も當てられない。占領軍當局は無論最善の努力を惜まないが、中々行渡りさうにもない。殊に目につくのは幼年兒童の榮養不良で、これは次代の國民の肉體的發達にとつて由々しき寒心事である。程度の差はあるが、佛蘭西に於ても西班牙に於ても大同小異である。亞米利加參戰の曉歐羅巴を打つて一丸として之に拮抗し得るためには、統計表の上から見てもどうしても露西亞の加勢、わけてもウクライナの餘剩穀物の融通が缺くべからざる必要條件である。この見地から考へると、獨逸がソ聯に向つて穀物供給量の增加を要望したと云ふことは、恐らくあり得ることと思ふ。然るに讀者

の熟知せられる如く、露西亞人は天性極めて圖法螺である。約束はするが實行は往々伴はぬ弊が多い。そこで獨逸が監督の爲めに吏員を派遣して協力したい、と申込んだと云ふこともあな勝ち考へられぬことではない。然しこれ等經濟的の要望をソ聯が受諾しなかつたと云つて、それが戰爭原因を構成するであらうか？

一體一九三九年の八月、獨ソの間に不侵略條約が締結されたと云ふことが、もともと無理であつたのである。不俱戴天の仇よりももつと強く憎んでゐた共產主義ボルシェヴィッキーと、國民社會主義者とが握手したと云ふことが、抑も摩訶不可思議の骨頂である。馬鹿正直な獨逸のミッヘル（愚直者の代名詞）は夢中になつてあの條約を謳歌したが、クレムリン宮裡の首腦者は豎子與し易しと赤い舌をペロリと出して北叟笑んだに相違ない。爾來一年有半、獨逸は東に波蘭を屠り、西に佛蘭西を倒し、南に於てはバルカンを制壓し、今や最後の對手英國と生命を賭して雌雄を決せんとしてゐる。然るにソ聯はその間、鬼の居ぬ間の洗濯と波蘭の東半を呑み、芬蘭を降し、バルト沿海三國を併せ、ベッサラビヤを奪ひ、おまけにブコヴィナまでも嘗めて、約四十五萬平方キロの領土と二千三百萬の人口を併呑してしまつた食慾の旺盛さ加減は、驚くに堪へたりと云つてよい。しかもこの火事場泥棒的領土擴張が、獨逸の寛容と忍耐によつてのみ許されたことを忘れて、獨逸のバルカン制覇に對して公然反抗の態度を示し、大兵を獨逸の國境に集結して

反噬の勢を露はし出したのである。隱忍自重、我慢に我慢を重ねて來たヒットラー總統も、遂に堪忍袋の緒を切つて茲に過去二ケ年の惡夢を清算して、果然ボルシェヴィッキー打倒の聖戰に大旆を進める覺悟を定めた。六月二十二日午前三時半彼は、ゲッベルス宣傳相をして左の布告を代讀させてソ聯に對する宣戰に代へたのである。

獨逸國民に對するヒットラー總統の布告

獨逸國民諸君！　國民社會黨員諸君！

余は月餘に亘る沈默を破つて、漸く諸君に眞實を公言することが出來る。一九三九年九月三日英國は獨逸に對して戰を宣した。彼は歐洲の最强國に對して戰を挑むことによつて、歐洲諸國間の諒解と進步の萠芽を摘むの常套手段を又もや繰返さうとしたのである。英國は數度の戰爭によつて西班牙を擊破し、更に和蘭を打破つた。其後英國は全歐洲の助を得て佛蘭西と戰ひ、今世紀の初めには一九一四年より一九一八年に亘る世界大戰中獨逸の包圍を企てた。當時獨逸は只內的分裂によつてのみ敗れたのであつたが、その結果たるや實に戰慄すべきものであつた。英國人は先づ周知の僞善的手法を用ひて、彼等が獨逸皇帝並にその政府に對してのみ戰ふものである旨を聲明したのであるが、獨逸軍隊が武器を放棄するや否や、計畫的に獨逸の破壞に着手したのである。『世界の中に二千萬人だけ獨逸人が多過ぎる。』言葉を換へて言へば獨逸の人口は飢餓、疾病又は海外移住によつて減少せられねばならぬと云ふ意味のことを言つた、佛蘭西の某政治家の豫言

が文字通り實現された頃から、獨逸國民の統一と獨逸國家更生の準備を目標とする國民社會主義の運動が開始されたのである。我が國民はその艱難、悲慘、屈辱のどん底から再び起ち上つた。だがかかる發展は英國に何の係りもなく、またその爲に何等脅威を感ずる如きものでもない。

獨逸に對する新包圍政策は、忽然として獨逸に對して燃上つた憎惡より生れたのである。ユダヤ人、民主主義者、ボルシェヴィッキー及び反動主義者は、ありと凡ゆる手段を盡して新興大獨逸國家の建設を妨害し、獨逸國民を再び無力と悲慘のどん底に陷入れんとする共同の目的に向つて邁進した。これ等憎むべき國際的陰謀は、日々の糧を最も困難なる闘爭——生きんが爲の戰——によつて贏得ねばならぬ我々以外の他の民族に對しても亦向けられたのである。何よりも世界物資の分配に與らんと欲する伊太利と日本の權利も、獨逸のそれと同じく拒否された。事實これらの權利は公然と排斥を被むつたのである。從つてこれらの民族が相互に結合したと云ふことは、全世界に網の目を張る富と權力の結社の脅迫に對する、一種の自衛手段に過ぎない。

米國議會外交委員會に於けるレオナード・ウッド將軍の證言に依れば、チャーチル君は既に一九三六年に、獨逸は再び强くなり過ぎるから撃滅せねばならぬと言つたさうである。一九三九年の夏、英國は包圍政策の再現によつて、再び獨逸の壞滅に乗出す時機が到來したと思惟した。この目的の爲に動員された僞瞞部隊は他民族をして、彼等が獨逸に脅威されてゐる如く思はしめると同時に、これ等の諸民族をして世界大戰當時と同じく、英國の保障と援助の約言により、獨逸に反對して武器を執るの準備態度に出でしめたのである。英國は斯る方法手段によつて一九三九年の五月より八月迄の間に、世界に獨つてリトアニヤ、ラトビヤ、エ

ストニヤ、芬蘭、ベッサラビヤ及びウクライナが、獨逸の脅威の下に在りと宣傳したのである。これ等の國家の中の若干はこれに迷はされ、斯る宣傳と共に提供された英國の保障を眞に受けたのである。斯くて彼等は反獨包圍陣營に參加するに至つた。斯る情勢の下に於て、余は余の良心と獨逸國民の歷史の前に、英國の主張が僞りであることをこれ等の國々やその政府に對して保證する許りでなく、我等の權益の境を超えて東歐最大の强國に對しても安心を與ふべく嚴肅なる聲明を發する義務を感じた。

國民社會黨員諸君！　この處置があの當時余にとつて最も辛く、また如何に困難なものであつたかを、諸君も亦恐らく諒とせられたことと思ふ。獨逸國民は露國民に對して敵愾心を懷いたことは嘗てない。然るにモスクワに在るボルシェヴィッキーの首腦者連は、過去二十年に亘り單に獨逸のみならず、全歐洲に放火せんと試みたのである。之に反し獨逸は未だ嘗てその國民社會主義的理想及び觀念を、露西亞へ移植せんと試みたことはない。モスクワのユダヤ的ボルシェヴィッキー首領等は我々のみならず歐洲諸國民に對し、單にイデオロギー的手段によるのみならず、更に武力を以てその支配を押付けんと欲する企圖を未だ嘗て棄てたことがない。赤色政權の業績たるや、混亂と悲慘と飢餓以外の何ものでもない。之に反して余は過去二十年の政戰中一度も合法的針路から脫線したことはない。而して我が國の生產機構を障害することなしに獨逸國內に新社會體制を創建したのであつて、この新秩序こそ啻に失業問題を打開したに止らず、我が國の勞働者をして彼等の勞力に對し次第により多くの分前に與らしめるためであつた。我が國民の經濟的、社會的新建設のこの政策は、凡ゆる階級及び身分の相違を組織的に撤廢することにより、眞の國民共同體を樹立することを目的とするものであつて、其成果は全世界に於て唯一無二と云つても過言ではない。

かるが故に余は深慮熟考の末、一九三九年八月外相をモスクワに差遣して、英國の包圍政策に對する反對工作を試みたのである。元來余がかかる行動に出でたのは、獨逸國民に對する余の責任感によるものである。余は斯くすることによつて犧牲の輕減と我が國に對する壓迫の恒久的緩和を希つたので、然らざれば我我の犧牲は益々加重されたに相違ない。獨逸はモスクワに於てリトアニヤを除き、前記の諸地域並に諸國は獨逸の政治的權域に含まれざる旨を嚴肅に聲明すると共に、英國が對獨戰爭に乘り出して來る場合に關し特別の協定を締結したのである。

國民社會黨員諸君！　余自らが願はしきものと思ひ、且又獨逸人の爲にと思つて締結させた本條約の結果は、その實甚だ困難であり、就中前記諸國内に在住してゐた獨逸人にとつて頗る難儀なものとなつた。小農、手工業者、勞働者等五十萬人を遙に超える獨逸人男女は、住慣れた土地を一夜の内に立退かねばならなかつた、第一日から無限の苦惱を彼等に與へ、且晩かれ早かれ完全に彼等を勦滅すべき脅威ある新政權の下から脱れるために。それにも拘ずず數千の獨逸人は行方不明となつた。彼等が其後どうなつたか、一切手掛りがない。その内には百六十人を超える獨逸國籍を有する男子が含まれてゐるのである。

余はこれに對し一切沈默する他なかつた。窮極する處、最終的に緊張を緩和し、且出來得べくんば獨ソ間の諸懸案を徹底的に調整することが、余の唯一の希望であつたからである。然るに我が軍の波蘭進擊中、ソ聯首腦部は突如としてリトアニヤを要求した。この要求たるや徹頭徹尾協定違反である。獨逸國は未だ嘗てリトアニヤ占領の意圖を有せず、且又斯る要求を同國政府に向つて提起したこともないばかりか、當時の同國政府に對して獨軍のリトアニヤ進駐權を要求することすらも之を避けたのは、それが獨逸の政策目的に

相應しからずと思惟したからである。それにも拘らず余はソ聯のこの新要求に讓歩した。然るにこれは、またもやソ聯の貪婪飽くことを知らざる强要を繰返さす源となつた。波蘭に於ける我が軍の赫々たる戰勝の後余は西歐諸國に嚮つて和平を提議した。がこの提議は國際戰爭挑發者の暗躍によつて拒絶せられた。この拒絶の原因はその當時既に英國が、相も變らずバルカンとソ聯を含む反獨歐洲聯合の結成を可能なりとする希望をつないでゐた點に求めざるを得なかつた。故に英國政府はサー・スタッフォード・クリップス（英國の共產主義者）をモスクワへ派遣することを決意したのである。同大使は萬難を排してソ聯と英國との關係を再結し、之を親英方向に導くべき旨の明白なる指令を受けた。英紙は、報道抑制の論理的理由により禁止せられざる限り、絶えずこの會談につき報道を續けた。一九三九年の秋及び一九四〇年の春には、ソ聯の芬蘭及びバルト三國に對する暴行の最初の結果が現はれ始めた。ソ聯政府はその行爲を、同國政府は前記諸國を他國の脅威より防衛すると云ふ、實に笑止千萬且虛僞も甚しい口實を以て理由づけた。而もこの主張たるや只獨逸に對して向けられたものである。何れの國も未だ嘗てバルト海圈域に到達し得なかつたからである。

やがてクレムリンの主人公達は更に一歩を進めた。一九四〇年の春獨逸が所謂修交條約の精神に則り、東部國境方面よりその兵力の大部分を引揚げたのに反して、ソ聯兵力の集結は、當時既に對獨示威と見做さざるを得ざる程强化されるに至つた。モロトフの言に依れば、一九四〇年の春季にはバルト諸國だけでも、既に二十一箇師團が進駐してゐた。ソ聯政府が、この兵力は前記諸國住民の希望により派遣されたのであると終始主張し續けて來たにも拘らず、前記兵力駐屯の目的は、對獨示威以外にはあり得なかつたのである。

我が軍が一九四〇年五月十日を期して西部英佛軍目指して進擊を開始した時、强力なソ聯の軍隊は我が東

境に於て絶えず脅威的態度を採つた。それ故に余は一九四〇年八月以來、過去の戰役に於て既に屢々兵火の爲に荒廢に歸した我が東部地方を、有力なるボルシェヴィッキー師團の集結に對し、これ以上無防備の儘に放置することは獨逸の權益の爲に不可能であることを認めざるを得なかつた。以上の措置は出來得る限り多數の獨逸軍隊を東部に釘付にせんとする英ソ協力の效果を狙つたものであつて、それが爲に獨逸軍最高司令部は、西部戰爭の迅速なる終結を期するために、多量の飛行機を西部戰線に存置することを保證し得なくなつた程である。

このことたるや英國の目的のみならず、ソ聯の政策にも亦合致するものである。英國は勿論ソ聯も亦、出來得る限りこの戰爭を長引かせて、全歐洲を無力弱體化せしめんと欲するものである。ソ聯の羅馬尼に對する攻擊的態度は、東南歐洲に於て重要なる新基地を獲得し、歐洲大陸に於ける經濟生活の破壞を目標とするものであつた。獨逸は殊に一九三三年以來、不變の忍耐を以て東南歐洲諸國を通商の相手國として獲得せんが爲に多大の努力を傾けて來た。我々はそれ故これ等諸國の內情が鞏固となり、よく組織されることに對し多大の關心をもつて居る。ソ聯の羅馬尼に對する進出並に英希兩國間の密接なる關係は、これ等の地域を短期間內に一般的戰場と化する虞が多分にあつたのである。我が國從來の政策に反して余は、事物の斯る進展に對し責任ある羅馬尼政府の懇請に對し、平和の爲にソ聯の要求を納れ、ベッサラビヤを割讓すべき旨を勸告したのである。

然しながら羅馬尼政府は、獨伊兩國がその代償として、尠なくとも羅馬尼領土の殘りの地域に對してその保全を保障するに非ざれば、斯くの如き措置につき自國民に向つて責任を執り得ないと信じた。そこで余は

結局この重大なる處置を執ることを決意した。獨逸は一度保障宣言を行つた以上は、必ずそれを遵守するものである。時期既に晩きも余は、この重大なる責任を引受くることによつて、この地域の平和の爲に貢献したと信じた。然し本問題を徹底的に解決し、併せて絶えず我が國の東境に軍隊を增員集結することによつて我が國に壓迫を加へんとするソ聯の對獨態度を闡明するため、余はモロトフをベルリンへ招請した。

ソ聯外相は兩國間の協定を闡明するため左の四問を提出した。

一、問。ソ聯が羅馬尼を攻擊する場合、獨逸の對羅保障はソ聯に對しても效力を發生するものなりや。

答。獨逸の保障聲明は一般的のものであつて、獨逸は之に對し無條件にその義務を負擔するものである。その理由としては、ソ聯が曩に我々に對し、ベッサラビヤ以外には羅馬尼に對し何の關心をも持たぬ旨を聲明したのに基くものである。それ故余は、ソ聯がこれ以上羅馬尼に對し野心を有するものとは考へない。

二、問。ソ聯は又しても芬蘭から脅威を感じだした。ソ聯はこれ以上事態を隱忍し得ざることを決意した。獨逸は芬蘭に對し一切の援助を與へず、又何よりも先づ芬蘭を通過してキルケネス方面に進駐中の獨逸交替部隊を撤退させる用意ありや。

答。獨逸は芬蘭に對しては今後共何ら政治的利害を有するものではないが、ソ聯が芬蘭民族に對し又もや戰爭を挑むことは、到底獨逸の耐へ得ざる所である。況や獨逸は、ソ聯が芬蘭から脅威を受けつつありとは、到底信ずることが出來ない。それのみならず獨逸は、又してもバルト諸國が新戰場となることを好まぬ。

三、問。モロトフ自身ソ聯が勃牙利王の退位を迫る意圖なき旨を誓約する場合、獨逸は勃牙利に對するソ聯の保障、及びこの目的の爲勃牙利へのソ聯軍派遣に贊同する用意ありや。

答。勃牙利は一獨立國にして、獨逸政府は勃牙利がソ聯に對し何等かの保障を要請した事實も、乃至は羅馬尼を通じてこれを獨逸に要請したことも聞知してゐない。猶獨逸政府はこの問題に關しては、同盟國との協議を必要と認めるものである。

四、問。ソ聯は事情の如何に拘らずダーダネルス海峽の自由通航を要求し、且これを保護するためにダーダネルス及びボスポラスに沿ふて若干の重要なる基地を要求せねばならぬ。獨逸はソ聯のこの意圖に贊意を表するや。

答。獨逸は何時なりとも黑海沿岸國の利益の爲に、モントロー條約の規定變更に同意する。然しながら獨逸は、露西亞が前記海峽に基地を占據することには同意し難い。

國民社會黨員諸君！ 余はこれ等の質問に答辯中も、獨逸國の責任ある指導者として、また歐洲の文化及び文明の使命を帶びたる代表者として採ることの出來た唯一の態度を執つた。その結果ソ聯は愈々反獨行動を旺んにした。その中でも即刻羅馬尼國を內部より顚覆せんとする陰謀、竝に宣傳工作により勃牙利政府の位置を搖がさんとする企圖を開始するに至つた。淵迷且未熟なルーマニヤ・レギオン（鐵衞團を意味す）指導者の助をかりて、同國內にクーデターを企てた。それは同國の指揮者アントネスク將軍の顚覆を目的とし、且必然的に獨逸の干涉を誘發すべき事態を釀し出すために、同國內に無政府狀態を齎らさうとしたものである。それにも拘らず余は、依然之に對し沈默を守ることを以て最善と認めた。

獨逸國民に對するヒットラー總統の布告

斯る企畫が失敗に歸するや否や、ソ聯軍隊は又もや獨逸東部國境に增强された。機械化部隊や落下傘部隊の國境方面に送られて來る數は益々增大した。我が方に在つてはこれ迄唯一箇の機械化師團も、唯一箇の戰車隊も我が東境に駐屯してゐなかつたことは、我が國軍民の普く熟知する所である。

凡ゆる誤魔化しと隱蔽工作に拘らず、英ソ間に締結せられた同盟條約の存在を示す決定的の證據が必要とあらば、それはユーゴースラヴィヤの突發事件によつて明白になつたと云つてよい。余がバルカンに於ける終局的和平招來の爲に努力を傾注し、ムッソリーニ首相との諒解の下にユーゴースラヴィヤを招請して、三國同盟に參加せしめんとした最中に英ソ兩國共同の陰謀により、當時既に樞軸側と諒解の用意を有したユーゴー政府を一夜の中に顚覆すべく、クーデターが企てられたのである。今日我々は、あのセルビヤ人の反獨クーデターを仕組んだものは、英國だけではなく、寧ろ主としてソ聯であつたと云ふことを、我が獨逸人に知らせることが出來る。

我々がこれに對して尙も沈默を守つてゐる間に、ソ聯の指導者は更に一歩を進めた。彼等はクーデターを起させただけでは滿足せず、數日の後彼等の新しい臣下とあのよく知れ渡つた協約を結んだ（四月五日附ソユ不侵略條約）。これはセルビヤ人をして、獨逸によるバルカン和平工作に反抗して、獨逸敵對の意志を强化せしめんとしたものである。斯る工作の狙ひ所は決してプラトーニック（純愛）ではあり得ない。モスクワの要求する所はセルビヤ軍の動員であつた。

余がこの時に及んでも尙語らざるをよしとしてゐたのに乘じて、クレムリンの有力者は百尺竿頭更に一歩を進めて來た。卽ちソ聯がセルビヤ人をして反獨戰爭を遂行せしめんが爲に、サロニカを經由して兵器、飛

行機、彈藥其他の軍需資材を供給すべき約束を與へたことについては、獨逸政府は確たる證據書類を握つてゐる。而もそれが實行せられたのは、實に余が時局の平和的解決に寄與せんものと、日本の松岡外相にソ聯との緊張緩和を懲懲したのと殆ど同時であつた。

このソ聯とアングロサクソンとの陰謀が失敗に終つたのは、偏に我が精鋭部隊のスコプルエ（ユスキュブ）への神速な進擊と、サロニカの疾風迅雷的攻略のお蔭である。然るにセルビヤ空軍の將校はソ聯に逃れて、同國に於て同盟國人として迎へられた。彼等は獨逸を東南歐の戰鬪に牽きつけ、今年夏中かからせて、其間獨伊兩國の息の根を止めんがためにソ聯軍隊の集結を完了し、英國との緊密なる協力並に北米合衆國の支援により、赤軍の戰鬪準備を完成する積りであつた。この計畫が水泡に歸したのは、一にバルカンに於ける樞軸側の迅速なる勝利であつた。

斯くの如くモスクワ政府は極めて陋劣な手段で、我が國との友好關係を裏切つたのである。クレムリンの有力者は、羅馬尼や芬蘭の場合と同じく、最後の瞬間まで平和と友好の假面を被つて、無辜を裝ふ聲明と否定とを以て世間を瞞着したのである。余は今迄四圍の事情に餘儀なくされてひたすら沈默を守つて來たが、これ以上拱手傍觀するならば、余は獨逸國民並に全歐洲に對し罪を犯すこととなる重大なる時期の到來した事を知る。

現在我が國境には約百六十箇師團のソ聯軍が集結してゐる。數週間來、極北地方より羅馬尼に至るまで越境事件が頻々として行はれてゐる。ソ聯飛行士はこの國境無視をスポーツと心得てゐるが、惟ふに彼等はこの地域の主人公氣取でゐることを誇示する積りらしい。現に六月十七日より十八日の夜にかけて、ソ聯偵察

隊は再び獨逸領内に越境し來り、長時間射擊交換の後我が軍の爲に擊退された程である。この種の進展が現下の形勢を招來し、モスクワに於けるエダヤ的ボルシェヴィズムの本部に源を發する計畫に對して、膺懲の手段を講ずる必要を生じたのである。

獨逸國民諸君！　今や前古未曾有の壯大にして雄渾なる軍隊の移動が行はれつつあるのである。ナルヴィックの勝利者は芬蘭の戰友と堅く手を握つて北氷洋岸に立つてゐる。諸威を占領した將軍麾下の獨逸師團は、彼等の將帥に率ゐられ芬蘭の自由の爲に蹶起せる勇士等と共に、芬蘭の領土を防衛してゐる。北は東プロシャより南はカルパト山脈に至るまで、我が師團は獨逸の東境を守備してゐる。プルート、ドーナウ兩河の河岸より黑海の沿岸に至る迄、獨羅兩國の兵士は羅馬尼の指導者アントネスク將軍の指揮下に堅く結束してゐる。

この戰線の使命は最早や各國の防衛だけではない。實に歐羅巴全土の安全、即ち我々總ての救濟である。それ故に余は今日、獨逸國と獨逸國民の運命を再び我が兵士の手に委ねることを決意した。我等の主なる神よ、希はくはこの最大なる戰鬪に於て我等の上に加護あらんことを。

一九四一年六月二十二日

アードルフ・ヒットラー

右の布告と同時にヒットラー總統兼最高統率者は、東部戰場の將卒に對して同文の布告を發した。この軍命令は次の言葉を以て結ばれた。

『獨逸軍將兵よ！　かくて諸君は將に重大にして決定的な戰鬪に臨つて突進せんとしてゐる。蓋し全歐洲

の運命、獨逸國の將來及び我が民族の興廢は、今や全く諸君の手中に委ねられてゐる。我等の主なる神よ、希はくはこの戰鬪に於て我等總てのものの上に加護あらんことを。』

ソ聯邦に對する獨逸外務省の覺書

獨ソ開戰に先だち、獨逸外務省は左記の覺書を發表した。

獨逸國とソ聯邦との間の權益の調整を圖らんとする希望を以て、獨逸政府は一九三九年夏ソ聯政府との間に交渉を開始したが、一方民族國家（ナチオナールシュタート）に屬し、之より生ずる權利義務を擁護する國家と、他方世界革命の傳播、即ち民族國家の崩壞を企圖するコミンテルンの一部として、同黨によつて支配せられる國家との間に諒解を成立せしめることは、容易ならぬ事業であることは明かであつた。それにも拘らず獨逸政府はソ聯政府との協力を決意したのである。

獨逸政府はソ聯國内に於ける或種の事情と、國際關係に於けるソ聯政府の或種の處置により、この原則より離れて、尠なくとも他國民の崩壞を目標とする從來の方針を廢止することが可能なるやの感を深くした。かくて一九三九年八月二十三日不侵略條約、つづいて同年九月二十八日には兩國間の國境及び修交條約の調印を見たのである。

事實獨逸政府は、ソ聯との不侵略條約締結と共に、その對ソ政策の根本的變更を斷行し、爾來サヴィエート聯邦國に對し極めて友好的態度を執つた。獨逸國政府はソ聯との間に締結せる條約の文字は勿論、精神をも忠實に履行した。それのみならず、獨逸政府は波蘭征服に血を流して、ソ聯に對して建國以來の外交的大

成功を獲得せしめたのである。從つて獨逸政府が、ソ聯の獨逸國に對する態度も亦同樣であらうと信じたのは理の當然である。然し獨逸政府は、この豫想が全然間違つてゐたことを、遺憾ながら間もなく體驗したのである。

事實上コミンテルンは本條約の締結を見るや否や、各部門に亘つて活動を開始した。これは獨逸本國に限らず、獨逸と友好關係に在る諸國並に獨逸軍隊の占領地域にも及んだ。公然條約に違反することを避け、その方法に用意周到にして巧妙なる僞裝を施した。ゲー・ペー・ウー長官クリロフは系統的にこの工作を指揮した。ソ聯外交諸機關、就中プラーグの總領事館は、之に對し重要な援助の役割を演じた。コミンテルンの凡ゆる打壞作用並に間諜行爲に關しては、廣汎な證據書類及び資料が現存する。また專屬の實驗室内で、サボタージュ用の爆彈及び燒夷彈を製造するサボタージュ團が組織された。斯の如き陰謀は、尠なくも十六箇以上の獨逸船舶に向つて實行された。ソ聯在住獨逸人の本國送還に際しては、ゲー・ペー・ウーの目的の爲に利用すべく、極めて陋劣な方法を以て彼等を誘惑せんと企てた。

獨逸國以外の歐洲諸國に對して行はれたソ聯の打壞工作は、獨逸と友好關係に在るか、又は獨逸に依つて占領せられてゐる凡ゆる諸國にも及んでゐる。例へば羅馬尼國では、ソ聯から持込まれた宣傳ビラにより同國内の凡ゆる困難な事態は總て獨逸の責任であると誣ひられてゐた。一九四〇年の夏にもユーゴースラヴィヤでは、ツヴェトコヴィッチ政府とベルリン及びロマ政府との間に結ばれた條約に對し、抗議せよと呼び掛けた宣傳ビラが撒かれた。アグラムに於けるある集會では、東南歐羅巴全部はソ聯の保護領である、やがて獨逸が軍事的に弱められた際には、露西亞に藩屬するものであると唱へられた。ベルグラードのソ聯公使館

で、源をソ聯に發した此種宣言の證據文獻が獨逸軍隊の手に入つた。匈牙利ではこの種の宣傳は殊にルテーネン人（ウクライナ人と同族）の間に擴められた。反獨的煽動の特に活潑に行はれたのはスロヴキヤと芬蘭に於てであつた。佛、白、蘭の諸國では占領軍反對の煽動に骨折つた。獨逸總督府（ゲネラールグベルヌマン）治下の波蘭では、巧妙な假面の下に煽動工作が行はれた。希臘が樞軸國に占領せられるかせられぬかに、早くもソ聯宣傳の魔手が伸ばされた。勃牙利では三國同盟參加に反對、ソ聯の保障條約贊成の宣傳が盛に行はれた。羅馬尼では鐵衛團部内の宣傳により、又同團指導者連、就中羅馬尼人グローツァを操つて本年一月二十三日の叛亂計畫が行はれたが、その背後にはモスクワのボルシェヴィッキーの手が働いてゐた。これ等の陰謀に對しては動かし難い證據が擧つてゐる。ユーゴースラヴィヤに關しては、同國の使節ゲオルゲヴィッチが、既に一九四〇年五月モスクワに於てモロトフとの會談の中に、ソ聯が獨逸を以て明日に於ける最大の强敵と看做す旨の確信を抱いてゐたと云ふ確證を獨逸政府は握つてゐる。

以上の言明は、歐羅巴に於けるサヴィエート聯邦國の夥しき反獨惡宣傳の内の、ほんの一部分にしか過ぎない。

ソ聯との協定とかソ聯の聲明とか云ふものは、何れも前述の通りで、戰局の進むにつれて益々明白となつて來た諸事實に照して觀るとき、全く故意の詭計や僞瞞に過ぎないと云ふことが明瞭となつた。友好條約の締結はソ聯にとつては單に戰術的の謀略に他ならぬ。この事實は、ベルグラード占領後同地のソ聯公使館内で發見せられた露西亞語文書中に、次の如き言葉を以て赤裸々に表明されてゐる。

『サヴィエート聯邦國は期到れば統治するであらう。樞軸國側は著しくその兵力を分散させた。故にソ聯

邦は突如として獨逸襲撃の擧に出でるであらう。』

モスクワのソ聯政府は、獨逸國民と正直に平和と友好關係の裡に生活することを希つてゐる露西亞國民の聲に從はずして、舊來のボルシェヴィッキー慣用の二枚舌政策を踏襲して、重大な責任を背負ひ込んだのである。

ソ聯の政策は、專らモスクワの兵力を、北は北氷洋から南は黑海に至る地域に亘つて、西方に推し進めんとするにある。この發展の手始めとして、エストニヤ、ラトヴィヤ及びリトアニヤとの間に所謂相互援助條約が締結された。ソ聯の次の手はやがて芬蘭に向けられた。其後數ケ月を出でずしてソ聯はバルト海沿岸諸國に立向つた。その中でもリトアニヤ國全部、即ち獨逸の勢力範圍に屬してゐた部分迄が、獨逸國政府に何等の通告もなく、一九四〇年六月十五日一片の最後通牒を以てソ聯に占領されてしまつた。

獨逸軍が西部戰場に於て英佛軍と對戰中、ソ聯のバルカン進出が開始された。ソ聯政府はモスクワ交渉に際し、ソ聯は絶對にベッサラビヤ問題に手を出す氣はないと言明したにも拘らず、獨逸國政府は六月二十四日ソ聯政府よりベッサラビヤ問題の武力解決を決意せる旨の通告を受けた。その要求は尙ブコヴィナに迄及んだ。仍て獨逸政府は援助を乞うて來た羅馬尼政府に對して讓歩を說き、ベッサラビヤ及び北部ブコヴィナをソ聯に割讓するやう勸告した。

ソ聯のバルカン進出を合圖に、同地方の領土問題が擡頭して來た。殊にウイン仲裁會議以後獨逸反對の政策が顯著となつた。これ迄入手してゐた證據物件は、最近ベルグラードに於て發見された一九四〇年十二月十七日附モスクワ駐在ユーゴースラヴヤ武官の報告書によつて確證された。該報告の文字は左の通りであ

る。

『ソ聯側の言ふ所によれば、空軍兵器、機甲器材及び砲兵の擴張は、本次戰役の經驗に基き目下全力を擧げて遂行中であつて、その大部分は一九四一年八月迄には完了の見込である。惟ふに右は時間的に見て最小限度である。それ迄の間はソ聯外交政策に表面上何等變更を來してはならぬ。』

バルカン問題に關するソ聯側の非友好態度にも拘らず、獨逸は猶もサヴィエート社會主義聯邦國と一層の諒解を遂げんものと努力を傾注し、獨逸外相はスターリン宛の書翰中に於て、モスクワ會談以後の獨逸政府の外交政策につき概括的の解說を試みた。モロトフのベルリン招待はこの書翰中に認めてあつたのである。モロトフの滯獨中獨逸政府は、ソ聯が樞軸三國、別して獨逸との現實的友好的協力につき、獨逸がその代償としてソ聯の豫ての要求を容れざる限り、その意志のない事を確認せざるを得なかつた。この代償とはソ聯の北歐及び東南歐への進出であつた。モロトフのベルリンに於て提出した要求は、明細な覺書の形式で發表するであらう。該要求の一部として、萬一土耳古が、長期租借の形式を以てソ聯の要求しつつあるダーダネルス及びボスポラスに於ける空軍基地竝に海軍基地の建設を拒絕する場合には、この對土要求貫徹の爲にソ聯の執るべき措置に、獨伊兩國が協力すべき旨が含まれてゐる。獨逸政府は、三國同盟參加の前提條件として示されたソ聯のこの要求を　容認することが出來なかつた。

右覺書は更にソ聯が、獨逸軍バルカン進駐直後勃牙利政府に宛てた非友好的通牒を想起させる。猶更に四月五日附セルビヤのシモヴィッチ非合法政府との間の友好條約をも想起して、覺書中に左の如く述べてある。

『合衆國ウェルズ國務次官は如何にも滿足げに、ソ・ユ條約は場合に依つては極めて重要な意義を有するに

至るべく、恐らく友好條約とか不侵略條約とかよりも以上のものであると云つた。』

ソ聯政府はその政策の眞相を隱蔽せんと種々試みたが駄目であつた。その一例としては、數週前に行はれた諸威、白耳義、希臘及びユーゴーの諸公使の放逐、クリップス駐ソ英國大使とソ聯政府との馴合の上で行はれた獨ソ關係に關する英國諸新聞の完全な沈默、及び獨ソ關係は全く平常の通りであると傳へた最近のタス通信社の取消の如きがそれである。

ソ聯の反獨政策は軍事方面に於ては、總ての出動し得べき軍隊をバルト海より黑海に至る長き前線に續々集結することによつて實現された。獨逸が全力を擧げて西部戰線に於て佛國と戰ひ、東部には極めて微力な兵力しか配置し得なかつた時、赤軍司令部は有力な部隊を東部國境亞に羅馬尼方面に集結した。

獨逸國防軍總司令部は本年初め以來屢々獨逸外交首腦部に對し、ソ聯軍のこの攻勢的集結につき注意を喚起した。獨逸國防軍總司令部のこの情報は追つて詳細公表せられる筈である。最近數日間の觀察の結果、ソ聯軍は何時でも攻勢に出で得る立場に在ることが判明した。本日英國から得た情報では、クリップス大使がソ聯とより密接な協力をなす爲に交渉中であると云ふ。又從來常にソ聯を敵視してゐたビーヴァーブルックが、全力を盡してソ聯を援助せよ、又米國に對しても同樣な行動に出でよ、と慫慂したとのことであるが、これに依つて見ても彼等が獨逸國民をどんな目に遭はさうと考へてゐるかが明かに解る。

以上の總統の宣言及び獨逸外務省の覺書により、ソ聯の隴を得て蜀を望む貪婪飽くことを知らる征服慾と、その危險なる煽動工作及び獨逸東邊への赤軍大集結より來る脅威が暴露されて、

獨逸宣戰の理由が明白となり、歐洲諸國の反ボルシェヴィズム的同情が翕然として獨逸側に集まつたのである。こんな事情があつたればこそ、建國以來ソ聯に對して兎角遠慮勝であつた土耳古が、英國との相互援助條約が嚴存するにも拘らず、六月十八日獨逸との間に友好條約を結んでソ聯に盾突いたのである。ベッサラビヤ、ブコヴィナの奪回を熱望する羅馬尼が、獨逸軍と轡を駢べてプルート河の線に立向つたことは自明の理である。獨ソ開戰數ケ月前より、獨兵の領土通過を許した芬蘭の態度もまた自から腑に落ちるであらう。

露都駐在の獨逸大使シューレンブルグは、本國政府の命を奉じて、二十二日午前五時半クレムリンにモロトフ外相を訪問して、獨ソ兩國間に戰爭狀態が存在する旨を通告した。この宣戰は、クレムリンの連中にとつては正に靑天の霹靂であつた。彼等は英獨の疲弊を待つて漁夫の利を占めることを狙つてゐた。あはよくば獨逸の背後を衝いて、全歐洲を赤化する機會を待望してゐたのである。スターリンは獨逸を嘗め切つてゐた。二年越しの征戰に疲勞してゐる獨逸が、まさか强露に向つて反噬して來るとは夢にも想はなかつた。彼は全くヒットラーを誤算してゐたのである。

モロトフ外相は同日午後零時十五分よりラジオを通じて次の要旨を放送した。

モロトフ・ソ聯外務人民委員の聲明

獨逸軍は二十二日午前五時ソ聯政府に對し何等の理由も説明せず、宣戰の布告もなくして、ソ聯國境數箇所の地點に於て侵入を開始した。獨空軍は又キエフその他のソ聯都市を爆擊、二百名以上の死傷者を出した。獨逸軍の空陸よりする攻擊は、先づ芬蘭、羅馬尼國境より開始された。この攻擊は獨ソ兩國間に存する不侵略條約を無視したものである。ソ聯は今日迄同條約を文字通り遵守して來た。

駐ソ獨大使は今朝午前五時半、獨逸政府はソ聯と開戰の決意をなした旨通告して來た。余はこれに答へて、最後の瞬間まで獨逸政府はソ聯政府に對して何等の不滿も要求をも提出し來らず、さればソ聯の平和的意圖を無視して獨逸は攻擊を開始したものなることの想起を求めた。ソ聯飛行機または軍隊が獨ソ國境を犯して越境したなどの事實は全然存しない。ソ聯空軍が羅馬尼飛行場を爆擊したなどは事實無根である。ヒットラー總統の布告は全く虛僞であり、挑發である。赤軍の獨軍に對する反擊命令は、獨軍の攻擊が始つた後に發せられたものである。

ソ聯に戰爭を强ひたのは獨逸國民ではなく、獨逸の指導者である。赤軍陸海空の勇士が、各々その義務を完遂することを信じて疑はない。ヒットラー總統はナポレオンの運命を想起すべきである。

前記モロトフの聲明にもある如く、獨逸は最近に於ては何等要求がましいものを提出しなかつたのが事實のやうである。勢力互角の獨ソの大軍が、國境線上に對峙して、まさに一觸卽發の形勢であつた。歐洲の大戰爭は大概麥秋の後に起る。獨逸參謀本部の諜報によれば、世界革命を狙

ふソ聯は、機來れりと八月を期して進擊を開始する計畫を抱いてゐたものらしい。獨逸が英本土上陸作戰に乘り出した所を背面から叩く考へであつたやうに想はれる。奇策縱橫のヒットラー總統は、この危機を前に一刻も躊躇しなかつた。唯さえ濕地帶の多いバルト沿海州や舊波蘭領に於ける作戰は、雨の多い秋になれば非常に難澁となるので、獨逸軍は機先を制して卽戰卽決の決心をした。正に乾坤一擲の大勇斷、軍人ヒットラーの獨壇場である。先づソ聯を叩き破つて後顧の憂を斷ち、然る後、更に仇敵英國に立向ふ作戰である。獨逸の鷲は先づ後門の狼を退治して後、前門の虎ならぬ獅子を討つ氣である。近東の如き第二次的の小戰場は、最早や總統の眼中にはない。

戰端の開始と共に壓倒的に優勢な獨逸の空軍は、連日ソ聯の飛行基地を襲つて地上に空中に敵機を擊破擊墜して甚大な損害を與へ、劈頭第一に制空權を奪つたことは發表されたが、地上部隊の動靜については、獨逸側からは何等の發表がない。モスクワの放送は常に赤軍の優勢と、赤軍戰車隊の勝利を報じて來る。ニューヨーク電報は想像にまかせて大法螺を飛ばせて來る。それによれば開戰三日目には獨羅聯合軍は既にオデッサを占領した筈である。獨逸の信憑すべき公報を待つ間、少しく開戰直後の外交舞臺を覗いて見たい。

よもやと思つてゐたらしいソ聯にとつては、獨逸の宣戰は、青天の霹靂の感があつたやうだ。

漸くこのショックから立直つたソ聯外務省は、タス通信をして去る二十二日のヒットラー聲明は徹頭徹尾虚構である。殊にモロトフ外相はベルリン訪問の砌、ダーダネルス海峡海空軍基地の設置に關する要望や、赤軍の勃牙利進駐の件を持出した覺えがないと、全面的に否認させた。これに對し獨逸外務省では『總統とモロトフとの會談に關する記録は現存してゐて、それは獨逸政府が適當と考へる時に何時でも公表され得るものだ、と云ふ事實をタスは忘れてはならない。またモスクワ政府の該併合問題について有する見解に關して獨逸側の主張を證明する爲には、必要とあれば、何時たりとも使用し得る幾多の證據文書が、今尚獨逸外務省の手中に在ると云ふことをモロトフはきつとタスに知らせることを忘れたのだらう』と鍬をつついて蛇を出すの愚を嗤つた。

獨ソ開戰に對する英米の態度

獨ソ兩軍の間に喰ふか喰はれるかの格闘が始つたと聞いて、驚喜したのは英國である。何時英本土上陸作戰が始るかと、表面冷靜を裝ひながら、内心では戰々兢々としてびくついてゐたジョン・ブルも、これで一寸息を繼ぐことが出來た。赤軍が善戰すれば、自然獨軍の機材が消耗されて、あはよくば長期戰になるかも知れぬと一縷の望みが彼等の胸裡に湧いて來たやうである。有

卦に入つたチャーチル英首相は久しぶりに晴々として、二十二日午後七時次の放送を行つた。

チャーチル英首相の聲明

ヒットラーと戰ふ如何なる人物または國家も我々の援助を受けるであらう。またヒットラーと共に戰ふ如何なる人物或は國民も我々の敵である。獨軍はソ聯の國境を侵犯した。英國の政策が如何なるものであるかについては疑問の餘地がない。我々は一つの目標と更改すべからざる目的を持つて居り、ヒットラー及びナチ政權の總ての痕跡を破壞せんと決意してゐるのである。我々は海、陸、空に於て飽くまでヒットラーと戰はんとするものである。英國は決してヒットラーと交渉しないであらう。英國はヒットラーと戰ふ如何なる國家に對しても援助を與へんとするものである。これが我々の政策であり、我々の宣言である。我々はソ聯及びソ聯國民に對して我々が與へ得る如何なる援助をも與へんとするものである。而して我々は世界の各友邦が我々と同樣の方針に出づることを希望するものである。余は茲に米國の行動につき云々せんとするものではないが、若しヒットラーがソ聯に對する攻擊をもつて、大民主々義陣營の目標を少しでも分裂させ、又はその努力を弛緩せしめ得るものと想像してゐるとすれば、ヒットラーは憐れむべき誤算に陷つてゐると言はねばならぬ。ソ聯の危險は我々の危險であり、また米國の危險でもある。我々はソ聯國民がその國土を防衛しつつあり、且その首腦者が最善の努力を盡して抵抗を試みんと、その任務を果しつつあることを知つてゐる。またソ聯への侵入は、印度をも含む他の諸領域をも戰火に投ぜしめんとする踏石に過ぎない。また英本土侵入の前奏曲でもある。ヒットラーは米國よりの援助が到來する前に、英國を制壓せんとしてゐるので

ある。以上の如き見地から英國は、ソ聯に對し技術的及ひ經濟的援助を與へんとするものである。英國は戰爭の續く限り晝となく夜となく獨逸を爆擊するであらう。而して今後六ケ月間に英國はその目的を貫徹し得るであらう。

世界の資本主義、自由主義、民主主義の牙城である大英國の首相が、「ナチ」を人類自由の仇敵、世界文化の破壞者と罵りながら、それよりも更に卍を掛けた宗教の否認者であり、人類自由の壓制者である共產主義ボルシェヴィッキーの巨頭と欣然握手して恥かしいとも感じないのは、何と云ふ矛盾であらう。何と云ふ僞善、何と云ふ無恥であらう。

獨ソ開戰の報を聞いて一層喜んだ人にローズヴェルト大統領がある。彼は餘り熟慮もせずに六月二十四日『米國は力のある限りソ聯を援助する』と大見得を切つた。また曩に凍結を命じたソ聯の資金四千萬弗の解除を命じ、ソ聯への軍需品供給に對しては中立法を適用せぬことをノックス海軍長官に命じて聲明させたのである。米國は民主主義國の造兵廠であると傲語した舌の根がまだ乾かぬ内に、今や共產主義者の爲の軍需品供給基地とならうとしてゐる。チャーチルと云ひローズヴェルトと云ひ、英米の政治家ほど御都合主義な人物はないと、我々正直者は君子豹變の手際の餘りにも素晴しいのに目をパチクリさせる外はない。併し廣い亞米利加には大統領やその周圍のやうには融通の利かぬ男も一人や二人は居るやうである。現に非參戰論者の急先鋒として

ローズヴェルト政權から一敵國視せられてゐるリンドバーグは、七月一日サンフランシスコの公會堂で開かれた反戰大會に臨み、左の演說を行つて米國爲政者の無節操を痛罵した。

『昨冬ソ聯が芬蘭と戰つた際、干涉主義者連は與ふ限りの對芬援助を要求した。それが今日ソ聯が芬蘭と交戰するや、同じ干涉主義者はソ聯を援助せよと叫んでゐる。彼等に言はすれば芬蘭は今や米國の敵で、ソ聯は味方なのである。つい昨日までナチズムと共產主義を撲滅せよと呼はつてゐた連中が、今日はソ聯を聯合國として歡迎してゐる。昨日の敵は今日の友とは正しくこのことだ。吾々は一體チャーチル首相や、蔣介石の政策に責任があるやうに、スターリン議長の政策に對して責任を執らねばならぬものであらうか。』

何と云ふ皮肉！ ローズヴェルト一派の苦つぽい顏が見えるやうだ。流石に大統領は輿論の向背を顧慮してか、近來稍露骨な言明を避けるやに見える。七月四日の獨立祭の演說も、これまで耳に胼胝が出來た舊說を繰返しただけで、何の新味もなく甚く英國の朝野を失望させた。これに反して取卷の要人達、例へば海軍長官ノックスや國務次官サムナー・ウェルズなどは、隨分と思ひ切つた參戰論を唱へて物議を釀してゐる。ノックス海相の如きは六月三十日ボストンに於ける全米洲知事會議の席上、『現在の割合で英國船が喪はれて行けば、世界制覇の勝利はヒットラーに歸するであらう』と言ひ、『今こそ獨逸を討つべき天與の機會である。ヒットラーがソ聯との衝突に忙殺されてゐるこの時こそ、眞に英國を援助し得る機會である』と叫んで世間を驚かせた。

ヘッス獨逸副總理の英國飛行以來、商議による和平說の暗流が目に着くやうになつた。英國戰時內閣の重鎭ビーヴーブルック卿が某和平論者を補缺選擧の候補者に推薦したことを、政府がひどく氣に病んだなども、一葉凋落して天下の秋を知る概が無いでもない。英國が手を揚げれば、比較的寬大な條件で媾和が出來るだらうと云ふことが、次第に常識に成りかけて來た。今英國に拋げ出されたら、米國主戰論者の面目は丸潰れである。是が非でも英國に頑張らせねばならぬと云ふのが、この連中の意向である。ローズヴェルト大統領一派の非理論的理論によれば、英國がヒットラーに負けたら、その次は米國の番だと云ふ。これは正しく精神病的の恐怖觀念である。獨逸が亞米利加に攻め寄せるなどと云ふことは、氣狂ひならばいざ知らず常識ある獨逸人の夢にも考へぬ所である。元の駐白米國大使で今は新聞記者となつてゐるジョン・クダヒーが、今春ベルヒテスガーデンの山莊（ベルグホーフ）で、ヒットラー總統をインターヴュウしたとき、亞米利加では獨逸が攻めて來ることを惧れてゐると云つたら、總統は大笑しててんで質問を眞面目に取扱はなかつたと書いてゐる。たつた四十キロのドーヴーア海峽でさへ渡りあぐんでゐる獨逸が、どうして三千海里の大西洋を越へて亞米利加を攻擊し得るであらうか。これは最早や道理ではない婦女子的感情である。ユダヤ人の走狗ウィルキーが一緒に咆號するのを見ると、黑幕ユダヤの差金かも知れない。この執念が凝つて七月七日のアイスランド進駐の宣言となつたのである。これは近頃思ひ切

つた挑戰と云はねばならぬ。アイスランドは獨逸の封鎖圈內に在る。紙の上ではなく、實力を以て英國の周邊を封鎖中の獨逸海空軍は、果して斯かる無遠慮な來客を默認するであらうか。これでもまだ參戰一歩前と云へるだらうか。

米海軍のアイスランド進駐

米海軍のアイスランド進駐は、同島政府主席ヨナッソン氏の懇請に基き實行したと云ふのが表面を糊塗する口實である。これは少々眉唾ものである。現に同氏は英國の駐兵すら承諾してないと七月六日、卽ち米海兵進駐の前日シカゴ・トリビューンの記者に語つたと云ふことである。尤も丁抹領グリーンランドの割讓を、本國政府の許可なしに、ワシントン駐在の丁抹公使カウフマンとの間に締約して、洒々としてゐる橫紙破りの米國當局のこととて、どんな怪腕が揮はれたか理窟を言ふ方が野暮かも知れぬ。アイスランド進駐に關する條件は左の通りである。

一、米國政府は戰爭終結と同時に完全撤兵すること。

二、米國政府はアイスランドの絕對獨立主權を承認し、平和會議にこれが實現を援助すること。

三、米國政府は保護占領中及びその後と雖もアイスランド政府に干涉せぬこと。

四、米國政府は防衛組織を作るに當つては、住民の安全を保證するやう特に派遣部隊に命令せられたい。

五、アイスランドの軍事費用は米國政府之を負擔し、軍事的行動に基く損害もまた米國政府が辨償の責に任

ずること。

六、米國政府は凡ゆる手段を以てアイスランドの利益を擁護し、必需品の供給及び必要なる船舶の確保をなす。また米國とアイスランドとの間に通商協定を締結すること。

七、米國政府がアイスランドに施す防備は、あらゆる事態に適する堅牢さを具備するものと思考する。

今次大戰挑發の責任者とも云ふべき米國大統領は、折角の援英供給品を安全に送り屆けるため、曩にグリーンランド迄の海上哨戒を發令したが、今度は西半球防備の範圍を抹殺して、之をアイスランドまで延長して、獨逸の逆封鎖戰術の邪魔を強化したのである。觀方によつては、これでもかこれでもかと獨逸に喧嘩を吹掛けてゐるやに思はれる。この挑戰に對する獨逸の出方は蓋し見ものである。

米海兵のアイスランド進駐について獨逸政府の態度は、可なり冷靜であつた。獨逸外務省の代辯者シュミット公使は、七月九日の記者團との會見の席上、本問題について左の如き批評を下した。

この問題に關ては獨逸諸新聞の論評が、現在の症狀につき充分な診斷を下してゐる。米國大統領はアイスランド進駐によつて、自國民をペテンに掛けたと云つてもよい。アイスランド政府と米國との間に締結されたと稱する條約は、アイスランド首相が自發的に而も唯々諾々と、ローズヴェルト大統領の希望を滿したかの如く言ひ觸されてゐるが、七月六日この問題に關し「シカゴ・トリビューン」紙が發表した會見談とは

妙に違つてゐる。この會見談では、ヨナソッン首相は、アイスランドが英國の進駐を拒否し、また米國による進駐が起るとしても、原則として之を拒否せねばならぬとその見解を明かに表明した。さればこの會見談と、アイスランド米國間に締結された條約發表の時期との間には、ある不可解なものが存在せねばならないと云ふ印象を掩ふことが出來ない。アイスランド進駐及び米大統領によつて發表されたところの理由は、大統領が最早や明かに限定された西半球の概念を保持しないと云ふことを如實に示してゐる。この例によれば大統領は明日ヴォルガ又はウラルを西半球の限界だと決めるかも知れぬ。併し世界は所謂「西半球の脅威」と云ふ標語を大統領自身が、最早信じてはゐないことを百も承知してゐる。……ローズヴェルト大統領のアイスランド占領の言分は、やがてアゾーレス群島、カップ・ヴェルデ群島（共に葡萄牙領）及びダカール港（佛領）に對する合衆國今後の行動を絶無とするものではない。要するに愈々西半球の境を越えて意識的に戰爭へ乗出した譯で、モンロウ大統領も嘸かし草葉の蔭で驚いてゐることであらう。

また本件に關する獨逸諸新聞の論評を綜合すると、次の如き結論に達する。

獨逸が歐羅巴の要望默し難く、全歐國民の支持の下に、全世界文明國の同情的聲明に送られて、歐洲を赤禍から救はんとしてゐる瞬間、ローズヴェルトはスターリン、チャーチルと組んで、歐羅巴の背後を脅かんとしつつあるのだ。丁抹領のグリーンランドを奪ひ取つたのが、最近のことのやうに思はれたのに、今また中立維持に汲々としてゐたアイスランドを武力を以て占領してしまつた。この作戰の理由たるや、何らかの事件に誘發させて、參戰のきつかけを作らうと云ふ、大統領の腹黑い意圖以外の何ものでもあり得ない。歐羅巴交戰地帶への侵入を最後に、ローズヴェルトは、きつぱりとモンロウ主義と手を切つた譯で、今度の措

置によつて西半球防衛云々の彼自身の主張を無殘にも否定し去つたのである。米國側の見解ですらアイスランドは、未だ嘗て西半球に屬してゐたものではない。同島に對する獨逸の脅威を云々するのは絶對に不條理だ。同島は初め同島政府の抗議にも拘らず、英國によつて占據せられ、否應なしに交戰區域に牽き入れられたのである。ローズヴェルト大統領が現に執つてゐる措置を自ら理由づける爲に設けてゐる口實は、意識的な虚僞であり、この歐洲の一小島國に對する暴力行爲を米國民に向つて正當化せんとする努力に他ならぬ。而もその國民に向つて同大統領は、過般の三選に當り、合衆國は決して參戰せざる旨の約束を厳に與へてゐるのである。ローズヴェルトの外交政策は、中立侵犯行爲の連續である。彼は米國議會によつて採擇された諸法律に、自分勝手な解釋を加へてこれを歪曲することに汲々としてゐる。米國參戰の責任はローズヴェルトの責任である。歐羅巴はアイスランド占領を以て計畫的な闇討と感じてゐる。

獨ソの開戰はまた亞米利加國民の特殊層に意想外の衝動を與へて、大統領の參戰決意を容易ならざるものとした。共産主義者や、人民戰線の同情者は從來非參戰の陣營に在つたが、ソ聯の參戰と共に急に參戰論に乘換へた。之に反して二千萬人のカトリック教徒が、羅馬法皇のボルシェヴィッキー排擊の教書を遵奉して、政府のソ聯援助の方針を痛擊しだしたことは、ローズヴェルト政權にとつて意外の强敵が現はれたと言はねばならぬ。それやこれやで米國の對ソ援助は、目下の處現金取引の程度で、武器貸與法の發動とまでは行かぬもののやうである。

次に研究すべき點は、英國とソ聯との間に、獨ソ開戰以前に同盟關係が結ばれてゐたか否かと

云ふことである。前掲のヒットラー總統の對ソ開戰宣言は英ソ間の同盟を前提としてゐるが、筆者の管見では、表面上はまだそこまで行つてゐなかつたのではないかと思はれる節がある。勿論共同の敵に對する關係上、イデオロギーの墻壁を乘越えて、モスクワとロンドンとの間に靈犀相通ずるもののあつたことは否めない。しかし同盟條約を締結するには、ベッサラビヤは兎も角、どうしてもバルト三國及び芬蘭の永久領有をソ聯に容す必要があるので、これは英國の政治家にとつては中々の難事である。尤も歸國中の英國大使サー・アーチボルド・フィリップスが、六月二十七日空路帶同した英國使節と、ソ聯當局との間に目下軍事及び經濟問題につき折衝中であるから、その内にはある結論に達することと思はれる。右使節團の顔觸は左の通りである。

軍事使節　團長メーソン・マクファーレン陸軍中將
　　マイルス海軍少將、コーリアー空軍少將
經濟使節　團長ローレンス・カドベリー
　　エグザム陸軍大佐、ワイバート海軍大佐、デイヴィス陸軍大佐

反共十字軍への歐洲列國の參加

ヒットラー總統の命令一下、獨逸の陸海空軍はソ聯に向つて一齊に行動を開始した、弦を放れ

た矢の様に。アントネスク將軍麾下の羅馬尼將兵が、希臘戰線から引揚げて來たリスト元帥の指揮する獨逸軍と手を連ねて、プルート河を隔つるベッサラビヤの戰線に殺到したことは既に之を述べた。然らば英國を除く歐洲列國の獨ソ開戰に對する態度は怎うであるか。

開戰と共に芬蘭に進駐してゐた獨逸軍は直ちに行動を起した。芬蘭政府は二三日赤軍飛行機のヘルシンキ來襲を怺へて形勢を觀望してゐたが、二十五日に至りランゲル首相は臨時議會を招集芬蘭は凡ゆる軍事手段を以て、對ソ防衛措置を講じた旨を報告した。議會は政府のこの措置を承認すると共に、滿場一致で政府信任案を可決した。越えて二十九日カール・グスターフ・マンネルハイム將軍は、芬蘭の兵士に向つて『今一度余に續け！』と叫んだ。その命令は左の通りである。

『芬蘭將兵諸君！　我が冬期戰の齎らした平和は散々であつた。平和だと云ふのに我々は、我等の敵から絶へず脅威、壓迫を受けつづけて來た。

この事實を見ても、我等の結束を阻害せんとしたソ聯側の犯罪的攪亂工作と相俟つて、敵が最初から何ら恒久的平和を欲してゐなかつたことを證して餘りがある。

締結された平和は單なる休戰に過ぎなかつた。而もこの休戰も愈々終りを告げんとしてゐるのだ。諸君は敵が、我等の故鄕を、我等の信仰を、我等の祖國を亡ぼさうとし、又我等を奴隷化さうと終始劃策してゐるのを承知の筈である。この敵、この危險が今や我が國境に迫つた。我等の敵は何等の理由なく殘酷にも我が

平和の民を襲擊し、我が國土を爆擊した。祖國の將來は我等の蹶起を要望する。余は我が國民の敵に對する

平和の民を襲撃し、我が國土を爆撃した。祖國の將來は我等の蹶起を要望する。余は我が國民の敵に對するこの聖戰に當り、余に隨はんことを諸君に要望するものである。

諸君が雄國獨逸と結んで、我等共同の敵を目指す十字軍に結束進發する時、我が戰歿勇士も必ずや芬蘭の將來を安泰ならしめるため、墓を出でて隊伍に列なるに違ひない。勇士諸君！ もう一度余に續け！ 今やカレリヤの同胞は奮然蹶起した。芬蘭の輝かしい將來は我等に聲援を送つてゐるではないか。』

聖戰！ 反共十字軍！ これがボルシェヴィズム膺懲の軍に對する全歐洲人の僞らざる感情である。昨春の芬蘭戰爭當時、政治的には嚴正中立を聲明しても、義勇軍を送つて國民の同情を示した瑞典は、今回も中立を宣言したが、特に諸威駐屯中の獨逸兵一箇師團の國內通過を許した。

コヴノよりのラジオ放送によれば、同市は六月二十四日正午、ソ聯軍隊が倉皇として撤退した後獨逸軍により占領せられ、市外に駐屯してゐたソ聯砲兵二ケ大隊は獨逸軍に投降した。昨年六月十五日ソ聯軍の占領により、辭職の止むなきに至つた同市の衞戍司令官ボベリス將軍は復職した。リトアニヤ獨立運動聯盟は、新政府を組織し、ソ聯の桎梏を脫して獨立、ボルシェヴィズムの束縛から國民を解放するために、獨逸軍を解放者として最も友好なる態度を以て歡迎すべき旨を國民に呼びかけた。新リトアニヤ國政府主班は元ベルリン駐在リトアニヤ公使ラジス・スキプラ氏である。元參謀總長ブンドツェ・ウィチウス將軍はリトアニヤ軍總司令官に任ぜられた。元

國防相ラスチキス將軍も亦閣僚として一役買つて出ることとなつた。

スロヴァキヤ首相兼外相チソ博士は、廿四日正午獨逸公使の來訪を求め、スロヴァキヤは廿四日より獨逸と協力、對ソ聖戰に參加することになつた旨を正式に通告した。そして同時に國民に對し『スロヴァキア國民は大獨逸と協力し、歐洲文明擁護の役割を分擔することとなつた。これが爲スロヴァキヤ軍の一部は、廿四日既に國境を越えて獨逸軍と共同作戰をとつてゐる』旨の布告を發した。

四年に亘る內亂にボルシェヴィッキーの慘毒を滿喫させられた西班牙民衆の反ソ感情は、獨ソ開戰を契機に一度に燃え上り、廿四日には約五千名の「ファランヘ」黨員は、打倒ソ聯、ソ聯と戰へ等と書いた大旆を立ててマドリッド街頭で示威運動を行ひ、獨逸大使館前で、モスクワへ進擊せよ、ジブラルタルを取戻せと叫んで、反ソの氣焰を擧げ、更にファランヘ黨本部前に集合示威を行つた。その時スネル外相は本部のバルコニに現はれ、『西班牙の內亂を起したものはソ聯である。西班牙の歷史と歐洲の將來の爲にソ聯を滅亡させることは絕對に必要だ』と激勵演說を行つた。ファランヘ黨では目下一萬五千人の義勇軍を募集して出征させる準備中である。其後この反ソ示威運動は全國各市に蔓延して、打倒ソ聯が熱情に富んだ南國の青年ファランヘ黨員によつて盛に絕叫された。

三國同盟參加國の一つである匈牙利は、二十三日逸早くソ聯と國交を斷絶し、次で二十七日午前十時二十分對ソ宣戰を布告、獨逸側に立つて戰爭に參加することに決定、次の如く發表した。

『ソ聯は國際法に違反して匈牙利に對して頻々空襲を行つてゐるため、匈牙利はソ聯と戰爭狀態に入るの止むなきに至つた。』

丁抹國政府も亦、二十七日ソ聯との間に外交關係を斷つた。但し丁抹は依然非交戰國たる政策を堅持する旨を宣言した。非交戰國宣言とは中立國宣言とは異なり、交戰國孰れかの一方に加擔する立場にあるが、而も未だ交戰權を發動させて居らぬので、いはば宣戰布告と中立宣言との中間である。

六月三十日朝ダルラン副主席は、ヴィシー駐在のソ聯大使ボゴモロフに對し、佛蘭西は今回ソ聯との外交關係を斷絶するの餘儀なきに至つた旨を通達した。その理由は、ソ聯諜報機關竝に領事館員の佛蘭西國內における政治的活動を默視し難いと云ふにある。民間に於ては約一師團程度の征ソ義勇軍を派遣する運動が始つた。

其他新興のクロアチヤ國は三國同盟側に加擔し、露西亞に向つて宣戰した、伊太利は二十三日午前五時半からソ聯と交戰狀態に這入つた。また續々援兵を獨ソの戰場へ繰出すこととなつたことは同盟の關係上申すまでもない。これは過る日のブレンネル會談の結果で、もともと共產黨嫌

ひのムッソリーニ首相は、定めし會心の笑を漏へたことと思ふ。土耳古は英ソ獨三國の利害關係が衝突する誠にデリケイトな地位に在るに拘らず、開戰の翌日早くも嚴正中立の聲明を發してその外交方針を明かにした。獨逸との間には本年六月十八日の修交條約が調印されたばかり、英國との間には一九三九年十月の相互援助條約が表面上今尙存して居り、ソ聯との間の古い不侵略條約は本年三月二十五日に再確認された。斯る鼎足の關係に立つ土耳古の地位は中々容易でない。

日本の態度

然らば我が帝國の態度はどうであるか。三國同盟の一員として米國の參戰を牽制する使命を擔ふ傍、英米の援助を生命の綱と賴む重慶政權と五年越しの交戰を續けてゐる帝國の外交は、複雜微妙を極めてゐると云はねばならぬ。されば帝國政府は、獨ソ開戰以來愼重に事態の推移を注視してゐたが、七月二日畏くも　天皇陛下御親臨の下に御前會議を開かせられ、內閣總理大臣、外務大臣、內務大臣、大藏大臣、陸軍大臣、海軍大臣、企畫院總裁、樞密院議長、參謀總長、軍令部總長、參謀次長、軍令部次長出席熟議の末、現下の情勢に對處すべき重要國策の決定を見て、迅雷一過晴々とした氣持となつた。當面の立役者松岡外相は『廣く眼を世界全般にわたつて注ぎ諸列强の間の關係を絕えず注視しつつ、極めて細心なる用意と、自ら賴むある準備と、固き決心

と覺悟とをもつて嚴重に事態の推移を見守る考へである』と說明した。この含蓄の多い日本一流の宣言は、具體的卽物的の言動に慣れた歐米の政治家、政論家には甚だ苦手で、彼等は皆狐につままれたやうな顏附をして茫然としてゐる。九重の奧深き御前會議の內容は我等草莽の臣民には窺知る由もなく、揣摩憶測は更に禁物である。筆者は左に現下の情勢に最も關係深き二條約を採錄して讀者諸君の參考に供することとする。

日獨伊三國條約

（昭和十五年九月廿七日締約）

第一條　日本國は獨逸國及び伊太利國の歐洲に於ける新秩序建設に關し指導的地位を認め且之を尊重す

第二條　獨逸國及び伊太利國は日本國の大東亞に於ける新秩序建設に關し指導的地位を認め且之を尊重す

第三條　日本國、獨逸國及び伊太利國は前記の方針に基く努力につき相互に協力すべきことを約す。さらに三締約國中何れかの一國が現に歐洲戰爭または日支紛爭に參入し居らざる一國に依つて攻擊せられたるときは三國は有らゆる政治的、經濟的及び軍事的方法により相互に援助すべきことを約す

第四條　本條約實施のため各日本政府、獨逸政府及び伊太利政府により任命せらるべき委員より成る混合專門委員會は遲滯なく開催せらるべきものとす

第五條　日本國、獨逸國及び伊太利國は前記諸條項が三締約國の各とソヴィエト聯邦との間に現存する政治

的狀態に何等の影響をも及ぼさざるものなることを確認す

第六條　本條約は署名と同時に實施せらるべく實施の日より十年間有効とす。右期間滿了前適當なる時期において締約國の一國の要求に基き締約國は本條約の更新に關し協議すべし

日ソ中立條約　（昭和十六年四月十三日締約）

第一條　兩締約國は兩國間に平和及友好の關係を維持し且相互に他方締約國の領土の保全及び不可侵を尊重すべきことを約す

第二條　締約國の一方が一又は二以上の第三國よりの軍事行動の對象となる場合には他方締約國は該紛爭の全期間中中立を守るべし

第三條　本條約は兩締約國においてその批准を了したる日より實施せらるべく且五年の期間効力を有すべし。兩締約國の何れの一方も右期間滿了の一年前に本條約の廢棄を通告せざるときは本條約は次の五年間自働的に延長せられたるものと認めらるべし

第四條　本條約は成るべく速かに批准せらるべし。批准書交換は東京において成るべく速に行はるべし

三國同盟條約第五條の小缺點は、松岡、スターリン兩巨頭のモスクワ會談によつて日ソ中立條約の締結を見て除去せられた。我等日本國民は現人神におはします　聖天子の御稜威の下に有能なる現下の外交陣と、忠勇なる陸海軍の指導者及び將兵に信頼して、一億一心、各その職責を守

つて奉公の誠を盡し、波瀾萬丈の國際情勢に對處して、大東亞共榮圏の確立に渾身の力を致すべきである。五年の聖戰に耐へ、更に中華民國再建の重責を擔ふ我が國民は、一人として北門の鎖鑰堅く、太平洋の波靜かならんことを希はざるものはない。而も一旦緩急あれば決然として、開闢以來のこの超非常時局に直面して、不退轉の大勇猛心を內藏しつつ餘裕綽々泰然として動かざること山の如き待機の姿勢に在ることを、列國に知らしむべきである。

スターリン全國民に愬ふ

曩に心機一轉コミンテルン黨書記長の黑幕的存在を蟬脫して政治の表面へ乘り出し、人民委員會議長、卽ち政府主席の職に就いたスターリンは、ヒットラー總統に倣つて前線へ出動、自ら全軍の指揮に任じてゐると云ふことである。また戰時政治體制强化のため、政、軍、黨の最高指導機關として國家國防委員會を設置する旨六月三十日發令された。その顏觸は、委員長スターリン首相、副委員長モロトフ外相、委員はヴォロシーロフ元帥、マレンコフ黨政治局員、ベリヤ內相の三名である。

獨ソ開戰後の戰況は、赤軍にとり餘り馨しくない。スターリン國防委員會長は國民を激勵するため、七月三日ラジオを通じて國民に呼び掛けた。その演說の要旨は左の通りである。

獨逸によつて我等の祖國に對して開始された不信なる軍事的攻撃は、目下引續き行はれてゐる。ソ軍の英雄的抵抗に依り、獨逸の最優秀師團竝に最優秀空軍は、既に大打撃を蒙つた。それにも拘らず獨逸軍は依然進撃を續け、新部隊を攻撃に參加させてゐる。ヒットラーの軍隊はリトアニヤを占領し、ラトヴィヤの大半、白露西亞の西部、西ウクライナの一部分等の占領に成功した。また獨空軍は爆撃機の作戦範圍を擴大し、ムルマンスク、オルシヤ、モヒレフ、スモレンスク、キエフ、オデッサ、セバストポール等を爆撃してゐる。我等の國の上には大なる危險が蔽ひ被さつて來た。

光輝あるソ軍が若干の我が都市及び地方を、どうしてファッシスト軍に渡すやうになつたか。獨逸のファッシスト部隊は、ファッシスト宣傳員が誇らしげに絶えず宣傳するやうに眞に無敵であらうか。勿論否である。歴史はいづれの國に於ても、全く不敗の軍隊と云ふものが存在せず、また存在しなかつたことを示してゐる。ナポレオン軍は無敵と思はれたが、これとても英、露、普三國によつて完全に破られた。カイゼル・ウィルヘルム二世の獨逸軍も、第一次帝國主義戰爭の時にあつては、やはり無敵と見られてゐたが、同じく露西亞及び英佛聯合軍により撃破され、最後には英佛軍によつて潰滅させられてしまつたのである。同じことが今日の獨逸ファッシスト軍についても言はれねばならぬ。この軍隊は歐洲大陸に於ては未だ强力な抵抗を受けたことがないが、我々の領土に於てはじめて强力な抵抗に遭つたのである。

然るにも拘らず、我が領土の一部が獨逸ファッシスト軍によつて占領されたのは、ファッシスト獨逸の對ソ戰爭が獨逸軍にとつて有利な、そしてソ聯軍にとつては不利な狀況の下に開始されたためである。事實を言へば獨逸の軍隊は戰時編制下にあるため既に十分に動員されて居り、ソ聯に對して獨逸が投げかけソ聯國境

に持つて來た百七十個師は、完全な準備を整へて行動開始の命令を待つてゐたのであつた。これに反してソ聯は、現在なほ兵力を動員して前線へ送らねばならぬ狀態に在る。ファッシスト獨逸が全世界から侵略者と看做されることを無視して、一九三九年にソ聯との間に締結した不侵略協定を突如として裏切り、これを蹂躙する擧に出たと云ふことは、輕視し得ざるところである。

ではソ聯は、どうしてヒットラーやリッペントロップと不侵略協定を締結することに同意したかとの質問が發せられるかも知れぬ。これはソ聯の誤謬であつたか。勿論誤謬ではない。

我々はこれにより、一年有半に亘つて國土の平和を保證し、また獨逸が協定を無視してソ聯を攻擊する危險のある場合、これを擊退すべき自國の軍備を整備する暇を得たのである。これは確に我々にとつて有利であり、獨逸にとつては不利益であつた。獨逸は條約を背信的に蹂躙してソ聯を攻擊する事によつて何を得、何を失つたか。獨逸の得たところは、一時的にその軍隊のために若干の有利な地位を得たに過ぎないが、政治的には獨逸自身を、血に飢ゑた侵略者として全世界に暴露することにより損をしたのだ。獨逸軍の一時的な軍事的成功が、結局一つの挿話に過ぎないことになることは、疑ふべくもないであらう。

一方ソ聯の政治的利益は莫大である。これは獨ソ戰に於ける赤軍の決定的勝利を齎すべき基礎として、極めて重要な要素である。これこそ我が勇敢な全陸海空軍、全ソ聯人民、而して歐洲、米國及び全亞細亞の有識者、殊に自國の背信行爲を非難し、ソ聯に同情を寄せてゐる獨逸の有識者が、ソ聯政府の行動を承認し、ソ聯の措置が適切であつて、獨逸は敗北し、ソ聯は必ず勝利を得るものと見てゐる所以である。今や我が軍主力は無數の戰車及び飛行機を裝備して行動に移らんとしてゐる。我が軍の將兵は比類なき勇猛心を發揮し

つつある。敵に對する我々の抵抗は次第に威力を發揮しつつある。

平和的建設的勞働の氣分は、戰前には極めて自然であつたが、背景の一切が根本的に變化した今日では致命的なものである。敵は我々の汗を以て潤した土地を奪ひ、我々の勞働によつて獲得した穀類と石油を奪はんとしてゐるのだ。更に敵は地主の支配やツアリズムを回復せんとし、ウクライナ、白露西亞、リトアニヤ、ラトビヤ、エストニヤ、ウズベクタタール、モルダヴィヤ、ジョルジヤ、アルメニヤ、アゼルバイジャンその他のソ聯自由人民の國民的文化及び現狀を破壞し、これを獨逸化して、獨逸王侯貴族の奴隷としやうと企ててゐるのだ。

斯の如く今回の戰爭は、ソ聯及びソ聯人民にとつて死活の戰爭である。ソ聯人民はよくこのことを考へて一切の輕率を捨て、自己を動員し、戰時體制の上に一切の勞働を再組織しなければならない、我々の陣營には不平を言ふ者や臆病者、恐慌誘發者、脫走者がゐてはならない。ソ聯人民は戰ひに臨んで逡巡せず、自己を犧牲にして參加せねばならない。我等の諸組織の全部は、直ちに戰時體制の下に再編成しなくてはならない。我々は軍隊、軍需品の輸送機構を急速に完成し、傷病兵のため救助設備を完備しなければならぬ。我々は赤軍の背後を鞏固にせねばならぬ。我々の仕事はすべて戰爭遂行の一點　集中せられねばならぬ。

我々は敵の奸智を銘記し、凡ての貨車は之を撤去し、一輛の機關車、客車はもとより、一プードの小麥、一ガロンの燃料と雖もこれを敵手に委ねてはならない。コルホーズからは凡ての家畜を。穀物を安全な場所に運び去らねばならぬ。地方當局者は、欺瞞と宣傳と虛僞の流說とに迷はされてはならぬ。假令餘儀なく退却する場合に於ても、後方に通ずる輸送機關、貴重な財產を初め、撤收の困難な非鐵金屬、穀物、燃料の如

きものは遲滯なく完全に破棄する必要がある。

敵占領地方では、步騎兵によるゲリラ部隊を組織しなくてはならない。敵軍牽制のため後方攪亂部隊が組織されねばならぬ。到る處でゲリラ戰を演じ、橋梁、道路、電信電話線を破壞し、森林、倉庫、運輸機關を燒却せねばならぬ。非占領地域を、敵と其共犯者にとつて堪へ難き狀態に陷入れねばならぬ。敵の一步一步を阻害し、一兵一兵を殺戮せねばならぬ。敵の凡ゆる手順を齟齬させねばならぬ。ファッシスト獨逸との今回の戰鬪を、尋常一樣の戰爭と考ふべきでない。

今次の戰役は二つの軍隊の戰であると同時に、全サヴィエート共和聯邦國民のファッシスト獨逸に對する戰爭である。この祖國擁護、國民防衞戰爭の目的は、我が國に襲ひかかる危險を排除すると共に、獨逸ファッシズムの桎梏の下にある全歐洲民族支援の戰である。この解放戰爭に於ては我々は孤立無援ではない。この偉大なる戰爭に於て我々は、亞米利加及び歐洲の國民中に忠實なる聯合國を有するのみならず、專制獨逸政府の下に奴隷化された獨逸國民中にもある。この點についてチャーチル首相のサヴィエート聯邦援助の言明、及び亞米利加合衆國政府の我が國援助用意の聲明は、歷史的のものであり、サヴィエート聯邦國民の胸奥を感激の念で滿した。

我々の軍隊は無數である。敵軍はやがて我が軍の價値を自軍の損害によつて學び知るであらう。ソ聯國民の軍隊の急速なる動員を促進し、不信にも我等の祖國を攻擊して來た敵を擊退するために、我々は國防委員會を組織し、一切の權限をその手に委ねたのである。國防委員會は今やその活動を開始し、ソ聯陸海軍に獻身的支援を與へ、敵を擊滅して勝利を確保するであらう。レーニン、スターリンの黨、ソ聯政府の召に應じ

て立つ全赤軍よ、我等の英雄的ソ聯陸軍と光榮あるソ聯海軍とを支援するために、我等の全力、我が國の總力は、敵軍殲滅の爲に注ぎ盡されねばならぬ。

英ソ軍事協定

一九三九年二月から談判が開始され、同五月英國外務省の重鎭ストラング氏の派遣となり、アイヤンサイド將軍の出馬と迄なつた英ソ間の交渉も、リッペントロップに小股を掬はれた形となり、英國外交の不名譽な退却を見たが、執拗な英國はこれに懲りず、ソ聯に向つてなほも媚態外交を續け、英國貴族中の變り種、共產主義者のサー・スタッフォード・クリップスを駐ソ大使に起用して種々畫策した。所謂百姓智慧（ベウエルンワイスヘイト）のあるスターリンは、餘りに親英的なリトヴィーノフを英ソ交渉の眞最中に却けて、モロトフを後任外相に任じた位で、中々一筋縄では參りさうにもない。それから約一年有半、流石のクリップス大使も百計盡きてロンドンに歸り、辭職云々の噂も出た程であつたが、獨ソ開戰、英ソ接近と局面急轉直下、軍事經濟使節のモスクワ派遣となり、遂に英ソ兩國の間に軍事協定の締結を見たことは、同氏にとつてはもつけの幸であつた。

本協定の調印は七月十二日午後五時十五分、クレムリンに於てヴィシンスキー外務人民委員部次長、シャポーシュニコフ國防人民委員部次長を初め、英國側軍事經濟委員參列の下に、クリッ

プス駐ソ英國大使と、モロトフ・ソ聯外務人民委員との間に行はれた。右軍事協定の全文は左の通りである。

本協定

第一條　ソ英兩國政府は現下の對獨戰爭遂行中凡ゆる種類の助力竝に支援を相互に供與すべきこと

第二條　兩國政府は更に右戰爭繼續中は相互に協議することなくして獨逸と休戰又は講和條約を商議し又は締結せざること

本協定は露語及び英語を以て各二通を作成、露文及び英文は同等の效力を有す

一九四一年七月十二日モスクワに於て

ソ聯邦全權委員人民委員會副議長兼外務人民委員　モロトフ

英帝國全權委員駐ソ特命全權大使　スタッフォード・クリップス

また兩締約國は、本協定が署名と共に効力を生じ、批准を要せざることを附屬議定書を以て協定した。

本協定は去る六月二十二日のチャーチル首相聲明の當然の歸結である。イデオロギーの相違を棚に上げて、犬猿啻ならぬ英ソ兩國の首腦部が、共通の敵と戰ふ爲には恥も外聞もかまはず、野合を遂げた憐むべき記録である。腐つても鯛と今日迄紳士國の矜持を誇つてゐた大英國の末路淘

に氣の毒の至りである、と言はねばならぬ。

實際問題としては、本協定はソ聯に對して大した直接の恩惠を齎らすものではない。北氷洋に面するソ聯唯一の不凍港ムルマンスクは、早くも獨芬聯合軍の制壓下にレニングラードとの間の連絡を危くされた。白海の奥に位するアルハンゲルスクは一年中、六、七、八の三ヶ月のみ使用可能である。ゴム、棉花その他の南洋物資は遠くウラディオストックから輸入が出來るが、いつ迄この門戸が開いてゐるであらうか。要するに本協約により大英國との間に相互援助の協約が成立した、と云ふ精神(モーラル)上の滿足の他には大した實益は無ささうである。

米國大統領の戰爭挑發

今次大戰勃發に對して誰が責任を負ふべきかと云ふことは、戰爭の現在の段階に於てはまだ斷定し難い。波蘭戰開始前、獨英外交の衝に當つたヘンダーソン英國大使の備忘錄では、罪をリッベントロップ外相に歸してゐる。外國にも遊ばず、外國語をも語らぬヒットラー總統の英國に關する見解は、悉くリッベントロップ外相に左右されてゐる。獨逸が强く出たら英國は必ず尻込みして、波蘭に讓歩させるに違ひないと、リ外相は總統の耳に囁いたと云ふのである。然るに當時の英首相チェンバレンはその手に乘らなかつた。波蘭に與へた相互援助條約の手前、彼はムッソ

リーニ首相最後の調停をも蹴つて敢然と戰を獨逸に宣した。何の成算あつて彼は英國をこの大動亂の渦中に投じたか。佛蘭西との同盟か、獨逸に對する海上封鎖の効果か。爾來征戰二ケ年。この二つがともに賴るに足らぬことが如實に證明された。チャーチルの言葉を藉りて言へば、チェンバレンはやつと二分の一、否四分の一の準備を以て戰爭に突入したのである。果して然らば無謀、無責任も亦甚しいと言はねばならぬ。併し實業家出身の彼ネヴィル・チェンバレンが、そんな目先の見えぬ男であつたらうか。否。彼は大英帝國の海軍、大英帝國の大資源、英本土の工業力を信じた。否、それよりもより多く彼は、亞米利加の支援、ローズヴェルト大統領の誓約を信じて、この乾坤一擲の大賭博に乘出したのである。

一九四〇年の春、腹心のウェルズ國務次官を歐洲に派遣して、和平の可能性を打診させた米大統領は、徹底的英國援助の臍を決めた。大戰亂の勃發を豫言した彼には、戰爭挑發の倫理的責任がある。彼が是が非でも打倒ナチズムを叫び、對英援助に熱狂するのは、このアングルからでなければ理解出來ぬ。民主國の造兵工廠に亞米利加を變貌させた彼と彼の取卷連の努力を茲に詳述する暇はない。それが國際金融資本團の差金であるか、ユダヤ財閥のヒットラーへの復讐であるかを詮議だてすることも本書の目的ではない。しかし只これ丈は斷言出來る。彼は何とかして米獨海軍の間に衝突を起させて、參戰の口實を造りたいのである。彼はウィルキーが言つたやう

に、必要の場合には獨逸の艦船に向つて發砲してもよいと云ふ許可を、哨戒中の米國艦艇に與へたと云ふことである。日獨伊三國同盟の條項によれば、獨伊が自ら挑發することなしに第三國の攻擊を受けた場合には、日本は直ちに同盟國側に加擔して參戰する義務がある。今でさえ亞米利加の主力艦隊は日本のために太平洋に釘着けにされてゐる。現在の亞米利加海軍力では、日本と戰つて勝目のないことは百も承知である。南洋は愚か、フィリッピンさへ守れさうにもない。ローズヴェルトが今尙七〇％以上參戰を好まぬ米國民を率づつて英國の爲に劍を拔かすためには、瑞典紙アフテン・ブラデットがすつぱ拔いたやうに、どうしても獨逸側を刺戟して米國海軍に向つて發砲させる必要がある。既成事實を拵へ上げて、國民を否應なしに納得させるより他に道がない。また斯くすることによつて日本の參戰を未然に防ぎたいのである。

アイスランドの無法占領に怖をなしたのは親英の葡萄牙である。アゾーレス諸島、カップ・ヴェルデ群島も、いつ何時横紙破りの米海軍に占領されるかも知れないので、當つて碎けろと正面から米大統領の保障を要求したのに對し、彼はこれ等の諸島が樞軸側に惡用されざる限り干涉の意志のないことを、最近葡萄牙公使に向つて明言した。西班牙領のカナリー群島、佛領のダカール港については何と考へてゐるか、聞きたいものである。

米國の參戰に對しては國內法的に二つの障害がある。その一は議會の協贊を經ずして陸軍を西

半球以外に用ひることの出來ぬこと、他の一は徴兵令による服役年限一ケ年の制限である。歐洲派兵に對するこの二制限を撤廢すべく、マーシャル米參謀總長の報告に基き、スチムソン陸軍長官から現行法規の改正案を議會へ提出する運となつたので、大いに議會方面に物議を釀した。大統領は七月十四日關係議員の有力者バークレー上院議員、マッコマック下院議員以下四名をホワイトハウスに召集、マーシャル參謀總長も列席して下協議の結果、軍部の二提案を全然別個のものとして切り離し、（一）西半球外派兵禁止條項撤廢案は當分之を見合せることとし、（二）徴兵服務期間延長案に就ては、政府側の希望を容れて立法手續を執ることに妥協が成立つた由であるが、もともと民衆の間に今尚不人氣な徴兵法の强化が、たやすく議會を通過するかどうか頗る疑問である。この一事を見ても、如何に政府が參戰すべく敦圍いても、亞米利加の輿論はまだ中中そこまでは行つてゐないことを窺ふことが出來る。

スターリン表面に乘り出す

開戰後四週間、赤軍が賴みの綱と思つたスターリン線も、ミンスク＝モスクワ街道のオルシャ、ヴィテブスクの線に於て獨軍の突破する所となり、モスクワの西三百キロのスモレンスクも、七月十六日確實に獨逸軍によつて占領された。この危急存亡の秋に當り、曩にコミンテルン黨書記

長の儘で人民委員會議長に乘出したソ聯の獨裁者スターリンは、更に國防委員、即ち國防相の重職をも買つて出て國防委員會議長の兼職と共に一人四役の大童である。斯くの如くソ聯の國防最高機關はスターリン首相兼國防相の一身に集まり、名實共に軍、政兩面を總攬し、戰時體制を强化することとなつた。ヴォロシーロフ、ティモシェンコ、ブジョンヌイ三元帥は、いづれも集團軍總司令官として前線に出動中であるため、クレムリンに於てスターリンを輔佐して軍政實際の衝に當るものは、シャポーシニコフ元帥並にザポロージェツ政治委員の兩國防次官である。

ソ聯では督軍機關として、政治委員なるものが軍隊に常置されてゐた。これが戰時に於ける命令系統を複雜化して行動の敏活を欠き却つて弊害があると云ふので、ソ芬戰爭當時一時廢止されてゐたのを、今度の敗戰に鑑み、又もやこの制度を復活させたと云ふことである。斯かる督軍制度の再興は軍隊內黨規の紊亂と弛緩とを恐れての處置には相違ないが、こんなことで赤軍の頽勢を挽回することが出來るであらうか。思ひ半に過ぎるものがないでもない。

第三次近衞內閣の外交方針

第二次近衞內閣の突然の挂冠に驚かされた國民は、七月十八日近衞公によつて再組織された新內閣を沈默を以て迎へた。改組の理由としては、只現下の國際情勢に對應するため內閣の强化を

圖つた爲であると發表された。新外相豊田貞次郎提督は、新内閣の外交方針としては、松岡外交を踏襲する旨を聲明した。今や世界は英米ソと獨伊樞軸との二大陣營に分れて鎬を削つてゐる。この間に在つて我が國は、政治的にも軍事的にも、事實上キャスチング・ヴォートを握つた形である。一歩を謬れば、歐洲大戦は忽ち世界大戦となる可能性がある。この物情騒然たる超非常時局に對し、帝國外交を双肩に擔ふ新外相の責務は重且大なりと云はねばならぬ。筆者は誠心誠意、我が國家百年の大計の爲に豊田外相の健在を祈るものである。

日佛印共同防衛成立す

ド・ゴール政權竝にその尻押をなす英米勢力の佛印に對する窺覦竝に策動を排除する目的を以て、豫て現地及びヴィシーに於て折衝中のところ議熟し、遂に日佛共同防衛の申合せが成立して、七月廿六日次の政府發表となつたのである。

帝國政府は刻下の世界情勢に鑑み、帝國の企圖する大東亞共榮圏の確立を妨害する凡ゆる策動を斷乎排除する重大措置として、佛領印度支那に關する共同防衛につき佛國ヴィシー政府との間に先般來話し合ひを進めつつあつたが、今回右に關し兩國間に意見の一致を見るに至つたので、七月二十六日正午左の如き帝國政府の聲明を發表した。

『近時帝國と佛領印度支那との關係は、昨年八月松岡、アンリー協定を始め屢次の日佛協定により、急速

に緊密の度を加へ來れるところ、今般更に佛領印度支那に關する共同防衛につき友好的話合により、日佛兩國政府間に完全に意見の一致を見たり。

帝國は日佛間に現存する諸取極、就中佛領印度支那の領土保存竝に主權の尊重に關する嚴肅なる約束により生ずる帝國の責務は飽くまで之を嚴守すると共に、今後益々日佛友好關係の增進に努め、以て兩國共榮の實を擧げんことを期す』

この聲明が佛印は勿論、我權益下の南支、中支、北支、蒙疆、滿洲其他樞軸關係諸國より多大の好感を以て迎へられたことは勿論であるが、亞米利加、英國　重慶政權及び蘭印に向つて強き衝動を與へたことも亦爭ひ難き事實である。これ等ＡＢＣＤグループのこれに對抗して執つた手段については、次節に叙べることとする。

越えて廿九日午前十一時左記の日佛間議定書が、ヴィシーに於て、加藤駐佛大使とダルラン佛副主席兼外相との間に正式に調印された。

佛領印度支那の共同防衛に關する日本國佛蘭西國間議定書

大日本國政府及佛蘭西國政府は現下の國際情勢を考慮しその結果佛領印度支那の安全が脅威せらるる場合に於ては、日本國が東亞に於ける一般的靜謐及自國の安全が危險に曝されたりと爲す理由あるを認め、此の機會に一方日本國に依りて爲されたる東亞に於ける佛蘭西國の權利及利益特に佛領印度支那の領土保全及印度

支那聯邦の全部に對する佛蘭西國の主權を尊重する旨の約束を、他方佛蘭西國に依りて爲されたる日本國に對し直接又は間接に對抗するが如き性質の政治上、經濟上又は軍事上の協力を豫見する何等の協定又は諒解をも印度支那に關し第三國と締結せざる旨の約束を新にし左の諸規定を協定せり

一、兩國政府は佛領印度支那の共同防衛の爲軍事上協力を爲すことを約す

二、前記協力の爲に執るべき措置は特別取極の目的たるべし

三、前記諸規定は其の採用の動機と爲りたる情勢の存續する限りに於てのみ效力を有すべし

右證據として下名は各本國政府より正當の委任を受け本日より實施せらるる本議定書に署名調印す

昭和十六年七月二十九日卽ち千九百四十一年七月二十九日「ヴイシー」に於て日本文及佛蘭西文を以て本書二通を作成す

加藤外松

ダルラン

尙我が國に於ては前記議定書の規定に基き、佛國政府と協議を重ねたる末、若干兵力を佛印へ增派することとなり、南部佛印增派陸軍最高指揮官飯田祥二郎中將指揮の下に、我が陸軍の精鋭は七月二十九日以來步武堂々西貢竝に同地附近へ陸續上陸中である旨、卅一日大本營より發表があつた。この上陸部隊の一部はやがてカムボジヤに進駐した。また新見海軍中將麾下の艦隊は運送船隊護送の任務を了つてカムラン灣に入港し、佛國海軍と交驩した。斯く日佛印共同防衛が具

現しては、英米側の蠢動は閉塞する他はない。カムラン灣は日露戰役當時ロゼストウエンスキーの艦隊が假泊した所で、南進途上絶好の基地である。

日佛印共同防衛に對する英米側の反對工作

前記日・佛印共同防衛に關する帝國政府の聲明は、七月廿六日正午東京に於て發表されたが、ローズヴェルト大統領は、廿五日夜日本及び支那（南京政府）の在米資金凍結令を布告し、廿六日より効力を發生させることとした。特に支那を含めたのは重慶政權の希望によるとのことである。

右に關するホワイトハウスからの聲明によれば「今回の凍結令は、日本人權益の關係する金融的取引、輸出入貿易取引の全部を米國政府の統制下に置き、右法令の違反に對しては刑罰を課するものである。」而て今回の在米日本資産の凍結は、本年六月十四日の在米獨伊資金凍結に關する大統領令と同樣に、先般の無制限國家非常時宣言に基くもので、金融上の統制のみならず、輸出入貿易取引の全部に對しても凍結令を適用して、事實上日米間の商業を不可能ならしめた點に注意する必要がある。またこの凍結令は直ちにフィリッピンにも適用せられることとなつた。

英國に於ても同じく在英日本資金の凍結を行ふこととなり、二十六日早朝左の如く發表した。

『英國政府は戰時財政統制令に基き、正貨及び證券より成る在英日本資金に關する取引は、七月廿六日以後英國大藏省の許可なき限り之を廢止する旨の大藏省令を英國諸銀行に通達した。』

それのみならずクレーギー駐日英國大使は、二十六日午後二時半、外相官邸に豐田外相を訪問、本國政府の訓令に基き

一、日英通商航海條約

一、日印通商關係に關する條約

一、日緬通商關係に關する條約

の三條約を廢棄する旨を通告して來た。表面の理由は、これら條約の目的を最早滿し得ないものと認めたと云ふのであるが、米國と同一歩調を取つて帝國の東亞共榮圏と東亞新秩序建設の理想に反抗の姿勢を示したものである。條約の規定によれば、日英通商航海條約は廢棄後一ヶ年、日印、日緬條約は同じく六ヶ月間有効の筈であるが、資金凍結令の結果として商取引は全然不可能となると解釋すべきであらう。

政治的の斷交は大公使の引揚げで即時開戰の一歩前まで來るが、經濟上の斷交には幾多の段階がある。日米間の關係でも先づ屑鐵の輸出禁止が始まりで、特定物資の輸出許可制から今度の資金凍結令まで進展して來たので、この先まだ生絲の輸入禁止とか石油の輸出禁止とか、我が國を

いやがらせる手段が最後の經濟斷交までに幾らもある。彼等英米は我が皇軍の佛印增駐に對する報復手段として、條約の廢棄と資金凍結とを實施して、我が國の出方を窺つてゐるのである。我が方が實力に訴へる氣がないと見くびつてゐる傲慢な態度は癪に障つてならぬ。

英米の鼻息を窺つて國策を左右にする蘭印に於ても、七月廿八日、昨年十二月我が正金銀行とジャヴァ銀行との間に締結された日蘭印圓建爲替協定を停止する旨を通告して來た。また蘭印政廳では在蘭印日本資產の凍結、日本よりの輸入制限と、日本、滿洲國、支那、佛印向け輸出制限を斷行する旨二十八日朝發表した。日本向石油輸出禁止云々のニューヨーク電報は、日本の神經を餘計に刺戟すると云ふ懸念から、蘭印政府によつて取消されたが、事實問題として弗は使へずギルダーはなし、何としても石油が買へぬので、實際上禁輸と同じである。

新西蘭も亦七月廿七日の公文を以て、現下の事態に鑑み、一九二八年七月廿四日附の日本國新西蘭間の通商關稅及び航海に關する暫定取極による最惠國待遇を、三ヶ月の猶豫期間附で廢棄する旨を通告して來た。濠洲、加奈陀も英本國の措置に追隨、南亞聯邦も二十八日發令二十六日に遡つて實施、ビルマ政廳も八月一日附で日本との通商停止を發表した。

以上の英米その他の諸國による經濟壓迫に對し、帝國政府が七月廿八日外國人關係取引取締規則を公布、卽日實施して、日本在留の前記諸國人の金融及び營業を取締ることとしたのは、當然

過る程の當然である。南京政府及び滿洲國政府もそれぞれ法令を發して、帝國政府と歩調を共にした。

それにつけても我等が憤慨に堪へざるものは、ローズヴェルト大統領とその周圍の我が日本に對する錯覺であり、それから來る所の侮日態度である。天然の資源に乏しく、財政窮乏、四年越しの支那事變に疲勞困憊してゐる日本には、列底反噬の力なしと云ふのが彼等の侮日觀である。日本側がひたすら和平を祈り、眞意の諒解を求むれば求むるだけ、却つて日本を見くびり、飽くまで高飛車に乘しかかつて來るのである。獨逸に對してはこれでもかこれでもかと手を變へ品を更へて嫌がらせを遣ることは遣るものの、どこかにまだ危惧の念に驅られて參戰を敢てなし得ないに拘らず、我が日本に對しては、我が國力を甘く見て馬鹿にしきつてゐるのである。敢て海軍力を動かす迄もない。經濟的に封鎖すれば日本は忽ち參つてしまうと、彼等は信じ切つてゐるやうである。ローズヴェルト一派、米海軍當局、否歐洲非參戰論の急先鋒リンディまでにも、斯かる錯覺を起させた歴代朝野の政治家の罪は極めて重大である。

米國が日本に向つて行つた經濟攻勢の第一歩は、昭和十四年七月廿六日の日米通商航海條約廢棄の通告であつた。歐洲動亂の勃發と共に英國は、獨伊に對して全面的の經濟封鎖を行ひ、日本に對しても重要物資の輸出を禁じた。米國は之に追隨して次から次へと對日經濟封鎖の手を打つ

て來た。即ち昭和十五年七月二日、同廿六日、同年九月十二日附の大統領令を以て飛行機及び附屬品、光學機械、工作機械、石油、鉛、屑鐵、特定生産設備竝に其設計圖等に對し輸出許可制を施行し、十五年八月一日以降は高オクタン價を有する石油燃料、即ち飛行機用ガソリンの輸出を禁止した。つづいて九月廿六日の大統領令により、同年十月十六日以後西半球及び英國を除く國國に對し、屑鐵の輸出を禁止した。更に本年二月三日以後銅、眞鍮、青銅、亞鉛、ニツケル、炭酸加里、同四日からは精油機械、ラヂウム鑛石、ウラニウム鑛石、牛皮などが輸出許可制となり同五日には輸出許可を要する鐵鋼製品のリストを再吟味して、多數の品目の輸出を禁止した。ガソリン運搬用のドラム鑵の如きもその一つである。八月一日には同じく大統領令を以て發動機用ガソリン及び飛行機用潤滑油の日本向輸出を禁止した。

日本が軍需資材として亞米利加から求めるものは屑鐵、石油、銅、ニツケル（加奈陀）、工作機械等である。これが皆禁輸品又は管理品である。甚しいのに至つてはメキシコへ手を廻はして、同國から日本への水銀の輸出を差止めた。彼等は今度發令の凍結令に飽き足らず、惡辣にも南米諸國と日本との貿易をも邪魔せんと目下盛に策動してゐるのである。之を要するに現下の情勢に於ては、日本と東亞を除く第三國との貿易は全滅するものと覺悟する他はない。我々日本人が斯かる惡意の經濟封鎖をいつ迄忍へ得るかは疑問である。窮鼠却つて猫を嚙むと云ふ諺をロー

ズヴェルト大統領は須らく一考すべきである。

佛國に對する米國の憤慨

日本陸海軍の佛印進駐により、海峽植民地及びビルマ方面からの示威的壓迫に對し、安堵の胸を撫で下したのは泰國である。今や我が飛行部隊及び機甲部隊の精鋭は、命令一下即日盤谷の守備に着いて大東亞共榮圏の擁護に當ることが出來る。四萬や五萬の印度兵や馬來兵は物の數でもない。重慶軍のビルマ侵入に戰いた泰國は、我が軍の佛印進駐によつて形勢逆轉、今や戰略的にシンガポールを壓する形勢となつた。

アイスランドを占領し、佛國の委任統治領シリヤに攻込んだ英米には、我が國の佛印增兵に對し文句の言へた義理ではない。皇軍の佛印進駐が何等領土的野心に出でずして、全く東亞の安寧と秩序を維持する爲に行はれたことは申す迄もないが、この皇軍の威武顯揚に對し、全く手も足も出ぬ英米側の鬱憤は想像するに難くない。江戸の仇を長崎でと、彼等が經濟斷交一歩前の報復手段を以て我が國に挑戰して來たのもその爲である。併し憎いのは日本許りではない。相棒の佛蘭西も怪しからぬと、イーデン英外相に次いでウェルズ米國務次官も、八月二日激烈な句調を以て惡罵を佛蘭西に浴びせ掛けた。

『ヴィシーの佛蘭西政府は、獨佛休戰協定に基く責務以外には樞軸國側と協力せず、また第三國の侵害に對して佛蘭西政府統治下の領土を防衛する旨を繰返して米國政府に確約した。佛印共同防衛協定は佛蘭西の重要な一部分を、實質的に日本へ引渡すものである。この取極は佛印の主權が、第三國群によつて脅かされつつあるが故に、日本の援助が必要であると云ふ理由で是認が企てられてゐるが、米國政府はこの說明に承服することは出來ない。共同防衛の口實の下に、野心ある國家に對して軍用基地を引渡すことは、米國の安否に重大影響を及ぼす情勢を展開するものである。

ヴィシーの佛蘭西政府は、佛蘭西領土の主權に對する侵害に抵抗する決意を繰返して闡明した。然るに獨伊兩軍がシリアに於て英軍に對する作戰遂行の爲に、ある種の便宜を獲得した際には之に抵抗しなかつた。しかも英軍がシリヤに於て防禦作戰を開始するや、佛蘭西政府は之に抵抗した。

これ等の事情に鑑み米國政府は、ヴィシーの佛蘭西政府が、果して本國及び海外の領土を保全せんとする既定の方針を維持する意向であるか否かを疑はざるを得ない。米國はヴィシーの佛蘭西政府及び佛領の現地佛蘭西官憲との關係に於て、これ等の官憲が、武力征服もしくは恫喝によつて權勢を擴大せんとする國々の制覇と支配から、佛蘭西の領土を保護する際に示す判然たる效果の如何によつて、態度を決定するであらう。』

これはまた何たる堅白異同の辯であらう。佛印に於ける佛蘭西領土を防衛する必要があればこそ、日本の援助を請ふたのではないか。居りもせぬ獨逸兵の存在を口實にシリヤに侵入した英國の侵略行爲は、この聰明な米國政治家によつて、單なる防衛作戰として不問に附せられてゐ

る。この調子では米國は、程なくダカール港を占領するかも知れない。實に驚くべき詭辯と言はねばならぬ。

ウェルズ國務次官の非難に對し、ヴィシー政府は七月四日次の聲明を發して之を反駁した。

一、シリヤに於て佛蘭西は最後通牒もなければ何の豫告をも受けずして、英國の公然たる侵略に對して對抗しなければならなかつた。我が陸軍は增援部隊も物資の供給をも期待出來なかつた。而も我が軍隊は事實上三十一日間の抵抗をよく續けたのである。

一、佛印に於て佛蘭西は七月三十日東亞に於ける日本の優越的地位を承認し、それにもとづいて日本に軍事施設を提供したのである。當時米國は何等の行動にも出なかつた。

一、今や日本は敵軍（重慶軍を意味す）の集中により佛印は脅威されてゐると我々に通告した。佛蘭西は今佛印に增援部隊を派遣する餘力を持たぬ。よつて加藤大使の協定申入れに同意して、日本軍隊による佛印防衛措置を承認したのである。かかる事態は他の何處の佛蘭西領土にも存在せず、殊に阿弗利加の佛蘭西植民地にはかかる事態は絕對に存しない。

と、セネガルの要港ダカールに對し獨逸が共同防衛をヴィシー政府へ申込んだと云ふデマを併せて粉碎した。

ソ波援助協定の成立

七月三十日ロンドン來電によれば、同日ロンドンに於て亡命波蘭政府首相シコルスキーと、駐英ソ聯大使マイスキーとの間に、ソ波援助協定が締結せられたが、その內容は次の通りである。

一、ソ聯政府は一九三九年獨ソ間に締結された國境劃定條約はもはや無效となつたものと認める。

一、波蘭はソ聯に對抗する如き如何なる第三國とも協定を締結せざることを約す。

一、ソ聯、波蘭兩國間の外交關係は復活し、相互に大使を交換する。

一、兩國政府はソ聯領土內に於て波蘭軍隊の編成に承認を與へる。右波蘭軍隊は、波蘭政府によつて任命された司令官に從ふが、作戰的にはソ聯軍の最高司令官の指揮下に置かれるものとす。

一、兩國政府の外交關係復活と共に、ソ聯領內に拘束されてゐる波蘭市民の總てに對し特赦を與へる。

一、本協定は批准を俟たず即時發効するものとす。

以上の協定に基きソ聯は、豫て國內に收容中の波蘭俘虜二十萬人を釋放し、新波蘭軍を編成して之を對獨戰に使用する計畫らしい。然るに前記ソ波兩國協定調印のインクがまだ乾かぬ內に、兩國竝に仲介者英國の間に妙に氣まづい空氣が感じられて來た。波蘭側からは「第三國との如何

なる協定によつてもソ聯に敵對する義務は負はない」と云ふ聲明が發せられた。イーデン外相の最近の聲明では、「英波兩國は一九三九年八月二十五日附の英波相互援助條約に於て、ソ波の關係に觸れるやうな何等の義務を負うてゐない。また英國政府は波蘭政府に對しソ聯との國境を保障してゐない」と云ふのである。波蘭側では、萬一の場合には英軍がソ波國境を占領して、ソ聯に依る協定の履行を保障して呉れるやうにと英國に向つて要請したが、英國側ではウンと言はない。それと云ふのも英國はソ聯との軍事同盟で、若しも兩國が共同の勝利を得た場合には、大陸に於ける支配的軍事勢力として、ソ聯に對して東歐及び中歐の新秩序につき廣汎な自由裁量を容認する旨を、豫てスターリンに言明した手前、ソ聯に盾突くやうな約束を波蘭に與へることが出來ないのである。消息通の間では、亡命波蘭政府の外相ツァレスキーが突然辭任したのはこれと關聯あるものと見てゐる。孰れにしてもこの協定は、宣傳的効果以外には英國側でもソ聯側でも餘り重きを置いて居らぬやうである。

この協定に刺戟されたかどうか知らぬが、獨逸政府は八月一日附を以て舊波蘭領ガリシヤ地方のレムベルグ、タルノポール、スタニスラウ三縣を、フランク博士治下の總督府領に編入することを發令した。

右の外獨逸は戰時中の暫定處置として、リトアニヤ全部及びデュナ河以西のラトヴイヤを合せ

て一行政區域を組織し、之をオストランドと命名した。その行政長官には元シュレースウィヒ・ホルスタイン知事ハインリヒ・ローゼが任命された。またラトヴイヤ總監にはオットー・ドレックスラー（元リュベック市長）、リトアニヤ總監にはテオドール・フォン・レネラがなつた。

米ソ通商協定の更改

米國は七月四日ソ聯との通商條約の更新と、ウェルズ國務次官、ウマンスキー駐米ソ聯大使との書簡交換により、凡ゆる實際的援助をソ聯に約することによつて、實質の上から相互援助條約に等しい政治的野合を敢てした。ワシントン外交界の一部では、今回の米ソ協定は全面的世界戰爭が存在すると云ふ認識の下に結ばれたのであつて、その歴史的意義は英・米・ソ・蔣同盟の結成に等しい重大性を帶びてゐると唱へてゐる。米ソ協定が示す所の特異性は、大要次の如きものである。

一、對ソ武器援助は米國々防上必要なりと宣言したこと、
一、ナチス粉碎の爲には米國は共產主義とのイデオロギー的鬪爭を一時放棄すると明示したこと、
一、ソ聯に對する武器軍需品供給に當つては英國、重慶政府と同樣の優先權を與へること、
一、ソ聯の國防强化に必要な器材輸出許可證を無制限に出すことを約束してゐること、

一、米國の船舶を提供して對ソ援助資材を輸送する用意を示してゐること、

一、從來の通商條約は、ソ聯が最惠國待遇の下に毎年三千萬ドル乃至四千萬ドルの米國品を輸入することを規定したが、新通商條約は無制限の輸入を許してゐること、

等である。

米國は當分の間ソ聯に對して武器貸與法を適用せず、在米のソ聯資金で支拂はせる筈であるがこれは恐らく時の問題である。スターリン首相と會見して目下歸任の途に在る、ローズヴェルト大統領の特使ホプキンズ武器貸與長官の歸米後正式にこの問題を決定する筈である。

ソ聯が差當り米國に要求するものは新鋭の爆擊機、棉花、皮革類、ガソリン、赤軍兵士被服材料等である。この內大型爆擊機は、米國から英國經由北氷洋を迂廻して空輸が出來ないこともないが、その他の物資や今後必然的に供給を要する武器は浦鹽を通ずるより外に路はないので、太平洋關係は今後益々複雜微妙化する譯である。

獨ソ開戰以來六週間、赤軍必死の抵抗にも拘らず、獨逸軍は中央に於て既に國境より八百キロの地點まで進出して來た。これは東京から尾の道までの距離に等しい。獨逸で言へば東プロシャのキョニヒスベルグからライン河畔のキョルンまで進軍したことになる。モスクワまで剩す所僅に二百キロ弱、恰度東京から靜岡迄と匹敵する。南部戰線では、ウクライナの首都キエフの南方

で一大包圍戰が展開されてゐる。北方ではレニングラードも命旦夕に逼ると云つてよい。如何なる最負目でも戰爭の山はもう見えたと言はねばなるまい。英米側がソ聯の參戰で狂喜したのも、怎うやら糠喜びに成りさうである。米國主戰派に對しては洵に氣の毒に堪えない。それだけ彼等はソ聯援助に躍起とならざるを得ない。而もこの援ソ物資が續々津輕海峽を大手を振つて通過することに對して我國はいつまでも拱手傍觀するであらうか。

アングロサクソンの商業意識はギーヴ・エンド・テーク Give and take である。人に與へる代りに自分も取るのである。惡魔の樣に憎んだボルシェヴィズムと和睦して、その血の着いた手を握つて打振るヤンキーは、前記の給付に對して何等の報償をも要求しない樣な君子仁であらうか。シベリヤに空軍の基地、カムチャツカに海軍の基地を要求すると云ふ風說は、單なるデマに過ぎないであらうか。太平洋の波濤が段々と高鳴りして來た今日此頃、ソ聯と米國とが特に熟熟になり初めたと云ふ報道は、痛く我々の關心を唆るものがあるのである。

泰國の向背に關する英國の焦慮

泰國の外國貿易は現在に於ては、遺憾ながらポンド貨の支配下に在ることを認めねばならぬ。從つて英國による我國の資金凍結の結果、自然日泰間の貿易決濟が不能となるので、今回帝國政

府竝に泰國政府斡旋の下に、横濱正金銀行と泰國銀行團との間に一千萬バーツ（邦貨換算約一千六百萬圓）のクレディット協定が成立した旨、八月一日大藏省から發表になつた。

また泰國政府は今回滿洲國政府を承認することに決し、八月一日附を以て此旨を滿洲國政府に正式通告すると同時に、その趣を我方へも通達して來た。今より九年前滿洲問題に關する認識の不足から國際聯盟總會が、五十三對一票を以て我が帝國の立場を否認したとき、泰國は敢然としてその貴重なる一票の棄權により我が帝國を支援した。その東亞共榮親善の理想が、今回の滿洲國政府公式承認の一擧により結實したのである。平時と違ひ今春來英國は泰國境に增兵し、重慶政權下の兵力將に邊疆を壓せんとする懸念あるにも拘らず、泰國が日滿兩國に對し友邦としての態度を臆する所なく表明した勇氣は、我等の大いに多とする所である。

然しながら泰國の斯かる態度が、佛印共同防衛協定の實行と相俟つて痛く英國の神經を刺戟したことも亦否定し難い事實である。それが果然八月六日下院に於けるイーデン外相の泰國及び我が國に對する警告的聲明となつたのである。卽ち——

泰國の獨立と領土保全を脅威するが如き如何なる行動も英國にとつて卽刻の關心事となるであらう。シンガポールの安全を脅すが如き行動に至つては猶更のことである。日本の新聞は英國が泰國に對して陰謀を企らんでゐると書き立ててゐるが、若し日本が何らかの手段に出るならば、日英間には最も重大な事態が發生す

るであらう。英國は一世紀以上に亘つて泰國と友好關係を續けて來た。英國の政策は何らの變更をうけるものではない。英國は重慶政權との間には公式にも、非公式にも何等同盟關係は結んでゐないが、もし日本がこれ以上進んで來るならば、英蔣關係は現在よりも更に緊密なものとならざるを得ない。

自分の方がアンザツク兵を動員し印度兵を增駐して、海峽植民地、マレー、ビルマ國境から泰國に强壓を加へて置きながら、我が精鋭部隊のカムボジャ進駐を見るや、風聲鶴淚に驚く腰拔武士のやうに、徒に聲を勵まして我が國に警告を發するのは笑止千萬である。彼等は自作の鬼面を見て驚いてゐるのである。

ジョン・ブルの焦慮はヤンキーとしても捨置けない。病氣保養から久し振にワシントンに歸つたハル國務長官は、記者團との會見で

イーデン外相の聲明には正式批評を差控へるが、日本の佛印に對してとつた行動につき、先日ウェルズ國務次官が聲明したことは泰にも適用出來る。米國は武力行使には反對で、日本が泰に對して如何なる行動をとつても、米國の安全に關し益々重大な關係を增す許りだ。

と英國に向つて助太刀の意を表した。

今更事新しく言ふ迄もなく、我が國が最後の決心を固めて泰國を後援すれば、假令數十萬の印度兵を狩集めても、重慶軍の加勢が來ても、鎧袖一觸、マレー半島は愚か、東洋のジブラルタル

を以て任ずるシンガポールすら、現在の英國陸海軍の力だけでは到底守りきれないことは火を睹るより明である。そこで怎うしても米國の軍事的加勢を慫慂する必要がある。この時ローズヴェルト大統領はポトマック號に搭乘して近海周遊の途に上り、チャーチル首相は三日以來姿を隱した。今次大戰の兩責任者が相會して談ずるものは何乎。吾人は多大の關心を以てその成行を注視せねばならぬ。

英國の泰國に對する威嚇は益々露骨になつて來た。八月十日の來電によれば『日本が泰に於て武力的策動をなすならば、英米は共同して其意圖を碎くであらう』と英國東亞軍司令官ポパム大將は演說した。またトーマス馬來總督は『マレーとビルマの武力は大々的增强を終つた』と聲明した。英國はまた破損修繕の爲米國へ廻漕する戰艦ウォースパイト（三萬二千噸）を、態々泰灣に游弋させて示威運動に役立てた。一面かく泰國に對して威壓を加へながら、他面甘言を以て泰國を誘ひ、若し英國の希望する軍用基地を提供すれば、ビルマ及びマレーに於ける過去の失地返還について考慮する旨を申込んだと云ふ噂である。

これに對して泰國政府は再び中立を聲明し、英軍の侵入に對しては斷乎抵抗する旨のステートメントを發表した。卽ち——

泰國は現在依然として凡ゆる國に對して友好政策を堅持してゐる。最近某國が軍事基地建設を要求したと

云ふ風説が行はれてゐるが、かかる要求は如何なる國からも提出されてはゐない。また外國に於ける軍隊の行動については本政府は少しも關心を持たぬ。泰國は孰れの側から軍事的侵略を受けやうとも、これを懼れるものではない。我々は若し中立維持の爲に止むなきに至らば、最後の血の一滴までも賭してこれと戰ふであらう。

泰國は今や完全に日英兩權域間の緩衝地帶と化した。いつまで英國側の壓迫に抗して嚴正中立の態度を嚴守し得るか。その惱み實に深刻である。

獨佛兩國の接近

休戰條約締結後の獨佛兩國の關係は、ヒットラー・ダルラン會見後餘程改善されたに相違ないが、ヴィシー政府部内にも種々の暗流があつて或る者は民權政治思想の傳統を一朝一夕に清算しきれず、他のものはド・ゴールの自由佛蘭西には共鳴せぬ迄も、獨逸との協力は蟲が好かぬと云つた具合に、今も猶融和を缺いて何かにつけごたごたするのである。此間に處してペタン老元帥を始めダルラン副首相等は、現下の佛蘭西にとつては戰勝の獨逸と渾然融和することによつて、歐洲新體制の建設に協力するより外に、佛蘭西更生の道はないと云ふ信念に立脚してパリ駐在のアベッツ大使を介して談判の結果、漸く或る重要問題に關する諒解が出來上つたと云ふことであ

る。その内容は發表されなかつたが、ペタン元帥は八月十二日ラジオを通じて、ヴィシー政府の立場を聲明して、國民の支持を要請した。その要點は大略左の通りである。

○外交關係　米國は佛蘭西の行動を誤つて判斷してゐる。米國人は歐洲再建への佛蘭西の努力を正しく理解して欲しい。古來歐洲は屢々戰火に見舞はれ、佛蘭西もその災害を蒙つたが、その原因は歐洲諸國關係の脆弱性にあり、佛蘭西は之を除かんとしてゐる。

獨伊との關係は滿足すべきものであるが、この暫定的な關係を鞏固なものに變化せしめることを希望する。これなくしては歐洲秩序の再建は不可能である。對樞軸協力政策の結實は獨逸の東歐に於ける仕事の爲に延引してゐるが、獨ソ戰については佛蘭西は斷乎として獨逸側に味方するものである。今や獨逸は歐洲文明の保全の爲に大戰鬪を行つてゐる。これは恐らく世界の地圖を變ぜしめるであらう。然し我々は可及的急速に休戰條約によつて設定された獨伊との暫定關係を安定させねばならぬ。

○內政關係　最近佛蘭西國內に不安が起りつつあるやうだが、これはド・ゴール派及び英國が佛國民に政府の權威を疑はしめんとする策動に基くものである。

ペタン首席は新憲法によつて與へられた權力を以て、敗戰責任者の處罰を公判を待たずして急速に行ふことを公約する。

斯くてペタン主席はダルラン副首相の權力を增大し、彼を國防相に任じて外相及び海相を兼ねしめ、外交と軍事を一手に收攬させて、獨佛協調に向つて力强い發足をさせた。この佛蘭西の態

度が米國政府の當事者を失望させたことは言ふ迄もない。

英ソの土耳古獨立援助

ソ聯の武運が傾くにつれて、土耳古に於ける親獨の傾向は益々勢を得て來た。目下金額一億トルコポンドの通商協定が商議されてゐる。ソ聯の敗北が一層決定的となれば、百尺竿頭一歩を進めて更に獨土間の政治的協商が結ばれる機運が醸成されやうとする矢先、英ソ兩國が請はれざるに土耳古の獨立を援助する旨の共同宣言を發したことは一種の喜劇である。その全文は次の通りである。

一、英國政府はここにモントルー協定に對する忠誠を確認し、英國政府がダーダネルス海峡に對し何等の侵略的意圖乃至要求を有せざることを言明す。

一、英國政府及びソ聯政府は、土耳古共和國の領土保全を嚴守すべく萬全の用意を整へてゐる。

一、戰爭回避に關する土耳古政府の要望は、英ソ兩國政府もこれを十分諒解してゐるのであるが、若し歐洲の一國から攻撃を受けた場合には、英ソ兩國政府は土耳古に對して全幅の援助を與へる用意がある。

道途の風聞によれば、獨土兩國間には最近新軍事協定に關する交渉が極秘裡に進捗中であり、獨逸は、土耳古が目下英ソ兩國の脅威下に在るイランと軍事同盟を締結し、事實上サダーバッド

條約を更生せしめ、イランの對英措置を强化することを條件として、第三國の攻擊に對し土耳古の領土保全を保障する防禦同盟を締結せんとしてゐたので、この情勢を察した英ソが、機先を制する積りで、事前の諒解もなく全く一方的に、厚かましくも押掛けにお膳を据えたもので、土耳古が喜んで箸を取上げるかどうか疑問である。

樞軸打倒の英米共同宣言

英國の敵は今日では獨伊二國だけではない。匈牙利、スロヴァキヤ、羅馬尼は既に、伊太利、芬蘭と共に反共十字軍に參加してゐる。また西班牙、瑞典、諸威でも義勇軍が組織され、昨日の敵國たる佛蘭西に於てさへ、義勇軍派遣の議が起つてゐる。最も新しく建國されたクロアチヤも亦、この聖戰に參加を希望してゐる。かくて全歐洲の力は翕然として獨逸の傘下に集まつたと云つてよい。

この時に當りローズヴェルト大統領とチャーチル首相とが、大西洋上の何處かで三日間會合して、當面の問題につき討議したと云ふことは、近年稀な史上の出來事である。商議の題目としては

一、英米の對日共同對策（援將問題）

二、ソ聯援助を如何に強化するか、
三、ヴィシー政府が完全に樞軸陣に加はつたことに對する英米の執るべき態度、
四、英米合作強化の方法、
五、獨逸がソ聯に完勝の場合ヒットラー總統は和平を提唱するであらう。その時の對策如何、

等が擧げられてゐる。亞米利加側からはウェルズ國務次官、スターク海軍作戰部長、マーシャル陸軍參謀總長、英國側からはパウンド海軍々令部長、ディル參謀總長等がこの會合に參列したと云ふから、大西、太平、兩洋に於ける作戰についての諸問題も檢討されたに相違ない。しかし對日、對佛等の案件については沈默が守られ、單に次の聲明が八月十四日ホワイトハウスから發表された。

ローズヴェルト大統領とチャーチル首相は、公海上で會談の結果、世界の文明の危機は、ナチス政府及びそれと聯携せるその他の政府が開始した軍事的世界征覇政策から發生したものであると思惟し、ナチス政治の崩壞後に於ける世界平和の目標に關し、左記八項目の英米共同宣言を發表することに意見の一致を見た。

英米共同宣言

一、英米兩國は領土その他について擴大を求めず。

二、英米兩國は各國國民の自由意志に反する領土的變改を齎すことを欲せず。

三、英米兩國は總ての國民がその統治下に生活すべき政府を選び、之を樹立する權利を尊重する。主權と自治を强制的に奪取せられた諸國民が、その主權と自治とを回復することは、兩國の希望する所である。

四、英米兩國は凡ゆる國が、國の大小竝に勝者たると敗者たるとを問はず、世界的の通商及び原料資源の享受を促進するやう努力するものである。

五、英米兩國は經濟戰線に於ける凡ゆる國家の十分な協力を招來し、あらゆる國家に勞働狀態の改善、經濟的發展及び社會の安寧を獲得することを希望する。

六、英米はナチの專制を最後的に破壞した後に於ては平和を完成し、凡ての國がその國境内に於て安全に生活する方法を確保せんことを希望するものである。

七、平和は總ての人類に、何らの妨害を受けることなく海洋の自由を確保するものでなければならぬ。

八、總ての國は武力の使用を放棄せねばならぬ。侵略國の軍備を撤廢しない限り、將來の平和を維持することは出來ない。かくの如き國々の軍備撤廢は最も重要である。

以上の共同宣言はローズヴェルト、チャーチル兩氏によつて署名されてゐる。英國に於ては首相代理として國璽尚書アットレーによつて米國よりも一足先に發表せられた。また『ローズヴェルト大統領及びチャーチル首相は、兩國軍最高首腦部をも交へて、侵略戰爭に抗爭中の諸國に對する武器供給の問題につき全面的檢討を遂げた』旨をも併せて發表した。

ウヰルソンの十四箇條を眞似たものとして、これはまた何と云ふ貧弱な八ケ條であることよ。第一「領土の擴張を求めず」と云ふ事から可笑しい。全世界の土地の四分の一を領有する英國、また九百三十七萬平方キロの領土と、一平方キロにつき僅十七人と云ふ稀薄な人口を有する米國が、領土の擴張を希はずと云ふことは、どこ迄も現狀維持で行くと云ふこと以外の何ものでもない。關係國民の意志を蹂躙して散々歐洲の地圖を塗變へたウヰルソンの後繼者が、「領土的變更を行はざること」など空念佛を唱へても、誰も信ずるものはあるまい。戰敗國の政府及び主權の回復を約束したとて、世話の燒ける外人部隊の編成位が關の山である。ユーゴースラヴィヤ、チェッコスロバキヤ及び波蘭の三國は、孰れもウヰルソン製の畸形國であつた。無理に繼接した寄木細工のやうな民族國家群に、分解作用の起つたのは止むを得ない。今度の大戰は既に罅の入つてゐたものに衝動を與へて破つたに過ぎない。歐洲の歷史にも事情にも暗い亞米利加人が無用の嘴を容れるよりも、苦勞人のヒットラー總統に任せて置いた方が、結句健全なものが出來上ると思ふ。世界通商の自由と世界資源の享受とを國の大小を問はず各國に對して認めると宣言する夫子自らが、他國の資金を凍結させて通商及び航海を不可能ならしめて置きながら、自分は知らぬ顏の半平衞ですましこみ、地球上の資源と云ふ資源は悉く之を壟斷して、恥かしいとも思つてゐないらしい。野狐禪と言はうか、蟲が善過ぎると云はうか、全く憫れて物が云へぬ。

米國が世界大戰當時までの立ち場に立戻つて「海洋の自由」を强調したのは善哉と褒めて置く。しかし一體誰が海洋を不自由なものにしたのか。これは樞軸國側に向つて言ふべき筋合ではない。殊に我國の船舶に對し差別的にパナマ運河を閉鎖した人が、「海洋の自由」を說くのだから口は寔に重寶なものである。

戰敗國のみの軍備を撤廢して、世界永遠の平和を招來したと自惚れたのが、ヴェルサイユの賢人達であつた。戰敗國獨逸を埒外に置いて媾和條件を捏ね上げたことが、ヴェルサイユ條約の誤りであつた。ローズヴェルトもチャーチルもこの痛い教訓に懲りもせず、又もや過去の過を繰返さうとしてゐる。それは英米が最後の勝利を得て、パックス・アングロサクソニカ(英米の平和)が來るものとの假定の下に考へたことと思ふが、案に相違して樞軸側が勝つて全歐羅巴の平和が來たときには、第八條は言過ぎたと後悔するであらう。まだ戰勝の見込すら立たぬのに「ナチの專制を最後的に破壞した後に」と、捕らぬ狸の皮算用は、宣傳だけとしても餘り效果的ではない。要するに大西洋上に軍艦を浮べて、英米兩巨頭の會見と洒落た芝居の大道具は立派だが、宣言の內容極めて空疎、泰山鳴動して鼠一匹の感が深い。『一個月以內に米國が參戰せねば、英國は媾和につき考慮を拂はねばならぬ』とビーヴーブルック軍需相が言つたとやら、言はないとやら。今英國に手を揚げられたら、何の顏容(かんばせ)あつて米國納稅者に見えんやと、チャーチル首相に

遙々呼出しを掛けて、どうせいつか參戰はする氣だが、まだ人民がその氣にならぬので暫らく待つて呉れと慰撫したのが、この共同宣言と思へばよい。それにしても戰爭目的を世界民主主義擁護のためと言はず、ナチズム專制撲滅の爲と定義した所に、ボルシェヴィズムに對する苦しい遠慮が見える。英國の戰時體制は總てナチの復習である。ローズヴェルト大統領の遺口も、獨逸の指導者原理と甲乙がないではないか。ナチズムの何處が氣に入らぬのか、說明が聞きたい。

ローズヴェルト、チャーチル會談の最初の直接的效果として、英米ソ三國間のモスクワ會談が提唱せられた。スターリン首相宛てに送られた共同メッセージの全文は左の通りである。

モスクワより歸任したホプキンス武器貸與計畫長官の報告を檢討した結果、獨逸の攻擊に對し賞讃に値する防戰を繼續して居られる貴國に對し、如何にすれば我々兩國が、最善の方法を以て援助を與へ得るかにつき協議する機會を持つた現在、我々は貴下の最も必要とする資材を最大極限まで供給せんとして協力してゐる。既に多數の船舶は滿載して出航したのであるが、最も近い將來更により多くの船舶が之に續くこととなつてゐる。我等は今や長期に亘る政策考究に心を向けねばならぬ。我々が完全なる勝利を得るまでには、尙長く且困難な道が横はつてゐる。而もこの完全なる勝利なくしては、我々の努力も犧牲も空しきものに終るであらう。戰爭は今や多くの戰線で行はれて居り、これが終結を告げる前には更に新しい戰線が展開するであらう。我々の有する資源は莫大なものであるとは言へ、自ら限度があるから、我々の共同努力を最大限度まで發揮する爲には、この資源をどこで、いつ最善の方法で使用出來るかの問題が起つて來る。……我々の

共同資源を如何に分配するかに關して急速なる決定に到達するため、我々はモスクワに會議を開催する準備を有することを提唱する。この會議には直接貴國と此等の問題を討議する爲に高官を代表者として派遣する意向である。……ヒツトラー主義の打破には、ソ聯の勇敢且不斷の抵抗が如何に重要であるかを、我々は十分理解してゐる。故に我々の共同資源の將來に於ける分配のため、計畫を樹てこれを急速且萬難を排して實施せねばならぬ。

前の八ケ條の宣言と言ひ、又この共同聲明と云ひ、我等と二人稱複數を用ゆるローズヴェルト大統領は、立派な交戰國元首の心構であるが、親の心子知らずで、米國の民衆はまだまだ參戰氣分に迄逆上してゐない。前回の世界大戰に當つては輿論が參戰を要望し、ウィルソンの政府は之に追隨したのである。然るに今次の大戰では、ローズヴェルト大統領とその周圍が參戰を希望して、何とかして人民を戰爭へ牽きづつて行かうと骨を折つて笛を吹いてゐるが、民衆が一向に踊らない。米國民意の動向を知る何よりのバロメーターは、去る十四日の米國下院の討議である。大統領選擧に勝利を得た民主黨は、下院に於て殆ど三分の二の優勢を占めてゐる。然るに兵役年限延長案の採決は、否とするもの二〇二に對して可とするもの二〇三、卽ち僅一票の差をつけて政府の顏を立てたのである。この投票は參戰に對する米國民の意志表示であり、英國民全體に非常な失望を與へた。兩巨頭の洋上會合は、この打擊を緩和するためと考へられぬこともない。

スチムソン陸軍長官が何と演說しても、亞米利加の州兵及び新徵募兵を海外に派遣することは、米國憲法が許さないのである。これの出來るのは唯從來の傭兵制度下の正規兵だけである。政府が海外遠征の冒險がしたければ、我が國の海軍陸戰隊に相當する海兵(マリン)を增徵する他に策がない。

英米兩巨頭洋上會談の第二の顯はれは、英國の對日禁輸斷行である。英商務省は八月十五日、樺太、朝鮮、關東州、臺灣、日本委任統治諸島、滿洲國を含む日本向け輸出を全面的に禁止した。但商務省の特別許可を受けたものはその限にあらず。なほ現在までの日本向け輸出許可は全部之を取消すと發令した。亞米利加も遠からず之に追隨するであらうが、現在では目下浦鹽に向つて航行中の飛行機用ガソリンを積んだ油槽船數隻の運命を、深甚なる注意を以て見守つてゐるやうである。彼等はこれを以て日本の眞意を探るテストケースとしてゐるらしい。日本がこの油槽船の通過を妨害しない場合には、日本與し易しと更に第二、第三の手を打つて來るものと想はねばならぬ。

英米申合せの第三の現はれは、米國の武器貸與額の增加と考へる。獨逸側の發表によれば、開戰以來本年七月末日迄の英船及び英國の走狗となつて就航中の敵性船舶の擊沈數は、實に一千二百八拾四萬五百五十噸である。この數字には機雷による損失は含まれて居らぬ。その後若干の新造船、買船、拿捕等による增加もあるが、これは損傷修繕の爲に繫船中の約二百萬噸と相殺され

る。開戰當時英國の保有噸數はロイドの統計によれば、一千七百九十萬噸であつた。之に傭船その他英國の計算と危險に於て運行する外國籍船八百萬噸を加へて、約二千六百萬噸が英國の使用する總噸數である。その內から前記の喪失噸數一千三百萬噸を減じ、更に政府徵用噸數三百萬噸を控除すれば、殘る所は一千萬噸であつて、英國民の生活を維持するに必要な船腹の最小限度に達した譯である。而も現在では、この最小限噸數を以て生活物資以外に石油、兵器其の他の軍需資材を運搬せねばならぬ破目に陷つてゐるのである。多少殘つてゐた食料のストックも最早や底を割つた。レンドリース法にしても、最早や飛行機とか戰車とかに限つて居られぬ。英國民は勝つよりも先づ生きねばならぬ。英國は食料を要求する。獨逸の擊沈噸數の減少は、敵側防禦術の强化よりも、寧ろ狩場に於ける獲物の激減を物語るものである。英國の臺所に日々缺乏の度が加はつて來つつあることは、最早隱しきれぬ事實と成つて來たのである。

私は既に餘りに多くの頁をこの問題に費した。しかしまだ少し書かねばならぬ。

マドリッド發の電報は、ローズヴェルト、チャーチル會見に於て、英米協商に關する議定書が調印され、十四日の發表は單にその最後の一箇條に過ぎないと報じてゐる。其の眞僞は保證の限りでないが、該議定書の項目は次の如きものといはれてゐる。

一、對英援助方法竝にその性質の定義。

二、米國は武器貸與法に基き更に數十億弗に上る軍需品を英國に供給する。
三、對日共同經濟軍事策。
四、歐羅巴に於ける英米兩國の樞軸國家群に對する方策に關する葡萄牙の役割。
（註）葡萄牙を英米陣營に抱込み、アゾーレス群島を占據し、遠征軍を無抵抗裡に歐洲大陸の一角へ上陸させる計畫。
五、對ソ援助方策。
六、對佛方策。
七、戰後の世界秩序建設に關する八箇條の方式。

右の報道が果して眞ならば、大統領は上院外交委員會の諒解なしに協約を結んだ譯で、ウィルソンの二の舞とならぬまでも、或は事面倒となるかも知れぬ。

八ヶ條の共同宣言は、英國に於てもどうも評判が餘り馨しくないやうである。戰後に於ける領土の不改變を宣言した點が最も不評判のやうで、某亡命國首相は『非常にガッカリした』と云つたとか。『戰爭もしないのに米國に平和目的があるのはおかしい』と皮肉つたのは、正に頂門の一針である。

これに增して米國で評判の惡いのは、ソ聯に對する全幅的援助聲明の共同メッセージである。

米國新教會聯盟は全國十五萬の教役者に檄を飛ばし、『キリスト教を迫害し、宗教を認めず、私有財産を否認し、プロレタリヤ獨裁の下に世界の赤化を圖るモスクワを助けるのは、米國共産黨を助長し、米國を危くするものである』と反對の氣焔を擧げた。『爾の友を示せ、然らば我、爾の何者であるかを言はん』と云ふ拉丁の格言がある。溺れんとする者は藁をも攫む。ローズベルトもチャーチルも飛んだ道連をつくつたものである。

其の後英ソ兩國間に通商協定が調印されて、英國はソ聯に向つて一千萬ポンドのクレディットを供與することとなつた。ソ聯の英國へ供給するものは木材、亞麻、大麻、マンガン等であり、ソ聯が英國から供給を仰ぐものは、錫、ゴム、ジュート（麻袋）綿花、シェラック等である。この他、米國武器貸與局長官ホプキンスが、曩にモスクワに於て協議した武器及び機材の大量供給に關しては、ソ聯側から必要量を具申して目下ワシントンに於て相談中と思はれる。

然るに茲に聞捨にならぬのは、チャーチル英首相が八月二十四日夜全世界に向つてなしたラジオ放送である。彼氏が洋上會見に於てローズヴェルト大統領から卽時參戰の言質を贏得なかつたので、痛く英國民を失望させた申譯に何を言はうが御勝手であるが、我が聖戰の意義を歪曲し、我が興亞の國策を誹謗する許りか、我國に對し露骨に脅喝的言辭を投げた事は、假令政府當局が之を默殺しても、捨置き難い容赦すべからざる無禮と言はざるを得ない。

『殘酷極まる虐殺行爲が歐洲大陸で組織的に行はれてゐる。然し武力侵略により荒廢せしめられ、苦難を受けてゐるのは獨り歐洲大陸のみではない。過去五ヶ年の永きに亘つて日本は、新歐洲の顯現を氣どるヒットラー、ムッソリーニの流儀を模倣せんとして、支那を侵略し五億の住民を苦しめて來た。日本軍はこの尨大な土地を彷徨ひつつ何等の效果もない征旅を續けて、行く處に殺戮と廢墟と破壞とを殘し、而もこれを「支那事變」と稱してゐる。今や彼等は征覇の手を支那南方の海洋へまで伸ばし、慘めなヴィシー・佛蘭西から佛印をもぎ取つた。其の行動によつて日本は泰を脅威し、英濠間の連環たるシンガポールを脅威し、米國の保護下にあるフィリッピンに不安を與へてゐる。日本軍のこの動きを阻止しなければならぬことは明かである。

平和的解決を齎すためにはあらゆる努力がなされるであらう。米國は日本の合法的權益に對し、最大限の保障を與へんとする正しい友好的解決に到達せんとして、無限の忍耐を以て努力してゐる。我々はこの交渉が成功することを熱心に希望する。しかし余は若しこれ等の希望が實現しなかつた場合には、勿論我々は躊躇なく米國の側に立つであらうことを言明せねばならぬ。』

英國の政治家殊に外交當局者は、由來含蓄のある言葉を用ひて矯激な表現を避ける慣習に育つてゐる。腹に劍を藏しても口は蜜である。然るにチャーチル氏はこの嗜を破つて、赤裸々に日本を恫喝威嚇せんと試みた。これ以上南方へ手出しをすれば最早容赦をせぬ。米國と一緒に目に物見せるぞと嚇かしたのである。

支那事變の解決が我が歴代内閣の最大關心事であることは、チャーチル氏も先刻御承知の筈である。然るに最近援蔣工作を強化し、泰國々境に大兵を集中するのみか、所謂ＡＢＣＤ聯合を推し進め、蔣軍を佛印及び泰の國境に移駐せしめ、あまつさへ前佛印總督カトルー將軍を派遣して、佛印をド・ゴール政權の手中に收めんとする陰謀を畫したのは抑も誰であるか。自家の不正不義は棚へ上げて我國の行動を誹謗し、公然我が政府に對して恫喝的言辭を弄する如きは、盜人猛々しいと云ふ他はない。正に筆誅に値するものである。

英ソ兩國軍隊のイラン國侵入

七月の中葉ごろから英イ兩國政府の間に覺書の交換が頻繁に行はれ、形勢は非常に緊張して來た。表面の理由はイラン在留數千の獨逸人が引續き同國に滯在することは、國交に害があるから之を放逐せよと云ふのである。イラン政府は斯かる內政干涉を英國から受ける理由もなく在留獨逸人の數も、婦女子ともで八百人足らずで何等不穩の恐がないと、英の抗議を排斥した。ロンドン政府の狙ひ所は、ソ聯と協同してイランを制壓し、波斯灣からコーカサス及び裏海へ通ずる援ソルートの開拓にあるので、イラン政府の回答に滿足せず、再度の通牒を突附けた。イラン政府が任期滿了のお雇獨逸人を解雇歸國させることを承諾し、嚴正中立を守る旨を再聲明したるに拘

らず、敵本主義の英ソ兩國は何條これしきの讓歩に滿足すべき、八月二十五日兩國の軍隊は五ケ所より無法にもイラン國に武力侵入を開始したのである。即ちイラク駐屯の英兵はカニキン方面からバグダッド、テヘラン街道を東に向つて進擊し、印度兵を含む英軍部隊は波斯灣頭のバンダル・シャプールに上陸、イラン西南地區の油田地方に進擊を始め、また一隊はベルヂスタン方面からも侵入した。これ等は希臘戰敗軍の將ウェーヴェル將軍の指揮下に置かれてゐる。又ソ聯軍も同時にテヘランの東方裏海南岸のバンダル・シャーフ港とコーカサスのジュルファから越境し來り、前者は首府テヘランを志し、後者は西南國境の要衝タブリスを第一目標として進軍を開始した。侵入軍の勢力は、英ソ合せて高々十五萬程度であるが、之に對抗するイラン兵は、人口千五百萬の多數に似合はず正規軍僅に十萬内外である。而も裝備訓練共に甚だ不完全であるから、抵抗が出來るかどうか疑問である。

ロンドン來電によれば、英外務當局はイラン侵入の理由として、次の如き發表を行つた。

『イラン在留獨逸人の活動がイランに對してのみならず、印度及びイラクに對しても重大なる脅威であるため、英ソ兩國はイラン進駐を決行するに至つた。印度もイラン國の斯かる情勢に對して深甚なる關心を抱かざるを得ないのは明白である。イラクも亦イラン在留獨逸人が去る四月イラクの政權倒壞陰謀に參加した事實を知つてゐるので、これに對し重大關心を有つものである』云々。

またモロトフ・ソ聯外務人民委員は八月二十五日早朝モスクワ駐劄のイラン公使マハメッド・サエドに對し、ソ聯軍のイラン派遣に關し大要次の如き趣旨の覺書を手交した。

『ソ聯政府は一九一八年のイソ條約以來多數の條約を締結、イランの主權と領土保全を尊重して來た。殊に一九一八年の條約は、從來イラン國の主權に對し加へられて來た凡ゆる制限を撤廢し、帝政露西亞が同國内に有した鐵道、發電所、道路、郵便、電信電話に關する諸權利を返還し、イラン國の政治、經濟の發達に協力して來た。

更にイランの經濟的發展の爲にソ聯は、一九二四年の通商條約及び爾後の諸條約により、或はまた最近では、一九四〇年の通商條約によりイラン國の漁業、綿業等の組織に協力し、且又イラン國民に必需品を供給して來た。而して一九二一年のソ聯、イラン間の條約締結以來二十年間、幸にして該條約第六條を援用する機會に際會しなかつた。然るに最近獨逸人の支配下にある五十以上の企業は、バクー油田及びトルキスタン攻擊準備に狂奔し始めた。殊にイラクより獨逸の手先が續々イランへ侵入して以來、その活動著しく顯著となり、イラン北部に五十噸以上の爆發物を貯藏して、バクー油田爆發の軍事的準備をなして居り、就中一部分子の行動は、イラン國の主權を無視して目に餘るものがある。これが爲ソ聯は自國並にイラン國の利益のため、一九二一年の條約に基き屢々イラン政府の注意を喚起した。

極めて最近に於ては去る八月十六日英國と共同して、イラン在住の獨逸人の反ソ、反英的活動禁止及び同國人のイランよりの退去を要求した。然るにイラン政府が右要求を拒否した爲、獨逸人の活動は益々熾烈と

なつた。

ここに於てソ聯政府は軍隊をイラン領土に進め、この脅威を排除する必要に迫られた。然しこの軍隊派遣は、イラン國内に於ける獨逸の行動に對して向けられたものであつて、イラン國に對して向けられたものではない。從つて右目的貫徹次第、ソ聯軍は直ちにイランから撤退するであらう。』

前記一九二一年の友好條約第六條の援用は、英國外務省からの入れ智慧と云ふことであるが、氣の毒ながら少し的が外れてゐる。第六條の正文は

兩締約國は第三國側より武力干渉の形式を以てイラン國領土内に於て暴力政治を實現せんとする計畫、又はイラン領土をソ聯に抗敵する軍事行動の策源地となさんとする計畫の生じたる場合、これがためソ聯より通告をなしたる後、イランが右危險を防止するにつき力足らざること明白となりたるときは、ソ聯は自國の利益上必要なる軍事的措置を執るが爲にイラン領土内に自國の軍隊を派遣するの權利を有す。

と云ふのである。この條項はイランに於ける英露角逐時代の遺物であつて、今日の如くテヘラン前門の虎と後門の狼が提携した場合には、自然無用の規定である。これを高々八百人の獨逸人男女と少兒等が釀すであらう所の不穩に適用するのは、洵に滑稽と云はねばならぬ。

英國では或は慾張根性から、年産千二百萬噸のイラン油田の支配權を狙つての行動かも知れぬが、ソ聯本來の目的は浦鹽ルートが日本を刺戟する恐があるので、援ソ物資の輸送路をイラン經由に依らしめる目的が其の一である。一朝このルートが開設せらるる時は、早晩獨逸軍の襲擊を

蒙る危險あるコーカサス油田地方に對する、英援軍の通路とすることも目的の其の二である。

管見によれば獨逸軍のコーカサスへの進軍は、土耳古の向背如何により其の難易に非常の差がある。既にドニエプル以西を攻略した獨逸軍が、ウクライナ全土を席捲してドンバス地方に進出することは、單に時間の問題である。これと同時に海路コーカサスに上陸することも、恐らく獨逸參謀部の筋書にあると信ずる。裏海に面するバクー油田と黑海の積出港バツームを連ねるトランスコーカサス地方は、標高五六三〇米のエルブルス以下の高峰峻嶺を有するコーカサス山脈を北に仰ぎ、南には連山重疊せるアルメニヤの山嶽地方に接する細長い、比較的に平地の多い別天地である。北方から攻込むことも、大部隊の援軍を送る事も、冬季中は地理的に困難である。この際土耳古が獨逸側に立てば、獨土同盟軍にとつてこの石油の豊庫を陸路傳ひに占領することは比較的容易である。併し土耳古に斷然旗幟を鮮明にして樞軸側に立つだけの勇氣が出るであらうか。サダーバッド締約國の一員として、先にイラクを亡ぼされ、今またイランを占領されんとするに際し、土耳古たるものは、唇亡びて齒寒しの感に堪へざるものがないであらうか。フォン・パーペン大使はアンカラに於て盛に活動を開始したと云ふことである。土耳古はいつまで嚴正中立の態度を持續することが可能であるか。近き將來に於ける同國の動靜は、軍事外交上非常に興味ある場面になつたと言はねばならぬ。

英ソ兩軍のイラン進駐は、この觀點から見れば兵略上の良策である。その上近東軍の側面を護り、樞軸側勢力の印度侵入を防ぐ一石二鳥の妙手である。しかし單に援ソ物資輸送路として考へると、英國又は米國から喜望峰經由で波斯灣のバンダル・シャプール港までの距離が、既に一萬一千浬以上ある。このルートに依る軍需資材の輸送は、コーカサス軍の補給位には無論役立つであらうが、イラン南北縱貫鐵道の北端バンダル・シャーフから裏海を渡つてヴォルガの下流アストラハンまで海陸四千五百キロの長距離を運ぶものとして、敗殘ソ軍の再建に役立つ程の大した數量には到底なりさうにもないと思ふ。

英軍のイラン侵入は、弱小國の保護者を以て自ら任ずる英國の行爲としては、非常な矛盾である。如何に美辭麗句を竝べて辯護しても、これは殘忍な自己中心の侵略行爲以外の何ものでもない。イラン國としては、不意に二人のギャングに襲はれた以上、手を擧げる外に道はない。イランでは、八月二十八日マンスールの政府が交迭してアリ・ファルギが首相となり、無用の流血を避けるために軍隊に停戰を命じ、英ソ兩國の要求を無條件に承認して、兩國軍隊の進駐を承諾した。其の結果英ソ兩軍との間に停戰協定が成立した。その條件として傳へられるものは次の通りである。

一、英ソ兩軍はイラン國の要地及び軍事的要衝を占據する。

一、英ソ兩國はイランの領土保全並に獨立を嚴重に保障する。
一、英ソ兩軍は將來完全にイランより撤退することを約す。
一、英ソ兩軍の占據による損害は、英國に於て補償する。
一、英ソ兩國はイランの內政に干涉せず。イランは同國の警察權を完全に保持する。
一、英ソ兩國はイランに對する經濟的援助の即時實行に着手する。
一、イラン國內在住の全獨逸人を英ソ兩軍に引渡す。

最初の協定では英軍は南方、ソ聯軍は北方イランに駐兵して、首府テヘランには這入らぬ約束であつたが、ソ聯が無遠慮に進軍を續けるので英軍も同じく北上して、九月十六日遂にテヘラン進入を開始したので、國王レザー・シャー・パーレヴィは位を皇太子シヤプール・モハメッド・レザーに讓つて退位せられ、イスパハンへ避難された。波斯に於ける英露の角逐は、十九世紀の末から二十世紀の初頭にかけて世界の問題であつたが、一九〇七年に兩國間に取極が出來て、各勢力範圍を定めて互に侵犯せざることとなつた。然るに今度の進駐でまたもや英ソの利害が衝突する恐が多分にある。いつまで兩國が共同動作を執り得るか蓋し興味ある問題である。

英首相の暴言を駁す

去る二十四日のチャーチル英首相のラジオによる日本攻擊は、恫喝と媚態のカクテール、威し

たり賺したり隨分と人を喰つたものであつた。我が政府は暫く默殺の樣子であつたが、餘りの暴言に腹を据へかねたものと見え、八月二十九日情報局第三部第一課長岸偉一をして、チャーチル首相の脫線振に對して一矢を酬ひさせた。たまたま同じ日に近衞首相からローズヴェルト大統領宛に、日米間の諸懸案解決に關するメッセージを送つた旨發表されたのと睨み合はせて、我政府磐石の決意を示唆してゐるやに想はれるので、その大意を載錄することにした。

『チャーチル首相は去る八月二十四日夜ロンドン放送局を通じて、過日大西洋上に於てローズヴェルト大統領と會談の結果として發表された英米共同宣言に關する報告演說を行ひ、同時に今後の英國の對外方針に關し極めて重大な聲明を發表した。

チャーチル首相は我が國が、過去五ヶ年東亞の天地に眞の平和を打建てんが爲に國運を賭して戰ひつつある支那事變を目して侵略者の行爲なりと唱へ、皇軍の支那に於ける活動を誹謗するが如き言葉を用ひてゐるが、これは眞に意外且遺憾に思はれる次第である。我が國が汪精衞氏を主席とする南京の國民政府をあくまで育成强化し、以て新しい支那に安居樂業の天地を作りあげやうと努力しつつある事實は、昭和十三年十二月廿二日に公表された善隣友好、共同防共、經濟提携に關する近衞聲明により、また昨年十一月三十日に成立した日支基本條約及び日滿支共同宣言の內容によつて明かである。

それにも拘らず所謂援蔣國家群が、重慶の蔣介石政權に對し依然として物資を供給し、武器を送り、或は人間を派遣する等のことを續けてゐるのは、東亞の天地に於て徒に不幸な戰爭を長引かせるのみであり、チ

ヤーチル首相の主張する世界平和の趣旨にも合致してゐないと言はざるを得ないのである。

またヴィシー政府との完全な意見の一致の下に、共同防衛の建前から佛印南部に對して皇軍を增派したことを目して、我國がヴィシー政府から佛印を强奪したもののやうにいひ、このことがシンガポール竝にフィリッピンに於ける英米の權益を直接脅威するものである等と斷ずるに至つては、原因と結果を取違へた見解と言はねばならぬ。

チャーチル首相は、「我々は平和解決のために凡ゆる努力を傾けるであらう。現に米國は日本に對し、日本の正當なる權益を保障すべき公正且有效的な解決に到達せんがため、無限の忍耐を以て努力しつつある。英國はこの交渉が纏まることを熱望してゐるが、若しこの希望が達せられないやうな場合には、何等躊躇するところなく米國側に味方するであらう」と言つてゐるのであるが、若し英米にして眞に東亞の平和を念願するものならば、彼等が數年來我が國に對して取りつつあつた諸政策を、その唱へてゐる理想に照して再檢討すべきであり、これを行はずして如何に尤らしい主張をしても、額面通りこれを受取ることは困難となるのである。

なほチャーチル首相はその演說中に於て、八つの項目にわたる英米共同宣言に言及してゐるが、この會合に出席した英米兩國の人物の顏觸れから判斷すると、更に他の重要なる分野に於ても取極めが行はれたものと見做さざるを得ない。從つて右八項目はその一部に過ぎないと考へられ、一部分だけの批評は意味の無いものと思ふから割愛する。

アングロサクソン諸國は口癖のやうに、他國の行動を侵略國呼ばはりしてゐるが、この度行はれたイラン

侵入の實例はこれを如何に理由づけるであらうか、我々は理解するに苦しむ。

チャーチル首相はその演說中に於て、敗殘國民に對して「絕望に陷る勿れ諸威人よ」とか、「頭を擡げよ佛蘭西人諸君よ」とか、「希臘人よ寸土も敵に讓る勿れ」とかいろいろ言つてゐるが、歐洲に戰爭が始まつて以來、英國から援助の約束手形を貰つた國は、悉く將棋倒しの形である。佛蘭西然り、波蘭然り、白耳義、和蘭然り、ユーゴスラヴィヤ、希臘もまた然りである。これ等の國々は何れも英國の援助を空頼みとして無益の交戰を續け、多くの國民を犧牲にし、その國土を失つたのである。春秋の筆法を以てすれば、これ等の國を亡ぼしたものは英國なりと言へないこともない。さればこれ等の國々が、今さらさう易々とチャーチル首相の吹く笛の音につれて踊るものとは考へられない。

これを要するに此度のチャーチル首相の演說は、英米側が美しい言葉をかりて自分の主張を言ひ表はし、以て中立國、戰敗國に働きかけ、樞軸側の新秩序建設を妨害すると同時に、帝國の南方進出の動機を理解せずして、これを日本の英米權益に對する脅威であると解釋してゐるものである。

先程一寸申上げたやうに、チャーチル首相は頻に日本の行動を誹謗しながら、他方に於て日米兩國間の交渉が圓滿妥結せんことを希望してゐる。如何に英帝國と雖も此際日本を敵に廻すことの不利である位は承知してゐる筈である。出來るなら日本との衝突を避けたいと云ふのが、チャーチル首相の眞意ではあるまいか。

また米國にしたところが、事變以來日本に對して種々な方法を以て嫌がらせをやつて來たものの、對英援助に全力を傾けなければならず、また國內問題もある今日、日本との平和的關係を破るまいと云ふ希望も一

方にもつてゐることは、いろいろな情勢のうちに十分窺ひ知ることが出來るのである。かうした事情を考へると、既に本日お聽きになつた通り、近衛總理大臣からローズヴェルト大統領に對し、野村駐米大使を通じてメッセージを送つたと云ふ事實は、特に意味深く感ぜられる次第である。

勿論日米今後の關係が如何に展開するかは全く未知數であるが、我が國民としては緊迫した國際情勢下にあつて、上下一致常に灼熱した火の塊のやうになつて、如何なる事態が起らうともこれに對處すべき毅然たる覺悟を忘れてはならぬことは申すまでもない。』

近衛メッセージの內容は窺ひ知るべくもないが、「兩國間に存する癌を研究して」現下の緊張を緩和する使命を有するものであることは疑ふ餘地がない。我が國の根本國策は支那事變の完遂と、大東亞共榮圈の確立に終始してゐる。日本は毛頭亞米利加との間に摩擦を好むものではないが、我が國としては米國の東亞政策にどうしても納得の行かぬ點があり、他方米國としても我が聖戰の意義につき誤解してゐる點もある。これと同時に彼は援英を、我は三國同盟を外交の基調とする點に意見の衝突も起るのである。この間に處して彼我の當局が虛心坦懷、癌の所在を再檢討し對症療法を講ずることは、太平洋の平和と歐洲戰爭不擴大の見地からも、衷心歡迎し且その成功を祈るものである。

ヒットラー總統ムッソリーニ首相と東部戰線に於て會談す

ムッソリーニ首相は、八月廿五日から廿九日の間にヒットラー總統を東部戰線の本營に訪ねて歷史的の會談を行つた。また兩雄は相携へて東部戰線の重要諸地點を視察し、反共戰に奮鬪中の伊太利師團を閲兵した。

この會談については極めて簡單なコンミュニケが發表されただけであるが、ローズヴェルト、チャーチル洋上會談の對篇として、相當重要性が認められる。羅馬よりの報道に從へば、多分左記の諸件につき忌憚なき意見の交換が行はれたものと見られる。

一、對ソ作戰は冬季に跨ると云ふ豫想の下に、周到なる防寒準備を行ふこと、竝に英ソ兩國軍のイラン進駐に關し意見の交換を行ふこと。

二、東部作戰が完了した曉、英本土上陸を敢行するか否かは興味ある問題であるが、公式のコンミュニケには、單に「戰爭の發展と繼續に關し意見を交換した」とのみ發表された。ヒットラー總統は非常な大事とりで、徒に勝利を急ぐことなく、十分餘裕を見つつ最も確實な方法で、英本國に屈服を强ゆる意向と見られる。たとへ戰爭が明年に延びても、歐大陸の新建設によつて英國の大陸封鎖に對抗して行く決意を固めてゐるのみならず、益々逆封鎖網を締めて、英國民の生活を一層困難ならしめる方策を協議すること。

三、戰爭の長期化に伴ひ、獨伊兩國を離間せんとする陰謀的策動が近來頓に盛になつたのに鑑

み、樞軸兩巨頭の親密を中外に誇示して、暗中飛躍の徒の盲動を封ずること。

四、樞軸側は英國が休戰を申出でない限り、中途半端の和平は絶對にこれを排擊すること。

五、伊太利は東部戰線に更に兵力を增派し、且占領地區の治安維持のため積極的に協力すると同時に、獨逸の勞力不足を補ふために更に勞働者を供給すること。

獨ソ開戰の結果獨逸が全力を東部戰線に投じた虛に乘じて英國は、夜間落下傘を利用して宣傳員を佛國に潛入させ、或はド・ゴール政權の手先や、共產黨員を使嗾して、親獨派の領袖ピエール・ラヴルやマルセル・デアを狙擊させるなど盛に地下潛行運動を畫策して、ヴィシー政府の獨逸協力政策妨害に全力を盡してゐる。また戰爭が長引くに伴れて、一般大衆の生活が不自由となるに乘じて、伊太利でもファシスタ排擊の陰謀を企てる不逞の徒も頭を擡げると云つた有樣であるので、根もないデマや流言蜚語の乘ずる間隙を塞ぐためにも、今度のヒットラー、ムッソリーニ會見が戰場で行はれたと解すべきである。

帝國を繞る列國の外交

樞軸國家間の紐帶を弛め、あはよくばその交情を離間せんとする老獪な策動は、我が國に嚮つても以前から絶へず試みられてゐたことは、八月廿四日のチャーチル首相の演說からも忖度する

ことが出來る。而して英米の策動の中心目標が、日本をして三國同盟から脱退せしめんとする點にあることは推測するに難くない。日本が嚴然として監視してゐる限り、米國としても輕々に參戰出來ないから、これは彼等として當然のことである。

併し彼等が、經濟的壓迫と相竝んで、如何なる外交手段を廻らさうとも、曩に畏多くも大詔の渙發を見て、帝國不動の國是として發表された三國同盟條約を、蔽履の如く拋擲するが如きことは到底あり得ない。

殊に今日の英米は昔の英米ではない。八月廿四日の演說に於ては帝國に對して侵略國呼ばはりをして置きながら、その翌日には自ら兵を無辜弱小のイランに侵入させて、恬として恥づることを知らない。そんな人が嘗てグランドストーンの居たドウニング街に住んでゐるのである。また人民の爲に、人民によつて支配される所の人民の政府の首長である人が、世界の民主主義の爲に民衆の敵、獨裁主義、全體主義のナチズムを滅ぼし、ヒットラーを殪すと豪語しながら、教會を燒き、僧侶を殺し、純良なる基督教徒を迫害する共産主義ボルシェヴィッキーの血腥い手を握つて得々としてゐる。こんな人が嘗てリンコルンの住んだホワイトハウスの主人公である。我々君子國を以て自ら任ずる日東帝國は、斯かる不正僞瞞の國々の威嚇や懷柔や恫喝や媚態に相手に成つておれないのである。言葉を換へて言へば、正直者の我々日本人は、到底彼等の言葉を信用し

得ないのである。

この際我が陸軍のスポークスマン大本營報道部長馬淵大佐が、九月一日ラジオを通じて國民に呼掛け堂々數千言、戰時下の國民の心構を說くと共に、英米兩國が蔣政權竝に蘭印を誘つて我國の軍事的包圍を策し、經濟的封鎖を行ふ不都合を、完膚なき迄にこきおろしたのは近頃痛快の至りであつた。

帝國の南進によつてシンガポールの危險を感ずる英國は、彼等が長年弱小國に對して慣用し來つた威嚇の手段に出で、日本との通商條約を破毀し輸出禁止を發令すると共に、亞米利加に嗾ヒかけて同じく資金凍結令を出させた。彼等は紅毛人一流の考へ方から日本が困つて何とか下から出るものと豫期してゐた。然るに案に相違して日本は船を引揚げ、音無しの構をして、來るなら何時でも何處からでも來いと、鳴を鎭めて待機の姿勢を取つたのである。これは彼等にとつては聊か意外であつた。よく吼へる犬は嚙まない。併し不言實行の日本はその反對である。英米にとつては聊か薄氣味惡い相手である。出來る限り我慢はするが、餘り馬鹿にすると一億一心斷乎として起つ決心はとつくについてゐる。亞米利加にしたところが政府當局が如何に敦圉いても、國民の七割はまだ獨逸に對して劍を拔く必要を認めてゐない。まして英國の權益擁護のために戰を日本に挑む氣にはなりにくい。併し問題は東洋、南洋限りではない。ABCDの協調にSが加は

つて來た。今では歐洲戰爭――獨ソ戰爭を、支那事變から切離して考へる事は不可能になつた。

今日のステージに於て獨ソ戰爭の見透を語ることは聊か早計である。赤軍の善戰は獨逸の統帥部にとつても豫想外であつたらしい。開戰後十週間の戰績は、赤軍の死傷約五百萬、捕虜百五十萬、戰車一萬五千輛、砲一萬七千門、飛行機一萬四千機、而もソ聯はまだ瓦解の徵候を示してゐない。去る九月六日以來完全に包圍されたレニングラードは、最後の一兵まで防戰の覺悟である。中央部から南部にかけてソ聯は、昨今新編成の五十箇師團を增援して、逆襲に轉ずるだけの餘力を示してゐる。併しこれは恐らく赤軍最後の頑張りかも知れぬ。逃げる敵よりも、向つて來る敵の方が捕捉殲滅し易い。その內には又もや獨逸軍の術中に陷るであらう。赤軍の鬪志尙滿々たるものがあつても、大體に於て、戰爭の山は最早や見えたと云つてよい。時間表は二月遲れとなつたが、作戰そのものは計畫通りに進んでゐる。

露西亞には冬が早く來るので、それまでに獨逸が豫定の通りヴォルガの線まで進めるかどうか聊か疑問になつて來たが、假にこの作戰が成功したと假定して、その後の露西亞は怎うなるであらうか。これは世界史上の一大關心事であり、我が國にも多大の影響を齎すものである。

若しヒットラー總統が、現スターリン政權の存續を認めてこれと和議を進める場合には、ソ聯は曩に火事泥的に奪つた地域を、元の主人に還せばよいのである。卽ちバルト沿海三國の獨立を

認め、失地を芬蘭に還し、波蘭の東半、少なくとも東ガリシヤを獨逸に割讓し、ウクライナを獨逸の委任統治に委ね、ベッサラビヤ及びブコヴィナを羅馬尼に還附することによつて平和はあつさりと纒ると思ふ。ウクライナの餘剰穀物は、歐洲を自給自足させる爲にはどうあつても必要である。コーカサスの石油資源は、必ずしもそれをソ聯から奪はんでも、經濟的に均霑する道が自らあると思ふ。尤も英米の尻押のある今日、ソ聯がかかる單獨媾和を肯ずるかどうかは疑問である。

併し若し「ナチ」黨の外交部長ローゼンベルグが最近發表したやうに、イデオロギー的にヴォルシェヴィズムを認めず、從つてサヴィエート政治體制を否認して、その徹底的打倒を圖る場合には、問題の解決は非常に面倒となる恐がある。何よりも困ることは、赤色政權に代るべき政權の擡頭が容易でないことである。

スターリンを主班とするサヴィエート政權は、今次の敗戰により根蔕より瓦解するであらうか。假令獨逸軍がヴォルガの線まで進出しても、ソ聯はウラルの彼方に後退して、ウラル、クズネッツ綜合工業地帶の重工業資源及び西部シベリヤの農產資源を動員し、英米からの援ソ物資と相俟つて、長期戰に變貌する恐がないであらうか。ソ聯勢力の重點が斯く東漸して來る場合に、北氷洋、バルト海及び黑海に依る出口を失つた彼等は、嫌でも應でも全力を浦鹽に集中せざるを

得ないのである。これは我國にとつて一大關心事であらねばならぬ。

ソ聯の太平洋艦隊は弱勢ではあるが、それでも驅逐艦十二隻（內四隻は新式）、潛水艦七十隻（內三十隻は排水量千噸以上の洋航型）、快速水雷艇百六十七隻、砲艦廿三隻、航空母艦二隻、潛水艦母艦二隻、碎氷船二隻、特務艦三隻、其他掃海艇、敷設艇若干、假裝巡洋艦若干を持つてゐる。現有の勢力は大したものでなくても、ポシェット、ニコラエウスク、ペトロパヴロウスク、コンマンドルスキー諸嶋の要港に據つて、有事の場合には相當に五月蠅い存在である。目下米國で建造中のインテルナチオナール級排水量三萬五千噸の戰艦二隻も、竣工次第東洋艦隊へ配屬される筈である。極東駐屯の露軍の實數は不明であるが、今尙尠なくも三十萬餘の精兵を露滿國境に存置してゐると云ふことである。これに蒙古軍を加へれば、まだ相當の兵力が極東方面に殘つてゐる譯である。從來この方面に常駐させてゐた數千臺の飛行機や戰車の內、幾何が歐露に廻送されたか詳にしないが、相當の數量が今尙極東軍に常備されてゐるものと想像される。かてて加へて日本には賣れぬと云つた高オクタン價の飛行機用ガソリンや、飛行機工作機械、その他の軍需品を積んだ米ソ兩國船が續々と浦鹽へ入港して、同港を軍需資材の兵站基地化せんとしてゐる事は、我國として雲煙過眼視難い現象である。沿海州地方に蓄積せられつつあるこれ等の軍需品が、シベリヤ鐵道によつて歐露に送られる間は、我等として苦情を申立てる限りでないが、いつ

なん時それが、英米の手先となつて我國に對して用ひられないと誰が保證し得るであらうか。

斯く觀じ來れば、ABCDの日本包圍陣はSの之に加はることによつて、形勢の尖鋭と切迫を感ぜざるを得なくなつたのである。

グリーヤ號事件

九月四日附のニューヨーク發特電によれば、國籍不明の潛水艦が、グリーンランド水域に於て、米國驅逐艦グリーヤ號に向つて魚雷を發射したが、命中しなかつたと云ふ報道が、米國の人心に甚大なる衝動を與へたと云ふことである。翌五日ローズヴェルト大統領は、記者團に對し大略左の如き意見を談話の形式で發表した。

『驅逐艦グリーヤ號は國籍不明の潛水艦から晝間、しかも數回に亘つて攻擊を受けた。余は米海軍に對してこの潛水艦を發見次　除去（エリミネート）するやう命令を發した。グリーヤ號が攻擊されたとき、海上は視界がよく利き、また米國旗を明瞭に艦側に畫いてあつた。攻擊が過誤に基くか否かは、今斷定が出來ないが、グリーヤ號が一度ならず攻擊されたと云ふ事實は嚴として存在してゐる。ことに米國艦と云ふことが解つてゐて攻擊したとなれば、その結果は極めて重大である。……この事件に關して特に新しい命令を大西洋の米艦隊に對して發してゐないが、このやうな潛水艦は追跡することが出來れば追跡して、これを除去

するやうにとの一般的の命令は以前から出されてゐる。

グリーヤ號は米國寄りの大西洋上に在つた。この水域は獨逸によつて交戰水域として指定されてゐるが、米國政府は斯くの如き水域の存在を認めない云々。』

これは實に奇妙な話である。故意と曖昧な言廻しを用ひてゐるが、化けそこなつた狐のやうに尻尾が出てゐる。第一海上の視野がよく利く日に、國籍不明の潛水艦が標識の瞭きりと見える米艦を、白晝攻擊すると云ふことが眉唾ものである。獨逸側では何とかして挑戰的に事件を惹起さうと狙つてゐる米國の手に乘せられぬやうに絕えず警戒してゐる。故に獨逸の潛水艦が自ら進んで米艦を狙擊したとは考へられない。

次に『特に新しい命令を大西洋の米艦隊に對して發してゐないが、このやうな潛水艦は追跡することが出來れば追跡して、これを除去（エリミネート）するやうにとの一般的の命令は、以前から出されてゐる』と云ふ大統領の言明は、問ふに落ちず語るに落ちたものと云つてよい。

ローズヴェルト大統領はこの事件により、米國民の公憤を煽つて參戰に導く下心であつたらうし、英國も『待ちに待つた事件』と狂喜したが、豈圖らんや『茂みの中から通學途上の小學生徒に發砲した』のは獨逸ではなくて、亞米利加であつたらしい。兩三日沈默を守つてゐた獨逸政府は、九月六日次の聲明を發してその眞相を明かにした。

『九月四日午後零時三十分獨封鎖區域内の北緯六十三度三十一分、西徑二十七度六分の海上に於て、一獨潛水艦は一驅逐艦のため爆雷を以て攻擊を受け且追跡せられた。獨潛水艦は該驅逐艦の國籍を認めることは出來なかつたが、正當防衛として午後二時三十九分、二聯裝魚雷を發射して之に酬ひた。しかし魚雷は命中しなかつた。かくて該驅逐艦は爆雷を以て同夜十二時頃まで獨潛水艦に對し追跡攻擊を繼續した。

米海軍省は獨潛水艦が最初に攻擊の火蓋を切つたと發表してゐるが、これは中立違反の米艦の攻擊を正當化せんとする目的に出たものに他ならない。さらに今回の事件は、ローズヴェルト大統領が中立法に反し、米驅逐艦に對して獨船舶及び獨潛水艦の所在を通報するのみならず、これを攻擊すべしとの命令を發してゐたことの證據である。大統領は已に與へられたる凡ゆる手段を用ひて米國民を對獨戰爭に驅り立てるべく、獨米間の紛爭を惹起さんとしてゐるもである。』

米大統領の發砲命令

「グリーヤ」號事件に關する大統領の放送が、母堂の逝去により延期された矢先、また一つの事件が捲き起つた。それは米國の商船「スチール・シーフェヤラー」號（五、七一九噸）が、九月七日紅海に於て獨逸の長距離爆擊機によつて擊沈された事件である。米國大統領は豫て紅海及びスエズ運河を、中立法による米船航海禁止區域から除外して、盛に援英物資を近東方面へ輸送させてゐたのである。然るに獨逸はスエズ一帶を交戰區域と定め、盛に攻擊を行つてゐたので、

米國のそんな勝手な除外例を認める譯がない。ことに爆擊は夜間に行はれたので、斯る危險區域に出入する中立國の船舶は、自己の危險に於て行ふものであることは理の當然である。これより先五月廿一日米商船ロビン・ムーア號が、南大西洋に於て獨逸潛水艦の臨檢を受け、戰時禁制品を搭載してゐたので、乘客及び乘組員を離船させた後沈められた事件があつた。更にまた元丁抹船で米國に押收され、國籍をパナマに移して更に米國會社の傭船になつてゐたセツサ號（一、七〇〇噸）が、去る六日アイスランド西南三百海里の海上で獨逸潛水艦に擊沈された。このやうに突發事件が續發しては、さなきだに苛ら苛らしてゐたローズヴェルト大統領を激昂させて、九月十一日夜ラジオを通じて次の大獅子吼を行はしめた。

『最近頻發せる亞米利加艦船攻擊事件は、言語同斷且つ兇惡極りなき海賊行爲であり、ヒットラーの世界制覇計畫の一部をなすものである。亞米利加の國策は飽く迄公海の自由を維持せんとするにある。（註。世界大戰に於ても又今次の大戰に於ても、先づ海上封鎖により中立國の自由通商を不可能ならしめたものは英吉利であつて、獨逸は唯同一武器を以て之に對抗してゐるに過ぎない。）獨逸は現實の交戰地域より離れたる海洋迄も封鎖し、右水域航行の外國船舶は、當然之によつて生ずべき危險を覺悟すべきであるなどとの通告を發すべき何等の權利も持つてゐない。グリーヤ號事件に關し、獨逸側は亞米利加驅逐艦が先に攻擊したと主張してゐるが、右は全く事實無根であり、獨逸潛水艦こそ最初にグリーヤ號に對し無警告且愼重な計畫の下に水雷を發射し、これを擊沈せんとしたものである。……グリーヤ號事件は法律的にも道德的にも獨逸の

海賊行爲以外の何ものでもなく、而も大戰開始以來ナチ政府が亞米利加國籍の艦船に對してなした海賊的行爲は、これが最初でもまた最後でもないのである。先のスチール・シーフェヤラー號事件、セッサ號事件等みなその揆を一にするものである。

斯の如き不法攻擊を敢てする獨逸艦艇及び飛行機は、いはば「大西洋のガラガラ蛇」である。彼等が亞米利加の國旗を揭揚せる艦船に對し不法攻擊を加へる以上、彼等が公海に於ける航行の自由を脅威し、我が亞米利加の主權に挑戰し、我々の至高の權益に打擊を加へんとしてゐるものと稱しても何等過言ではないのである。ガラガラ蛇が襲ひかかり毒齒をもつて諸君を嚙殺さんとする時、諸君は必ず先手に出て、毒蛇が未だ諸君に飛びつかぬうちに急いで打殺すに相違ない。

これがため余は、亞米利加の防衛にとつて重要と認められる水域に於て遭遇せる一切の樞軸國艦艇及び飛行機に對し、直ちに之を攻擊すべき旨の命令を亞米利加海軍に發した。今や現實に亞米利加を防衛すべく起ち上る秋が來たのだ。しかし我々は決して他國を侵略せんとするものではない。我々の目的は只單に防衛的なものである。しかし今後において樞軸國艦艇が亞米利加の國防水域に立入る場合には、それは彼等自身の危險負擔に於てなすべきことを茲に明確に警告するものである。……從つて獨逸が海洋の自由を侵犯しない限り、獨米間に交戰が行はれるやうなことはないであらう。海洋の自由を確保することこそ、刻下の世界重大危機に際會せる余の最も明白な義務であると共に、獨立國家としての亞米利加國民の最大の權利である。これこそ我々が西半球防衛の牆壁を死守すべき唯一の可能な手段である。

若しも潛水艦或は海上侵掠艦にして遠洋に於て攻擊を擅になし得るならば、我が亞米利加本土より易々と

望見じ得る近海に於ても攻擊を行ひ得る筈である。亞米利加がその國防に不可缺と見做す一切の水域に、これ等艦艇が存在すると云ふ事實そのものが「攻擊」を構成するものである。亞米利加の國防に必要なりと我我が思惟する凡ゆる水域に所在する亞米利加海軍艦艇竝に亞米利加飛行機は、最早樞軸國の潛水艦が海中を游弋し、或は海上侵掠艦が海面を横行して、その怖るべき最初の一擊を放つまで腕を拱いて傍觀することはないであらう。このことは亞米利加の哨戒艦艇及び哨戒機が、我が防衛水域に於て亞米利加の船舶のみならず、通商に從事しつつある一切の國家の船舶を保護する措置を執ることを意味するものである。

亞米利加が斷乎自衛の措置を講ぜねばならぬ時期が遂に來たと云ふことは、今やすべての亞米利加人にとつて明白な事實となつた。何となれば、我が亞米利加領海またはより多く且より大きく使用さるべき水域に於ける亞米利加艦船攻擊事件の續發は、この儘放置するに於てはヒットラー主義排擊を期する亞米利加の能力を不可避的に脆弱化するであらうからである。亞米利加艦船に對するこの種の不法攻擊事件が、今後五回、十回乃至廿回發生した後にはじめて亞米利加が、防衛を開始すべきや否やの詮議立てをするのは愚の骨頂である。積極的防衛に蹶起すべき秋はまさに今である。』

これはまた我儘勝手な宣言である。樞軸國側の交戰權を無視し、獨逸が實力を以て宣言した所の海上封鎖區域を蹂躙して、勝手氣儘の防衛水域なるものを殆ど無制限に設定し、この架空的水域を犯す樞軸側の艦船竝に飛行機に對しては、見當り次第發砲擊攘せよと云ふ命令を米國海軍に下したと云ふことは、戰時國際法規を無視した傍若無人の振舞である。又商船の武裝をも考慮し

てゐると云ふことであるが、こんな中立違反の不法を敢てするよりも、何故議會の協贊を求めて正々堂々樞軸國に向つて宣戰を布告しないのか。一時噂に上つた中立法の廢棄をも議會へ要求せず、大統領ともあらうものが國法を潜つて、米國商船の軍艦による護送を下命するなんて、實に惘れてものが言へぬ。かかる非常手段に訴へてまで英國援助に狂奔せねばならぬと云ふことは、とりもなほさず獨逸の逆封鎖による英國の窮狀が、想像以上に深刻であることを裏書するものと言つてよい。大西洋にうようよ徘徊つてゐるガラガラ蛇は、大統領の威嚇に怖れをなして逃出すやうな弱蟲ではない。自分から進んで喧嘩を買はねど、押賣の喧嘩は避け難い。好むと好まざるとを問はず、米獨兩國が旗鼓相見ゆるの日も餘り遠からぬことを感じさせる。

チャーチル英首相の放言

九月九日チャーチル首相は下院に於て報告演說を試みたが、ローズヴェルト大統領が日本に關しては沈默を守つてゐるに反し、英首相が今回の演說に於て日本との關係に論及したことは、大いに吾人の注意を引いた。今その部分を摘記すると左の通りである。

『余とローズヴェルト米大統領との會談の結果として生まれた共同宣言は一の記念塔を建立したものであり、これは最後の勝利と共に人類發展史上の永久的記念塔となるであらう。宣言中にある「ナチ暴政の破壞」は、我

我の締結した嚴肅な共同宣言の重大性を表現したものである。……大西洋上の會談に於て兩者が念頭に置いたのは、先づ以てナチの桎梏下に呻吟する諸國民の自治と國民生活を復舊し、且將來國の領土的境界の變更を行ふやうな場合に處する正當な主義を回復することであつた。この洋上會談に於ては大西洋の大憲章たる共同宣言八項目に就て協議を遂げた許りでなく、ソ聯及び日本に對する英米の態度についても愼重なる檢討を行つた。その結果としてソ聯に對しては援助竝にその方法を決定し、また日本に對しては英米兩國の政策につき重要決定に到達することが出來た。英米兩國が決定した對日政策の主眼は、極東に於て英米の利益を危險に陷らしめるが如き事態の發生を可能なる限り極力阻止することと、太平洋に戰爭の擴大することを防止するため機宜の措置を講ずべきこととの二點である。』

これはまた曩に侵略國呼ばはりをして、我が國を罵倒したチャーチル首相とは大變な變り方である。威嚇が利かぬと知つて手の裏を返して、日本が樞軸側に立つて劍を拔かぬやう、何とかして宥和懷柔したいと云ふ氣になつたものらしい。如才が無いと言はうか、橫着なと云ふべきか、我々は大いに褌を緊めてかからねばならぬ。

羅馬法王米大統領を一蹴す

米國二千萬人の天主教信徒が、ローズヴェルト大統領の援ソ政策に對して慊焉たることに就ては曩に之を述べた。中南米六千萬人の同信者も恐らく同感と思ふ。ローズヴェルト大統領は、再

び特使テーラー氏をヴァチカンに遣はし、十六日羅馬法王ピオ十二世に對し親書を贈つた。右の親書で米大統領は、今次戰爭終了後米國政府は、ソ聯に於ける信教の自由回復に努力する旨を約し、これを條件として法王が、今次の對獨戰を「正義の戰である」と宣言するやう要請したと云ふことである。これに對し法王は

一、今次の戰爭に關しては羅馬法王廳は、これまで嚴正中立の立場を持して居り、獨英いづれかの立場を是なりとして一方を支持することは、この根本方針に反する。

一、ナチズム打倒と云ふやうな單なる主義の問題を根據として、正義の戰などと云ふものはあり得ない

との二點を理由に、米國大統領の要請を極めて慇懃に、而も斷乎として拒絶した由である。流石は世界三億信徒の心靈上の父だけあつて、是を是とし非を非とする公正の態度は敬服の至である。金權主義、自由主義、資本主義、民主主義の英米が、共產主義のソ聯と共同戰線に立つと云ふことが、現代人類文化の悲喜劇である。「ナチズム」征伐は義戰なりと云ふ御墨附をプロテスタントのローズヴェルト大統領が、カトリックの羅馬法王から頂かうとして、態よく斷はられたと云ふことが、ピュリタンの後裔に與へたであうところの苦つぽい感情は、基督者でない日本人には一寸想像がつかぬ位割り切れぬものである。

對ソ問題を繞る米國宗教界の反對

『血は水よりも濃い』と云ふ諺もある通り、獨系、愛蘭系、伊系、佛系を除く大多數の米國人が、英國の不幸に同情して、出來得る限りの援助を惜まぬことは爭ひ難い事實である。併し參戰となれば問題は別である。最近四ヶ月間米國各地を驅廻つて、日米間の理解增進のために努力した賀川豐彥師の新歸朝談にも、米國教會關係の有力な婦人連は、悉く反戰論者であると云ふことである。何々輿論調査所の發表などは、どうせ其筋の息が掛つてゐて何等信憑すべきものではないが、その發表ですらまだ參戰反對の方が多數を占めてゐる。ユダヤ勢力の傀儡であるフィルムと新聞の宣傳だけを見て、米國の眞の民意と考へるのは飛んだ間違ひである。

米國の非參戰論者は大統領の對ソ援助態度により、思ひ掛けない有力な援兵を得たのである。ボルシェヴィッキーと手を握ると云ふ事は大多數の米國人は金輪際嫌ひである。米國內に涌き起つた反對運動の中でも、米國輿論の中心と云はれる教會方面に於ては、米國基督教聯盟の名において、『宗教を否定するソ聯を援助すると云ふことは、基督教國である米國竝に米國民の意志を無視するものである』として、對ソ援助に對する反對決議をローズヴェルト大統領に提出した。米國カトリック平和擁護委員會では、教職一萬三千百五十五名に就て、ソ聯援助の可否と、大戰

參加の可否とを投票に訴へた所、その內一萬一千八百六十名は援ソ反對、また一萬二千三十八名が參戰反對と云ふ結果を得た。この反對氣勢はその後米國の各階層に波及し、大統領の意志と米國輿論との間に大きな溝渠を生じかけたので、大統領は今や躍起となつて援ソ贊成の輿論を喚起せんと努力してゐる。然るに去る九月三十日の新聞記者會見の席上『ソ聯に於ても宗教の自由が憲法によつて認められてゐる』と云つたことが、はしなくも國內の反ソ論者を激昂さして猛烈な攻擊が捲き起つて來た。この勢に辟易した大統領は十月二日更に、過日の記者團との會談の席上述べた自分の言明は、間違つて新聞紙上に報道されたとて、當時の速記を發表してひたすら問題の鎭靜に努めた。ソ聯に於ける宗教の自由に就ては、モスクワ會談に於ける米國首席代表ハリマン氏が出發の際、ソ聯當局と本件につき協議するやう訓令を受けたとか、スティンハート米國大使も、嘗て本件に付スターリン首相と交涉した事があるなどと言譯をした。一說によればヴァチカンに使したテーラー特使は、大統領がソ聯への武器援助を好餌として、宗教の自由に關する宣言をなさしめ、これによつて羅馬法王の歡心を得、對獨戰爭を正當化することにつき法王の諒解を要望したと言はれてゐる。然しこの大統領の意圖は今日迄成功せず、スターリン首相も信仰自由につき何等の聲明もなさず、ヴァチカンを訪ふたテーラー特使の使命も不成功に終つたやうである。

一九三六年改正のソ聯憲法には、成程信教自由の規定があることはあるが、同時に宗教を亜片なりと反對する自由もあるので、實際問題としては反古同様のこの條項を、態々掘り出して無神論無宗教のソ聯を辯護したのは、ローズヴェルト大統領に眞の基督者精神が無い證據であると云ふ攻擊が盛になるにつれ、これは大變な政治問題化する恐れがあるので、まづ民主黨の中から反對論が出て、ソ聯の制度は米國のそれとは同日に論ずべからざるものであることを、大統領に對して力說してゐる。

米國政府としては獨逸に對抗するソ聯に對し、何處までも援助することを約束した以上、襲に凍結を解除した四千萬弗のソ聯在米資金が盡きたので、商務長官兼聯邦融資局長官のジョーンズ氏が議會の委員會で言明したやうに、ソ聯に對し五千萬弗の借款を許容したが、これとても焼石に水と同様、間もなく無くなつてしまう。その場合例の武器貸與法をソ聯に對しても適用したい肚であるから、輿論の猛烈なソ聯援助反對は、ローズヴェルト政府にとつては慥に痛事である。何はともあれ、米國民の心理に通曉してゐる大統領としては、近來稀らしいヘマを遣つたものと云つてよい。

また議會の孤立派は第二武器貸與豫算案が議會へ提出される場合に、この豫算の對ソ援助への流用を禁止する修正案を提出すべく計畫して居り、對ソ問題は今や米國で興味ある政治問題と化

しつつあるのである。

英米ソ三國モスクワ會談

源をロ、チ米英兩巨頭の洋上會談に發して、永らく世界の視聽を集めた英米ソ三國會談は、ハリマン團長以下の米國使節團、及びビーヴァブルック軍需相を團長とする英使節團の九月二十八日モスクワ到着によつて、愈々現實の問題となつた。モロトフソ聯外務委員司會の下に、翌日から會議が開かれた。この間アンカラからソ獨單獨媾和云々の風說が打電されて來る。ソ聯獨りが大きな犧牲を拂はされて、英米からの援助は一向に來ないと云ふのが彼等の不平である。毎度指摘するやうに、實際問題としては、援ソ物資の輸入口が遠隔の地點に在るので、急場の間に合はぬのである。獨ソ開戰の當初に在つてソ聯が英米から求めたものは綿花であり、ゴムであり、麻袋であり、工作機械であり、ガソリンであつた。然るに開戰三ケ月後、今日迄ソ聯の誇りであつた莫大な技術兵器は殆ど破壞又は鹵獲され、これ等の消耗機材を補給すべき工場も亦悉く爆破された。ソ聯の今日要求するものは素材や原料ではない。完成品である。就中飛行機、戰車を得る事が焦眉の急である。モスクワ會談の主題は何を、幾ら何時、何處で受渡しするか、またその支拂はどうするかの問題に終始したと思はれる。使節團の作成した報告書も早く出來上つて、會

議は豫定より二日早く十月一日終了、左の共同宣言が發表された。而もソ聯と英米とは別々に。

ソ聯代表團宣言

英米ソ三國會議は成功裡にその事業を達成し、會議開催の目的と一致する重要な諸決議を可決した。而て會議はあらゆる自由愛好國により、不倶戴天の仇たる敵國に打勝つための共同努力に於て、三國が完全なる一致と緊密な協力を顯示した。

英米使節團共同宣言

三國會議はソ聯の軍事並に政府當局が要求したあらゆる資材を、殆ど全部ソ聯に提供することに決定した。一方ソ聯政府は英米兩國が緊急に必要とする原料を大量に兩國に供給した。更に輸送方法に就ても十分な檢討を遂げ、凡ゆる方面での輸送能力を增加する方法が立案された。英米兩國はソ聯政府が原料を豐富に提供したことを深く感謝し、この原料が兩國に於ける武器の增產に貢獻するものと信ずる。

この簡單なコンミュニケを讀んでも、如何に英米兩使節團がソ聯の怨訴の聲に困つて、ひたすら媚態を呈してその御機嫌をとつたかが窺はれる。ソ聯はまた英米が西部戰線に於て上陸作戰を行つて、獨逸軍の背後を牽制することを要望したが、チャーチル英首相は九月三十日下院に於て、戰況報告の機會に左の通り英國の立場を率直に聲明した。

世間には東部戰線を牽制し、獨逸に二面作戰を强ひるため、英軍は大陸上陸作戰を試むべきであると云ふ意見がある。今後の作戰行動については言明を憚りたい。獨逸側も沈默を守つてゐるが、今後獨逸が一部兵力

を割いて埃及へ出るかも知れず、西班牙を通つて北亞弗利加に出ないとも斷言出來ない。いつまた大陸の交通網を利用して兵力を西へ廻し、特に工夫を凝した船舶や輸送機關を用ひて、英本土上陸作戰に出ないとも限らない。この冬すら當斷は出來ないのである。春になれば東部戰線の戰況如何にかかはらず、上陸作戰を企てるものと思はねばならぬ。獨逸は空軍に著しい不足が見へて來た。然しその陸軍とその輸送力には依然恐るべきものがある。昨年佛蘭西の危機を前にしながら我々は、本土防衛の爲に戰鬪機部隊を佛蘭西救援に割くことを拒絕せねばならなかつた。英本土駐屯の英國陸軍は、訓練と裝備に於て中くらいの陸軍に達したけれども、その數に於て到底大陸の大陸軍と匹敵するに到らない。世間は何といはうとも、いつ起るかも知れない獨逸の英本土作戰に對し、充分な兵力を英本土に保有して置くことは、英國政府の重大なる責任である。

斯くも率直に自家の短所を認識し、どこ迄も自國本位の立場から先年佛國に對して犯した不信行爲まで懺悔して、大陸派兵による獨軍牽制の不可能を臆面もなく言つてのけたチャーチル首相も亦、一個の快男子と云はねばならぬ。

冬季救濟事業開始式場に於けるヒットラー總統の演說

社會立法の手の屆かぬ老幼鰥寡孤獨の救濟を目的とする冬季救濟事業は、ナチス獨逸の最も誇るべき社會事業であり、國民擧つて參加すべき年中行事の一つである。ナチス政權獲得以來九回

目、戰爭開始以來三回目の冬季救濟事業開始式に出席するため、戰場より歸還したヒットラー總統は、三月間の沈默を破つて十月三日シュポルト・パラストで大演說を行つた。演說中、東部戰線では今や四十八時間以來、ソ聯の徹底的殲滅を目指し大規模の作戰が進行中である旨を示唆した總統は、銃後國民も六百萬の前線將兵に劣らず報國の誠を盡さんことを要望した。

『余が一九三三年神の攝理により獨逸國の指導を擔當することと決つた時、余の唯一の目的は、再び働けるやうに獨逸國民を起きあがらせることであつた。この使命は極めて巨大なもので、余及び余の總ての協力者は、歷史の年表中に記載されるためには、敢て戰爭の遂行を必要としなかつたのである。卽ち我等の計畫せる平和事業が、我等をして史上に於けるかかる位置を確保せしむべきであつたのである。今次の戰爭が勃發した際、我等は既に社會的領域に於て世界に誇示するに足る未曾有の諸業績を有したのであつて、他の大國民が未だ克服し得なかつた諸問題を解決し得たのである。我等の仕事の主眼點は、（一）獨逸國家の內部羣化、（二）凡ゆる他の民族と同じ平等權の獲得、（三）獨逸國民の統一及び數百年來人工的方法によつて阻害された自然狀態への復歸であつた。

斯くの如き我等の根本原則は、毫も戰爭の必要性を含むものではなかつた。然しながらこの根本原則は、我々が如何なる場合にも獨逸の自由の回復を放棄し得ないと云ふ事を明かに指示したものであつた。戰爭を回避せんが爲に余は、軍縮に關する提案及び平和的手段に依る經濟秩序の合理的確立に關する提案等多くの

案を世界に提出したのであつた。

然るに余の提議は總て拒否された。而も自らの使命を平和的手段によつて果し得る望なき國々に依り拒否されたのである。我々は反對者の抵抗にも拘らず國内改革を斷行し、獨逸民族の統一を樹立することに成功した。即ち我々は大獨逸國を建設し、之により數百萬の獨逸國民を獨逸本國内に復歸せしむることに成功したのである。この時に當り多數の同盟國を獲得し得たのは幸福であつた。その第一は伊太利であつて、同國の指導者と余は、個人的に親密な友情に依つて結ばれてゐる。日本に關する限り、我々の關係は益々改善された。又その外にも歐洲に於て絶えず友好關係を維持する多數の人士及び國家があるが、特に匈牙利及び北歐諸國がそれである。又最近に至り歐洲の他の諸國民もこの友好團體に加入した。余が特にその友情を希求してゐた英國民と遂に友好關係を結ぶに至らなかつたことは、余の最も遺憾とする所である。

然しこれは決して英國民全體が、この遺憾なる狀態に對して責任を負ふことを意味するものではない。否寧ろ全く反對である。この責任は實に余の凡ゆる企圖を憎惡心を以て妨害し、そのサボタージュ行爲を國際的ユダヤ閥に依り援助された僅か數人の負ふべきものである。かくて一九一四年に於けると全く同じく、遂に最後の決心を爲すの止むなきに至つた。

余は寸刻と雖も躊躇しなかつた。何故ならば、余は英國との友好關係樹立に失敗した曉には、寧ろ余が政權を握つてゐる時代に、英國を敵とするに如くはないと云ふことを充分知つてゐたからである。余は今日政權を掌握せる英國の政治家と諒解を遂げる、何等の可能性のないことを確信してゐる。余の言はんとするのは過去十年間「我々は獨逸と新しい戰爭を欲するのだ」と云ふ言葉以外を知らない人士に就てである。そし

て今やチャーチル及び彼の協力者は、彼等の欲した戰爭を持ち得たのだ。併し彼等のこの「愛すべき戰爭」に對する今の考へ方は、あの頃とは異つてゐると余は信ずる。我々は最早や英國が援助を公約に他の諸國に參戰を促すと云ふことを耳にしない。寧ろ我々は英國が他の民族に救援を求めてゐると聞いてゐる。

民主主義者、ユダヤ人及びフリー・メーソンの徒の陰謀が遂に二年前歐羅巴を戰爭の渦中に引込むことに成功した。爾來眞理と虛僞との間の戰が荒れ狂つてゐる。一方で何と嘘言をついても、勝利はいつも眞理の側にある。一人の英國兵だに獨逸本土内に居らぬのに反して、獨逸が次から次へ敵を撃滅したと云ふ歴史上の事實は否定しやうもない。併し余はかくすることを希望してはゐなかつたことを强調したい。

最初の戰の後余は再び和平の手を差し伸べた。それは余自らが嘗て從軍したことがあり、勝利の獲得が如何に難く且如何に夥しき流血と悲慘と犧牲を伴ふかを、よく知つてゐるからである。併し余の總ての提議は排斥を蒙つた。その時以來余は、獨逸側の如何なる和平提議も、チャーチルとそのギャング共からは、所詮獨逸の弱味を示すものとしか受取られない事を學んだ。この理由から余はこれ以上の和平工作を斷念した。今こそ來るべき幾世紀の爲に世界史的決定を戰ひ拔かねばならぬと云ふことを余は固く確信してゐる。

戰爭擴大防止の爲我が方から斯る處置に出ることは甚だ恥づべきことと感じたが、余は一九三九年余の大臣をモスクワに派遣した。余がこれを敢てしたのは、この措置が幾百萬の人々の利益と信じたからである。然るにソ聯邦は我等を裏切らんとして、我が東部國境方面の戰備を進めた。故に余は止むを得ず防衛措置を講ぜざるを得なかつたが、差當り之を嚴格な防備のみに止めた。その間英國は西部戰線で策動し、また東方では我々は戰爭勃發の局面に迫りつつあつた。

モロトフは我等に次の四箇條の提案を行つた。

一、ソ聯による芬蘭の解消に獨逸が同意すること。

二、羅馬尼に與へた保障は、同國を露西亞に對して保護せんとするものなりやとの質問を余に對してなしたこと。

三、ダーダネルス海峽にソ聯が軍事基地を要求したこと。

四、モロトフは勃牙利に軍事基地を要求し、また同國を露國保障圏に編入すること

であつた。言ふ迄もなく余は斯る要求に同意し得ない。

本年五月にはソ聯が最初の機會に於て獨逸への侵入を企圖しつつあることに、一點疑問の餘地がなかつた。右の理由により余は機先を制したのである。この世界史的意義を有する大戰爭に於て、六月廿二日以降一切の作戰は悉く計畫通り進行した。獨逸軍總司部は一秒時たりともそのイニシャチーブ（創意）を失はなかつた。

我々が犯したたつた一つの過失は、敵が獨逸を目標に整へてゐた尨大な戰備と、我々が直面してゐた危險が如何に大きなものであるかに就て、正確な認識を缺いたと云ふことである。余は今日これを公言して憚らない。何となれば余は、敵が今や大打擊を蒙つて再び起つ能はざることをよく知つてゐるからである。斯かる大危險を除き得たことは、偏に我が將兵の勇氣と我等の事業に參加した總ての人達の犧牲の精神とに負ふものである。全歐洲が初めて蹶起したのである。北では芬蘭が奮鬪しつつある。南では羅馬尼が武器を執つて起つた。この事實を見れば、我が軍が現に戰ひつつある北氷洋から黑海に至る迄の戰線の尨大さが偲ばれ

る。我が軍の戰列には芬蘭、伊太利、匈牙利、羅馬尼、スロヴキヤの勇士も加はつて居り、更にクロアチヤ人も戰線に響ひ、西班牙人も征戰の途上にある。白耳義、和蘭、丁抹、諸威の各國人や佛蘭西人までが反共戰に參加してゐる。

英國流の言分では、我々は過去三ケ月間に絕えず敗け續けてゐた筈である。併し我々は現在スモレンスクの東方及びレニングラードの前面即ち國境から一千キロの彼方に達し、更に黑海沿岸及びクリミヤ半島に到達した。ソ聯兵は斷じてライン河へは來て居らぬ。今次の戰爭が如何に大規模であるかは次の數字により知ることが出來る。即ち既に二百五十萬のソ聯兵が捕虜となり、鹵獲又は破壞された砲は二萬三千門、一萬八千輛以上の戰車が擴座又は鹵獲され、敵の喪失した飛行機は二萬四千五百機に達した。我が戰線の背面は現在獨逸の二倍、英國の四倍の面積を有し、獨逸兵は執れも八百乃至一千キロを踏破した譯である。

今や我が將兵は、所謂ソ聯の樂園とはどんなものであるかを目擊することが出來た。全樂園は露西亞人の生活水準を犧牲として建設せられた、宏大な兵器工廠以外の何物でもない。それは歐羅巴に抗する爲の武器工場である。この殘忍にして獸性を帶びた敵に對し我が兵士は、前代未聞の大戰果を收めた。余はこの軍隊の英雄的行爲を表彰すべき言葉を知らない。某々師團は初夏以來、二千五百乃至三千キロの長途を徒步行軍した。余は我が敵の勇氣を過小評價するものではない、唯我が兵士の功績を强調するのみである。我が兵士は彼等の能力以上の事を成し遂げた。そして前線と銃後とを問はず、今次の戰勝に協力した人々が悉くまた左樣である。

現在我々が占領保有する地域は、戰線の背後に於て既に遂行した事業と共に、前線の勝利と同じく非常に

尨大なものである。二萬五千キロ以上のソ聯鐵道は復舊され、一萬五千キロ以上の軌道は獨逸鐵道の軌間に改修された。

以上余は諸君に我が將兵の働き振りを簡單に述べた。余はこの機會に祖國からのすばらしい武器に對する前線の感謝を傳へずには居られぬ。前大戰に反して今度は、有り餘るほど戰線へ送られた彈藥についても感謝を述べたい。我等が持つてゐる彈藥を以て擊破し得ぬ敵はない。諸君は他の諸國に大工場が建てられてゐる事を耳にしたであらう。併し諸君は今日では、全歐洲が我等の勝利の爲に働いてゐることを想起すべきだ。我々の言はんと欲することは資本の總額ではなく、我々が百パーセント動員してゐる勞働力についてである。今次の戰爭が他日勝利を以て終るならば、それは國内戰線にある幾百萬の產業戰士と協力して贏ち得た我が軍將兵の賜物である。この戰爭が他日勝利を以て終るならば、余は前よりも一層熱狂的な國民社會主義者となつて歸還するであらう。余は今次の戰爭の中から、我が昔の儘の黨綱領を提げて歸還するであらう。この綱領の實行は、今こそ余が嘗て起草した時よりも遙かに必要であり、遙かに重要であると思ふ。』

獨土經濟協定の成立

過般來敵味方及び關係諸國の注意と關心を集めた獨逸、土耳古兩國間の通商協定は、難航の末漸く本月九日アンカラに於て調印を見た。土耳古側を代表して外相サラコーグル、全權大使ネマン・メネメンチオグル、獨逸側を代表してフォン・パーペン大使及びクロディウス公使が之に調

印した。本條約の成立により獨土兩國間に、一九四三年三月三十日迄の間、年額各二億マルクに上る兩國商品の相互交換が約束されたのである。獨逸側より兵器、各種工業製品、就中鐵製品、機械等を供給し、土耳古側からは綿花、煙草、干果、油（主にオリーヴ油）及び鑛石類を輸出する筈である。

忌憚なき表現を用ひれば、土耳古は目下英ソと獨逸との間に引張り凧となつてゐる。而も土耳古はこの間に處して法螺ケ嶽をきめ込んで、ひたすら嚴正中立を守るに汲々としてゐる。土耳古は一九三九年十月十九日調印の英佛土三國相互援助條約により、英國とは今猶表面上同盟關係にある。ソ聯は本來土耳古の假想敵ではあるが、ケーマル・アタチュルクの新土耳古國建設を援助して以來、概して良好の關係を持續してゐる。ダーダネルス、ボスポラス兩海峽を制御し、コンスタンチノープルに君臨することは、帝政露西亞帝國主義の野望であり憧憬であつた。この關心はソ聯になつても少しも變りがない。海峽の主人公土耳古は、今日迄西歐諸國の後援によつて海峽の閉鎖を守り通して來た。一九二三年のローザンヌ會議に於て一度、海峽の武備を撤廢させられた土耳古は、モントルーの條約によつて自主的海峽防衛權を恢復して今日に至つたのである。

ソ聯が今猶虎視眈々として海峽へ進出の機會を狙つてゐることは、ヒットラー總統がソ聯に對して宣戰の當時暴露したモロトフ會談の內容から察することが出來る。然るに今や形勢一變、從

來軍艦の海峽通過權を要求した英國が、之に反對して黑海の安全を要求するソ聯と手を握つたのである。これは土耳古にとつては一大關心事であらねばならぬ。

讀者の既に知悉せられる通り、土耳古はサダーバッド同盟の一員である。然るにさきにイラクは英國により、イランは英ソ兩國軍により蹂躙せられ、アフガニスタンも亦將に同一の運命に陷らんとしてゐる。土耳古たるものは唇亡びて齒寒しの感があることと思ふ。それのみならず南方のシリヤは、英國の傀儡であるド・ゴール政權の手に歸し、今や土耳古は英ソの壓迫がコーカサスより、イラン、イラク、シリヤより犇々と身邊に迫るのを感ぜずには居られない。この危機に當つて獨逸が親善の手を差延べて、先づ經濟方面から、歐洲大戰の勃發以來非常に沈滯せる土耳古の海外貿易に活を入れたことは、獨逸外交の一成功である。

一九三九年の相互援助條約成立の際英國は、六千萬磅の借款を與へて土耳古を懷柔した積りでゐた。バルカン問題が緊張した時、イーデン外相は兩三回アンカラを訪問し、土耳古が英希側に起つことを要望した。併し親英と噂さされるイスメット・イノニュ大統領すら、斯かる冒險には乘出さなかつた。英ソ側では土耳古と勃牙利との間の反感を利用して獨逸兵の勃牙利集中を報じ、伊太利軍艦の勃牙利への讓渡しと、その海峽通過要求說を傳へるなど、手を替へ品を換へて樞軸側と土耳古の離間策を講じて、殆ど寧日なき有樣である。獨逸が軍隊の土耳古通過を要請し

た云々の電報は、既に何回となく或はアンカラから、或はイスタンブールから打電されたが、その都度獨逸は、その虚報である旨を聲明してこの惡宣傳を封じた。懷柔策の無効を悟つた英國は恫喝の手に出で、兵力を國境地方へ進出させて土耳古領侵入の氣勢を示しても、老練な外交家揃ひの土耳古政府はビクともしない。苦戰十年の經驗を積んだイノニュ大統領は、英近來軍の何ものであるかを熟知してゐる。三十萬の兵力をトラキヤに駐屯させてゐながら、南方シリヤ國境附近には、僅に數箇師團を配置してゐるに過ぎない。峻嶮にして不毛なタウルスの大山脈は國の護りであり、アナトリヤの兵士はガリポリ戰の勝利者である。流刑人を先祖に有つ亂暴なアンザック兵でも、まだ世界大戰當時の慘敗を忘れてはゐまい。

土耳古が何時まで嚴正中立を守り得るかは問題である。獨逸が是非とも土耳古領土通過要請の必要を生ずるには唯二つの場合がある。その一つは今年から來年の春にかけてコーカサス作戰に出ることを必要とする場合、今一つは伊太利と協同してリビヤ方面とシリヤ方面からスエズ運河を挾擊する場合である。それが決まるまでは六月十八日の協定を基調として、獨土の國交はパーペン大使の愼重な外交振りにより、益々親善の歩調を進めるであらう。

近衛内閣の退陣と東條内閣の成立

七月十八日組閣された第三次近衛內閣は、在職僅か三ヶ月にして十月十七日辭表を闕下に捧呈したが、總辭職の理由としては『閣內不統一』のためと發表されただけであつた。翌十八日東條英機大將は大命を奉じて組閣を完了した。主なる閣員は首相が陸相と內相を兼任し、東鄕茂德大使が外相及び拓相、賀屋興宣氏が藏相、島田繁太郎大將が海相となり、寺島健海軍中將が遞相及び鐵相を兼ね、岸信介氏が商工相に新任、岩村法相、橋田文相、井野農相、小泉厚生相、鈴木國務大臣兼企畫院總裁等は孰れも留任、星野直樹氏は內閣書記官長、谷正之氏は情報局總裁に親任せられて、鮮かな組閣振りを示した。滿支を始め樞軸側の新內閣に對する氣受の良いのに引換へて、英米兩陣營では突然の政變に意外の面持である。日本の政情は解らぬと云ふのが屢々外國使臣の口から洩れる嘆聲であるが、今次の政變でも聊か鳩が豆鐵砲を喰つた觀がある。

東條新首相は就任劈頭の第一聲として次の聲明を發した。

『支那事變を完遂し、大東亞共榮圈を確立して世界平和に寄與するは帝國不動の國是なり。今や未曾有の重大政局に臨む政府は、外いよいよ盟邦との好誼を厚くし、內ますます國防國家體制を完備し、御稜威の下舉國一體聖業達成に邁進せんことを期す。』

而して國民は二面外交の廢棄と、政戰兩略の一致につき、多大の期待を新內閣に懸けてゐるのである。

『鐵石の意志と實行』とにより、高度國防國家體制の確立に邁進すると云ふ新内閣の宣言は、反樞軸國の當局に對してある强い衝動を與へたやうだ。その第一の現はれは太平洋上の米國船舶の呼戻し乃至最も近い安全港灣への避難命令であつた。第二の措置は、今後船舶の出港には豫め國務省の許可を要することである。而して第三の發表は浦鹽經由の援ソ物資輸送路を停止して、目下結氷の爲に實用價値の皆無であるボストン＝アルハンゲルスク航路を以て、專ら之に代ゆると云ふ命令である。更にこれが一段と進んで、現在停頓中の日米交渉に新局面が打開されることになるかどうか、それは蓋し今後の見ものである。

この間大西洋上に在つては、獨逸潛水艦は封鎖區域を侵犯した米國よりの護送船團を襲擊して油槽船三隻を含む商船十隻の外に驅逐艦二隻を擊沈した。米國驅逐艦カニー號も哨戒中獨逸潛艦の攻擊により損傷を受けたが幸にして沈沒を免れた。これと前後して米國商船ロビン・ムーア號及びアドヴェンチュア號は、大西洋の南方で同じく獨潛艦の餌食となつた。洋上のガラガラ蛇を勦滅せよと敦圉いた米大統領が、度重なる被害にも拘らずまだ最後の決心をなし得ないのは、米國の輿論がまだ參戰の程度まで沸騰してゐないのにも原因するが、帝國今度の蹶變の意義と我が海軍の有する恐るべき實力が、專門家以外にも知れ渡つて、米國海軍の現勢力を以てしては、兩洋作戰の無謀であることが漸く解つて來た爲と思はれる。この想像が若し眞なれば、近衞前首相

の狙はれた東洋への戰爭不擴大の崇高な希望も、或は別の手法によつて達成せられるかも知れぬ。ソ聯の當事者が獨ソ戰大敗の影響とは云ひ條、今後援蔣の不可能を公然聲明したことをも想ひ合せて、我が國に對する反樞軸陣營の態度が、幾分變化しかけて來てゐるやに思はれるのは著者の僻目であらうか。

ソ聯政府のモスクワ拋棄

御大スターリンがクレムリンに頑張つてゐる以上まだ遷都とは言へないが、赤露政府機關の大部分は、獨軍砲彈の落下し始めたモスクワの撤退を開始した。十月十五日外交委員部は外國使臣に對して退京を要求し、我が建川大使一行は十六日モスクワのカザン停車場を出發し、一〇九六キロの道を百二時間かかつて、十月二十日漸くヴォルガ河畔のクイブイシェフに移轉した。ここはもとサマラとして知られた都會で、「ロシヤの母」と呼ばれるヴォルガの船旅をしたものには忘れ難き景勝の地である。獨逸參謀部は赤軍の捕捉殲滅を作戰目的と定めて、土地の奪取に重きを置かぬ建前であるから、モスクワやレニングラードの占領を左程急がぬが、それでも外交團の首都退去は一葉凋落して天下の秋を知るの概が深い。

米國中立法の改正

第二次ローズヴェルト政府が、一九三九年十一月四日公布した中立法は、第一次歐洲大戰への參加に懲々した米國人の、歐洲戰亂不介入の意志表示であつた。若しこの法律の尊嚴が維持されたら、今次の歐洲大戰はとつくの昔形付いてしまつたと思ふ。併しそれでは米國の軍需工業者は、寶の山を前にして指を咬えて引下らねばならぬ。これは彼等の我慢し得ざる所である。そこで第一回の中立法修正が行はれた。

一、米國船舶は交戰水域に立入るべからず

二、米國臣民にして交戰區域を旅行するものは、自己の危險に於て之を爲すものとす

三、交戰國にして米國より軍需品其の他の供給を受けんと欲するものは、現金拂ひの上自國船を以て之を運搬せよ

と云ふのが、修正の要點であつた。

戰役の進むにつれて英國の財囊は殆ど空となつたが、ジョンソン法は戰債不拂の英國に對する借款を禁じてゐるので、窮餘の一策としてレンド・リース法、即ち我が國で言ふ武器貸與法が實施せられることとなつた。金は貸せぬが物なら良いと、政府自らが自國法を潛つて援英に犯奔し

てゐるのである。こんな事ならいつそ一思ひに中立法を廢止してしまつたらよささうなものだが米國民衆の氣分はまだ參戰の決心をするまでに熱してゐないので、流石の大統領も止むを得ず、先づ中立法第四條を改めて、商船武裝を許可するやう十月九日教書を議會に送つた。この修正案は十月十七日二百五十九票對百三十八票で下院を通過して上院に回附したが、上院内の孤立派は改訂案の通過を見越して、中立法全廢案と云ふ逆手まで持出して、案の通過を妨害したが衆寡敵せず、十一月七日商船武裝禁止條項の廢止を五十票對三十七票で通過させると同時に、交戰水域立入許可案をも四十九票對三十八票で可決した。この修正案の回附により下院では、商船の交戰水域立入許可案を繞つて大論戰が沸騰し、南部の民主黨議員を中心とする與黨内の數十名は、政府に反旗を翻す形勢となつた。虚を衝かれた政府は甚だ狼狽して百方奔走、大統領は左記の書翰をレイバーン下院議長に贈つて議員の反省を求めた。

『議會が中立法修正案を承認しないことは、樞軸諸國を喜ばせることである。換言すれば、獨逸及びヒットラーの指導下にある侵略國の侵略政策とその野心はこれに依つて拍車をかけられやうし、又これ等諸國は、米國の輿論が統一されてゐないと云ふ彼等の持論が適中したものとして拍手喝采するであらう。

余が去る十月九日のメッセージで陳べた如く商船の武裝は當時緊急と認められたもので、今では米國船舶の交戰國港灣立入りがこれと同樣に必要となつて來たのである。議會が同法案を承認しなければ、その結果

英國及びソ聯は極度に失望し、食糧彈藥補給の點から彼等の地歩を弱めるであらう。』

この書翰が讀み上げられたとき、下院は深き沈默を以て之を聽いたと云ふことである。やがて投票の決果、案は二百十二票對百九十四票、即ち僅か十八票の多數で下院を通過したのが十一月十三日のことであつた。この際多數の議員は棄權した。民主黨議員五十三名が大統領の懇請に拘らず、反對投票を敢てしたことを見ても、米國輿論の動向を察することが出來る。

米大統領の惡罵

ローズヴェルト大統領が十月二十七日の海軍紀念日に行つた演說は、獨逸と共の主權者に對し惡罵を浴せ掛けた未曾有の無禮なものであつたが、世界の大政治家に不似合な堅白異同の辯と言はねばならぬ。大統領の攻擊が常軌を逸した、非常に辛辣なものであつただけに、その反響も亦非常に强く、ベルリン外務省の代辯者が大統領を歷史始まつて以來の大嘘吐き、大山師、氣狂などと、ついぞ今迄用ひなかつた激烈な言葉を以て罵り返し、大西洋を挾んで泥仕合を展開したことは、双方共に近頃稀らしい脫線振りと言はねばならぬ。

冷靜な批評者として大統領の所說を吟味すれば、獨逸側が羽目を外してカンカンに怒つたのも無理からぬ所が無いでもない。

第一ヒットラー總統が「ナチ」の宗教を世界に擴める云々の誹謗は、亞米利加一億四千のクリスチャンを目標とする煽動以外の何物でもない。國民社會主義獨逸勞働黨が政權を掌握した頃、民族意識の高揚、『血と土』の標語がユデヤ人征伐と並行して叫ばれた時、故ルーデンドルフ將軍やハウエル教授等によつて『獨逸信仰』、即ち古ゲルマン宗教の復活が主唱されたのは事實ではあるが、傳教千年の歴史をもつ基督教國獨逸には、斯かる『ノイハイデン』(新異教)を容るる餘地がなく、この運動は間もなく立消えとなつてしまつたのである。ヒットラー總統は、毎日曜お寺詣りを缺かさぬと云つたやうな形式的の基督者ではないが、その素行の端正さからも、神人合致の心境からも、立派な耶蘇教徒と云つてよい。彼の大演說は屢々上帝への敬虔な禱を以て結ばれてゐる。「ナチ」政權掌握の當時ヒットラー總統の左右には、宗教統一の理想を懷いた人達も確にあつた。「獨逸・クリスチャン」と云ふ運動がそれである。これに反抗して教壇の上からヒットラー政府の方針に盾突いた牧師、司祭共に對し、斷乎たる處置に出でたこともあつたことはあつたが、時の經つと共に新教々會(殊にバルト博士一派の改革教會)側からの反對も自然に終熄し、ロマ公教即ち天主教側も、現法皇ピオ十二世の登極以來從前の態度を清算して、ヒットラー政權に迎合して來たので、總統も宗教問題に對する從來の高壓的態度を改めて、全く超然不干涉主義を執るやうになり、さしも喧しかつた獨逸の教會問題も、一九三七年頃からは全く平靜

に歸したのである。それにも拘らずローズヴェルト大統領が、六、七年前の古傷を搔き毟つて、「ナチ」宗教宣傳云々の惡口を放送して、全世界基督教の善男善女の心膽を寒からしめんとしたのは、ヒットラーに世界制覇の野心があると强ひるよりも一層質の惡い讒言であつて、西洋の紳士が決して口にすべからざる最大級の惡口『大嘘吐き』を以て酬ひられたのも、自業自得と言はねばならぬ。この邊の消息は、我が國の一般知識階級には一寸ピンと來ない所と思ふから、敢て一言解說を試みた次第である。

南米征服の豫定地圖云々は、獨逸側の反駁にもある通り、全く惡質の煽動的虛言である。如何に南米諸國民に獨逸に對する恐怖感念を植へつける必要があるとは云へ、苟も北米合衆國の大統領ともあらう者が、斯かる陋劣なデマ手段を用ひねばならぬとは實に淺間しい次第と言はねばならぬ。ドイッチェ・アルゲマイネ・ツアイトゥング紙は二十九日本件に關して左の如く論じた。

『ローズヴェルト大統領は記者團の質問に答へて、若しこれを公表すれば、密告者の身邊に危險を及ぼす恐があると云つてゐる。密告者などありやうがないのに、そんな勿體ぶつた口實を用ひるなんて實に滑稽千萬だ。彼の所謂祕密地圖と云ふのは、多分フォーチューン誌八月號に揭載されてゐた南米地圖のことだらう。しかしローズヴェルト大統領の言分通り、今日西半球に對する脅威は確に一つ存在してゐる。但しそれは決して獨逸の脅威ではなく、實にローズヴェルト大統領自身の弗帝國主議(ダラーイムペリヤリズム)の脅威に外ならぬ。南米の覇權を

狙ふものがあるとすれば、それはヒットラーではなく、ローズヴェルト其人である。』

怪文書に關する獨逸政府の公式反駁

前掲のローズヴェルト大統領の誹謗に對し、獨逸政府はよくよく腹を据えかねたものと見え、左記の如き公式反駁を發表した。

『亞米利加合衆國大統領は十月二十八日の演說中で左の如く主張してゐる。

（一） 米國政府は、獨逸國內で獨逸政府によつて製作された一つの祕密地圖を所有してゐる。これはヒットラー總統が新に構成せんとする中米及び南米の地圖であつて、ヒットラー總統はこの地域內に存在する十四ケ國を併合して五つの隸屬國となし、之に依つて全中南米大陸をその支配下に置かんと欲してゐる。この新五箇國の內にはパナマ共和國も、パナマ運河も包含されるさうである。

（二） 米國政府は獨逸政府の作成に係る第二の文書を手に入れた。この文書は獨逸が勝利の曉には、世界に現存する凡ゆる宗教を絕滅せしめる計畫を含んでゐる。キリスト新教、キリスト舊教、マホメット教、ヒンドスタン教、佛教及びユダヤ教は、何れも同樣に撲滅せられ、教會の所有財產は沒收され、十字架その他宗教上の標識は禁止せられ、僧侶、神職等は沈默を命ぜられ、之を肯じない時は政治犯人收容所に投じて嚴罰に處する。從來の教會堂の代りには、國際的な國民社會主義による教會が開設せられ、そこでは國民社會主義政府から派遣された說教者が就職することとなる。また從來の聖書の代りにはヒットラー總統

の著書『我が闘爭』の中の文句が用ひられ、これが聖書として認められ、十字架はハーケンクロイツ及び拔身の刄に代へられ、最後に總統を神の代りとして崇めると。

獨逸政府は之に對し次の如く反駁する。

（一）獨逸國内で中、南米分割に關し獨逸政府が作成したと稱する地圖は勿論のこと、世界諸宗教の撲滅に關する文書も現存してゐない。この二件は共に最も粗野にして且拙劣な僞造である。

（二）獨逸が南米を攻略し、また世界の宗教と教會とを絶滅して、國民社會主義の教會堂を以て之に代へると云ふ主張の如きは、餘りにも荒唐無稽で、獨逸政府は之に言及するの必要を認めない。獨逸政府は上記の辯駁書を中、南米諸國を含む諸中立國に對し、了解の爲外交機關を通して通達した。』

この辯駁書で獨逸政府は、ローズヴェルト大統領によつて煽動的に利用された、九月四日の米國驅逐艦グリーヤ號事件及び十月十七日の同カニー號事件に就ても辯駁を加へて、それが獨逸側から手出しをしたのではなく、ノックス海軍長官や艦長の公式聲明の通り、米艦が水中爆雷を投じて獨逸潛水艦を攻擊した後に獨艦の反擊が行はれたことを明かにして、大統領の虚構を暴露した。

然るにその後十月三十日の夜、米國驅逐艦ルービン・ジェイムス號は、アイスランドの西方で護送任務中魚雷發射により沈沒した。獨逸の封鎖區域内に於て獨艦に對して發砲命令を受けてゐる米艦が、封鎖破りの商船護送中、獨逸潛水艦の攻擊を受けて擊沈されたことは、國際法から見

て當り前の出來事であるが、前二艦の件もあること故、嘸かし大統領が眞赤になつて怒鳴り立てると思ひの外、ぐつと押默つてしまつた。苟も米艦が獨艦に遣つつけられて百名前後の死者を出したのだから、直ちに宣戰布告と行きさうなものだが、案に相違して默り込んでしまつたのには餘程の理由が無くてはならぬと思ふ。一般の常識から言ふと

一、三選運動中の言質が祟つて、米國の輿論がまだ參戰を謳歌して居らず

二、參戰の場合に於ける日本の態度が鮮明を缺く

爲に、まだ躊躇してゐるものと見ることも出來ないことはないのである。

ミュンヘン記念祭典席上の總統演說

一九二三年十一月八日若きナチ黨の首領ヒットラーがミュンヘンに於て、バイエルン政府の顚覆を企てて一敗地に塗れたことは、讀者の知悉せられるところである。ヒットラー總統はその當時犧牲となつた戰友の死を紀念するために、毎年ロェーウェンブロイのビヤーホールに古參黨員（アルテンガルデン）と會して懷舊の一夕を過すのが、『ナチ』黨のゆかしい年中行事の一つである。本年も十一月八日開戰後三回目の記念祭典に臨むため戰地から歸つて來た總統は、例によつて長廣舌を揮つた。乾坤一擲の大決心を以て遂行した征露作戰も、美事勝利の見込が立つたので統總の意氣頗る軒昂

演說の內容も今次歐洲大戰の過去、現在並に將來に亘つて多くの示唆を與へるものがあるので左に之を採錄する。

男女黨員諸君！

獨逸國民同志諸君！

余が前回當處に於て諸君の前に立つた時には、榮譽ある大事件の一年が既に過ぎてゐたのであつた。余は一九三九年中、平和手段により必要な條約修正を行はんものと最後の努力を傾倒したが、この努力も亦歐洲を戰禍の巷となさんと欲する、國際民主々義の戰爭煽動者の爲に遂に畫餅に歸した。その時我々に課せられた最初の任務は、東方の一敵を克服することであつた。而してこれは僅か十八日間に成就したのである。

元來まだ幾らか正氣の殘つてゐる手合には、獨逸を再び屈服させる望の無いこと位は二、三週間の手並みで解りさうなものであつた。然るに彼等はそれをしなかつた許りか、反對に余が差し伸べた平和の手をにべもなく突き返したのである。それのみか余を罵詈讒謗し、剩さへ卑怯者呼ばはりをしたので、余は西方の敵を徹底的に打倒する決心を固めて、一九四〇年を迎へる外に道がなかつたのである。

我々は敵國側の不注意と饒舌のお蔭で、芬蘭救援の口實の下に諾威に對し、その實は瑞典の鑛山及び鑛石運搬鐵道に對し、奇襲を行はんと計畫中の由を知つた。その當時彼等は、我が國及び余の決斷力を豫想しなかつたのである。彼等は、余のお蔭で獨逸を逃げ出した亡命者連中に、余の人格の肖像畫を描かしたのである。（大笑ひ）その後間もなく我々は西部戰線の敵を征服し、英國をして所謂名譽ある退却を餘儀なくさ

せ、前古未曾有の大勝利を博したのである。この退却たるや、彼等の主張によれば永久に英國戰史の誇となるべきものであるさうな。余は親しくこの光榮の戰跡を視察したが、それはとてもひどい光景であつた。（大喝采）

余はそこで今一度、而もこれが最後だと云ふことを斷はつて、英國に嚮つて和平交渉の手を差し伸べ、且これ以上戰爭を繼續することは英國にとつては全然無意味であり、理智的な平和締結を阻害するものは毫も存在せず、英獨兩國間には、人工的に造り上げられたもの以外には、何等利害の對立がない旨を指摘したのである。然るに數年來英國を支配してゐる氣狂じみた泥醉者（大喝采）は、早速これを余の弱氣の新しい證據と見做した。又もや余を、將來を悲觀しこれ以上戰爭を繼續する腹の無い男と想像したのである。實際余は將來を現實通りに觀てゐた。余は總ての赫々たる榮譽の裏には犧牲のあることをも豫想し、凡ゆる方面に亘つてこの犧牲を輕減せんと欲したのである。

先づ第一に余は、我が國民の犧牲を最小限度に止めんと欲した。同時に余は戰勝者として、宥和の手を差し伸べる責任を全世界に對して持つと感じた。然しこれは自ら生命を犧牲にしたこともなく、また自國民の犧牲と密接な接觸を保たぬ人達には遂に理解されなかつたのである。

事茲に至つては兜の緒を固く締めて、獨逸國のみならず全歐洲を脅す危險から永久に我等を解放する道に足を踏み出すより外なかつたのである。

前回余がここで諸君に語つたとき、古い黨員諸君は余が昔の誰よりも優れた勝利感を以て語り得ると考へたであらう。然しながら當時余は重苦しい憂慮の念を胸に抱いてゐた。何となれば余は、この戰爭の背後に

は常に國家間の紛爭によつて生きてゐる放火犯人、即ち**國際的ユダヤ人**が潜んでゐることを知悉してゐたからである。

余はこれ等のユダヤ人が、世界の放火犯人であることを知りぬいてゐる。彼等が數年來新聞、ラジオ、映畫、演劇等の迂路を通じて、徐々に各國民を蠱毒したこと、またこの害毒が傳播し、彼等の財政及び金融取引がこの意味に於て働いたことも周知の事實である。戰爭の初期に於てある英國人共は―尤も軍需工業會社の株主だけではあるが―次の如く公言した。『今次の戰爭は少なくも三年續かねばならない。三年經たない內には止まないであらうし、又止まつてはならない』と。我々はこの危險を嘗て我が國の內政上の鬪爭に於て體驗した。然るに今やこの敵は、國外から我々に向つて戰を挑むのである。これこそ實に獨逸國民並に獨逸國家に反抗する世界聯合の鼓吹者である。

彼等は曾て波蘭を前へ押立てた。次で佛蘭西、白耳義、和蘭及び諸威を已に奉仕するべく强要した。英國は初めからその推進力であつた。然しこのユダヤ精神を最も明白な支配者と仰ぐ國、即ちユダヤ主義の最大の從僕であるサヴィエート聯邦が、いつかは我等に反對して起つであらうことは前から解り切つてゐた。我我國民社會主義者が數年に亘つて唱道し來つたことを時が證明した。ソ聯は實にその國內智識階級全部を屠殺し盡し、唯暴力によつて無產化された無神經の低級人のみが殘つてゐる國家である。そしてその上にはユダヤ政治委員―その實は奴隷所有者の尨大な組織が聳へてゐるのである。

この國內に於ても、何時か或は國家的傾向が勝利を得るのではないかと屢々疑はれたことがある。然しながらこれは、目覺たる國家觀の保持者がこの國には最早存在しないと云ふこと、及び一時この國の主人とな

つた者も、この全能のユダヤ主義の手に踊る樂器以外の何者でもないと云ふことを忘れたからである。スターリンが舞臺の上で、揚幕の前で我々に向つて立つてゐても、彼の背後にはカガノウィッチュその他のユダヤ人共がゐて、この尨大な國家を枝葉の末まで支配してゐるのである。

昨年余が當地に於て諸君に向つて語つた當時、既に最早疑ふ餘地なき或る事態の發展に關する見透しが、余の心を暗くしてゐた。我々が西部戰線に軍隊の集結を行ひつつあつた時　サヴィエート露西亞もまた東部戰線に集結を始めた。我が方では東プロシヤに只三箇師團しか置いてゐないのに、ソ聯はバルチック方面に二十二箇師を動員してゐた如き時期もあつた。そして月を閲する毎に增强されたのである。それと共に我が國の東境に於て、大規模な工事が始められたことも看過出來ない。數ヶ月ならざるに九百を下らぬ飛行場の築造が始まり、一部分の竣工を見た。如何なる目的で斯くも尨大な、一切の想像を凌駕する程のソ聯空軍の集中が行はれたかは容易に推測され得たことである。二ヶ年前迄は一寒村に過ぎなかつた處に、六萬五千人の職工を使役する大軍需工場が建設された。粘土造りの家の前に宏大な工場やゲー・ペー・ウーの廳舍が建てられた。前面は宮殿の如く、裏面には殘酷な拷問の爲の監房がある。

以上に並行して獨逸國境への軍隊の移動が陸續と開始された。露西亞内地からだけでなく、極東からも師團に次ぐに師團を以てし、遂にその數は百師となり、百二十師となり、やがて百四十師を超へ、百七十師以上となつた。

この沈痛な認識の下に余は、モロトフのベルリン訪問を求めた。諸君はベルリン會談の模樣については承知の筈である。露西亞が遲くも今秋か都合によつて、今年の夏には行動を起す決心であつたことについて

は疑ふ餘地がなかつた。モロトフは獨逸が、―余はこの點を特に言ひたいのであるが―平和裡に彼等の進路の扉を開かんことを要求した。ところが余は自分で自分の屠殺者を求める、ある種の動物の眞似をするやうな男ではない。そこで余は當時モロトフを早くベルリンから歸へした。今や賽は投げられたと云ふこと、及び我々に取つて非常な難行が最早や避け得られぬ事が明かになつた。このことはソ聯のバルカンに於ける行動によつても實證された。殊に我々が獨逸に在つて百も承知の、あの地下の陰謀によつてもよく解つたのである。やがて露西亞の動員終了を認むべき時期が到來した。モスクワと極東に於ける若干師團を除き、ソ聯の全軍は我が東境に集結された。何よりもセルビヤに於て、ソ聯の煽動により諸君がよく知つて居られる陰謀、即ち英國の密偵によつて目論まれ、ボルシェヴィッキーの手先によつて仕組まれたクーデターが勃發し、それに引續いて露國とセルビヤとの間に援助協約が締結せられたのである。當時スターリン君の確信する所では、この（バルカン）戰役は恐らく非常に我々を弱めるであらうし、間もなく武器及び資材の供給のみならず、その尨大なる軍隊に物を言はせて、舞臺の表面へ乘出し得る時機が來るだらうと云ふことであつた。だが今日余は初めて次のことを言明することが出來る。即ち我々の學び得たことはそれ以上であつた。それは一九四〇年中にロンドンに於て、英國下院の祕密會が度々行はれたと云ふことである。而てこの祕密會でチャーチル首相はウイスキーの元氣で彼の思想や希望や、果てはその確信を語つたのである。つまりソ聯がやがて英國の味方となつて進擊を開始すると云ふこと、彼がクリップス（大使）から得た確實な情報によれば、ソ聯が愈々出馬するのは精々一ヶ年か一ヶ年半後であるから英國にとつてはあと十八ヶ月の辛抱が肝心だと云ふことであつた。これであの當時不可解であつたこの連中の强氣の原因が讀めた。我々は之に關し絕

えず譯報を得て居つたのである。（喝采）余は茲に於てこれから結論を引出した。その第一は東南戰線から解放せられることである。我々が今日迄起つた總ての事態を知るに及んで、ムッソリーニに心から感謝せねばならぬ。それは彼が、一九四〇年の内にこの膿腫に鋭い針を突差して置いて呉れたことである。かくて數週間ならずして我々に加擔した歐洲諸國の協力の下に、この問題を決定的に解決し、次でクリート島をも攻略し、これによつてダーダネルス海峽の前面に閂を差込むことに成功したのである。そこで余は東方に於ける我が大敵の行動を仔細に觀察した。六月中葉となるとその徵候は益々脅威的となり、六月の後半には事態の緊迫狀態は數週或は數日を爭ふ程となつたことは、最早疑ふ餘地がなかつた。そこで余は六月二十二日を期して行動を起すべき旨を下命した。

ところで當時の情勢はどうであつたか。西部戰線はそれ自體安全であつた。だがこれに關し余は豫めこれだけは言つて置きたい。即ち我等の敵の陣には所謂天才的政治家と稱する者がゐて、彼等は、余が東方へ打つて出る勇氣を得たのは、西方に於て攻擊を受けないと解つたからであると、今になつて言つてゐるのである。（大笑ひ）これ等の天才連中に向つて余はこれだけは言ふことが出來る。諸君は余の注意深さを見損ねてゐる。余は西部に於ていつでも英人諸君のお好み次第に起てる準備を整へてゐた。諸威でも、我が獨逸の海岸でも、和蘭でも、白耳義でも、また佛蘭西でも、攻勢がとりたければ、何時でも來たまへ。來るが早いか追返してあげると。（大喝采）我々は今日これ等の沿岸地方を、一年前の狀態とはすつかり變へてしまつた。そこでは色々働いたが、總てが國民社會主義的徹底さを以て行はれたのである。

バルカンの掃蕩は完了した。北阿では我等の共同努力により、同じく堅實なる秩序を齎す事に成功した。

芬蘭は我々の側に起つことを言明した。羅馬尼も同樣である。勃牙利も同じく危險を感知した。匈牙利はこの偉大なる史的時間の到來を認識して、英雄的決意をなした。斯くて六月二十二日となつた時に、余は良心に愬へて責任を執り得ることを確信して—假令僅か數日を先んずるだけであつても—この危險に立向つたのである。

我が古き黨員諸君！この戰は眞に獨逸のみならず、全歐洲の戰であり、生るか死ぬかの戰である。諸君は我等の同盟軍を承知の筈だ。北から數へて勇敢な小英雄國民芬蘭は、又もや拔群の功績を樹てた。それに續くスロヴック人、匈牙利人、羅馬尼人の他に全歐洲の同盟軍、即ち伊太利、西班牙、クロアット、和蘭、丁抹等の義勇軍、佛蘭西及び白耳義からの義勇軍すらも我が陣營に參加した。かくて余は茲に揚言することが出來る。東部戰線では恐らく有史以來、初めて認識を同うして全歐羅巴が戰つてゐると。曾て匈奴に抗して戰つたやうに第二成吉斯汗の蒙古國家に對して。（大喝采）

この戰爭の目標は

一、敵の武力即ち敵兵力の殲滅

二、敵の軍事工業竝に給養基地の占領

であつて、制覇慾の如きは我が方にあつては毫も問題とならぬ。若し人あつて、レニングラード方面では守勢ではないかと問へば、余は即座に答へるであらう。我々はレニングラードの前面では、之を包圍する爲に必要のある間に限り攻勢を執つたが今や我々は守勢を執つてゐる。今こそ敵は圍みを突き破るべきであるが結局市内で餓死するであらう。（大喝采）余は絕對に必要ではない限り、一人でも餘計に犧牲にするを好ま

ない。若し誰かレニングラードの閂を解かんとする者があれば、余は直ちに同市の突擊を命じて一擧に之を攻略するであらう。何となれば、東プロシヤの國境からレニングラードの前面十キロの地點まで蹴破つて來た者に、何であと十キロを市中まで突入出來ぬ筈があらう。併しそれは不要である。今や同市は完全に包圍され、その救援は不可能であり、早晩我が方の手に落ちるだけである。『廢墟となつて』と云ふ人があれば余は答へるであらう。我々は都會としてのレニングラードに何等の關心も持たない。破壞せんと欲するものはレニングラードの工業中心地帶だけである。若しソ聯が同市の爆破を希ふならば、我々としては若干手間が省けると云ふものである。余は再言する、制覇慾なんかは我々にとつては問題でない。

若し誰かが『それでは今何故進擊しないのか』と訊ねたら、余は或は之に對して目下降雨、降雪期で鐵道の修理もまだ完成しないからだと答へるかも知れぬ。進擊速度を決めるのは我々であつて、あの退却速力に於て驚嘆に値する英國戰術家のお世話にはならぬ。

第二には敵の軍事工業並に給養基地の占領であるが、この場合にも我々は計畫的に事を運ぶであらう。時としては多數工場の機能を停める爲に、唯一工場を破壞すれば事足りる場合もある。余は茲にこの戰役に於ける今日迄の戰果を綜合的に述べて見たい。

捕虜の數は今や優に三百六十萬人に達した。英國側の愚者がやつて來て、右は『未確認の數字だ』と云ふならば、余は一喝して之を斥けるであらう。苟も獨逸軍部の計算には誤はない。嘗て英佛の捕虜に關する我が方の發表が正確であつた如く、この數字は極めて正確である。

若しソ聯に於ても我が國同樣戰死者一人につき戰傷者三名乃至四名を出すものとすれば、療養恢復の後再

度從軍する輕傷者を除いても、恐らく八百萬乃至一千萬人の絕對的脫落量を生ずる譯である。黨員諸君！世界の如何なる軍隊でもこの大打擊から立上ることは出來まい。ソ聯軍隊と雖もこれはむつかしいと思ふ。

この間、我が方の鹵獲した器材に至つては到底計りきれない。目下判明せるところだけでも、飛行機一萬五千、戰車二萬二千、砲二萬七千を下らない。獨逸を含めての全世界の工業を以てしても、その補充は急には出來ない。我等の民主國の工業を以てしても茲數年間には到底間に合はぬ。

余はこれから少し領土に關して述べる。我々は今迄に百六十七萬平方キロを占領した。それは佛蘭西の三乃至四倍、英本國の約五倍に當る面積である。この地域内にはソ聯の有する全工業、全原料の六割乃至七割五分が存在する。余は近日二、三の措置を講じて更に多くの資源を徐々に然し確實に遮斷する考へである。

我が軍歩兵の行軍能力は世界歴史上に燦として比類がない。勿論ダンケルクからオステンドまで行軍し、そしてオステンドからまたダンケルクへ引返すことはわけも無いことで、余も亦之を認める。然し獨逸國境からロストフ、またはクリミヤ、またはレニングラードまで行軍するとなると、途方もない距離である許りか、『勞農樂園』の道路狀態を考慮に入れる時、遙に來つるもの哉の感深きをおぼえる。余はこれ迄一度も『電擊戰』と云ふ言葉を用ゐたことがない。それは一種の囈語に過ぎない。併し敢てこの言葉をある戰役に適用せんとするならば、正しく本戰役に對して使用すべきである。ソ聯邦の如き尨大な國家が斯くも短日月間に倒潰殲滅せられたことは、史上未だ嘗てなかつた。

この勝利は、獨逸軍隊の前代未聞の行軍力と犧牲精神とにより、言語に絕する艱難を克服したことによつてのみ實現し、達成し得られたものである。而もこの戰線の背後には第二の戰線、即ちベルリン＝ロマ戰線

がある。銃後の本國の背後には全歐洲が第三戰線として控へてゐる。獨逸の敵國はその軍備計畫の雄大を誇るが、余は一向平氣である。獨逸軍事工業の過去の業蹟が爭ふべからざるものである如く、將來も亦敵を驚かす程多量の武器を產出するであらう。その場合獨逸政府が占領地域の工業を活用するであらうことに就ては、何人も疑ふに及ばぬ。

今日戰爭に從事する獨逸國民は、世界大戰當時の獨逸國民ではない。一度あつた事、必ず二度あると考へるのは、ユダヤ人の頑固頭である。余は同じ事を二度とはしない。常に何か變つた事を遣る積りだ。

我が兵士は占領地域の住民に對しては極めて行儀よく、規律嚴肅に振舞つてゐる。いや丁寧過ぎる位である。我が國防軍は斷じて婦女子に向つて暴行を働かず、また獨逸兵士による盜難、掠奪等はあり得ない。假に斯かる不法行爲があつたとすれば、本國に於けるよりも嚴罰に處することとなつてゐる。我々は占領地域の住民を保護してゐる。併し若し獨逸軍の占領に反對し、又は暗殺行爲によつて占領地域の擾亂を招來し得ると考へる不逞の徒があれば、曾て獨逸國內に於ける我等の敵が、我々を威嚇し得ると考へてゐた時分に之を粉碎した如く、國民社會主義的徹底さを以て彼等を撃滅するであらう。またある一部では獨逸國內に、暴動や革命が起ればよいがと莫迦げた希望を抱くものもあるやうだが、革命を起し得る分子は最早や國內には居ない。彼等は餘程以前から英國に、米國に、また加奈陀にゐるのであつて、我々の間にはゐない。それでも我が戰線を破壞し得ると自惚れるものがあれば、余は暫く監視した後すぐ片づけてしまうであらう。どんなに擬裝しても、假令宗教的假面を被つても駄目だ。何度も言つたやうに十一月十八日は二度とは來ない。

余は余の生涯に於て屢々豫言をした。人は余を嘲つたが余の豫言は常に的中した。余は今一度豫言者にな

りたい。

獨逸は一九一八年十一月を決して再び繰返さないであらう。總てのことが考へ得られる。併し只一つ、獨逸が降服すると云ふことは有り得ない。若し我々の敵が『よろしい、それなら戰爭は一九四二年まで續きますぞ』と云ふならば、彼等は好きな程續かせたらよい。最後の大隊として戰場に殘るものは獨逸軍である。

余を何とかして威さうと思つてもそれは無駄である。諸君の熟知せられる通り、余は或る問題に就て屢々幾日も幾月も、また幾年も默つてゐることがある。これは余がその問題を念頭に懸けないとか、之を認識しないと云ふのではない。殊に今日亞米利加から絶えず獨逸に向つて新しい恫喝が發せられてゐるが、余は決して之を閑却してゐない。余は既に一年前に言明してゐる。苟も武器または人間を殺す爲に使用せられる物資を積む船は、どんな船でも雷擊すると。（大喝采）

曾て波蘭の戰爭挑發に責任を有ち、また佛蘭西の戰爭加入を强要したことが證明され得る米國大統領ローズヴェルトが、發砲命令によつて多分我々を弱らし得るであらうと信ずるならば、余は只一つの答を同氏に呈する事が出來る。即ちローズヴェルト大統領は、獨逸船を見つけ次第發砲せよとその艦艇に命令したが、余は獨逸艦艇に向つて、米國艦艇を發見しても砲擊するな、然し攻擊されたら防禦せよと命令した。防禦しない獨逸將校は軍法會議に附せられるであらう。故に亞米利加の艦艇がローズヴェルト大統領の命令に基き發砲するならば、それは自己の危險に於て爲すものである。獨逸艦艇は防禦し、獨逸の水雷は命中するであらう。

余は獨逸專門家の力を借りて一枚の地圖を作製したと云ふが如き、笑ふに堪へた揑造と關り合ふ事に何の

興味をも持たぬ。余は一言ローズヴェルト氏に對へることが出來る。即ち余はある特定の地域に對して專門家と云ふものを有つてゐない。余の頭腦だけで充分間に合つてゐる。余を助ける爲にブレーントラストとか云ふものを要しない。余はまた地圖に書込をするやうな中學生ではない。南米は余にとつては月の世界程遠方である。實に愚にもつかぬ主張だ。

それから第二の怪文書だが、獨逸が世界中の宗教を撲滅すると云ふのだ。余は當年取つて五十二歳である。そんな兒戯に類する莫迦らしいことを考へるよりも、もつと他にすることがある。また我々の理解に從へば、獨逸國内では、『誰でも自分の好みで成佛出來る』のである。（註、フリドリヒ大王の名句 Jeder kann nach seinem Fagon selig werden.）

余は亞米利加には政府反對の演說をする教役者がゐて、兵隊にそんな說教を聽くことを禁じてゐると云ふことを讀んだ。それは我が國でも同じ事だが、只一つ違ふ所がある。即ち獨逸では新舊兩教會に政府から年年九億マルクの補助金が交付されるが、米國では一文も支給されてゐない。獨逸では教役者が信仰個條を離れて國家の根本義に干涉しない限り、その信仰の故に迫害を受けることはない。また實際そんな人も多くなかつた。大多數は今次の戰爭に於て政府をバックしてゐる。彼等は若し、今度の戰爭で獨逸が敗けたら、スターリンの保護領となつて宗教は獨逸國家の下よりも惡く取扱はれることを良く知つてゐる。要するに外部から獨逸國民に對して働き掛けやうとする凡ての試みは、兒戯に類しく笑ふべきものである。

我々の運動の成績についての最大の證人は、戰線から歸還して二十三年間に亘る共產主義の實績と、我々のそれとを比較し得る人である。彼等は國民社會主義が今日迄何を爲し來つたか、また我が方が勝利を得た

場合には、歐羅巴が怎うなるかにつき正しい判斷を與へ得るであらう。彼等は、今やこの戰爭に於て歐羅巴に對する東方よりの脅威が除かれ、且また測り知れぬ程豐饒にして、測り知れぬ程豐富な土產及び鑛物を有する東部歐羅巴を、反歐羅巴陣營の爲に動員せず、逆に歐羅巴の爲に奉仕させる我等の高遠な目標を理解してゐる。

敢て言ふが、余はこれらの事物を大所高所から見てゐる積りである。余は佛蘭西人とその國のユダヤ人、白耳義人とその國のユダヤ人、和蘭人とその國のユダヤ人とを區別してゐる。余は歐羅巴の最も豐める部分が絕へず反歐羅巴的に動員され、而も自國民に最も原始的な生活標準のみを享有させてゐる、この氣狂じみた機構の犧牲となつて、無數の人間が生活してゐることを知つてゐる。我が國の兵隊は等しく之を目擊したのである。豐饒無邊、あらゆる天惠が地から涌出る國、他國に比べて何分の一かの勞働をすれば何倍かの收益のある國でありながら、人民は自己の所有物とては鍋釜一つも持たず、陰慘な茅舍の裡に棲息し、不潔極まる悲慘な生活を營んでゐる。この方面からの危險が消滅するのみならず、豐饒なこの土地が歐羅巴の爲に利用されるやうになれば、それこそ我等の歐羅巴の救濟である。そして尊敬すべきウィルキー君が、ベルリンかワシントンか、何れか一つが將來世界の首府となる可能性があると言はれるなら、余は唯ベルリンは世界の首都たる野心を持たず、ワシントンも決してなれないだらうと答へるのみである。

東方に於ける我等の大目的は、要するに我等が運動を起した所のあの單純質實は黨綱領の最後の實現に外ならぬ。この綱領たるや、人間の勤勞、從つて人間そのものを行爲、努力竝に目的達成の中心點に押進めるものである。我々はその當時、黃金と資本の概念の代りに、人間、民族及び勤勞の概念を强調したが、今日

再びこれ等の概念に代ふるに人間及びその勤勞を以てする。我々はこれを以て現在我等と提携しつつある諸國、就中我等と同じ苦難、否獨逸よりも遙にひどい困難を忍びつつある國伊太利を包擁せんとするものである。余はムッソリーニ首相が、今次の戰爭を我等と同じく感じてゐることを知つてゐる。彼の國は貧しく人口過剩である。常に割が惡るく、日々の糧を何處から得んかと苦心してゐる。彼は余と血盟を結んだ。この血盟こそは世界の如何なる威力も之を破ることが出來ない。（大喝采）

二つの革命が、時を異にし、形態を異にして、而も同じ目的を以て始められた。この兩革命は手を携へてその目的を貫徹するであらう。今や更に多數の歐洲諸國が我々の側に加はつた。殆ど全部の東南歐羅巴が我等の陣營に入り、更に大部分の歐羅巴地域も、國家的ではなくとも、精神的に我々の戰線に加擔してゐる。從て我々國民社會主義者は今日最早孤立で戰つてはゐない。强力なる歐羅巴共同戰線の中にある。そして本年末には、この歐羅巴戰線により最大危險が芟除されたと確言し得ると思ふ。今や將來一千年に亘る歐洲の運命が決定されんとしてゐることは何等疑問を挾む餘地がない。我々一同は斯かる時代を開拓したことを幸福とする。古くからの友人諸君！　諸君もこれを誇とすることが出來る。我々は今年は今迄よりも更に大なる誇を以て昔の戰友達の墓前に赴くことが出來る。昨年我々は舊友の墓前に立つて聊か忸怩たるものがあつた。我々は赤色戰線に對して戰はなかつた。運命に餘儀なくされて彼等と停戰協定を結んだ。余は正直にその休戰を守つた。併し先方はこの義務からの解放を求めた。一九一八年我々は一敗地に塗れた。當時我が國は戰死者二百萬を犧牲に供げ七百五十萬の負傷者を出したに拘らず、國内に勃發した革命の狂氣沙汰により勝利を奪はれたのである。しかしそれはこの劇の發端であり、初幕に過ぎなかつた。第二幕と終幕とは目下

盛に書かれてゐる最中である。今度こそ我々は前に奪はれたものを取り返すであらう。一點また一點、一畫また一畫、總ての項目を計算書に列べて領收する積りである。（大喝采）かくて我々は欣然大戰戰死者の墓前に詣でて、『戰友よ、諸君の死は犬死ではなかつた』と述べ得る時がやがて來るであらう。嘗て將軍閣（註、ミュンヘン蹶起の際の殉黨者を葬る）前に言明したことを、我々は今十倍の權利を以て世界大戰勇士の墓前に告げることが出來る。

『戰友諸君！　諸君は矢つ張り勝つたのだ』と。

防共協定の延長と擴大

一九三六年卽ち昭和十一年十一月二十五日、日獨兩國間に締結された共產インターナショナルに對する協定、卽ちアンチコンミンテル・パクトと稱せられる所謂防共協定は、本年十一月二十五日を以て滿五箇年の期間滿了となるので、同協定第三條に基き、今後の方針につき各締盟國間に協議中のところ、本協定の效力を更に五ケ年延長することに決定、二十五日ベルリンに於て加盟諸國の外交代表者間に正式署名調印を見た。

本協定が嘗て日獨兩國間に成立を見た後、翌年十一月には伊太利が之に參加し、次で昭和十四年二月滿洲國及び匈牙利、同年三月西班牙がそれぞれ加はつて參加國は六ケ國に及んでゐた。尤

も本協約は一九三八年卽ち昭和十三年八月二十三日獨ソ間に調印を見た獨ソ不侵略條約により、殆ど空文となつてゐたが、反共十字軍の進展に伴ひ局面轉回、再び存在の意義を恢復した。されば今回の期間延長に關する調印を機會に、羅馬尼、勃牙利、芬蘭、スロヴァキヤ、クロアチヤ、丁抹及び中華民國國民政府の七箇國が、新に之に加盟することとなり、ヒットラー總統臨席の下に、總統官邸で左記新議定書の調印を了つた。

議定書

大日本帝國政府、獨逸國政府及び伊太利王國政府竝に匈牙利王國政府、滿洲帝國政府及び西班牙國政府は、共產インターナショナル活動に對する防衛のため、右諸國政府が締結したる協定の最も效果ありしことを認め、且右諸國の一致せる利害が又更に右共同の敵に對する其の緊密なる協力を要求することを確信し、該協定の有效期間を延長することに決し、この目的のため左の諸規定を協定せり

第一條　千九百三十六年十一月二十五日の協定及び附屬議定書竝に千九百三十七年十一月六日の議定書により且匈牙利國が千九百三十九年二月二十四日の議定書により、滿洲國が千九百三十九年二月二十四日の議定書により、及び西班牙國が千九百三十九年三月二十七日の議定書により參加したる共產インターナショナルに對する協定は千九百四十一年十一月二十五日より五年間延長せらるべし

第二條　共產インターナショナルに對する協定の原署名國としての大日本帝國政府、獨逸國政府及び伊太

利王國政府の勸誘により、右協定に參加せんとする諸國は、その參加宣言を文書をもつて獨逸國政府に通達すべく獨逸國政府はこれが受領を他の締約國政府に通達すべし、右參加は獨逸國政府が參加宣言を受領したる日より效力を生ずべし

第三條　本議定書は日本文、獨逸文及び伊太利文を以て作成せられ、その各本文を以て正文とす、本議定書は署名の日より實施せらるべし

締約國は第一條に規定する五年の期間滿了前、適當の時期において爾後における其の協力の態樣に付諒解を受くべし右證據として下名は各本國政府より正當の委任を受け本議定書に署名調印せり

なほ本協約調印者は、日本帝國を代表して大嶋大使、獨逸代表フォン・リッペントロップ外相、伊太利チヤノ外相、匈牙利パルドッシー外相、西班牙スネル外相、芬蘭ウィッティッグ外相、勃牙利のボボフ外相、丁抹のスカウェニウス外相、クロアチヤのラルコヴィッチ外相、スロヴァキヤのツカ首相、羅馬尼のミカエル・アントネスコ副總理、滿洲國の呂宣文氏等であつた。式の順序として舊締盟國日、獨、伊、滿、匈、西六箇國全權が先づ新議定書に調印し、第二條の規定に基き羅馬尼、勃牙利、芬蘭、スロヴァキヤ、クロアチヤ及び丁抹が之に參加したのである。中華民國政府の參加意志表示は、同國使臣未着の故を以て、リッペントロップ獨外相が南京政府外交部長褚民恒よりの電報を朗讀して之に代へた。

かくて本協約の成立により、世界に防共協定加盟の十三箇國と、ソ聯及びその同盟者英米兩國との二陣營が明かに對立することになつたのである。從つて三國同盟の功過論を繞つての日本の態度に關する反樞軸側の揣摩臆測は、やがて消え失せることと信ずる。

英國芬、匈、羅三國に宣戰す

英國政府は十二月一日芬蘭、匈牙利、羅馬尼の三國政府に對し、五日午後零時三十分迄の期限を附したる最後通牒を送り、ソ聯との停戰及び撤兵を要求し、三國政府は孰れもその要請を拒絶したので、英國はこれ等の三國政府との外交關係を斷ち、交戰狀態に入つたのである。

これより先、ソ芬間の交戰が獨軍援助の下に芬蘭軍の勝利に歸し、芬蘭が一九四〇年三月十二日の芬ソ媾和條約に基き、ソ聯へ割讓した失地を實力を以て恢復した八月中旬頃、ソ聯から米國を介して單獨媾和を申込んだ樣子である。この事はその當時祕密にされてゐたが、援ソに熱中する英米兩國にとつては、芬ソ間の平和の克復は、ムルマンスクを經、白海を通じての援ソ物資の輸送にとつて何よりも望ましい事なので、兩國政府は或は威し或は嫌し、外交の祕術を盡して芬蘭政府を動かさんと努力したのにも拘らず、芬蘭政府は毅然として凡ゆる好餌を斥け、芬蘭百年の自由と安全を確保するまでは、盟邦獨逸と共に戰を停めぬ旨を明言した。米國大統領の單獨媾

和勸告に對するヘルシンキ政府の回答文は、曩にボルシェヴィズムの侵略に對して敢闘した弱小國芬蘭に對して、多大の同情を示した米國政府が、今や袂を翻へして共産ソ聯の代辯者を以て自ら任ずる豹變振りを痛擊した快哉の文章であるが、長文の爲掲載し得ざることを甚だ遺憾に思ふ。小國と蔑つて面子をひん剝かれた米國は、まだ表面上は中立國なので、道理の前には手の打ちやうもなく、遂に英國をして最後通牒を發せしめ、序に匈牙利及び羅馬尼を卷添にしたものである。

日本帝國戰を米英に宣す

昭和十六年十二月八日。憂鬱なりし隱忍自重の八ヶ月。來るべきものが遂に來た。歐洲大戰は世界大戰となつた。戰を欲したローズヴェルトは之を得た。時維十二月七日午前七時三十分、（日本時間八日午前三時三十分）眞珠灣頭轟然たる一發の爆音は、白堊宮裡の人を茫然自失させたと共に、一億同胞の溜飲を一齊に下した。國民は擧つて萬歲を叫んだ。

あくまで平和愛好の我が國の態度を經濟斷交の重壓に喘ぐ弱腰と誤認し、黴の生へた九ヶ國條約、不戰條約、果ては門戸開放、機會均等など前世紀の原則論を持出して、何處までも我が國聖戰の目的を否認せんとする頑迷不靈の態度に對して勘忍袋の緒が遂に切れたのである。大本營陸

海軍部は、十二月八日午前六時『帝國陸海軍は本八日未明西太平洋に於て米英軍と戰鬪狀態に入れる』旨を發表した。畏くも　天皇陛下には同午前十一時四十分亞米利加合衆國竝に英吉利帝國に對する宣戰の詔勅を下し賜ふた。何たる感激！　何たる歡喜！　日、米英戰爭を叙べることは本書の目的外である。よつて茲に謹んで詔書を拜寫して本篇の結びとする。

詔　書

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル大日本帝國天皇ハ昭ニ忠誠勇武ナル汝有衆ニ示ス

朕茲ニ米國及英國ニ對シテ戰ヲ宣ス　朕カ陸海將兵ハ全力ヲ奮テ交戰ニ從事シ朕カ百僚有司ハ勵精職務ヲ奉行シ朕カ衆庶ハ各々其ノ本分ヲ盡シ億兆一心國家ノ總力ヲ擧ケテ征戰ノ目的ヲ達成スルニ遺算ナカラムコトヲ期セヨ

抑々東亞ノ安定ヲ確保シ以テ世界ノ平和ニ寄與スルハ丕顯ナル皇祖考丕承ナル皇考ノ作述セル遠猷ニシテ朕カ拳々措カサル所而シテ列國トノ交誼ヲ篤クシ萬邦共榮ノ樂ヲ偕ニスルハ之亦帝國カ常ニ國交ノ要義ト爲ス所ナリ　今ヤ不幸ニシテ米英兩國ト釁端ヲ開クニ至ル　洵ニ已ムヲ得サルモノアリ　豈朕カ志ナラムヤ　中華民國政府曩ニ帝國ノ眞意

ヲ解セス　濫ニ事ヲ構ヘテ東亞ノ平和ヲ攪亂シ遂ニ帝國ヲシテ干戈ヲ執ルニ至ラシメ茲ニ四年有餘ヲ經タリ　幸ニ國民政府更新スルアリ　帝國ハ之ト善隣ノ誼ヲ結ヒ相提携スルニ至レルモ重慶ニ殘存スル政權ハ米英ノ庇蔭ヲ恃ミテ兄弟尙未タ牆ニ相鬩クヲ悛メス米英兩國ハ殘存政權ヲ支援シテ東亞ノ禍亂ヲ助長シ平和ノ美名ニ匿レテ東洋制覇ノ非望ヲ逞ウセムトス　剩ヘ與國ヲ誘ヒ帝國ノ周邊ニ於テ武備ヲ增强シテ我ニ挑戰シ更ニ帝國ノ平和的通商ニ有ラユル妨害ヲ與ヘ遂ニ經濟斷交ヲ敢テシ帝國ノ生存ニ重大ナル脅威ヲ加フ　朕ハ政府ヲシテ事態ヲ平和ノ裡ニ回復セシメムトシ隱忍久シキニ彌リタルモ彼ハ毫モ交讓ノ精神ナク徒ニ時局ノ解決ヲ遷延セシメテ此ノ間却ツテ益々經濟上軍事上ノ脅威ヲ增大シ以テ我ヲ屈從セシメムトス　斯ノ如クニシテ推移セムカ東亞安定ニ關スル帝國積年ノ努力ハ悉ク水泡ニ歸シ帝國ノ存立亦正ニ危殆ニ瀕セリ事既ニ此ニ至ル　帝國ハ今ヤ自存自衛ノ爲蹶然起ツテ一切ノ障礙ヲ破碎スルノ外ナキナリ

皇祖皇宗ノ神靈上ニ在リ朕ハ汝有衆ノ忠誠勇武ニ信倚シ祖宗ノ遺業ヲ恢弘シ速ニ禍根ヲ芟除シテ東亞永遠ノ平和ヲ確立シ以テ帝國ノ光榮ヲ保全セムコトヲ期ス

御名御璽

昭和十六年十二月八日

各大臣副署

日獨伊間の單獨不媾和協定と獨伊の對米參戰

前章を以て本政治篇を終らんとしたが、更に一章を追加する必要が起つた。それは十二月十一日午前十一時（日本時間午後六時）ベルリンに於て、帝國を代表する大嶋大使と、獨逸國を代表するリッペントロップ外相竝に伊太利王國を代表するアルフィエリ大使との間に締結せられた對米英共同作戰、單獨不媾和及び新秩序建設協力を內容とする、日獨伊三國間の協定である。その全文は左の通りである。

協定全文

亞米利加合衆國及英國に對する共同の戰爭が完遂せらるるまでは干戈を收めざるの確乎不動の決意を以て大日本帝國政府、獨逸國政府及伊太利國政府は左の諸規定を協定せり

第一條　日本國、獨逸國及伊太利國は亞米利加合衆國及英國に依り强制せられたる戰爭をその執り得る一切の强力手段を以て勝利に終る迄遂行すべし

第二條　日本國、獨逸國及伊太利國は相互の完全なる諒解に依るに非ざれば亞米利加合衆國及英國の何れ

とも休戰または媾和を爲さざるべきことを約す

第三條　日本國、獨逸國及伊太利國は戰爭を勝利を以て終結したる後においてもまた千九百四十年九月二十七日その締結したる三國條約の意義における公正なる新秩序招來のため最も密接に協力すべし

第四條　本協定は署名と同時に實施せらるべく且つ千九百四十年九月二十七日の三國條約と同一期間有效たるべし。締約國は右有效期間の滿了前適當なる時期において爾後における本協定第三條に規定せられたる協力の態樣に附諒解を遂ぐべし

昨年九月二十七日に締結された日獨伊の三國同盟條約は、本協定の成立によつて初めて完璧なものとなつたといふべく、本協定の成立が、現在の世界戰に於て如何に重要な意義を有するかは、贅言を要しないであらう。

十二月八日未明、疾風迅雷の勢を以てハワイ眞珠灣の米海軍基地を空襲した我が海軍航空隊の精鋭は、戰艦ウェストヴァージニヤ外四隻及び巡洋艦二隻を擊沈し、戰艦三隻及び巡洋艦二隻を大破し、戰艦一隻及び巡洋艦四隻を中破せしめ、十日にはマレー半島東方海上に於て英の新造戰艦プリンス・オブ・ウェールズ及び巡洋戰艦レパルズを擊沈したる外、陸兵をマレー半島及びフィリッピンのルズン島に上陸せしめ、また西太平洋上の要地グワム島を占領したる報道は、我が國民を狂喜せしめたと同時に、全世界の紅毛人を驚倒せしめた。强豪獨逸空軍が二年越しに能は

さりし飛行機による戰艦の爆沈を、我が海の荒鷲は尋常茶飯事の如く遣つてのけたのである。交戰僅に四日、西南太平洋の形勢は俄然一變してしまつた。香港、フィリッピンの征服、マレー半島、シンガポール軍港の占領は今や確實に時の問題である。敢てビルマルートを塞がずとも、援蔣物資を運ぶ敵船は、最早やラングーンへ入港する勇氣を持つまい。他人の世話どころではない。今や自分のお倉に火が附きかけたのである。蘭印の石油を日本に賣らぬとか、ゴムや錫の供給可能、不可能などの問題ではない。惡くすると大英植民帝國の屋臺骨の瓦解までに及ぶ累卵の形勢を惹起したのである。鬼面人を嚇せば日本は忽ち叩頭すると潛上した白堊宮裡の人の認識不足は、大英國の頭上に古今未曾有の國難を招來したのである。歐洲大戰の使嗾者であり、教唆者であるローズヴェルト大統領は、自分の作つた苦汁を滿喫せねばならぬ破目となつた。やがて佛印との間にも共同軍事協定が成立し、泰國とも同盟の約が結ばれ、大東亞共榮圏確立の基礎も定つた。

微弱なる海軍力を擁して英國の海上封鎖を破るに苦心慘憺、渾身の努力を盡してゐるヒットラー、ムッソリーニの兩雄は、遙かに日東無敵海軍の雄姿を望んで如何に歡喜したことであらう。傲慢無禮極まる米大統領の發砲命令に對しても、これ迄回避の態度を執つて、米の參戰を挑發せざらんことをこれ勉めてゐたヒットラー總統が、この機に乘じ傲然として米國代理大使に交戰狀

態の存在を通告し、クノル・オペルに召集した獨國會に臨んで對米宣戰を宣言したことは理の當然とは云へ、世の中は三日見ぬ間の櫻哉の感深きものがある。ロマ、ヴェニチヤ宮の露臺から民衆に向つて感激の大獅子吼をなしたムッソリーニ首相の胸からも、大きな石が墜ちた事と思ふ。この次に來る快報は、連戰連敗に疲勞困憊を極めるソ聯の降伏か。私は市井の一小臣民として茲に深く神明の加護と　天皇陛下の御稜威を感謝し、忠勇なる帝國海陸軍將士の武運長久を禱つて本篇の筆を擱く光榮をもつものである。

ヒットラー總統の對米宣戰演說

十二月八日、帝國は米英に對して宣戰を布告した。この吉報に續いて傳へられたハワイ眞珠灣の劃期的大勝利と、マレー半島沖の英東洋艦隊主力艦全滅の快報は、獨逸官民を驚嘆と感激と狂喜の坩堝に投じた。嚴寒の爲とは言ひながら、東部戰線の停戰後退に腐つてゐた樞軸側は、定めし蘇生の思ひがしたことと想ふ。ヒットラー總統は十二月十一日、ベルリン駐在の米國代理大使に獨米間に交戰狀態の存在を通告すると共に、國會を召集して二時間に亘る大演說を行つて『戰爭の責任はローズヴェルトにあり』と彈劾した。この演說は當時我が國にも中繼放送されたが、

敵性國家の電波妨害の爲めか充分に聽き取れなかつた。その內全文が到來したので、左にその拙譯を追加採錄することとした。

獨逸國會議員諸君！

世界歷史的事件の頻發した一年は將に終りを告げんとしてゐる。そして最大の決定を見るべき年は目睫の間に迫つてゐる。この重大なる秋に當り、余は茲に獨逸國の代表者たる諸君に呼び掛けんとするものである。否、諸君のみならず全獨逸國民は、この回顧と共に現在及び將來下さねばならぬ決定につき知悉すべきである。一九四〇年、余の和平提案が、當時の英首相並に彼を支持し、或は左右する所の一味により再び拒絕さるるや、同年秋吾人には、今次の戰爭が理性と必要性に基づく凡ゆる理由に反して、終局迄戰ひ拔かれねばならぬものであることが明かになつた。

古き黨員諸君！ 諸君は余が終始一貫、中途半端や軟弱な決意を憎惡しつづけて來たことを豫てよく御承知の筈である。神の攝理が獨逸國民に今次の戰爭を回避し得ざるものとなし給ふたのならば、今後五百年乃至一千年に亘り獨逸のみならず歐羅巴、否全世界の歷史を決定的に創るべきこの史的鬪爭の指揮が余に委ねられたことを、余は神に感謝したいのである。獨逸國民及びその兵士が現在勤勞し奮鬪しつつあるのは、これは單に自己及びその時代のためのみではない。同時に來るべき、否、先きの先き迄の時代の人々のためでもある。神は我々に前古無比の史的大修正の完遂を委囑せられた。これが達成こそ、實に今日我々に課せられた責務である。

諸威戰の終了直後に於て、既に西部においては停戰の可能性が生じたので、獨逸統帥部は先づ第一にその

占領した政治的、戰略的及び經濟的に主要な地域を、何よりも軍事的に確保するの必要に迫られた。それがため、當時占領された諸國は爾來抵抗力を一變したのである。大規模な基地及び要塞地帶は、今やキルケネスから西班牙の國境に迄達してゐる。無數の飛行場は新設され、又遠く北部に於ては部分的には花崗岩の爆破により造られたのである。海軍基地には堅牢にして、海上からも空中からも實際上不可侵な規模を有する潛水艇防護設備が建設された。又千五百有餘の新砲臺は防衛の衝に當つてゐて、それ等は一々調査され計畫されて構築されたものである。尙道路及び鐵道網が建設され、現在では西班牙國境とペツァモ間の連絡が海上とは無關係に確保されてゐる。海陸空軍の工兵隊及び建築部隊は、トツド部隊と相提携して、ここにジーグフリード線に毫も遜色なき大工事を完成したのである。しかもその擴大强化に不眠不休の勞作が尙續けられてゐる。この歐羅巴の正面を如何なる敵の攻擊に對しても不可侵たらしむる事、これが余の斷乎たる決意である。昨冬中も繼續された防禦的性質を有するこの工事は、季節の關係に應じて攻勢的作戰により補足せられた。獨逸の海上並に海中戰鬪力は、英國及びその使役に從事する船舶及び海軍艦船に對して不斷の殲滅戰を續けた。獨逸空軍は偵察並に攻擊により敵船腹の破壞を援助し、英本土に對する無數の報復爆擊により「素晴しい戰爭」とは如何なるものであるかを、より明かに英國人に示したのである。

今次の戰爭において昨年の半ば以後、獨逸は特にその盟邦伊太利の援助を受けた。數ケ月に亘つて英國勢力の一大部分が、盟邦伊太利の双肩に重く被つてゐたのである。英軍は重戰車の極めて優勢なお蔭で、北阿において一時的の危機を招來することに成功したが、然し本年三月二十四日には早くも、ロメル將軍指揮下の少數部隊より成る獨伊聯合軍が反擊を開始したのである。四月二日にはアゲダビイアが陷落し、四日には

聯合軍はベンガジに到達、八日にはデルナに入城し、十一日にはトブルクを包圍し、十二日にはバルディアを占領した。獨逸の阿弗利加遠征部隊は、氣候の上からもこの戰場には全く不慣れ且つ不案内であつたにも拘はらず、卓越せる戰果を收めたのである。嘗て西班牙における如く、今や獨伊兩國は北阿弗利加の戰野に於て共同の敵に對し手に手を携へて闘つてゐる。

斯くの如き果敢な行動により、兩同盟國の北阿戰線が獨伊兵士の血によつて再び確保されてゐる間に、歐洲は既に怖るべき不吉の影に覆はれたのである。余は一九三九年秋緊急己むを得ざる必要に迫られて、獨ソ間の焦眉の緊張を除き、全面的平和の前提を確立せんと決心した。これは獨逸國民特にナチス黨のボルシェヴィズムに對する立場から精神的に困難ではあつたが、然し乍ら、實際上は大して困難ではなかつた。何故かと云ふに、英國が獨逸により脅威されてゐると稱し、援助條約を押つけやうとした凡ゆる國々に對しては獨逸は事實常に經濟的利害のみを目標としてゐたからである。

獨逸國會議員諸君！　余が諸君に想起して戴きたいのは、英吉利が一九三九年の初夏及び盛夏の頃に、又もや多數の國々に對して、獨逸が之に侵入してその自由を剝奪する意向を有してゐるかの如く主張し、此等諸國に援助を申し出た事である。これに對し獨逸國とその政府は、これは毫も事實に即せざる單なる想像に過ぎないものであると、良心を以て斷言し得たのである。加之、英外交に乘ぜられて戰爭が獨逸國民に强制せらるるやうな場合には、獨逸はその戰を二面作戰により極めて高價な犧牲を拂つてのみ遂行する外はないと云ふ、冷靜な軍事上の認識に達したのである。更にバルティック諸國、羅馬尼其他が、英國の援助條約採用に傾き、又これによつて彼等諸國も亦斯くの如き脅威を信ずる旨を暗示したので、獨逸の利害關係の境界

を決定することは、獨逸政府にとり權利であるのみならず同時に義務でもあつたのである。

これ等の諸國はその後間もなく、東方の脅威に對する最も强力な保障力となり得る唯一の要素は、ひとり獨逸國のみであつたといふ事を認めざるを得なかつた。これらの諸國が斯く後になつて初めてこの認識に到達したことは、獨逸の遺憾とするところである。兎に角彼等の滅亡したのは、自己の政策により獨逸との連繫を切斷し、これに代ふるに某國の援助を信賴した結果に外ならないのであつて、この某國たるや數世紀來文字通りの自己中心主義に墮し、未だ嘗て援助を與へず、寧ろ常に助力を要求した國である。

それでも獨逸は、これらの國々の運命については同情の念を禁じ得なかつた。芬蘭人の冬季戰は、吾人に苦惱と驚嘆との混同せる一種の感情を抱かしめた。驚嘆したのは、吾人自身が尙武の國民として英雄的行爲や犧牲心に對して感じ易い情操を有するがためであり、又心苦しく感じたのは、吾人が西部の脅威的敵國と東部における危機とを目前に見乍ら、當時は武力援助を爲し得ざる立場にあつたためである。而してソ聯が獨逸の政治的勢力範圍を限定して、その圈外にある諸國を事實上撲滅するの權利を捻出せんとすることが明かになつた後の獨ソ關係は、ただ單に實利追求に止まり、凡そ理性と感情と相容れざるものであつた。

獨逸はその後月を經るに從ひ、一九四〇年には早くもクレムリンの一味こそ歐羅巴を制覇し、やがて全歐を破壞せんと意識的に計畫する者であると認定するに至つた。余は獨逸がソ聯の國境に隣接せる地方に僅か數個師團の兵力を配備するに止めた當時、既にソ聯軍兵力の東部における集結の模樣を明かにした。その當時東部において、前古無比の大規模なソ聯軍の集結が實行されてゐたことは、盲人と雖も看過し得なかつた。而も脅威されてゐないものを防禦せんとするためではなく、寧ろ防禦力を最早有しないやうに見えたも

のみを攻撃せんとしたのである。而して西部における戰鬪が電擊的に終結して、モスクワの爲政者連が當にしてゐた獨逸の急速的の國力疲憊の可能性が消え失せたにも拘らず、彼等の意向は毫も變らなかつたのであつて、寧ろ彼等の攻擊の時期が單に遷延したに過ぎなかつた。彼等は恐らく一九四一年の夏こそ攻擊開始のためにも最好機であると思つたに違ひない。全歐は新らしい蒙古襲來によつて危く蹂躪されんとしたのであつた。

これと時を同じくしてチャーチル君は、對獨戰の轉回を約束した。彼は今では、一九四〇年英下院祕密會の席上、ソ聯の參戰を以て今次の戰爭を有利に繼續し終結せしむる最も重要な因子であり、又ソ聯の參戰は晩くも一九四一年には實現し、隨つて英國も亦攻勢に轉じ得るであらうと示唆した事實を卑怯にも否定してゐる。今年の春以來我々は、忠實な義務觀念を以て、人力及び物資を無盡藏に所有するかの如く見えた一大國軍の集結を注視したのである。斯くて歐羅巴は愈々暗雲に閉ざされかけた。

議員諸君！ 然らば歐羅巴とは抑々何んであるか？ 我等の大陸に就いては何等地理的定義がない。ただ民族的及び文化的定義があるに過ぎない。ウラル山脈は歐羅巴大陸の境界ではなく、唯西方の生活樣式を東方のそれと分つ線に過ぎない。

嘗てはかういふ時代があつた。それは歐羅巴とは希臘の島嶼であつて、ここへ北方の民族が侵入し來つて、爾來徐々ながら不斷に人類の世界に光明を照し始めたのであつた。この希臘人達が波斯の征服者の侵入を防いだ時には、それはその狹隘な故國を防護したのではなく、現今歐羅巴と云はれてゐるこの概念を防いだのである。

次いで歐羅巴の中心は、古代希臘から羅馬に移つた。玆に於て羅馬の思想及び羅馬の政治技巧は、希臘精神と希臘文化とに合體したのであつて、これによつて一大世界帝國が建設されたが、今日と雖もまだその勢力と創造力に到達してゐない。況んやこれを凌駕することなどは出來ないのである。然し羅馬の軍隊が阿弗利加のカルタゴ軍の侵略に抵抗し、三回も苦戰して伊太利を防護し、遂に勝利を博した時、彼等の戰つたのは、再び羅馬のためではなかつたのであつて、寧ろ希臘・羅馬的世界を抱括せる歐羅巴のためであつたのである。

新しい人類文化のこの故地へ次ぎに侵入して來たのは、遠〳〵亞細亞より襲來した民族であつた。非文化的漂泊民の怖ろしい大群が、亞細亞の奥から現今の歐羅巴大陸の中心地まで火を放ち殺戮を行ひつつ、恰も神の懲罰の如くに來襲した。

次いでカタラニアの戰野で、羅馬人と日耳曼人とが初めて協同して重大な運命戰を遂行し、源を希臘に發し、羅馬を經て今や日耳曼人にも影響を與へた一の文化を擁護したのである。

歐羅巴は成育した。古代希臘及び羅馬から西洋が生れた。而して西洋を擁護することは、數世紀に亘つてひとり羅馬人の使命のみならず　特に日耳曼人の使命であつたのである。然し乍ら西洋が希臘文化の照明を浴び、羅馬帝國の力强い傳統を感受し、且つ日耳曼人の開發によつて地域的に擴大するに從ひ、一の觀念が擴がつたのであつて、この觀念を我々は歐羅巴と呼んでゐる。獨逸皇帝がウンストルート河畔や或はレッヒの野で東方民族の侵入を防いだとか、或は阿弗利加が長年の戰を經て西班牙から擊攘されたとかいふことは枝葉の問題に過ぎない。要するにこれらは皆常に、成長せんとする歐羅巴が根本的に異つた世界に對して遂

行した鬪爭であつたのである。嘗て羅馬は歐羅巴大陸の建設と防護のために不朽の功績を樹てたが、次いで日耳曼人は今や一の民族家庭を防衛し守護するの任務を引き受けたのであつて、この家庭内に於ては相互にその政治形態及び目標について尙ほ相違し相反するものがあるが、然し全體から見れば血統上及び文化上同一でもあり、又交互に補足する單位でもある。而してこの歐羅巴から地球の他の部分へ移住するものが出た許りでなく、同時に精神的及び文化的果實が移植されたのであつて、この果實は眞理を否定せずして之を追求する意志ある者のみの知るところである。

隨つて歐羅巴は英吉利により開化されたものではなく、寧ろ歐羅巴大陸の日耳曼民族の片われがアングロサクソン及びノルマン人として、この島へ渡り、これを進步せしめたので、この進步は確かに一時的のものであつたのである。而してこれと同樣に亞米利加が歐羅巴を發見したのではなく、歐羅巴が亞米利加を發見したのである。更に亞米利加が歐羅巴から輸入しなかつたものは、よしそれがユダヤ化した混血民族にとつては歎美すべきものに見えやうとも、歐羅巴は斯くの如きものは藝術及び文化生活の墮落であつて、ユダヤ人或は黑奴の混血の遺產としか思はないのである。

獨逸國會議員諸君！　余が斯くの如く論及せざるを得ない理由は、本年の初めより次第に避くべからざるものとなり、且つ獨逸國が第一にその衝に當る義務ある今次の戰爭こそ、同樣に獨逸國及び國民の利害を超越するものであるからである。換言すれば、嘗て希臘人が波斯人に對抗し、希臘自國を防がずして寧ろ歐羅巴を防禦し、羅馬人がカルタゴ人に對し、羅馬にあらずして歐羅巴を、又羅馬人及び日耳曼人が匈奴に對し西洋にあらずして歐羅巴を、獨逸皇帝が蒙古人に對して獨逸にあらずして歐羅巴を、西班牙の勇士が阿弗利

加に對し、西班牙にあらずして歐羅巴を防護した如く、獨逸も亦目下自國のためにあらずして全歐羅巴大陸のために戰つてゐるのである。

この認識が主なる歐羅巴國民の潛在意識に、現今深く根を下ろしてゐる事は喜ぶべき徵候である。その現れが各個人の公の意見の發表たると、義勇兵の戰爭參加たるとを問はないのである。

獨逸竝に伊太利の軍隊が、本年四月六日ユーゴースラヴィア及び希臘の攻擊を敢行した時が、既に目下我我が遂行中の大戰爭の序幕であつた。何故かと云ふに、英吉利の陰謀家がこのバルカン戰爭勃發に關與してはゐたが、然し實は露西亞がその主役を演じてゐたからである。余がモロトフ氏のベルリン訪問の際同氏に對して拒絕した事を、スターリンは我々の意志に反し、革命的運動の廻り道により遂行し得るものと信じたのである。締結された諸條約などには毫も頓着せず、ボルシェヴィッキーの主權者共は彼等の企圖を擴大したのである。我々がこの新らしい革命的政權たるソ聯と友好關係を結ぶや否や、忽ち脅威的危險の逼迫が明かになつた。今次の戰爭における獨逸國防軍の業績は、一九四一年五月四日の獨逸國會に於て正しく評價された。然しその當時余は、我々が非常な速度で或る國との衝突に向つて驀進してゐると云ふ認識については殘念ながら言明を避けねばならなかつた。この國はバルカン戰の時はその集結が未だ完遂せず、又特にその當時の季節には雪解けが始まつて、滑走路の地質が弛んでゐたために、飛行基地が利用出來なかつたと云ふ理由で、未だ攻擊を開始しなかつたものである。

獨逸國會議員諸君！

余は英下院の報告を通じ、又獨逸の國境にソ聯軍が移動せる事實を看取して、東部における危機勃發の可

能性を確認したので、新規に多數の戰車、機械化及び步兵師團を增强するやうに直ちに命令を下したのである。これが前提をなしたものは、實に獨逸が人的に又物的に尙ほ充分餘力を有してゐる事であつた。議員諸君、之は余が諸君並に全獨逸國民に向つて敢て保證し得るところである。民主主義諸國に於ても、軍備については當然種々論議されてゐたが、その間に我が國民社會主義獨逸は着々と軍備を整へたのである。この點は過去も現在も何ら變らない。我々は決定が下される所ではいつでも、より多くの又より優秀な武器を携へて立向ふ事が出來る。

如何なる場合にも敵をしてわが心臟部へ初めの一擊を與へしめざることが何より肝要であると解つてゐても、さてこの場合重大決心をなすことは余にとつて極めて困難であつた。民主主義的新聞の論說記者は、余があの當時ボルシェヴィッキーの力を精確に知つてゐたならば、恐らくソ聯に對して攻擊を開始し得なかつたであらうと、今往々論じてゐるが、これは當時の情勢と、余の人となりとを見損ふも亦甚しいものと云はねばならぬ。余は戰爭を自ら求めた事はない。否、余は反對に戰爭を回避せんと凡ゆる努力を拂つたのである。若し余が戰爭の不可避を認め乍らも唯一の可能な結論を引き出すことを躊躇したとすれば、恐らく余は義務を忘れ良心に背いた行動をしたことになつたであらう。余はソ聯こそ只に獨逸國のみならず、全歐羅巴にとり致命的危險であると考へたので、出來得れば衝突勃發の數日前に自分から進擊の合圖を與へんと決心したのである。

ソ聯が攻擊の意圖を藏してゐた事實については、今や多數の確乎不拔な證據がある。同時に又我々は攻擊の行はるべき時期についても、明確に知つてゐたのである。この危險が想像以上大規模であつたことを今や

初めて知るに至つて、余は神が我等のなさねばならなかつた事を遂行する力を、時期を違へず余に與へられたことに對し、主なる神に感謝せざるを得ない。この決斷によりひとり幾千の獨逸將兵の生命が助かつた許りでなく、實に全歐羅巴の存立はこれに依つて保たれたのである。

若しソ聯の二萬以上の戰車、數百箇師團の軍隊、數萬に達する大砲が數萬の飛行機に誘導され、突如として怒濤の如く獨逸を席捲して行動を起したとするならば、恐らく歐羅巴は滅亡して了つたであらう。運命は多數の國民をしてその血の犧牲を以て機先を制せしめた。即ちボルシェヴィッキーの攻擊を喰止めさせたのである。若し獨逸が干戈を執る決心を直ちに下さなかつたならば、北歐諸國の有する地味な市民性は速に瓦解したであらう。若しも獨逸がその將兵と武器を以てこの敵に對抗して起ち上らなかつたならば、一の洪水が全歐洲に漲り、歐洲の均衡を維持すると云ふ笑ふべき英國思想を、全く魂のない馬鹿げきつた傳統の下に片づけてしまつたであらう。スロヴァキヤ人、匈牙利人及び羅馬尼人が、この歐羅巴の世界を共に擁護しなかつたならば、ボルシェヴィッキーの漂泊民は、アチラの匈奴群の如くドナウ諸州に荒れ狂ふたであらう。そしてイオニア海沿岸の原野で、今日の時世に韃靼人や蒙古人が、モントロー條約の改訂を强制するに至つたかも知れぬ。伊太利、西班牙、クロアチヤが師團を派遣しなかつたならば、新歐羅巴觀の宣言として、凡ての他の國民へも勸誘力を現はした所の一の歐羅巴擁護戰線などは、到底結成されなかつたであらう。斯る思ひ出深き認識からして、北歐並びに西歐から諸威人、丁抹人、和蘭人、フランダース人、白耳義人、尙又佛蘭西の義勇兵が馳せ參じたのである。これに依つて樞軸諸國の戰鬪は、正に文字通りの歐羅巴十字軍たる性格を有するに至つた。

この歐羅巴十字軍征戰の企畫及び遂行を語るには、今は時期尙早である。然し乍ら前古未曾有の今次の戰爭にあつては、戰鬪地域が餘りに厖大であり、又事件が餘りに複雜且重大であるため、個々の印象が打ち消され勝ちであり、又記憶に止め難い。故にここで、簡單に既成の事實を二、三指摘する事は今でも差支へないと考へる。

對ソ攻擊が開始されたのは、實に六月二十二日の黎明であつた。我が軍は奇襲に對して赤軍の對獨集結を掩護する爲に設けられたソ聯の國境陣地を、抵抗不可能な猛烈さを以つた突擊により瞬く間に占據したのである。六月二十三日には早くもグロドノを占領し、二十四日はブレスト・リトヴスクの陷落後同市の首堡を奪取し、またヴィルナ及びコヴノを攻略した。かくして六月二十六日にはデュナブルグが我が軍の手に入つた。越えて七月十日にはビヤリストックとミンスクの最初の二大包圍殲滅戰が完了したのであつて、當時我が軍は三十二萬四千人の捕虜を獲、三千三百三十二臺の戰車と千八百九門の砲を鹵獲した。七月十三日には既に殆ど凡ての重要な地點に於てスターリン線が突破されたのである。ドニエプル河の渡河が强行された。八月六日にはスモレンスクの戰鬪が終了し、捕虜三十六萬人を算し、我が軍は三千二百臺の戰車と砲三千百二十門を擊破又は鹵獲した。その後三日を經て、早くも其の他のソ聯集團軍の運命が決したのである。卽ち八月八日ウマンの戰鬪に於て再び十萬三千名を捕虜とし、戰車三百十七臺、砲一千百門を破壞又は鹵獲した。八月十七日にはニコラエフが陷落し、二十一日にはヘルソンが占領された。同日ゴメル方面の戰鬪が完了したが、其の際我が軍は捕虜八萬四千を得、戰車百四十四臺、砲八百四十八門を破壞又は鹵獲した。

八月二十一日、イルメン湖とペイプス湖間のソ聯軍諸陣地は我が軍の突破するところとなり、二十六日に

はドニエプルペトロウスクの橋頭堡が我が軍の手に歸した。同月二十八日には既に、獨軍は激戰の後レゾル及びバルチックポートに進出し、又芬蘭軍は三十日ウイブリーを占據したのである。九月八日シユリユッセルブルグが占領されるに至つて、レニングラードは南方との連絡を完全に遮斷された。十六日にはドニエプル河の橋頭堡を占據し、十八日にはポルタワが我が軍の手に落ちた。十九日には我が軍は怒濤の如くキエフの首堡に迫り同市を占領した。二十一日にはオエゼル島を占領したのである。

斯くの如き成功によつて初めて大作戰の實が熟したのである。二十七日にはキエフ附近の戰鬪が終了したが、この戰鬪に於ては捕虜六十六萬五千人に達した、彼等は蜿蜒隊伍をなして、西部へと護送されたのである。同時にこの戰鬪に於て戰車八百八十四臺、砲三千百七十八門が、包圍された敵陣地で我が軍の手に歸した。十月二日にはすでに東部戰線の中央部に於て突破戰が開始され、十一日にはアゾフ海沿岸の戰鬪は赫々たる戰果に飾られて終つたのである。その際再び捕虜十萬七千名、戰車二百十二臺、砲六百七十二門を鹵獲した。

十月十六日には獨羅聯合軍は激戰の後オデッサに入城、同十八日には十月二日に開始された東部戰線中央部に於ける突破戰が、世界史上未曾有の大勝利の裡に完了した。同戰鬪に於ては六十九萬三千名を捕虜とし戰車千二百四十二臺及び砲五百五十二門を破壞又は鹵獲したのである。又十月二十一日にはダゲ島が占領され、同月二十四日には工業中心地ハルコフを占領した。更に二十八日にはクリミヤ半島への通路を激戰後確保し、既に十一月二日には首都シンフェロポールに殺到し、十六日にはケルチュに至るまでクリミヤ半島を席捲したのである。十二月一日にはソ聯兵の捕虜總數は三百八十萬六千八百六十五名に達した。また擊破或

は鹵獲せる戰車の總數は二萬一千三百九十一臺、砲三萬二千五百四十一門、飛行機一萬七千三百二十機に上つた。又同期間内に英機二千百九十一臺をも擊墜したのである。尙ほ海軍に依つては四百十七萬六百十一噸の艦船が、空軍に依つては二百三十四萬六千百八十噸が擊沈された。その擊沈總噸數は六百五十一萬六千七百九十一噸に達した。

議員諸君！　國民諸君！

これは全く有りのままの事實であり、恐らく無味乾燥な數字であらう。然しながら余はこれが歷史、殊に我々獨逸國民の意識並に記憶からかき消されないやうに祈るものである。何故かといふに、この數字の蔭には業績と犧牲と困苦缺乏が隱されてゐるからである。獨逸國及びその盟邦數百萬の勇士が抱く、決死の覺悟と滅私奉公の精神が宿つてゐるのである。これは凡て生命と健康とを全部投げ出し、故國では殆ど想像の及ばぬ努力を拂つて獲得されたものである。遠く無限の境に進軍し、酷暑と渴に苦しみ、果てしなき泥濘の道に阻まれて殆ど絕望の淵に陷り、七、八月の酷熱、十一、十二月の冬の嵐と鬪ひながら、白海から黑海に至る不慣れな惡氣候に曝され、蟲に惱み、汚物や害蟲に苦勞し、雪や氷に凍えて、獨逸人、芬蘭人、伊太利人、スロヴァキヤ人、匈牙利人、羅馬尼人、クロアチヤ人、北部及び西部歐羅巴諸國よりの義勇兵、卽ち總括して東部戰線の兵士は戰つたのである。然し冬季に入るに及んで今やこの戰鬪行爲は自然的に停止され、夏季の到來と同時に進軍は再び續行されるであらう。

余は本日は、軍隊の名を一々擧げたり、または各司令部の功績を稱揚したりしやうとは思はない。彼等は擧つてその最善を盡したのである。然し乍ら、或る一事だけは何度でもこれを確認するのが理解あることで

あり、又正當であると考へる。即ち凡ゆる獨逸將兵の中で、最も困難な戰鬪任務に服してゐるのは、今も昔と變らず、我等が世界に誇る歩兵部隊だといふことである。

六月二十二日から十二月一日までの間に、獨逸陸軍が今次の英雄的戰鬪に於て失つたのは、戰死者十五萬八千七百七十三名、負傷者五十六萬三千八十二名、及び行方不明者三萬一千百九十一名であつた。空軍にあつては、戰死者三千二百三十一名、負傷者八千四百五十三名、行方不明二百八名であり、また海軍では、戰死者三百十名、負傷者二百三十二名、及び行方不明者百十五名である。隨つて獨逸國防軍は全部で戰死者十六萬二千三百十四名、負傷者五十七萬一千七百六十七名、行方不明者三萬三千三百三十四名を喪失した。かくて戰死傷者の數は、前大戰當時のソンム戰の戰死傷者數の約二倍强で、行方不明者の方は當時の數の半數に達しない。然し凡てこれが皆我が國民の父であり息子であるのである。

而して諸君、余は次に他の一の世界について意見を披瀝してみやう。その世界と云ふのは、多數の國民と將兵が氷雪の中で戰つてゐる時に、いい氣になつて爐邊で閑談などに耽る癖のある男によつて代表され、而もその男といふのが今次の大戰の抑々の張本人である世界である。一九三九年に當時の波蘭國に於ける諸民族の狀態が愈々堪へ難きものとなつた時に、余は公正妥當なる協定によつて、滿足すべき解決に達せんものと努力するところがあつた。暫くの間は波蘭政府自身が理性的な解決法に同意すべく、眞面目な考慮を拂つてゐるやうに見えた。余がここでなほ附言し得ることは、これら總ての提案に際して獨逸側は、以前に獨逸領であつたもの以外の何物をも要求しなかつたといふことである。否それどころか、むしろ反對に我々は、前大戰以前に獨逸に所屬してゐたものをも、少なからず斷念したほどである。諸君は今尙あの當時の劇的叙

展過程や、益々增大した獨逸系民族の犧牲を想起せられるであらう。議員諸君！　諸君がこれらの血の犧牲を今次の戰爭の犧牲と比較してみるならば、當時の犧牲が如何に甚大であつたかを最もよく測り知ることが出來るのである。東部戰線に於ては、これ迄に獨逸國防軍は總數十六萬の戰死者を犧牲に供した。然るに當時を見るに、極めて平和な時代であつたにも拘らず、數ケ月間に波蘭では六萬二千名を超える獨逸人が殺害され、而もその一部は殘虐極まる拷問を受けたのであつた。我が獨逸國が接壤地に於ける斯かる狀態に異議を申立て、而してこの狀態の打開を嚴重に要求し、且つ總じて自國の安全についても考慮を拂ふべき權利を有してゐたといふことは、他の諸國が他の諸大陸に於てさへ、その安全のために基地を要求する如き現在の時代にあつては極めて當然な事である。解決せらるべきであつた問題は、領土的に見れば些細なものであつた。本質的には、ダンチッヒ及び東部プロシヤの切斷されたる地方と、爾餘の獨逸國領との連繫といふ問題であつた。それよりもずつと重大であつたことは、波蘭に於て當時獨逸人に加へられたあの殘酷な數々の迫害であつた。

尙ほ波蘭では他の少數民族等も亦、これに劣らぬ悲痛な運命を忍ばねばならなかつたのである。同年八月に入つてから、白紙委任狀の形で與へられた英國の保證のために、波蘭の態度が俄然强硬となつて來たのに鑑み、獨逸國政府は、これを最後のものとして一個の提案を行ふことに決し、この提案に基いて波蘭と交涉に入る用意を有し、且つその旨を當時の英吉利大使に口頭で通告したのであつた。余はこれらの提案を今日ここで忘却から呼び起し、再び諸君の記憶を喚起したい。

その時の提案といふのは、ダンチッヒ廻廊問題竝びに獨波兩國に於ける少數民族問題の調整に關するもの

であつた。當時獨逸、波蘭間の情勢は頗る緊迫してゐて、正に一觸即發の狀態にあつたものといふことが出來る。

そこで、如何なる平和的解決と雖も、それがすぐ次の機會に斯かる狀態の原因となる如き諸事態を發生せしめないやうに、またそれによつて單に東部歐羅巴のみならず、他の諸地方までも同樣の緊迫狀態に陷ることのないやうに、達成せられねばならないのであつた。

事態がかくなつた原因は、第一には、ヴェルサイユの所謂獨裁條約によつて定められた實行不可能な國境劃定法にある。第二には、分離された諸地方に於ける少數民族に對する不當な取扱ひである。そこで獨逸國政府はこれらの提案に際して、國境劃定を清算して双方にその存立上必要な連絡路を建設し、少數民族問題も出來得る限り解決せんとする考慮及び若しもこれが不可能の時は、少數諸民族の運命を、彼等の權利の完全なる保證によつて堪へ易いものにしやうといふ意嚮から出發したものである。獨逸國政府の確信せるところでは、その場合、一九一八年以來行はれて來た經濟的及び肉體的損害を明かにし、且つそれを全面的に補償することが絶對に必要であつた。獨逸國政府はこの種の義務行爲を以て、當然双方を拘束すべきものと見做した。即ち、かかる考慮に基いて、次の如き實際的な諸提案が提出されたのである。

第一、自由都市ダンチッヒは、同市の純然たる獨逸的性格並びに同市居住民一致せる意志に基いて、直ちに獨逸國に復歸すべきこと。

第二、バルチック海からマリエンヴェルダー、グラウデンツ、クルム、ブロムベルグを繋ぐ線（これらの都市を含む）及びそれから稍々西の方シェーンランデに至る所謂廻廊地帶は、その獨逸又は波蘭への歸

屬に關して自決すべきこと。

第三、かかる目的のために此の地方は票決を行ふこと。その票決權を有する者とは、一九一八年一月一日現在同地方に居住してゐたか、又は同日までに同地方に生れたる總ての獨逸人、及び同樣に同日同地方に居住してゐたか、又は同日までに同地方に出生せるすべての波蘭人、カシューブ人等々である。而して同地方より放逐されたる獨逸人等は彼等の票決を行ふために歸還すること。

公正なる票決を確保するため竝びにそのために必要な廣汎なる豫備工作を保證するために、前述の地方はザール地方に於けると同樣に、直ちに構成さるべき國際委員會に從屬せられること。同委員會は伊太利、サヴィエート聯邦、英吉利、佛蘭西の四大國により構成せらるべきこと。同委員會は同地方に於ける一切の主權を行使すること。そのためには、意見の一致し得る限りの最短期間中だけ、同地方から波蘭の軍隊、警官及び官吏が退去せしめられることを要する。

第四、本地方から除外されるものは波蘭の海港グヂニヤである。同港は領土的に見て、波蘭人の居住地域に限り、原則上波蘭の主權下にある地域である。

本波蘭港灣都市の一層細目に亘る境界は獨逸、波蘭兩國間に於て確認せらるべく、また必要なる場合には國際仲裁裁判により確定すべきものとす。

第五、正當なる票決を遂行するに必要な廣汎なる準備に要する時間を確保するため、本票決は十二ケ月以前には施行せられざるものとす。

第六、この期間内に於て獨逸國に對しては同國東部プロシヤとの連絡を、また波蘭に對してはその國の海

洋との連絡を、夫々無制限に保證するため、自由なる通過交通を可能ならしむべき道路及び鐵道を指定すべきこと。この場合に於て、當該交通路の維持乃至輸送の遂行に必要なる課税に限り之を徴收するものとす。

第七、本地方の所屬は單に投票の多數決により確定せらるべきものとす。

第八、票決の行はれたる後は、その成行如何に關係なく獨逸所領地たるダンチッヒ州及び東プロシャとの自由なる交通を確保し、又波蘭に對してはその海洋との連絡を保證せんがために、若しもその票決地方が波蘭のものとなつた場合には、大體ビュトフ＝ダンチッヒ乃至ディルシャウの方向に於て獨逸國有自動車道路竝びに複々線鐵道線路を敷設するために、一個の治外法權的交通地帶が設置せらるべきこと。これらの道路及び鐵道の建設は、それによつて波蘭の交通路が妨害せられざるやう、即ちその交通路の上を超えるか又はその下を潛るかの方法で遂行せられること。この地帶の幅員は一キロメートルと定め且つ獨逸の主權地域たること。

若しも票決の結果が獨逸側に有利になつた場合には、波蘭は、その所有する港灣たるグヂニャへの自由にして無制限なる交通のために、獨逸に許さるべきものと正に同樣の、治外法權的な道路乃至鐵道交通の權利を享有し得ること。

第九、廻廊地帶が獨逸國に歸屬せる場合には、獨逸は該廻廊地帶が適當とする範圍に於て、波蘭との間に居住民の交換を行ふべき用意あること。

第十、波蘭の希望するであらう所のダンチッヒ港に於ける特權は、獨逸のグヂニャ港に於けると同樣の權

利と、對等の取扱を受くべきものとす。

第十一、本地域に於ては脅威の感情を除かんがために、ダンチッヒとグヂニャとは純然たる商業都市としての性格を保有すべきこと。換言すれば、一切の軍事的施設及び軍事的防禦工事を施さざること。

第十二、投票の結果に依り獨逸か波蘭の何れかに歸屬すべきヘラ半島は、いづれにしても軍備を撤廢すべきこと。

第十三、獨逸政府は波蘭の少數民族取扱に對して嚴重なる抗議を提出する要あり、波蘭政府も亦獨逸に對して幾多の不滿を表明する必要を認めつつあるものの如くであるが故に、兩國は茲に這般の不滿を國際調査委員會に廻附することに同意する。該委員會は經濟的、有形的損害並びにテロ行爲に關する一切の抗訴を審査する任務を帶びるものとす。

獨逸及び波蘭は一九一八年以來發生を見た一切の經濟的其の他の、兩國少數民族の蒙りし損害を賠償すると共に一切の徵用を廢止し、又は此の種及び其の他の經濟生活への干涉に對して該當者に完全な賠償を行ふべき義務を負ふものとす。

第十四、波蘭に殘留する獨逸人並びに獨逸に殘留する波蘭人が有する國際的非法の感情を一掃し、且つ彼等の國民的感情と相容れざる行爲及び勤務に强制されざる安全感を與へるため、獨逸と波蘭は、廣汎且つ拘束的の協定を締結して兩國少數民族の權利を確保し、以てこれら少數民族にそれぞれの民族性を保持せしめ、これを任意發揚せしむると共に、これが目的達成のために彼等の必要と認むる組織を認容するに同意すること。兩國は少數民族所屬者を兵役に徵集せざる義務を負ふこと。

第十五、上記諸提案に基き協定の成立を見る曉には、獨逸及び波蘭は直ちに兵力の動員解除を手配、實施するに同意すること。

第十六、上記取極めの促進に必要な今後の措置については、獨逸及び波蘭は互に協力一致すること。

然るに當時の波蘭政府はこれらの提案に對して考慮することさへも拒絶したのである。これについては、かかる眇たる一國家が此のやうな提案を一蹴せるに止まらず、自國に一切の文化を賦與して來た獨逸人に對し、依然として殘忍なる行爲を敢てするのみならず、總動員を發令したのは何故であらうかといふ疑問が起るのであるが、後日在ワルシャウ外務省の公文書を閲覽するに及んで、我々は驚くべき事實を知るに至つた。卽ちここに波蘭の抵抗力を强化し、事態を和解に導く一切の可能性を打破する目的を抱いて、無責任にもその全勢力を驅使せる一人物があつたのである。

當時のワシントン駐劄波蘭公使ポトツキー伯爵が、同國政府に致せる報告なるものは公文書であるが、これに依れば、この一人物及び彼を使嗾せる背後勢力こそ、第二次世界戰の全責任を負ふべきものであることが驚く程明瞭に判然として來る。

次に起る疑問は、如何なる理由で此の人物が、全歷史を通じて亞米利加は勿論、彼自身に對しても何らの危害を加へたこともない一國に對して、かくも狂熱的な敵愾心を抱くに至つたかと云ふことである。

獨逸の亞米利加に對する態度に關しては、次のことが斷言出來る。

第一に、獨逸こそはおそらく、南北兩米大陸に於て未だ曾て一箇所の植民地をも領有せざりしは勿論、政治的にも何ら活動をおこした事のない唯一の國家である。況して亞米利加移住の獨逸人は獻身的に働いたため

であつて、亞米利加大陸特に亞米利加合衆國は、これの協力によりただ利益を得ただけである。

第二には、獨逸國は合衆國の建國以來現在に至るまで、未だ一度として政治上非友誼的態度、況んや敵性態度などを採つたことはなく、寧ろそ〻多數の息子達の血を以つて、亞米利加の防衛に協力して來たのである。

第三には、獨逸國は未だ嘗て合衆國を敵とする戰爭に自發的に參加したことなく、寧ろ亞米利加こそ一九一七年には戰禍を獨逸に及ぼしたのである。而もその理由たるや、ローズヴェルト現大統領が此の問題檢討のため自身で設立した委員會によつて、剩すところなく明かにされたものである。

一九一七年の亞米利加參戰の理由が、專ら若干小數財閥の資本主義的利益に基いたこと、竝に獨逸としては亞米利加と抗爭に陷る意圖など毫も有してゐなかつたと云ふことを最も完全に確めたのが、意外にも亞米利加の參戰理由を闡明するために生れたこの調査委員會であつた。それでなくても亞米利加民族と獨逸民族との間には、領土的にも又は政治的にも、およそ合衆國の利益は固より、況んやその生存を脅かすが如き對立は毫も介在しないのである。成程國家形式の相違と云ふものは常にあつた。然しながら斯くの如き相違は、一國の國家形式が必要に賦與された自己の領域の圏外で他國の國家形式を侵犯しない限りは、一般に諸民族生活に於ける敵性の原因とはなり得ないのである。

抑々亞米利加なるものは、廣汎な全權の賦與された大統領の指導する共和國なのである。翻つて獨逸を見るに、獨逸は嘗ては限定された權威が支配して來た君主國であつたが、その後權力なき民主國となり、現在は强大な權力によつて指導される一種の共和國である。此の二つの國家の間には大洋が横はつてゐる。資本

主義的亞米利加とボルシェヴィズム的ソ聯との相違は當然――若しこれらの國體概念が少くとも眞理を包含してゐるならば――大統領が支配する亞米利加と、總統が指導する獨逸との相違よりも遙かに大きくなければならぬ筈である。

然るに茲に否定し得ぬ一つの事實は、獨逸と合衆國間の二度の史的抗爭が、よし同一勢力の後押しがあつたにせよ、終始二人の合衆國の人物、即ち大統領ウイルソンとフランクリン・ローズヴェルトによつて焚きつけられたといふことである。ウイルソンに關する批判は、歴史自らがすでに雄辯に物語つてゐる。彼の名は各時代を通じて最も下劣な食言と切つても切れぬ緣を有つてゐる。

彼の破約は、所謂敗戰國は固より、戰勝國に於てさへその國民生活を混亂に陷れたのである。ウイルソンの食言だけでつち上げられたヴェルサイユ獨裁條約は、幾多の國家を分裂に導き、文化を破壞し、あらゆる國家の經濟を崩壞せしめた。

而もウイルソンの背後には、これに利害關係を有する財閥の一味が控へ、これが此の痲痺症の教授を頤使しつつ亞米利加を戰爭に驅り立て、巨利を博せんとしたことを、我々は今にして知つたのである。

獨逸國民は、嘗て一度は此の人物に信賴を寄せたが、これが却つて仇となり、その經濟的、政治的存在の崩壞と云ふ代償を拂つたのである。

然るに、かうした數々の苦い經驗に性懲りもなく、またしても新規の大統領が現はれ、戰爭を勃發せしめ何よりも獨逸に對する敵意を戰端を切るまでに高めることを以つて、己が唯一の使命と心得てゐるのは何故であらうか。

國民社會主義が獨逸の政權を握つたのは、ローズヴェルトの合衆國大統領當選と同じ年であつた。

玆に於てか、今日の展開の原因と見做さるべき動機を檢討することが重要となつた。

それには先づ個人問題に觸れざるを得ない。

余はローズヴェルト大統領の抱く人生觀なり、人生に對する態度なりと、余のそれとの間には大きな懸隔があるのを餘りにもよく知つてゐる。

即ちローズヴェルトは富裕の家庭の令息として生れ、而も生れながらにして、民主主義國にあつては、かかる家柄と生れとにより、坦々たる生活と出世の道とが保障される人間の階級に屬してゐる。

それに引き代へ、余自身は取るに足らぬ貧しい家に呱々の聲を揚げたのであつた。余は目に餘る辛酸を嘗め、努力と勤勉とに依つて前途を闘ひ拔かなければならなかつた。

世界大戰が勃發するや、ローズヴェルトはウィルソンの蔭にかくれて、而も戰時成金の雰圍氣を味ひながら戰爭を體驗したのであつた。

彼は從つて、一方が苦戰を喫しつつある時他方が巨利を博し、一方が此の他方に降伏するといふ、民族及び國家間の闘爭中の快適な半面だけより知らない者である。

その當時の余の生活といへば、これとは全く正反對であつた。余は決して歴史を作り、況んや金を作る一味には屬してゐなかつた。否、余は唯命令を實行する部類に屬してゐたのである。

余は戰時の四年間を、一兵卒として專心義務の完遂に勉めつつ敵前に過ごし、やがて歸還した時には、一九一四年出征當時をそのままの無一文であつた。余はまた、何百萬と云ふ味方とも運命を分けあつた。これ

に反し、フランクリン・ローズヴェルト氏は、所謂上層數萬の一味と運命を共にしたに過ぎない。

ローズヴェルト氏が、戰後早くも金融投機に依つてその才能に磨きをかけ、インフレーションと他人の困苦を惡用しつつ私腹を肥やしてゐたのに對して余は、其の當時は數十萬の者達と共に、傷つける身を野戰病院の一隅に横へてゐたのであつた。更にまたローズヴェルト氏が、普通の商才にたけ、合法的に保護され經濟的の基礎ある政治家の出世街道を濶歩してゐたのと事かはり、その當時の余は、一介の無名人として、史上曾てなき不法を加へられた一民族の復興のために死鬪してゐたのである。

思へば似寄りもつかぬ二人の活き方であつた。

即ちフランクリン・ローズヴェルトが、合衆國の首班に列せられた時、彼は骨の髓まで資本主義政黨の候補者であり、黨に利用されてゐたのだ。而して余が獨逸國の宰相に就任した時、余は自ら創建した國民運動の指導者であつたのである。

ローズヴェルト氏を支持せる勢力こそ、余が余の國民の運命と余の最も神聖な内心の確信に基いて、殲滅を期してゐた勢力に他ならなかつた。

新米大統領が傭聘してゐた所謂「ブレーン・トラスト」なるものは、余が獨逸に於て人類の寄生蟲的現象としてその殲滅を目指し、且つ漸く公的生活より芟除し始めた同一の民族層より結成されてゐたのである。

然し他方、余とローズヴェルトとの間には、僅かながら共通な點があつた。フランクリン・ローズヴェルトは、民主主義の影響を受けて亞米利加の經濟が衰頽してゐる時政權を握つた。而して余も亦民主主義のお蔭で獨逸が全く瓦解せんとした一歩前に、獨逸國指導の衝に當つたのである。當時亞米利加合衆國は千三百

萬の失業者を有し、獨逸は七百萬の失業群と更に七百萬の半失業者を抱いてゐたのである。この兩國とも政府の財政は紊亂し、一般の經濟生活は益々低下して、その止まる所を知らぬ有樣であつた。

この秋亞米利加合衆國及び獨逸では、後世をして何れの理論が正しいかにつき容易に斷定的な判斷を下さしむる一の發展が起つたのである。當時獨逸では、國民社會主義政權の指導下に生活、經濟、文化、藝術等が驚異的に昂揚したが、これに反し、ローズヴェルト大統領には、自國內の僅かの改良さへ成し就げられなかつたのである。

然し乍ら斯くの如き業蹟は、一平方キロメートルにつき漸く十五人の人口密度を有する亞米利加合衆國に於ては、一平方キロメートルに百四十人の人口を包含する獨逸よりも、遙に容易に遂行され得る筈ではないか？

亞米利加で經濟的繁榮を招來し得ぬのは、これは支配階級の惡意に職由するか、またはその衝にある指導者連が全く無能であるかの何れかに係るものである。

獨逸は僅か五ケ年間に諸經濟問題を解決し、また失業問題を克服した。

この期間內にローズヴェルト大統領は、自國の國債を極度に膨脹せしめ、經濟を一層混亂せしめ、而も失業者數は依然として變らなかつた。

然し乍らこの人物に、支援を依賴したといふよりも寧ろこの人物を押し立てた亡者共は、ユダヤ人として唯だ國家の頽廢に興味を持ち、秩序の確立には斷じて反對する分子に屬してゐることに思ひ當れば、斯くの如きローズヴェルトの政策が、不成功なことは何ら不思議ではない。

國民社會主義獨逸は、投機事業を彈壓したが、これに反して、ローズヴェルトの亞米利加に於ては、投機は驚異的發展を遂げたのである。この男の所謂「ニュー・ディール」立法は間違ひであつた。而も、人間の爲した失策の中で最大なものである。

若し「ニュー・ディール」と稱するこの平和時の經濟政策が繼續されたならば、如何にローズヴェルト大統領が詭辯に巧みであつても、早晩行き詰つて了つた事は明瞭である。歐羅巴の國ならば、ローズヴェルトをきつと、國家の財産を勝手に浪費蕩盡した廉で大審院に召喚したであらう。また市民裁判所では不法商行爲の廉で投獄は免れなかつたであらう。（喝采）

斯くの如き判斷といふよりも寧ろ認識は、亞米利加に於ても、多數の名望ある人士の抱くところである。玆に於てこの人物に對し脅威的な反對の聲が沸き騰つた。これがため彼は、その內政に對する一般輿論の關心を外に向つて外してこそ、初めて自身が救はれると覺るに至つた。之に關し波蘭公使ポトツキーのワシントンからの報告を檢討するのも亦一興である。ポトツキーはローズヴェルトが彼の經濟上の所謂「骨牌札で出來た家」が崩解の危機に瀕してゐる事を熟知し、且つ如何にしても外政的轉向を必要とした點を再三指摘してゐる。ローズヴェルトは彼を取り卷くユダヤ人に依つて元氣づけられたのであるが、このユダヤ人輩は、舊約聖書的復讐癖から亞米利加を利用して、益々反ユダヤ的になる歐羅巴の國々に對し第二のプリム（註。復讐感謝祭）を催す機會を捉へ得ると思つてゐたのである。この男の周圍に群をなして集り、而もこの男も亦その方に手を差延べたのは全く狂信的に卑劣なユダヤ人であつた。斯くして紛爭を誘發するか、或は既存の紛爭を激化させ、如何なる場合でも紛爭が平和的に解決されることを妨害せんとする意味に於てローズヴ

エルトの影響が益々效力を發揮したのである。この男の年來の唯一の希望は、世界のどこかで——最も好むところは歐羅巴で——紛爭が起る事であつて、この紛爭は紛爭國の一方に對する亞米利加經濟の加擔により亞米利加をその方に牽きつけ、これに依つて國民の關心を對內的經濟政策の失敗から對外的に外させるに適當な、政治的利害關係の縺れ合ひを作る可能性を與へることである。

この意味に於て彼の獨逸國に對する行動は、特に亂暴極まるものであつた。一九三七年以降彼は、幾多の演說を行つてゐるが、その內特に不都合を極めたのは、かの一九三七年十月五日のシカゴに於ける演說である。これ等の演說でこの男は、亞米利加の輿論を獨逸に對して計畫的に挑發してゐるのである。彼は所謂全體主義國家に對し一種の檢疫をなすべしと恫喝したのである。

ローズヴェルト大統領は、斯の如く益々憎惡及び挑發政策の强化を實行しつつ、最近再び悔辱的聲明を發して駐獨亞米利加大使を報告の爲に召還した。爾來獨米兩國關係は僅に代理大使に依つて結ばれてゐる。

ローズヴェルト大統領は、一九三八年十一月以來歐羅巴の宥和政策に對する凡ゆる可能性を計畫的に且つ故意に阻害せんと企てた。彼はその際他國に向つては平和に關心をもつと僞り、而も平和的協調政策を遂行する用意ある國に對しては借款の拒絕、經濟壓迫又は貸金督促等の手段により恫喝するのである。これに就いてワシントン、ロンドン、パリー及びブリュッセル駐劄の波蘭大使からの報告を讀むと驚くべき事實が判明する。一九三九年一月以來この男は、その挑發行爲を强化し始め、議會に於て全體主義諸國に對抗し、戰爭を除く凡ゆる政策を遂行すると恫喝してゐる。

彼は他國が亞米利加の問題に干涉せんと企ててゐると呼號し、且つ絕えずモンロー主義の維持を銜つてゐ

るにも拘らず、一九三九年三月以降は亞米利加合衆國大統領には何ら關係のない中央歐羅巴の問題に容喙を始めたのである。第一には彼は斯くの如き問題を理解してゐない。第二に假令彼がこれを理解し又その史的顚末を洞察してゐるとしても、獨逸の元首が亞米利加の情勢を判斷し、又はこれに對する意見を披瀝する權利を有してないのと同樣に、彼も亦中央歐羅巴圈について世話を燒く權利がないのである。（喝采）

否、ローズヴェルト氏は更に前進した。彼は凡ゆる國際法上の規約を蹂躙して、彼の氣に入らぬ政府は承認しないとか、新秩序を認めないとか、又既に瓦解した政府の公使館をそのまま據置くとか、或は合法的政府と認めるとか聲明してゐる。否、遂には彼は外國の領土を簡單に占領する權利を與へるやうな條約を、斯くの如き公使と締結する程になつたのである。一九三九年四月十五日に、ローズヴェルトは余並にムッソリーニ首相に催告狀を發したが、これは地理的及び政治的無知識の混合と、ある金持階級の高慢不遜を表示してゐるものであつて、而もこれに依つて我々は、聲明書を發表してどこどこの國々と不可侵條約を締結せよと要求された。但しこれ等の國々の大部分は、大體自由を有しないもので、或はローズヴェルト氏の同盟國に合併され、或は保護領に編入されたものなのである。議員諸君！　諸君は當時余が此のおせつかいな男に丁寧に、而もはつきりした返答をしたのを御記憶のことと思ふ。まあしかし、これで少くとも數箇月間この健氣な戰爭挑發者のお喋りを封じたわけでもある。

扨て彼の代りに登場したのが、尊敬すべきローズヴェルト夫人である。彼女は我々の住んでゐるのと同じ世界に生活することを拒否したのである。

これは少くとも理解し得られる。何となれば我々の世界は、詐欺や誤魔化しの世界ではなく、實に勤勞の

世界である。この夫人の亭主は然し、暫く靜養した後、一九三九年十一月四日に中立法の改訂を敢行し、獨逸の敵國側へ武器を一方的に供給するために、今や武器輸出禁止を廢止したのである。

彼は次いで東亞でも同じやうに、又經濟上の縺れ合つた關係といふ廻り道を通じて、早晩效果を生ずべき利害協同體を支那と結成し始めてゐる。既に同月彼は、亡命波蘭人の一群を所謂亡命政府として承認したがこの政府の唯一の政治的基礎はなんであるかと云ふと、ワルシャウから持出した波蘭金貨の二、三百萬に過ぎないのである。又既に四月九日には、彼は更に進んで、獨逸の干渉を阻止すると云ふ白々しい口實を以て諸威及び丁抹のクレディットを凍結したのである。が然し、例へば丁抹の政府にしても、その資產運用については、獨逸からは注意さへされてゐないのであつて、況して管理されてはゐないと云ふ事を彼は充分承知の筈である。

種々な亡命政府の他に諸威の亡命政府も亦彼に承認された。一九四〇年五月十五日にはこの外に和蘭及び白耳義の亡命政府も承認されて、同時に和蘭及び白耳義の資產が凍結されたのである。然しこの男の眞の氣持が現れてゐるのは、何と云つても六月十五日附の佛蘭西首相レイノー宛電報である。この電報で彼はレイノーに、佛蘭西が對獨戰爭を繼續すれば亞米利加は對佛援助を倍加するであらうと告げてゐる。彼はまた戰爭の長期化を望むこの意向を特に强調するため、亞米利加政府は占領の成果、換言すれば、嘗て獨逸から剝奪された地域の返還は承認しないであらうと聲明した。亞米利加合衆國大統領が歐羅巴に於ける境界を認むるや否やは獨逸政府の知つた事ではなく、又こんな事には將來も何ら痛痒を感じないと、余は茲に諸君に申し上げる必要を認めない。が、余は單に平和の愛好を僞唱し、而も永久に戰爭をのみ挑發するこの男の煽動

行爲を特に明かにせんがためにこの場合を引用したに過ぎない。亞米利加が自ら他國の攻擊を挑發しなければ、何人も亞米利加を攻擊しないのであるから、歐羅巴に平和が招來された場合は、亞米利加の軍備擴張に何十億ドルを蕩盡したことが全く詐欺であつたといふことが知れるのに、今や彼は不安を感じて來たのである。一九四〇年六月十七日亞米利加合衆國大統領は、佛蘭西金貨の押收を指令した。これは表面上は獨逸がこれに手を延べるのを阻止するのが目的であると言つてゐるが、事實は、これを亞米利加驅逐艦に手傳はせて、カサブランカから亞米利加へ輸送するためである。

一九四〇年九月には、ローズヴェルトは更に戰爭に接近して來てゐた。まづ彼は米艦隊に屬する五十隻の驅逐艦を英海軍に讓渡した。そしてその代償として、北米及び中米にある英領土の軍事基地を受け取ることになつてゐる。即ちこの點については獨逸に對する憎惡の他に、崩壞の時期にある英國を出來るだけ確實にまた危險なく繼承せんと欲する意圖がどこまで働いてゐるかは、何れ後世に於て明かになるであらう。

英國は亞米利加からの供給品を最早や現金で支拂ふ能力がないために、彼は米國民に對し武器貸與法を押しつけた。かくて大統領は武器貸與法による諸國の援助の全權を獲得した。それはこれら諸國の防衛が亞米利加にとつて生存上重要であるとローズヴェルトに思はれたからである。その後獨逸が彼の續けた惡戲に對し何ら頓着しなかつたので、この男は一九四一年三月更に一歩を進めたのである。

一九三九年十二月十九日には、既に亞米利加の巡洋艦は獨逸汽船コロンブスを、安全水域内に於て英軍艦の手に渡したのである。これに依つて同船は沈沒させざるを得なかつた。同日米軍は獨逸汽船「アラウカ」の拿捕に協力した。一月二十七日に米巡洋艦「トレントン」は國際法に反して獨逸汽船「アラウカ」「ラブ

ラタ」及び「ワンゴニ」の移動を敵軍に通告した。一九四〇年六月二十七日に米國諸港に於ける外國商船の自由通行を制限して、完全に國際法に違反する擧に出たのである。

一九四〇年十一月に獨逸汽船「フリギア」「イダルワルト」及び「ジイン」は、米國軍艦に追跡された結果、敵の手に落ちないやうに敢て自沈するに至つた。四月十三日には西亞に於ける英軍部隊に物資を補給するため米國船に對して紅海を解放した。三月には凡ての獨逸船舶が米官憲によつて押收された。斯くの如くして、獨逸國臣民は最も不名譽な方法によつて取扱はれたのである。また加奈陀の拘禁所より脱出した二名の獨逸士官を、同樣に國際法の規定に反して捕縛し、これを英當局に引渡した程であつた。

その四月にはローズヴェルトは快速艇二十隻を英國に讓渡し、それと共に引き續き英國軍艦の修理が亞米利加諸港で行はれてゐる。

越えて五月十二日以來、英國のために航行中だつた諸威汽船の、國際法に背反せる武裝及び修理が行はれた。更に六月四日には亞米利加の軍隊輸送船がグリーンランドに到着した。六月九日になるとローズヴェルト大統領の命令に基き、亞米利加軍艦某號がグリーンランド近海で、獨逸潛水艦一隻を爆雷を以て攻擊したと云ふ英側情報が齎された。

七月十四日には再び國際法を無視して、合衆國に於ける獨逸資產の凍結が行はれた。六月十七日に及んでローズヴェルトは獨逸領事の引揚げ及び領事館の閉鎖を要求した。更にローズヴェルト大統領は、獨逸通信社「トランスオッエアン」社、獨逸情報閲覽所及び獨逸國有鐵道支局の閉鎖を要求した。更に七月六日より七日に至る間ローズヴェルト大統領の命令に基き、亞米利加軍隊に依る獨逸側の戰鬪區域内にあるアイスラ

ンドへの進駐が行はれた。

斯してローズヴェルト大統領は、第一には獨逸を結局戰爭に導き、第二には獨逸の潛水艦戰を恰も一九一五――一九一六年に於けるが如く、徹底的に無效にせんと欲してゐるのである。

これと時を同じうして、彼はサヴィエート聯邦に援助の約束を與へた。七月十日には突如としてノックス海軍長官が、合衆國海軍は樞軸側艦艇に對する發砲命令を受けてゐる旨を發表した。

九月四日には、合衆國驅逐艦「グリーア」號は、同艦の受けてゐた命令に從ひ、大西洋上で英吉利の飛行隊と協力し獨逸潛水艦隊に對抗して行動した。

五日後一隻の獨逸潛水艦は、亞米利加の驅逐艦が英吉利護送船團中に、護送船として加はつてゐる事實を確認した。九月十一日に至るや、ローズヴェルトはかの演說を行ひ、これにより樞軸船舶のすべてに對する發砲命令を確認し、且つ新たに發令した。

九月二十九日には、合衆國哨戒艇隊はグリーンランド東方に於て、獨逸潛水艦一隻に爆雷攻擊を加へた。十月十七日には英國護送船團の護衛に任じて航行中であつた合衆國驅逐艦「カーニイ」號が、又もや獨逸潛水艦一隻に爆雷攻擊を加へ、また十一月六日には遂に合衆國海軍は國際法に違反して、獨逸汽船「オーデンワァルド」號を拿捕し、これを米國の某港に曳航してその乘組員を拘禁した。

余はこの所謂大統領と稱する男の余個人に對する侮辱的人身攻擊や、無禮千萬な仕打ちは取るに足らざるものとして看過する。彼が余を呼ぶにギャングの語を以てしたことは、この言葉が歐羅巴で出來たものではなく、又左樣な實體が存在しないし、寧ろ合衆國の所產であるだけに、余は一向平氣である。

然しこれは別としても、大體余はローズヴェルト氏から侮辱されるわけはないと思ふ。何故なれば余は彼を以て、嘗てのウッドロウ・ウイルソンと同樣、精神病者と見做すからである。

この男が彼のユダヤ人の一味と共に、年來同一の手法を用ひて日本に對しても戰つてゐることは、我々の熟知するところである。余が此處でそれらの手段について喋々するには及ぶまいが、此處でも同一の方法が用ひられてゐる。この男は最初に先づ戰爭を嗾しかける。それからその原因を捏造し、勝手な主張を持ち出し、それから嫌惡すべき遣り方でキリスト教的僞善の雲の中へ身を隱し、かくて徐々ながら確實に人類を戰爭へ引き込むのであるが、古くからのフリーメーソンの加盟者として、その際自己の行爲の誠實を證せんがために神を證人に喚び出すことを忘れないのである。

諸君は今や一の國家が、遂に眞理と權利を史上初めて不屈きにも亂用した事實に對して第一番に抗議を發したのを、一種の救濟だと感じたであらうと余は信ずるものである。この抗議はこの男の豫て望んでゐたもので、隨つて彼は今これについて驚くには當らないのである。

日本國政府がこの僞善者と辛抱强く交渉を重ねた結果、遂に最早これ以上、かくも侮辱的な遣り方で欺弄されることを我慢出來ずとして起つたことは、我々即ち獨逸國民及び恐らく全世界の其他の正しき人々のすべてを、深い滿足感を以て充たしたのである。

ローズヴェルトの背後にある勢力が如何なるものであるかは、我々の知悉するところである。それはかの「永遠のユダヤ人」である。この永遠のユダヤ人は、我々總ての者がサヴィエート露西亞に於て戰慄を以て眺め、且つ體驗せざるを得なかつたところの事態を、我々に對しても執行すべき時機到來せりと北叟笑んで

ゐるのである。このユダヤ人の地上に於ける樂園なるものを、我々は今や實地に知ることが出來た。數百萬人の獨逸軍將兵は、この國際的ユダヤ人が人命と財貨とのすべてを破壞し盡した一國の實情を、各自の眼を以て確める事が出來たのだ。かういふことは恐らく合衆國大統領の知りたいとは希はぬところであらうが、それこそただ彼の精神の狹隘さを證明するだけのものである。

兎に角これが彼の全鬪爭の目的だといふことは、我々の知るところである。即ち獨逸がよしんば日本と同盟を結んでゐなかつたとしても、一國々々と次から次へ殲滅するのが、ユダヤ人と彼等のフランクリン・ローズヴェルトの意志であることは明かである。ところで今日の獨逸國は、嘗ての獨逸とは何等共通のものをもつてゐない。

隨つて我々は、この戰爭挑發者が數年來達成せんと企ててゐた事を、今度は我々の側からも行ふであらう。我々が日本の同盟國だからといふ理由だけではなくして、むしろ獨伊兩國の現下の指導者がこの歷史的時機を有してゐるからである。此の別世界が我々に對して企ててゐることは我々には明白である。彼等は嘗てのこそ、彼等國民の興廢が恐らくは永久に亘つて決せられる秋であらうといふ事を理解するに足る洞察と能力民主主義的獨逸を飢餓に陷れた。彼等は現在の國民社會主義的獨逸を殲滅したいと思つてゐる。若しローズヴェルト君やチャーチル君が、やがて新しい社會秩序を樹立する積りだと言つたとすれば、それは多分禿げ頭の理髮屋が、インチキでない毛生え藥を客に勸めるやうなものである。（爆笑）――社會的に最も立遲れてゐる國々に住んでゐる兩氏の如きは、戰爭を嗾かけるなどといふ大それたことをする代りに、各自の國の失業者等のために考へてでもやる方がましであらう。彼等は夫々の國內に、食料品分配の意味で骨折り甲斐

のある困窮と苦惱とをもつてゐるのだ。獨逸國民としては、チャーチル氏からも、ローズヴェルト氏からも乃至はイーデンなどからも、喜捨金など惠んでもらう必要はない。獨逸國民の欲するのはただ自己の權利のみである。（喝采）而してこの生活權は、假令千人のチャーチル乃至ローズヴェルトがゐて、これに反對の陰謀を企てやうとも飽く迄確保されるであらう。獨逸民族は、殆ど二千年に亘る歴史をその背後にもつてゐる。この國民は長い期間に於て、今日ほど一致團結したことは未だ嘗てない。また斯くの如きは國民社會主義運動のお蔭であつて、今後の全將來に亘つても多分あり得ないことであらう。だがこの國民はまた恐らく斯くも慧眼であつたことは嘗てなく、また斯くも名譽心に滿ちてゐたことも稀であつた。それ故に余は、今日米國の代理公使に旅券を渡して、彼に次の事を知らしめた。即ち無制限の世界制覇的獨裁を目指せるローズヴェルト大統領の政策が、益々擴大の一途を辿る間に、北米合衆國は英吉利と協同して、獨伊兩國民及び日本國民に對しても、彼等の自然なる生活維持のための諸前提を奪ふために、如何なる手段を擇ぶことをも躊躇せざるに至つた。英米兩國政府は單に現在に於てのみならず、むしろ今後の全將來に亘るよりよき世界新秩序招來のための一切の正當なる修正に反對したわけである。

開戰以來米國大統領ローズヴェルトは、次第次第に一聯の重大極まる國際法侵犯の罪を犯して來た。獨伊兩國民の財産に對する數々の不法侵害は、拘禁その他に依る威脅を伴つたばかりか、それ等國民の一身上の自由をも勝手氣儘に剝奪するといふ如き不法行爲を敢てしたのである。合衆國大統領のさなきだに益々尖鋭化せる攻擊振りは、遂に一切の國際法上の規定に反して、彼が米國海軍に向ひ獨伊の國籍を有する艦船は何處でも見つけ次第襲擊し、砲擊し、且つ擊沈するやうにとの命令を下すまでに立ち至つたのである。米國の

國務大臣等は、かやうな犯罪的な遣り方によつて、獨逸潛水艦若干隻を既に撃沈したとまで揚言した。獨伊の多數商船は、米國巡洋艦の襲撃を受けて拿捕された上た、その非戰鬪員たる乘組員は拉致せられ、且つ投獄せられたのであつた。それどころか、更にローズヴェルトの遠大な計畫なるものが米國で公表せられるに至つたが、亞米利加政府側では何等の公式否定をも行はなかつた。これによれば遲くとも一九四三年には、獨伊兩國を武力によつて歐羅巴で撃撃せんとするものであつた。

これにより、數年來のローズヴェルト大統領に依る堪へ難き挑發行爲にも拘らず、戰爭の擴大を防ぎ、合衆國との正常關係を維持せんとする、獨伊兩國の類例なき辛抱强さを立證する努力は、全く水泡に歸してしまつたのである。

茲に於て獨伊兩國は、遂に一九四〇年九月二十七日附の三國條約の規定に從ひ、日本と相携へてそれらの三國とその國民とを防衛し、且つそれに依つてその自由と獨立とを維持せんがために、亞米利加合衆國及び英國に對する戰ひを開始するの已むなきに至つたのである。仍つてこれら三國は次の如き協定を締結し、且つ本日ベルリンに於いてこれが調印を了した次第である。

亞米利加合衆國及び英國に對する共同の戰爭が完遂せられるまで干戈を收めざるの確乎不動の決意をもつて、大日本帝國政府、獨逸國政府及び伊太利國政府は左の諸規定を協定せり。

第一條　日本國、獨逸國及び伊太利國は亞米利加合衆國及び英國により强制せられたる戰爭を其執り得る一切の强力手段をもつて勝利に終るまで遂行すべし。

第二條　日本國、獨逸國及び伊太利國は相互の完全なる了解によるにあらざれば亞米利加合衆國及び英國

の何れとも休戰又は媾和をなさざるべきことを約す。

第三條　日本國、獨逸國及び伊太利國は戰爭を勝利を以て終結したる後に於いても亦一九四〇年九月二十七日その締結したる三國條約の意義に於ける公正なる新秩序招來のため最も密接に協力すべし。

第四條　本協定は署名と同時に實施せらるべく且つ一九四〇年九月二十七日の三國條約と同一期間有效たるべし。締約國は右有效期間の滿了前適當なる時期に於いて、爾後に於ける本協定第三條に規定せられたる協力の態樣に就き了解を遂ぐべし。

議員諸君！

一九四〇年七月に行つた余の最後的和平提案が拒否されて以來、我々はこの鬪爭は最後まで鬪ひ拔かねばならぬといふ點を既に充分に承知してゐる。故にアングロサクソン的、ユダヤ的資本主義的世界がボルシェヴィズムと統一戰線を形成してゐる事實は、我々國民社會主義者にとつては、何ら異とするに足りない。我我は獨逸の國內においても、彼等が常に同樣の寄合世帶を爲しつつあつたことを體驗した。しかし我々は國內におけるこの鬪爭を成功裡に遂行し、十四年間に亘る權力獲得の死鬪の後に遂に我々の敵を殲滅した。

獨逸を奈落の底から救ひ出さんと決意した時、余は未だ名もなき一介の兵士であつた。この鬪爭が如何に困難であつたかは多くの諸君が知るところである。

僅か七人の黨員によつて開始されたあの小さな運動から、一九三三年一月三十日の責任ある政府結成に至るまでの道程は、實に奇蹟的なものであつた。ただ神の攝理のみがその祝福によつて、これを可能ならしめたものと考へるのである。

今日余は世界最強の陸軍、最大の空軍及び誇りある海軍を統率してゐる。余は余の背後、余の周圍に一致團結せる黨のあることを知つてゐる。この黨と共に余は大をなし、黨も亦余を通じて大を爲したのである。余の目前に見る敵は二十年來周知の仇敵である。しかし余の前途に横はる道は、過去において踏んで來た道程と比較すべくもない。獨逸國民は、今やその生存の決定的瞬間に立つてゐることを認識してゐる。幾百萬の兵士は、最も困難なる條件にあるに拘らず、從順忠實にその義務を遂行してゐる。

又幾百萬の獨逸農民及び勞働者並に婦人達は、工場に營業所に田畑に各々額に汗して、銃後のためにパンを作り、戰線のために武器を製作してゐる。更に我が國と同盟を結べるものは、我々と等しき苦惱を抱き我我と同じ仇敵を持つ强力な國々である。亞米利加大統領とその金權主義的徒輩は、我々を「持たざる國」と命名した。これは正しい。しかし持たざる者も生きんと欲するものであり、又生きるために僅に所有してゐるものまで持てる者たちに奪はれることを、絶對に防止せんとするものである。

黨員諸君！　諸君の知らるる如く、余は一度び始めた闘爭を最後まで成功的に闘ひ拔かんとする斷乎たる決意を有するものである。諸君は皆余がかくの如き闘爭において何事をも恐れず、必要とあらば如何なる抵抗をも打破する意志を有するものなることを知つてゐる。

余は諸君に對し一九三九年九月一日の演說において、今次の戰爭においては武器の力も時の力も、獨逸を屈服せしめ得ないであらうと保證した。余は更に余の敵に對し、ひとり兵力や時が我々を屈服せしめ得ないばかりでなく、何らの內部的疑惑も、只管に義務を遂行せんとする我々を動搖せしめ得ないといふことを保證し得るのである。若し我々にして戰線に在る兵士の犧牲と彼等の爲せるところに思ひを致すならば、銃後

の犧牲の如きは全く論ずるに足りない些少なものである。しかし、既に我々より前の世代に獨逸國民の存立と偉大さのために斃れた凡ゆる人々の數を考ふるならば、我々はここに初めて我々自身の双肩にかかる義務の重大なるを自覺するであらう。

しかし乍ら、誰かこの義務を回避せんと欲する者があるならば、彼は我々に伍して國民の一員なりと稱する權利を有しない。政權獲得の爲の鬪爭に於いて何等逡巡するところなく、斷乎たる態度を取つて來たと同樣に、我々は今、我が獨逸國家興廢のこの一戰に於ても何等假借する所なく、毅然たる態度に出るであらう。我が國民の父たり子たる最良の男子が多數戰野に倒れてゐる時、銃後に在つて戰線の犧牲を水泡に歸せしめんとするが如き生活は、誰一人としてこれを考ふることを許されない。苟くも獨逸の戰線を破壞し、政府の權威を弱め、又銃後の働きを妨害せんと試みるものは、假令如何なる假面を被らうともすべて死罪に處せらるべきである。ただ一つ異るところは、戰線の兵士は最高の名譽の裡に死するに反し、斯かる奴輩は恥辱の裡に死んで行く點にある。

我々の敵は思ひ違ひをしてはならぬ。有史以來二千年の長きに亘り、獨逸民族が今日程鞏固に一致團結したことは嘗てなかつたのだ。我等の主なる神は、この數年間我等に大なる惠みを與へ給ふた。我々はかくも偉大なる民族の一員たることを許し給ふた神の攝理に對しては、頭を垂れて感謝せざるを得ない。然り！我々は今獨逸民族の過去及び將來に鑑みて、史上に不朽の名を留め得るの榮譽を有することを我が主に感謝するものである。

軍事篇

[illegible]

獨ソ交戰日誌

戰役の進行中に戰爭の記事を綴ると云ふことは非常に困難である。現在最も多くの通信を我が國へ向け打電して來るのはニューヨークのUP及びAP通信、ベルリンのDNB、モスクワの同盟通信である。その他北方戰線についてはストックホルムから比較的確實な報道が打電される。又アンカラからも時々要領のよい通信が來る。

通信員竝に一般ジャーナリストを通じての通弊は、ネタを手當り次第その儘打電することである。一分一秒を爭ふ彼等の職業意識は、その情報の眞僞を精査する暇を持たせぬ。就中アメリカ方面の記者は、センセイションを狙ふ弊が餘りにも强過ぎる。彼等の報道が眞に正しかつたならば、獨羅聯合軍は六月二十五日には早くもオデッサの郊外に到達した筈である。ラトヴィヤの首府リガも實際よりも三日前に陷落した筈である。

モスクワ電報はサヴィエート政府情報部の發表を文字通りに打電するだけらしい。その內容をチェックする自由もなく、また今の處日々變化する戰場の模樣についても、發表前に於て吟味する方法もないやうである。ソ聯の發表は、戰爭の初期に於ては大體事實に卽してはゐたが、何分

にも戰時に於てあり勝ちの敵の失策や損害は針小棒大に、成功は過少に報ずる政治的作意が見えるのである。なほこれ等の戰報を吟味し了解するには常に精密な地圖を見る必要がある。

そこへ行くとOKW即ち獨逸國防軍總司令部の發表は、筆者の經驗では、先づ正確に近いと云つてよい。先づと但書を附けるのは自軍の損害を知らせぬことで、これは戰役の進行中戰略的に止むを得ざることと思ふ。またある作戰が進行中、その目鼻が附くまでは沈默を守つてゐることである。傍觀者にとつてこれ程焦れつたい話はないが、防諜の關係上これも諒とする外はない。以下獨逸國防軍發表の公報を基礎に、日々の戰況に關する解說と說明を蛇足してみよう。

國境突破の序戰

○六月二十三日

東部戰線に於て我が軍の作戰は、豫定通り着々戰果を收めつつあり。

○六月二十六日

東部戰線に於ては昨日も亦我が海陸の作戰は豫定通りに進捗した。到る所の國境戰が我が軍に有利に展開したので、廣汎に亘る戰果が愈々顯著となり初めた。

○六月二十七日

東部戰線。最初五日間の作戰により、ソ聯軍に中歐攻擊準備のあつたことが歷然と立證せられた。

最初から獨逸軍の包圍下に曝されてゐて、純防禦的見地から見て無意味であつたレムベルグ及びビヤリストック西方國境彎曲部に於ても、我が諸部隊は攻勢待機中のソ聯軍集團に遭遇した。故に國境方面最初の戰鬪で、既にソ聯陸上部隊及び空軍と激烈な遭遇戰を展開した。全線に亘り勝利を收めつつある我が諸部隊の偉大なる戰果に就ては追つて公表する。

以上は六月二十六日迄の戰況に關する獨逸國防軍總司令部の公報である。開戰以後既に五日を經て、空に陸に多大の戰果を收めたが、獨逸國防軍總司令部はまだ概報をも發表しない。この間外報やベルリンからの私報は、隨分行過ぎた報道を打電して來た。

獨ソの戰線は北はムルマンスクの北氷洋沿岸から、昨年三月のソ芬平和條約によるソ芬國境に沿ひ、ウィボルグ附近に於て芬蘭灣に達し、更に西に飛び東プロシヤのニヱーメン（メーメル）河に沿つて南下し、ブグ、サン兩河を隔てて、舊波蘭の總督府領（ゲネラールグヴェルスマン）に對し、カルパト山脈についてブコヴィナを繞り、プルート河に沿つてドーナウの支流を下り、黑海に達する延長二千五百キロに亘る大戰線で、白、蘭、英、佛を向ふに廻して戰つた西部戰線の三倍以上である。

兩軍の兵數はまだ正確には判らないが、開戰前ソ聯側では既に百五十八箇師の大軍を國境に

沿うて配置し、中でもミンスク、ビヤリストック方面と舊波蘭領ガリシヤからベッサラビヤにかけては可なりの部隊を集結し、バルト海沿岸及び芬蘭方面は比較的手薄であつた。獨逸垂涎の地ウクライナの防備には殊に力を盡くし、スターリン線の守備兵の外に歐露常備兵力百三十箇師團の三分の一、四十五師をこの方面へ常駐させてゐたと云ふことである。獨逸軍の配置は開戰直前には百二十乃至百二十五箇師と云ふことであつたが、開戰と同時に相當增强されたことと思ふ。それに芬蘭軍十五箇師が東北部戰線で、羅馬尼軍二十箇師が南部ベッサラビヤの線で之に加はり、十數師團よりなる匈牙利軍もやがて馳せ參じて、兩軍の勢力は殆ど伯仲すると云つてよい。ソ聯側の發表では赤軍の第一線兵力百七十箇師團、獨逸側は百七十六箇師團とのことである。飛行機に於ては赤軍の機材が劣等な上に、數に於ても三對二の割合で劣勢を免れないが、戰車では數に於て弟たり難く兄たり難き情勢である。

攻防兩軍の作戰計畫を戰鬪のこの段階に於て揣摩臆測することは無理ではあるが、茫漠たる海洋にも自ら船舶の航路が決つてゐるやうに、獨逸側からソ聯に向つて侵入を企てるに當つては自ら採るべき經路がある。芬蘭方面は獨立の戰場で、獨芬聯合軍は先づ極北地方から運動を起し、ムルマンスク港とレニングラードとの間の鐵道を遮斷して、英米からの軍需品その他の流入を妨げんと企て、南方ではカレリヤ地峽及びラドガ湖北岸地方からの進出を企て、バルト

三國方面からの友軍の進出と相呼應してレニングラードを挾擊する方略である。若し早目にレニングラードが取れたら、懸軍長驅遠くモスクワの背面を迂回して、赤軍のウラル方面への退却路を遮斷する大雄圖を畫することも出來る。

獨逸の東部國境方面では、東プロシヤのキョニヒスベルグに集結し、一面バルト海沿岸に向ひ一面ラトヴィヤの首府コヴノ、ヴィルナを經てドヴィナ河の線に向ふ北部集團軍と、集結地舊波蘭の首府ワルシャワ方面から二途に別れて、プリペット沼澤地帶の北をビヤリストック、ブレスト・リトヴスクを經てミンスク、スモレンスクを望む中央集團軍と、プリペット沼澤地帶の南方ルブリン地方に集結を了り、プゼミズル、レムベルグ（ルボッフ）要塞を含む西部ウクライナの突出部から舊露波國境にかけて集結したソ聯の大軍を相手に、キエフに向つて進出すべき南部集團軍の三つがある。この他に羅馬尼、獨逸聯合軍はプルート河を隔てて係爭中のベッサラビヤに對してゐる。

ソ聯の獨逸軍に對する作戰計畫については、ナポレオン戰爭當時のクツーゾフ將軍の故智に倣つて、焦土戰術に出でるであらう。否それが最良策である。蔣介石が四川の奧地に立籠つて中原の日本軍に抗戰してゐるやうに、最初からウラル山脈の彼方に立退いて、ゲリラ戰術、ベルチザン戰術を以て獨逸軍を苦しめ、長期戰に導くのを得策とすると云ふ素人議論もあるが

ナポレオン當時と現在のスピード戰とは餘程狀況が違つて居り同日に論じ難い。ウクライナの穀倉、ドンバス地方の無盡藏の石炭、ドニエプルの大發電所、ハルコフ、モスクワ、レニングラード周圍の工業を放擲してシベリヤへ後退することは、假令國軍の大部分を全うし得るとしても、ソ聯全體の工業力の約八割を犧牲にする譯で、結局敗け戰となる恐があるから、機械化した近代戰にあつては到底實行不可能である。

クレムリンの首腦部には勿論そんな退嬰的な考へがなかつた許りか、本年の八月には獨逸に向つて攻擊に出る計畫であつたと云ふことである。この諜報を手にした獨逸側では一刻も捨て置き難いと機先を制して、まだ準備が充分に整はぬ嫌ひあるに拘らず、七月開戰の豫定を繰上げて敵の不意を衝いたつもりであつた。然るに豈圖らんやソ聯は莫大な戰車や飛行機を既に國境方面に集中して、攻勢待機の姿勢にあつたのである。されば中部及び西南部卽ち舊波蘭領ウクライナ方面に在つては、開戰初日から兩軍主力の衝突を見ることとなり、到る處大戰車戰が展開され、一進一退熱鬪を演じ、今度はこれ迄のやうに獨軍十八番の電擊戰とは行かなかつたのである。ソ聯としては國境の序戰でよしんば不利となつても、所謂スターリン線（註。これはこの防禦陣地の本名ではないが、英米軍事評論家の命名を踏襲して便宜上假にかく呼ぶこととする）へ下つて獨逸の進擊を喰止め、萬々一ここが潰へたらそこでクツーゾフ戰法に出ても遲くない

のである。之に反して獨逸軍としてはこの堡壘線を正面攻撃で力攻に突き破つただけの、所謂擊破戰では面白くない。土地の占領は第二義であつて、獨逸はどうしてもシュリーフェン式の大規模な包圍捕捉殲滅戰に出て赤露の野戰軍を全滅せねばならぬのである。

赤軍兵士の資質に就いては諸說紛々で歸一する所がないが、二十年來青年層に向つて施されたボルシェヴィズム精神の徹底と、一九三六年以來の精兵主義による猛訓練に、露人固有のニッチェボー精神が加はつて、中堅をなすソ聯の第一線精銳部隊は、人的素材としては獨逸軍兵士の好敵手と云はねばならぬ。若し强ひて赤軍の弱點を擧げれば、トハチェフスキー將軍の國軍改造の理想が、血の肅清に依る多數の殉難將校と共に中斷されたことで、殘存のヴォロシーロフ、ブジョンヌイ、ティモシェンコ、コワレフ、グスネツォフ等のツァリツィン防衛戰生殘りの將軍連が、この有史以來の大會戰に際して如何なる働きをするか聊か疑問である。これ等の元帥連の內、元老ヴォロシーロフ元帥は別として、ティモシェンコ元帥は現任國防人民委員として赤軍の首腦であり、スターリン主席の信任も厚い。參謀總長ジューコフ大將は、ノモンハン事件當時の第五十七狙擊兵軍團長である。また國防次官で教育總監を兼ねるメレッコフ大將は、ソ芬戰爭當時マンネルハイム線突破の偉勳を樹てた實戰家である。極東軍で有名であつたブリュッヘル、ステルン兩將軍は今はどうなつたか、杳として消息がない。最近の情報によ

れば、元國防人民委員ヴォロシーロフ元帥は北西方面軍、現任國防人民委員ティモシェンコ元帥は中央方面軍、ブジョンヌイ元帥は南部方面軍を指揮してゐると云ふことである。これ等の諸將軍が參謀總長カイテル元帥、陸軍總司令官ブラウヒッチ元帥以下百戰練磨の獨逸將星に對して、果してどれだけの大軍統率力を發揮することが出來るか洵に見ものである。兵力、機材、素質に於て餘り大きな逕庭のない獨ソ兩軍の運命を決するものは、實に統帥部、參謀部の優劣である。この點については最眞目には相違ないが、獨逸軍の方に餘程分があるやうに思はれる。

○六月二十九日

東部戰線戰況特報

我が軍は東部方面の切迫せる危險を除くため、六月二十二日拂曉三時を期して敵大軍の集結中へ突進した。我が空軍は同日未明早くもソ聯領土及び軍隊を攻擊した。敵空軍は數的優勢にも拘らず、殲滅的の大打擊を蒙り、我が空軍は二十二日既に制空權を掌握した。

三百二十二の敵機は、空中戰に於て我が戰鬪機又は高射砲により擊墜された。また地上に於て破壞された敵機を合算すれば、敵側の喪失は二十二日夕刻迄に千八百十一機に上り、我が軍の損害は僅に三十五機に過ぎぬ。

二十三日敵は我が進擊部隊の前衞に向つて猛烈な反擊を始めた。彼我兩軍は同數であつたにも拘らず、我が軍は遂に勝利を博し、ソ聯軍の凡ゆる企圖を挫折せしめた。戰線の各所で或は血戰或は白兵戰を展開した。グロドノ（Grodno）の要塞は激戰の後陷落した。

敵空軍は同日も亦多大の打擊を蒙り、その損失は二十三日夕刻迄に二千五百八十二機に達した。

ブレスト・リトヴスク（Brest-Litovsk）要塞は重砲の砲擊により我が軍の手に歸し、二十四日敵最後の據點たる首堡に突入した。我が前衞部隊はウィルナ（Wilna）及びコヴノ（Kowno）に達し、同日中に兩市の占領を完了した。

獨逸軍の進擊を阻止する目的を以てソ聯軍は、我が師團を攻擊し來り、中央の連絡を遮斷し又形成されつつある包圍圈より脫出せんものと無數の戰車を出動せしめたが、我が戰車部隊は對戰車砲部隊と協働してよく難局を打開した。この際我が軍の高射砲及び飛行機の掩護を受け、最新式を誇るソ聯の重戰車も獨逸兵士の勇氣と優秀なる武器の犧牲となつた。

開戰以來四日間にソ聯は、戰車千二百輛を我が陸軍により、九十七輛を空軍により擊破せられた。

バルト地方に作戰中の我が部隊は勇敢に前進を續け、二十六日遂にデュナ（Düna＝Dvina）河に到達、各處に於て渡河に成功し、デュナブルグ市（Dünaburg）は我が手中に歸した。我が軍の進出を阻止せんとする敵の死物狂ひの反擊も、我が兵士の勇敢なる進擊により遂に無效に終つた。

獨逸海軍の水上艦艇及び潛水艦は、ソ聯海軍に對し幾多の果敢なる攻擊を遂行した。東部バルト海に於て機雷を以て一驅逐艦を擊沈せる他、巡洋艦マキシム・ゴリキーに大損害を與へた。獨逸潛水艦はソ聯潛水艦二隻を擊沈し、一獨快速艇は敵の驅逐艦二隻、水雷艇一隻及び潛水艦一隻を擊沈した。

コンスタンツァ港（羅馬尼）襲擊の擧に出でたソ聯驅逐艦二隻は、海岸砲兵の爲に失敗に歸し、砲戰數分の後一隻は粉碎せられ、他の一隻は全速力を以て退散した。

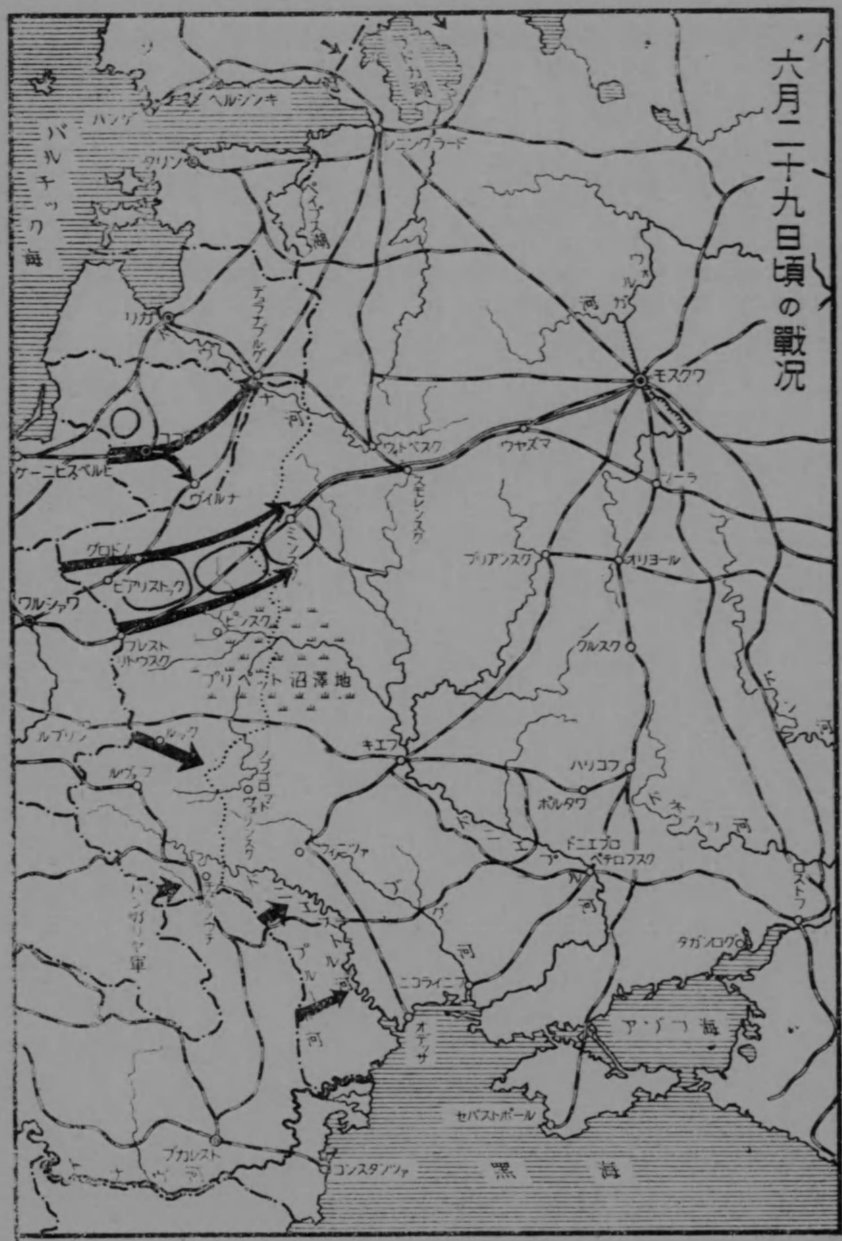
コヴノの北方に於ける二日間に亘る大激戰は、二十六日に至り獨逸戰車部隊の勝利に終つた。敵の數箇師團は包圍殲滅せられた。その際我が軍の鹵獲せるもの、最重戰車二十八輛を含むソ聯戰車二百輛以上、砲百五十餘門竝に裝甲車數百輛である。

プリペット沼澤地帶南方の戰線に於ては、ソ聯精鋭部隊との間に激戰が展開せられた。レムベルグ（Lemberg ルヴォフ（Lvow）とも云ふ）の西方に位せる最強最新式の要塞は我が強靱なる攻擊により攻略せられ、我が諸部隊は今や意氣揚々として同市に向つて進擊中である。同地の北方に於て獨逸戰車部隊はルツク（Lutzk）を通過して東方への道路を行進した。他戰區同樣この方面に於ても獨逸空軍は、絕えず援軍により增强せられる敵の部隊に對し、偵察飛行及び勇猛果敢なる攻擊により、我が軍の勝利ある前進に大いに寄與する所があつた。敵の損害は莫大である。この方面でも多數の敵戰車が破壞された。ドウブノ（Dubno）附近の戰鬪だけでも、我が軍は敵戰車二百輛、重砲四十二門を含む砲多數を鹵獲した。

現に進行中の戰鬪に於てソ聯の二箇軍は、ビヤリストック（Bialistock）の東方に於て完全に袋の鼠となつた。數日に亘つて繼續された彼等の絕望的な包圍突破の企圖にも拘らず、我が軍の包圍網は刻々に緊縮せられつつある。日ならずして彼等は殲滅せらるるか、然らずんば投降する他はない。かくて對獨攻勢の主力部隊と定まつてゐた多數の赤軍師團の運命は、茲に終りを告げるであらう。多數の步兵師團及び親衛隊は、この敵に對する殲滅的攻擊作戰に際し、空軍の援助を受けつつある。

我が裝甲部隊及び機械化師團は、ビヤリストックを迂回してミンスク周邊地區に達した。遠か

第一圖


六月二十九日頃の戰況
ヘルシンキ
バルチック海
タリン
レニングラード
ペイプス湖
リガ
テラナプルグ
モスクワ
ウヤズマ
ゲーニヒスベルヒ
ヴィルナ
ウルスク
ドニエプロペチロフスク
ロストフ
タガンログ
アゾフ海
セバストポール
黑海
コンスタンツァ
ブカレスト
ニコライエフ
オデッサ
ルブリン
ルヴフ
ワルシャワ
ブレストリトウスク
プリペット沼澤地
キエフ
ハリコフ
ポルタワ
ドニエプロペチロフスク
ハンガリヤ軍
ドイツ軍
ソ聯軍

らず更に偉大なる戰果が擧がると思ふ。

六月二十二日より同二十七日に至る短期間に於ける對ソ作戰の最初の戰果は實に莫大であつた。鹵獲品の如き殆ど見當もつかない程である。最初數日間の捕虜の數は既に四萬を超えた。六百門以上の砲が鹵獲され、裝甲車二千二百三十三輛の内、五十二噸重戰車四十六輛がある。これ等は或は破壞され或は損傷した。この外に莫大な數に上る對戰車砲、高射砲、竝に機關銃、小銃、自動車等がある。これ等の數字は刻々に增大しつつあるので、前記包圍中のソ聯集團軍の投降乃至殲滅後には、その數字は愈々以て物凄いものとなるであらう。我が空軍は本大戰が始まつて以來最も殲滅的な大打擊をソ聯空軍に與へた。戰鬪機隊、爆擊機隊竝に高射砲により、開戰以來七日間に、空中及び地上に於て我が軍の破壞した敵機數は實に四千百七機に達してゐる。その間我が軍の喪失數は僅か百五十機に過ぎない。空軍の飛行士、器材共に敵に比し遙かに優秀である。

我が軍各兵種の模範的協力によつて達成せられた飛行機、裝甲車及び其の他の器材の破壞乃至鹵獲が莫大な數字に上ると云ふ事實は、同時に我が東部國境に一團となつて迫つてゐた危險の如何に恐ろしいものであつたかと云ふことにつき、深刻且つ驚愕すべき印象を與へるのである。慥に我々は、遽に成行の豫測を許さぬ程の恐るべき敵襲から、中央歐羅巴を最後の瞬間に於て救ふことが出來たのである。獨逸國民はその勇敢なる將卒に對し眞に最大の感謝を捧げねばならぬ。

開戰と同時に先手を打つて敵の飛行場を奇襲し、機材を破壞し、格納庫竝に整備施設を徹底的に打ち毀して敵空軍の活動力を封じると云ふのが、獨逸空軍の十八番である。『敵空軍は數的優勢にも拘らず、殲滅的の大打擊を蒙り、我が空軍は二十二日既に制空權を掌握した』と獨逸の公報は誇り顏に傲語してゐる。二十二日夕刻迄の赤軍側の損害は一千八百十一機の多數に上つた。赤空軍もさるもの大編隊を以てワルシャウを空襲して來たが、照準の正確な獨逸高射砲の射擊と、戰鬪機の活躍により三百二十二機を擊墜され、散々な目に遇はされた。

獨逸空軍の活躍はその後連日續き、二十八日迄には四千百七機を擊墜又は擊破したと云ふことである。赤軍の飛行機保有量は一萬機、その內八千機が獨ソ戰線に集結されてゐたと戰前一般に推定せられてゐた。果して然らば正にその半數が、開戰七日間にやつつけられてしまつた譯である。而も獨逸側の損害は僅に百五十機に過ぎぬとは、實に嘘の樣な大成功と云はねばならぬ。これを西部戰線の戰果に比較するに、昨年五月十日に始まり六月五日に終つた白蘭英佛を相手のフランダー戰に於て、獨逸空軍は空中に於て千百四十二機、高射砲により六百九十九機を擊墜し、地上に於て約千七百機を擊破、合計敵機三千五百四十一機を二十五日間に破壞したのである。これを見ても獨空軍今次の大勝利が、如何に短期間に實現され、且如何に壓倒

的であつたかを知るに足る。

總統本營からの週間戰績發表にもあるやうに、東プロシヤの國境を越えて進擊した獨逸軍は二十四日にはリトアニヤの首都コヴノと舊都ウィルナを占領した。その前衛は二十六日には早くもラトヴィヤの中央を貫流してリガ灣に注ぐデュナ河に達し、河畔の小都會デュナブルグを占領した。即ち五日間に約三百キロを行進した譯である。この進軍の結果東プロシヤ侵入の目的を以てこの方面に駐屯した數箇師の赤軍は、退路を斷たれ本戰役最初の大量捕虜を出した。

コヴノ　はニエーメン河とウィリヤ河の合流點に位し人口十五萬、恰度一年前までリトアニヤ國の首府であつた。一八一二年ナポレオンのモスクワ進擊に當り本營を置いた處で、ここからウィルナ、ミンスク、スモレンスクと進軍を續けた出發點である。

ウイルナ　はウィリヤ河とウィレイカ河の合流點に在り、一三二二年から一七九五年までリトアニヤ王國の首府であつた。爾後露領となり、世界大戰直後暫らくリトアニヤ共和國に屬してゐたが、波蘭建國の元勳ピルヅッキー生誕の地であると云ふ理由で、波蘭に强奪された。一九三九年獨露兩國の間に波蘭を分割したとき、ソ聯はこの地方をリトアニヤに讓つた。一九四〇年六月十五日ソ聯がリトアニヤを併合してから、ウィルナはリトアニヤ社會主義サヴィエート共和國の首都となつた。最近の人口は約三十萬人、穀物及び材木の取引が盛んで、寺

院學校の數も非常に多い。

リトアニヤ人はスラブ民族ではあるが、露西亞人とは人種及び言語を異にし、個有の文化と古い歴史を持つてゐるのでどうしてもソ聯に同化せず、昨年來のサヴィエート化に對しても面從腹背の態度を持し、獨立の地下運動を續けたが、獨ソ斷交を天與の好機會と、徒黨を組んで蜂起、ウィルナとコヴノのソ聯官憲を追拂つてしまつたので、獨逸軍は二十四日兩市を無血占領することが出來たのみならず、有力な赤軍部隊をコヴノの北方に包圍殲滅するの素地を造つた獨立黨の功は寔に賞讃に値する。

一九三九年八月二十三日、リッペントロップ獨外相とモロトフ露外相との間に獨ソ不侵略條約が締結せられた時に、芬蘭、エストニヤ、ラトヴィヤはソ聯の自由裁量に任せるが、リトアニヤは獨逸の勢力範圍として緩衝地帶の役目をさせることに、兩國間に祕密の諒解が成り立つたやうである。然るにソ聯は獨逸が西部戰線で佛蘭西と戰つて、東方を省みる暇のないのに乘じてバルト三國に最後通牒を突きつけて、否應なしに占領してしまつた。當座の間は新附の人民を懷柔するために爪を隱してゐたが、段々に地金を出して來て、大工場は皆國有にしてしまひ、三十ヘクタール以上の土地は悉く取上げてしまひ、インテリ階級はシベリヤへ流刑に處すと云つた遣り口で、おまけに農民のコルホーズ加入を强制するので、今度の獨逸軍の侵入は救

ひの神と住民から大いに歡迎されたのである。

次にデュナブルグの占領は、世界大戰に從軍した人には思出の深いものがあると思ふ。一九一六年の夏期攻勢の時獨逸軍はデュナ河の線まで進出したが、どうしても對岸へ橋頭陣地を設けることが出來ず、從つてリガもデュナブルグも手中に收めることが出來ずに、その儘一九一七年十二月のブレスト・リトヴスクの媾和談判の時まで、川を隔てて對陣を續けたのである。當時の露國側の全權はトロッキーであつた。彼は獨逸軍の內兜を見透して最早や戰意がないと見くびり、曠日彌久の策を講じて一向談判の進捗を計らず、專ら共產主義の宣傳にのみ汲々としてゐたので、獨逸側も遂に業を煮やして一九一八年二月遂に全面的に進出、ボルシェヴィッキーの抵抗を打破つて、ペイプス湖の北岸から起り、ミンスクとスモレンスクの間でドニエプルの上流に達し、それから東南に彎曲してアゾフ海の頂部に達しウクライナ全部とドンバスを包擁する線まで進出したので、流石のトロッキーも驚いて急に平和條約に調印したのである。

一九二〇年建國早々の波蘭とソ聯との間に隙を生じたとき、トハチェフスキーの率ゆる赤軍は懸軍長驅して波蘭領內に侵入し、ナレフ河の北岸に沿うて西進、ワルシャウを包圍攻擊する計畫であつたが、ピルゾッキー將軍に叩かれて這々の態で逃げ歸つた。赤軍は今度も亦同樣の意圖を以て狙擊兵四十九箇師團、騎兵七箇師團、機械化部隊十二箇旅團、戰車隊三箇師團より

成る二箇軍を、ビヤリストックとミンスクの線に集結し、一軍は北方より一軍は正面よりワルシャウに向つて進擊の計畫であつた。獨逸側ではワルシャウ北方より東方に向つて進出した一軍は、ビリヤストックの西北方に於て敵の大集團と衝突し、他方ワレシャウよりミンスクを望んで進出した一軍はブレスト・リトヴスク及びグロドノの兩堅壘を陷れ、南方より前記の赤軍集團を壓迫、包圍の狀態となり、この重圍を脫せんと死物狂ひの敵軍との間に非常な激戰を展開した。獨逸軍の主力は、前記敵軍の包圍を後續の步兵師團に任せ、戰車軍團、機械化師團の大部隊を以て錐もみ狀にモスクワ街道をミンスクに向つて驀進して敵の心膽を寒からしめた。

またプリペット河上流の沼澤地帶を避けてその南方ルブリン地區に集結した獨逸軍は、レムベルク突出部の根元に當るルツク、ブローディ方面に向つて侵入を開始した。この方面にあつても赤軍の大軍が同じく、西部ガリシヤから獨逸に向つて進擊の態勢を整へて待機中であつたので、兩軍計四千の戰車が劈頭から大衝突を演じ、日々熱戰を繰返した。サン河に跨る國境都市プレミズル (Przemysl) の要塞は早くも獨軍の手に歸した。ソ聯はガリシヤ地方占領以來レムベルグ西方に於て鋭意熱心に最新式の要塞線を構築中であつて、その完成を見ざる間に開戰となつたのは獨軍に取つては勿怪の幸であつた。それにも拘らず赤軍はこの線に據つて頑强な抵抗を試みたが、獨軍は漸次之を擊破しつつ敵をレムベルグ大要塞方面に壓迫した。ペッサ

ラビヤ方面の敵も亦頗る優勢なので、この方面の獨羅聯合軍の進出振りは餘り捗々しくない。

この序戰一週間内に於ける赤軍戰車喪失高は千四百九十七輛であつた。中には五十二噸の重戰車もあつたが、これも獨軍の野砲や對戰車砲によつて射止められてしまつた。

○六月三十日

ガリシヤ方面進擊中の我が軍はレムベルグを占領した。中部戰線ではソ聯軍を包圍せる鐵環は更に緊縮された。我が北翼部隊は敵を追擊中である。沿海方面ではリバウを占領した。

六月三十日獨逸軍の手に歸した**レムベルグ**は、一二五九年に創建せられ、一二六〇年に韃靼人に壞されたと云ふ古い歴史を持つてゐる都會で、波蘭第一次分割の時墺太利領となり、西ガリシヤのクラカウに對し、東ガリシヤの首邑としてこの地方に於ける商工業及び文化の中心であり、又兵要の地でもあつた爲、世界大戰當時には二回も露軍によつて占領されたことがある。ヴェルサイユ及びサン・ゼルメン條約により、ガリシヤ全土は波蘭領となり、レムベルグは羅馬尼に通ずる貿易の要衝として非常に重要性を加へた。一昨年の獨波戰爭當時はル

ンドステット將軍の南軍によつて包圍され、交戰最中侵入して來たソ聯軍に引繼ぐこととなつた所、防戰してゐた波蘭軍は赤軍の捕虜となることを好まず、進んで獨逸軍に投降したと云ふ挿話がある。レムベルグの南方からは年產額百萬噸位石油が採れ、製油工場もあるので、石油資源の貧弱な獨逸にとつては大きな仕合はせである。

序ながら反樞軸側では、獨伊兩國は石油欠乏の爲に戰爭繼續が不可能となると宣傳してゐるが、獨逸一國の人造石油產額が既に四百五十萬噸を突破してゐる上に、封鎖を受ける恐の絕對にない陸續きの羅馬尼から原油や精油を輸入するのであるから、この點は心配がないやうである。一九四〇年の羅馬尼の石油產額は五百七十六萬噸で、一九三九年の六百三十萬噸に比べて約九%の減少であるが、これは英米白佛の資本系統に屬する油田や工場に於けるサボタージュの結果である。右產額の內百八十六萬噸を國內需要に當てた殘りを全部輸出するので、運搬上の種々の障害に打克つて、一九四〇年には三百五十萬噸の石油が獨伊兩國へ輸出された。獨逸はまた年額少なくも百萬噸の石油をソ聯から貰ふ筈であつたが、これが中々圓滑に行かなかつた。然るに今や前記のガリシヤ地方の油田が獨逸軍の權內に這入つたので、露油の代りが出來た譯である。因にモスクワ電報は、ソ聯の飛行機が羅馬尼のブロエスト油田地方を空襲して、鑿井や精油工場を炎上させたと再三報じてゐるが、ブカレストからの報知ではこれは眞赤な嘘

で、まだ一度もソ聯機の爆撃を受けて居らぬと云ふことである。

○七月一日

カルパト山脈とプリペット濕地帶との間に於て、我が軍の諸兵團はスロヴキヤ諸部隊と協力、レムベルグ周邊の敵敗殘部隊を急追中である。ビヤリストックとミンスクとの間に包圍されたソ聯の諸部隊は、終日絶望的な脱出を企て、八回乃至十二回に亘り超重戰車隊に掩護されて反覆包圍突破を試みたるも、その都度甚大な損害を蒙つて撃退された。更に東方に於て我が軍はベレシナ河に到達した。デュナブルグ、リガ間に於て我が軍は、デュナ河の廣汎なる線に進出し數箇所の渡河に成功した。この方面に於ても敵の猛攻撃を挫折せしめた。

我が空軍諸編隊は有效に地上戰鬪を掩護した。中でもレムベルグの東方に於て二乃至三列の果てしもない流となつて遁走中の敵の諸縱隊を爆撃し、且又ビヤリストック、ミンスク間に包圍中の敵諸部隊に甚大極まる損害を與へた。我が空軍諸編隊はまたリガを經て退却中の敵軍に對し連續爆撃を加へた。本作戰の遂行中敵戰車の多數及び數百臺の貨物自動車を破碎し、敵砲兵を沈默させ、且軍用列車多數を撃破した。我が空軍は昨日ソ聯空軍との戰鬪に於て殊勳を樹て、敵は三

十日に二百八十機を失つたが、内二百十六機は空中戰に於て擊墜された。フィッシャー半島南部に於てソ聯の一驅逐艦は爆擊を受け、甚大なる損害を蒙つた。

○七月二日

東部に於ける對ソ作戰は急速に進行中である。

プリペット沼澤地帶の南方ツェロツォフ附近に展開した戰車戰に於て、ソ聯戰車百輛を擊破した。ドゥブノ戰區に於てソ聯戰車隊は、折柄前進部隊の豫備隊として後續中の我が後衛諸師團の挾擊するところとなり、戰鬪二日にして全滅され、我が軍は敵の戰車百二十輛を鹵獲した。ビヤリストック東方に包圍されたソ聯軍の殘部は、昨日中に完全に殲滅せられた。鹵獲品無數、目下判明したものだけでも捕虜十萬、戰車四百輛及び砲三百門に上つた。

既に特報せる如く我が軍はリガを占領し、又ウィンダウをも占領した。

我が軍は盟邦芬蘭軍と協力、昨日中部及び北部芬蘭に於てソ聯國境を越えて勇躍進擊中。

獨空軍は昨日も亦絕えず敵の集結部隊、機甲部隊及び砲兵陣地を攻擊し、我が地上作戰を援助した。レムベルグ東方、ミンスク附近及びエストニヤ方面を敗走中のソ聯部隊は、我が空襲を蒙

つて甚大なる損害を受けた。

敵後方地帶に於ては敵の連絡路及び裝甲列車を潰滅した。

既に著しく弱勢となつた赤空軍に對し更に新戰果を收めた。

カルパト山脈の山路から進出せる匈牙利軍は、現に我が軍の攻擊に參加してゐる。

赤軍ではレムベルグの喪失を認めてはゐるが、あれは豫定の退却であると負惜みを言つてゐる。この方面では赤軍は初めから攻擊的待機の姿勢にあつて、有力な戰車隊を集中してルック方面に向つて扇形に展開集結してゐたので、開戰初日から獨逸軍との間に熱戰を演じ、兩軍戰車隊の大衝突となつたのである。赤軍はこの戰區では九十二噸或は百二十噸もあるマンモス戰車を出動させたが、攻防力は非常に強いが運動が遲緩なので、獨軍の對戰車砲や、急降下爆擊機の爆彈に射止められて、大いに期待に反いた。二日に亘る熱鬪の結果、さしもの赤軍戰車師團も遂に敗績して、獨軍の進擊路が完全に開かれたのである。

七月二日の公報は獨軍によるリガとウインダウの占領を報じた。

リガ　市は昨秋ソ聯への併合までラトヴィヤ國の首府であつて、人口は三十五萬人、デュナ河口から十一キロの上流にある。同市は一二〇一年僧正アルブレヒト一世によつて創建せられた古い獨逸人の都會であ

る。舊市街にあるドームは一二二六年に落成、ペトリーキルヘーは最初一二〇九年に木造で、後一四〇八年から六六年の間に石造に改築されたのを見ても、リガが如何に古くから獨逸文化の代表者として東方の蠻地に輝いてゐたかを想見するに足る。中世時代にはハンザ同盟の一員としてリュベックやダンチヒと繁盛を競つた。一六五六年には瑞典王グスターフ・アドルフによつて一時占領せられたこともある。瑞典の英主カール十二世がポルタワに於て露西亞のピヨートル大帝に敗られた結果、リガも一七一〇年七月四日露軍に降つた。爾來世界大戰當時まで露國輸出入貿易第三の要津として殷賑を極めた。ブレスト・リトヴスクの獨ソ媾和條約により、エストニヤ、ラトヴィヤ、リトアニヤの三國は各獨立政府を組織して露西亞の羈絆を脱したが、昨年の七月以來又もやソ聯に編入せられて、つぶさに共產主義の殘虐を味はつたのである。この地方には十數代も永住した獨逸家族がある位で、リガは文化的には獨逸色の非常に濃厚な都會であつたが、多數の獨逸人はヒットラー政府の親ソ政策に殉じ、多年住慣れた故鄕を後に波蘭の獨逸新領地へ移住したのは一昨年末のことであつた。これ等數萬の人々の內には情勢の逆轉と共に、再びバルト沿岸地方への歸住を希ふものも尠くないと思ふ。

この日迄の最終報告によれば、六月二十二日以降七月一日迄の東部戰線の綜合戰果は、赤軍捕虜十六萬人、擊破したる飛行機四千七百二十五機、破壞又は鹵獲した裝甲車五千七百七十四

輛、砲二千三百門、其の他小銃及び彈藥無數である。

○七月五日

東部戰線の我が作戰は豫定通り進捗中である。プリペット濕地帶南方主戰線後方に於て我が豫備隊は、潰亂せる赤軍の一部を潰滅し、多數の捕虜を得た。友軍たる匈牙利軍は、昨日コロメヤ（Kolomea）及びスタニスラウ（Stanislau）を占領した。ミンスク附近に於て包圍された赤軍の內二萬人は、既に特報せる如く政治委員を射殺して我が軍に投降した。

ミンスク東方に於て我が軍はドニエプル河に達した。バルト諸國方面に於ては潰走せる敵を追擊中である。

芬蘭國境を越えて進擊中の獨芬聯合軍は、よく地形の困難と一部敵の頑强な抵抗を排して順調な進擊を續けつつある。

戰鬪機及び重、輕爆擊機編隊は、デユナ河上流及びウクライナ西方の敵を攻擊、裝甲車及び貨物自動車多數を粉碎し、更に敵砲兵陣地に有效な爆擊を加へ、赤軍中心地の重要鐵道施設をも破壞した。敵空軍は空中戰で引續き大損害を蒙つた。

スターリン線の攻撃開始

○七月六日

所謂スターリン線に對する我が戰鬪は、豫定通り進捗しつつある。空軍は敵の集合地點及び集結路を爆擊し、地上部隊の作戰を掩護した。ジトミール（Zitomir）地區だけでも、爆擊及び機銃射擊により赤軍トラック五百輛及び鐵道輸送車十八列車を破碎し、昨夜はまたスモレンスク（Smolensk）の鐵道及び道路交叉點を有效に爆擊した。

昨日ソ聯空軍は二百八十一機を失ひ、内九十八機は空中戰に於て擊墜、百八十三機は地上に於て爆破、我が方は十一機行方不明となつた。

六日の獨逸公報に初めてスターリン線と云ふ文字が現はれた。而も「所謂」と但書が附いてゐる。これはこの設堡陣地の本名ではないが、英米の操觚界では一般にかく呼ぶので、獨逸側でも便宜上この名を用ひたのである。スターリン線の構造その他の解說は追つてすることとして、茲では獨逸軍の一部が前進陣地に於ける赤軍を擊壞して、既にスターリン線に取着いたこ

とに注意して頂きたい。

○七月七日

ベッサラビヤ戰線に於ては、獨羅聯合軍は赤軍の反擊を排除し進擊中。ブコヴィナ戰線の羅軍は、ドニエストル河上流の線に進出し、更にその北西に於て匈牙利軍と連絡、チェルノウチ(Czernowitz)を占領した。ガリシヤ戰線に於てはセレト河を渡り、廣汎なる正面に亘つて敵を追擊中である。プリペット濕地帶北方の獨逸軍は、ドニエプル河及びデュナ河上流に向つて進擊しつつある。

獨芬聯合軍の作戰は計畫通り進捗してゐる。昨日も我が空軍編隊は再び赤軍の戰車及びトラック多數を破壞し、砲兵陣地を戰鬪不能に陷らしめ、列車、輸送路及び彈藥貯藏庫を爆碎した。またウクライナ地區に於ては敵の後方連絡路及び防禦陣地を有効に爆擊し、他の一隊はスモレンスク地區及びペイプス(Peipus)湖東方の赤軍に爆擊を加へた。フィッシャー半島方面の我が爆擊機竝に急降下爆擊機編隊は地上部隊の進擊を掩護し、敵基地に凡ゆる口徑の爆彈を投下した。

註。フィッシャー半島とは芬蘭の極北、ペツァモ港の東北に突出してゐるコラ半島のことである。

七月六日の敵損失機數は合計二百四機で、內百六十機は空中戰で擊墜、四十一機は地上に於て爆碎、殘餘の三機は掃海艇が擊墜した。我が方十機行方不明。

バルト海東部に出動した掃海艇隊は、ソ聯驅逐艦四隻と遭遇、一時間に亘る交戰の後敵驅逐艦一隻に砲火を浴せ甚大な損害を與へ遁走せしめた。更に敵爆擊機七機を擊退、三機を擊墜した。

○七月八日

東部戰線の作戰は豫定通り進捗中である。

○七月九日

東部戰線全線に亘り戰鬪は我が方の優勢裡に進捗を見つつある。

○七月十日

スターリン線の攻擊開始

東部戰線に於ける我が軍の作戰は、何等の支障なく着々進行中である。

芬蘭戰線では敵が本格的要塞を構築した國境都市サラ（Salla）は、數日間に亘る激戰の後八日遂に我が軍の占領する處となつた。同地區に於ける獨逸軍の作戰は、芬蘭軍の包圍作戰に依り掩護せられ同市守備のソ聯師團は全滅した。

ミンスク及びビヤリストツク戰の戰果發表

ビヤリストツク及びミンスク地區に於ける器材戰及び包圍戰の絕大なる戰果が漸く判明した。我が方の獲た捕虜總數三十二萬三千八百九十八名　この內には數名の軍團長及び師團長も含まれてゐる。戰車及び裝甲自動車三千三百三十二輛、火砲一千八百九門、竝に莫大な數量に上る各種兵器が鹵獲又は破壞された。斯くてこれ迄東部に於て鹵獲又は破壞された敵の軍需器材の累計は、裝甲自動車（戰車共）七千六百十五輛、火砲四千四百二十三門、飛行機六千二百三十三機、捕虜の總數は四十萬に上つた。

これはまた驚くべき數字である。赤軍の有する戰車は一萬輛、第一線の飛行機は約八千機と云ふのが、開戰前の露西亞最負の數字であつた。今や飛行機はその四分の一、戰車も亦約四分

の一を殘すだけとなつた計算である。而も猶相當數量の飛行機や戰車を前線へ繰出して來ることを見ると、曩に正確に近いものと信じられたソ聯の保有量が、寧ろ非常に誇輪の計算であつたことが感じられる。

それにしても三十二萬の捕虜、千八百門の大砲、三千二百輛の戰車を鹵獲したビヤリストック＝ミンスク包圍戰の戰果は、實に世界戰史上最大の記錄であつて、世界大戰當時の「タンネンベルグの戰」の如きも一寸顏負けの姿である。捕虜の數から推して、本會戰に於ける赤軍の死傷は少なくとも同數と考へてよい。獨ソ兩軍の精鋭が互に死力を盡して相搏ち相鬪つた本會戰の詳細は、嘸かし血湧き肉躍るものがあるであらうと、一日千秋の思ひを以て詳報の發表を期待する次第である。

ビヤリストック＝ミンスクの會戰終了を以て本戰役の第一段階を終り、スターリン線突破の第二段階に移ることとなつた。その結果として戰線の整理、兵員及び器材の補充等次の大飛躍に向ふ準備が行はれる。獨逸軍の公報はまたもや沈默を守り始めた。內外の新聞通信等には戰線が膠着狀態に陷入つたなどと一齊に書き立ててゐるが、これは正しい表現とは云へない。ソ聯側の報道を參照して觀察すると、獨逸軍の中央部隊はミンスクの前方ベレシナ（Beresina）河畔のボリゾフ（Borisow）、ボブルイスク（Bobruisk）の線まで進出し、その前衛部隊はミ

ンスク＝スモレンスク街道上の要衝オルシャ（Orsha）竝にその北方約百キロのウィテブスク（Witebsk）の堅壘に肉迫して、スターリン線全面に對する總攻擊開始の命を待つてゐるやうに思へる。

この間南部ベッサラビヤ地方の戰況は餘り活潑ではない。或は獨軍總司令部で故意に、この方面へ敵を牽制してゐるのかも知れぬ。

北部戰線に於ては七月八日エストニヤ南部の海港ペルナウ（Pernau）及びその東方五十キロのフェリン（Fellin）を取り、ソ聯とエストニヤの國境市オストロフ（Ostrow）を占領した。同市は北部スターリン線上の要衝プスコフ（Puskow）の南に位し、同市の占領はスターリン線一部の衝破と見ることも出來る。

野戰軍の總攻擊準備中、空軍は專ら赤軍防禦線後方の爆擊に出動し、鐵道線路の破壞と列車の爆擊を敢行し、進軍中の敵縱列、補給輸送部隊、車輛置場等を徹底的に爆擊して大損害を與へ、爲に道路上到る處に大混亂と大障碍を惹起した。また八日には獨空軍は、反擊態勢を整へて待機中の八十噸型ソ聯超重戰車隊を發見し、爆擊機編隊をして之を爆破させた。かくて獨逸空軍はその鵬翼を伸して、モスクワ、レニングラード間の重要な鐵道幹線を二箇所に於て爆破し、スモレンスク地區に於て客貨車三百七十五輛を爆破し、キエフ方面の鐵道連絡をも遮斷し

た。右の外獨逸空軍は北氷洋フィッシャー半島沿岸沖合に於て千五百噸級のソ聯汽船一隻を擊沈し、四千噸の汽船一隻に大損害を與へた。なほバルト海沿岸に於ても三千五百噸のソ聯運送船一隻を擊沈した。

○七月十二日

東部戰線に於ける聯合軍諸部隊の作戰は計畫通り進行中である。

スターリン線の突破

○七月十二日夜特別發表

獨逸軍は果敢なる攻擊により、スターリン線上の各重要地點を突破した。

獨羅聯合軍は廣正面の戰線に於て敵をドニエストル河迄退却せしめ、一部は更に之を越えて後退せしめた。ガリシヤ戰線に於て、獨逸、スロヴキヤ、匈牙利聯合軍は、潰走中の敵に對し猛烈なる追擊戰を敢行しつつある。ドニエストル河東北方の獨軍はキエフに迫りつつある。プリペッ

ト濕地帶北方の地區に在つては、我が軍はドニエプル河に沿ふ强固なる要塞線を占領した。我が中央部隊は既にミンスクの東方二百キロの地點に達した。十一日以來ウィテブスクは獨軍の手に確かりと握られてゐる。ペイプス湖の東方に於て獨戰車隊は、レニングラードに向け前進中である。獨空軍は敵の鐵道連絡を爆擊破壞し、大規模な反擊を不可能ならしめた。獨戰車部隊の作戰繼續に對し必要な兵站基地は、既にスターリン線直後まで推し進められた。

獨軍遂にスターリン線を突破すと云ふ快報は、十三日（日曜日）の朝ベルリン市民を驚喜させた。外國側のラジオ・ニュース、新聞紙等は連日、スターリン線がマジノ線の比ではない堅牢無比の最新式要塞線であつて、奥深く構築され、流石の獨逸兵も攻めあぐんで、戰線は膠着狀態になつたと報道する。これに反し獨逸側の公報は、豫定の計畫通り萬事順調に進行中と簡單に放送するだけで、戰線の模樣については數日來深き沈默が守られてゐた。それが昨日前記の通り發表され、十一日からの總攻擊が效を奏して、謎のスターリン線が數箇所に於て突破され、中央軍の前衛はミンスクを去る東方二百キロの地點に達したと云ふことが判つて一同愁眉を開いた。市民の喜は獨軍總司令部がこと數日間沈默を守つてゐた後の事とて、一入大きいものがあつた。

本特報の本文にある如く、スターリン線は各重要地點に於て獨逸軍の突破する所となり、南部の獨軍は早くもキエフに嚮つて猛進擊を續け、北部の獨戰車部隊はレニングラードに向つて驀進中なる旨を報じてゐる。ベルリンの政府軍事當局では、目下展開中の戰鬪は獨ソ兩軍の決戰の性質を帶びてゐる旨を强調してゐる。東部戰線中央部のスターリン線がデユナ、ドニエプル兩河上流沿岸の自然の缺陷を補ふことを重點として構築されたものである以上、これが突破された曉には獨軍のモスクワ進擊の戸が開かれたと見るべきであらう。

それにも劣らず重要なのは、獨逸の機甲部隊がペイプス湖の東方をレニングラード目指して進擊中と云ふ事實である。レニングラードはハルコフ、モスクワと竝ぶソ聯軍需工業中心地の一つで、ソ聯全工業の約二割が同市の周圍に集まつてゐる。若しレニングラードが獨軍の手に落ちたら、ソ聯のバルチック艦隊は根據地を奪はれることとなり、やがて鐵道及びスターリン運河を通じての北氷洋地方卽ち白海、アルハンゲルスク港等との連絡も斷たれることとなる。

前記の公報はまた獨羅其の他の聯合軍部隊が、敵を壓迫してソ聯國境のドニエストル河の彼岸へ驅逐した事を報じてゐる。これまでこの方面では目覺しい勝利の報も傳はらなかつたが、ガリシヤ方面からの友軍の進出に伴れて、赤軍の左翼に壓迫が加はつた爲と見るべきである。

獨逸南軍の攻擊目標はキエフである。キエフは只にウクライナの首都である許りでなく、ソ

聯南部全體に對する產業及び政治の中心地である。ウクライナは露西亞の穀倉であり、これに續くドンバス地方ドネッツ盆地の石炭は、歐露全工業の原動力である。この重要な地方の征服を狙ふ獨逸軍統帥部は、その目的達成のために如何なる神謀奇策に出づるであらうか、實に見ものである。今日までの作戰の經過では、全面的に赤軍を擊退してはゐるものの、殲滅的の打擊を加へる程の快勝はまだ一度もないやうであるのは、この方面に於ける赤軍兵力の如何に優勢であるかを語るものである。

キエフ前面の防禦陣地は數段に構築せられ、深さ二百キロに亘る陣地網を構成してゐる。その樞軸はノヴグラード・ヴオリンスク（Nowgoradwolynsk）とジトミールである。その何れもが陷落したと云ふ報知のない所を見ると、獨逸軍キエフ突入の報は例のニューヨーク電報と思はれる。これに反してミンスク方面に於けるウィテブスク大要塞の占領は、非常な成功であつた。同市は人口約十萬、ウィトバとデユナ兩河の合流點に在つて、獨逸國境から四百五十キロ、國境とモスクワとの略中間に位するスターリン線上最强の堡壘を以て守られた兵要の地であつたのである。この大要塞の奪取によりナポレオン街道を驀進する獨逸中央軍は、北側面の脅威から解放されて、モスクワに向つて猛進擊を續けることが可能となつたのである。

然らばこのスターリン線とは如何なるものであらうか？

スターリン線とは何であるか

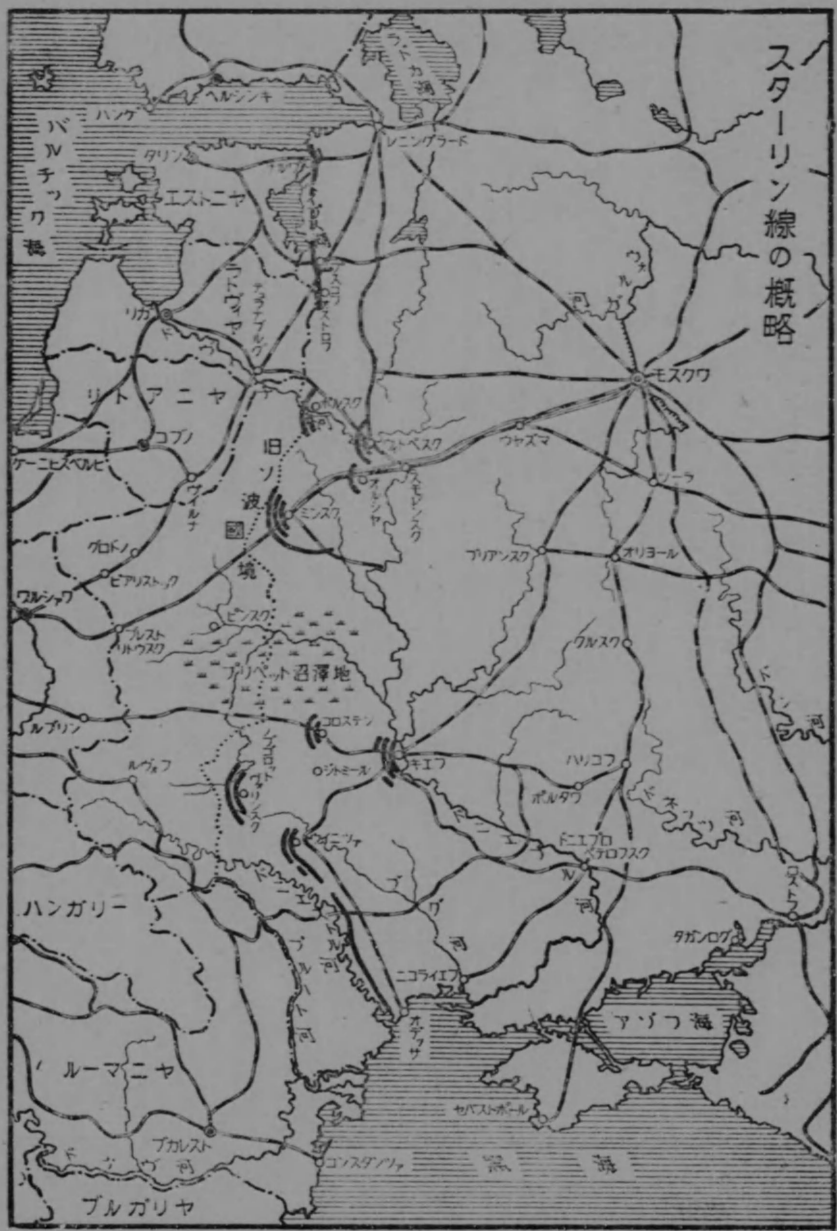
ソ聯がこの國境防禦線構築の必要を感じ出したのは、一九三四年ヒットラー總統とピルゾッキー元帥とが肝膽相照して、獨波兩國間に不侵略協定が結ばれた時からである。この獨波親善に怖れをなしたソ聯は、トハチェフスキー元帥を佛蘭西へ遣はして、當時工事中であつたマジノ線を見學させ、一九三六年頃からこの蜿蜒長蛇の如き國境要塞線の築造を始めたのである。その後三九年の波蘭分割によつて生じた新國境に沿ふても築城を始めたが、中でもブグ河とサン河との間の陸正面を防禦するために、非常に堅牢な要塞線の築造に掛つた。これは未完成の儘で今度の獨ソ開戰となつたのである。

スターリン線の規模と構造についてはまだ正確な記錄が手許にない（略圖參照）が、大體に於て北方芬蘭灣頭にあるナルヴァ港の東方を起點とし、ペイプス湖の東岸に沿ひ、プスコフ、オストロフに及び、ここの沼澤地帶で中斷され、再びボロツクの北方からミンスクに達してゐる。ミンスク方面はモスクワ防衛の第一線であるだけに非常に重要な地點で、堡壘線はここでは數段に構築され、後方のオルシヤ及びウィテブスクにも鞏固な築城が行はれてゐる。ミンスク南方ではボブルイスク、コロステンを經てプリペット沼澤地帶の裏で中斷され、キエフ前面

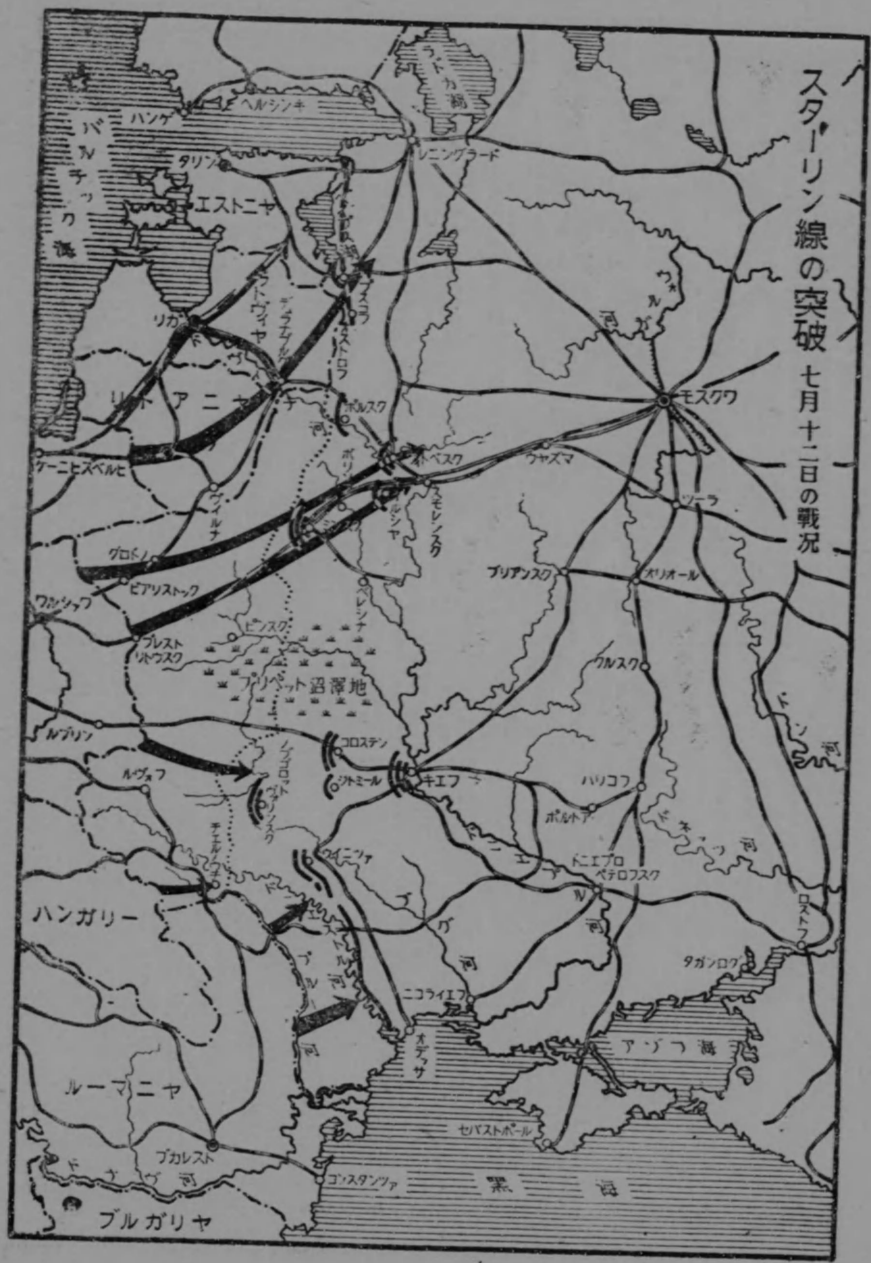
竝にジトミールとノヴォグラード・ヴォリンスクの堅固な大要塞となり、それより舊波蘭國境についてウィニッツァ要塞に連なり、ここから左折してベッサラビヤの國境を流れるドニエストル河岸に沿つて黑海まで續いてゐる。

右の如くスターリン線は大體に於て、ソ聯と波蘭との舊國境に沿ふて構築せられ、天然の障害のない所は有る所よりも堅固に出來てゐる。プリペツト沼澤地帶の如き所にはその必要がないので中絶してゐる。本防禦線はプスコフ、ウィテブスク、ノヴォグラード・ヴォリンスク、ウィニッツァの如き大要塞と、その間を結ぶ無數の露西亞式トーチカと堡壘との連續である。マジノ線の缺點は縱深の淺かつた點にあつた。スターリン線はジーグフリード線に倣つて奧行深く、トーチカや鋼鐵又はベトン製の圓蓋を有つ砲壘を碁布して、普通五キロ乃至二十キロ、所によつては五十キロの縱深を持つてゐる。地下構造はマジノ線の贅澤に及ぶべくもないが、それでも各トーチカは地下道によつて連絡してゐる。これ等の强力な防禦陣地がデュナ河及びドニエプル河の上流に跨り、また所々の地形に應じて絶えては續き、續いては絶え、極めて巧妙に構築され、カムフラージュされてゐるのを、虱潰しに片付けて行く獨逸軍の攻擊精神の旺盛なのには自から頭が下る氣がする。併し赤軍の兵士は決して弱卒ではない。日露戰役時代の魯助とは段違ひである。二十年來共產主義を徹底的に吹込まれたのと、唯物論、無神論に凝り

第二圖


スターリン線の概略
ヘルシンキ
ハング
バルチック海
タリン
エストニア
リガ
ラトヴィア
レニングラード
ラドガ湖
モスクワ
ウラル河
ヴォルガ河
ヴィテブスク
ヴィツェブスク
ヴィルナ
ケーニヒスベルヒ
コブノ
旧ソ波国境
ミンスク
ボブルイスク
ゴメリ
ウヤズマ
ブリアンスク
オリヨール
クルスク
ドン河
グロドノ
ビアリストック
ワルシャワ
ブレスト
リトウスク
ピンスク
プリペット沼澤地
ルブリン
コロステン
キエフ
ジトミール
ルヴォフ
ハッコフ
ポルタワ
ドニエプロペトロフスク
ドニエプル河
ドネツ河
ハンガリー
ブルート河
ニコライエフ
オデッサ
タガンログ
アゾフ海
ルーマニヤ
セバストポール
黒海
ブカレスト
ドナウ河
コンスタンツァ
ブルガリヤ

第三圖


スターリン線の突破 七月十二日の戰況
ヘルシンキ
ハンゲ
ラドガ湖
レニングラード
バルチック海
タリン
エストニヤ
リガ
ディナブルグ
ヴィテブスク
ポロツク
モスクワ
リトアニヤ
ケーニヒスベルヒ
ヴィルナ
ボブルスク
ヤルツェヴ
ヴヤズマ
スモレンスク
ツーラ
グロドノ
ビアリストック
ワルシャフ
ブリアンスク
ベリオール
ブレスト
リトウスク
ピンスク
ペレシナ
プリペット沼澤地
クルスク
ルブリン
コロステン
ルヴォフ
ジトミール
キエフ
ハリコフ
ポルトア
ドニエプロペテロフスク
ドネツ河
ロストフ
ハンガリー
タガンログ
ニコライエフ
オデッサ
アゾフ海
ルーマニヤ
セバストポール
ブカレスト
ゴッスタンツァ
黑海
ブルガリヤ

固まつてゐるせいか、一向に死を怖れない。從つて退路を斷たれ、脫出の見込がないと知つても中々降伏して來ない。その上各隊には政治委員が督戰の爲に附いてゐる。これは駄目となつたらすぐ降參する西歐の兵士とは非常な段違ひである。その結果赤軍の死傷は非常な數に上つた。獨逸統帥部にあつても從來の戰術を變じて、心ならずも專ら鏖殺戰術を採る必要に迫られたと云ふことである。

猶レニングラードの前進防禦線としては、斜にペイプス湖とイルメン湖とを結ぶ極めて强力な築城線があり、大いに獨軍を惱ましたものである。

○七月十四日

東部戰線の突破は、作戰計畫通り着々進行中である。マンネルハイム元帥麾下の芬蘭軍は、ラドガ湖兩側より進擊中である。

○七月十五日

スターリン線の突破

東部戰線に於ける我が軍の作戰は着々進行中である。

ベルリンよりの報道によれば、獨逸空軍は七月十五日ソ聯機七十七機を擊墜し、百五十機を地上に於て破壞した。これに對し、獨逸方の損失は僅に九機に過ぎない。

これにより獨ソ開戰以來七月十五日夕方迄に擊墜及び地上に於て破壞されたソ聯飛行機の數は、實に七千百八十二機に達した。

ノモンハンに於て我が空軍の勇士は、僅か百機そこそこでソ聯の飛行機千五百機を擊墜して世界を驚かした位であるから、ソ聯機がメッサーシェミット一〇九型等の如き獨逸戰鬪機の敵でないことは想像できる。獨逸空軍の至寶、戰鬪機大隊長メルダース（Mölders）空軍中佐の如きは、七月十五日ソ聯機五機を射落して百一機擊墜の記錄を樹てた。西班牙內亂中にも十四機を落してゐるから、百十五機擊墜のレコード・ホールダーで、世界大戰中のリヒトホーフェンの七十五機を遙かに凌駕した。ヒットラー總統はこの功勞を表彰する爲に、新にダイヤモンド附柏葉騎士鐵十字章を制定して、これをメルダース中佐に授けたと云ふことである。

○七月十六日

東部戰線に於ける我が軍の作戰は着々戰果を收めてゐる。戰線數ヶ所に於てソ軍は、絕望的反擊に出でたが、これに多大の損害を與へて擊退した。

ニューヨーク電報は獨逸軍が北方ではノヴゴロッドに肉薄し、レニングラード、モスクワの間の鐵道が遮斷されんとしてゐるとか、南方では既にキエフへ突入して、目下市街戰最中などと盛んに虛報を發してゐるがこれは根據のないデマである。獨逸側の所謂軍事專門家なるものも、ソ聯軍の退却は次第に潰亂狀態に陷り、諸部隊は算を亂して我先きにと乘物を奪つて退却中であると說いてゐる。併し赤軍もさるもの、極東其の他からの豫備隊を動員して盛んに逆襲に轉じ、獨逸軍の進擊を阻止せんものと到る處に死鬪を演じてゐるのが事實らしい。

赤軍側常用の戰術は、獨逸軍の戰車部隊機械化部隊を遣り過して、後續步兵部隊に對して戰車を先頭に逆襲して來るのである。其一例としてキエフ方面で獨逸軍の某步兵聯隊は、そんな機會に機械化部隊一旅團によつて增强された一戰車師團に突然遭遇したのである。この時敵は五回に亘つて獨逸軍の正面を襲擊して來たが、その都度對戰車砲、步兵砲、機關銃等によつて擊滅されてしまつた。この戰鬪で獨兵一個大隊の前面で、三十二臺の戰車が擊破擱坐させられ

てゐるのを見ても、如何に戰鬪が激烈であつたかを想像するに足る。

○七月十七日

敗戰又敗戰のソ聯統帥部は最後の豫備兵をも動員し、獨軍及び聯合軍諸部隊の雪崩の如く殺到する猛進擊を必死となつて喰止めんとしてゐる。史上未曾有の廣大な戰場に於て、約九百萬に近い彼我の大軍が血みどろの戰を交へてゐるが、今や赫々たる大戰果は將に獨逸軍の手に收められんとしてゐる。

南部戰線では獨羅聯合軍はベッサラビヤの主邑キシネフを占領した。

獨逸側では相も變らず抽象的な言葉で交戰地點を示さないが、今や天下分け目の大激戰が中央軍の方面に於て展開されてゐることは想像するに難くない。ソ聯側の情報に從へば獨ソ兩軍はプスコフ、ポルホフ、ウィテヴスク、ノヴォグラード・ボリンスクの線に於て接戰を演じてゐるものの如しと言へる。モスクワ來電によればティモシェンコ中央軍司令官は七月十五日俄然攻勢に轉じ、ロハチェフ北方の數ケ所に於てドニエプル河を渡つて獨逸軍を擊退したとある

のを見ても、ウィテブスク以南に於て、壯烈凄絶な敵前渡河戰が所々に展開されてゐることが解る。

ソ聯側では毎日獨機大量擊墜の報を傳へてゐる。例へば七月十五日獨機五十二機を空中及び地上に於て破壞し、自軍の損害は二十四機とある。獨逸側の發表では同日ソ聯機七十七機を擊墜し、百五十機を地上に於て破壞したが、自軍の損失は僅に九機に過ぎなかつたとある。誰か烏の雌雄を知らんやで、その眞僞は讀者の判斷に任す他ない。これはバルト海に於けるソ聯海軍連日の武勇傳についても同樣である。獨逸運送船十一隻を一舉に擊沈したとか、潛水艦を何隻、驅逐艦を何隻やつつけたとか、餘りにも手際が美事なので、却つて宣傳の逆効果が生れさうだ。獨逸側では海軍艦艇の喪失はまだ一隻もないと打消した。

獨逸通信DNBの報道によれば、七月十七日ソ聯戰車三百輛はクラスニージ附近で獨逸戰車隊と遭遇戰を演じた。敵戰車の大部分は五十二噸型重戰車であつたが、短時間交戰の後敵は忽ち二百十輛を失ひ、殘りは雲を霞と逃げてしまつた。レニングラードを目指して驀進中の獨逸部隊は、ペイプス湖畔で敵の强力な抵抗を排し千五百の捕虜を得たが、これ等の大部分は對獨戰參加の爲、最近釋放された受刑者であることが判明した。更に獨逸部隊はレニングラードに向つて勇躍進軍中、婦女大隊及び少年共產黨中隊若干を俘虜とした。

獨逸軍は十七日ソ聯機八十一機を撃破した。その内六十六機は地上で爆碎された。ソ聯機は六月二十六日この方、晝夜とも獨逸領土に飛來しなくなつたと云ふことである。

ラドガ湖畔及びカレリヤ地峽方面の芬蘭軍の攻勢は次第に進捗して、或部分では獨芬聯合軍は早くも百五十キロ敵地へ進出し、敵の後方連絡を妨げてゐるが、詳細な戰況報道はある理由によりまだ發表を許されない。

ベルリンからの報道によれば、西班牙のファランヘ義勇軍師團長は、十六日同地へ到着したと云ふことである。また匈牙利軍司令部の十五日附發表によれば、匈牙利軍の部隊は、波蘭の南方からウクライナへ續くボドリヤ平原に達し、同地方市民から大歡迎を受けたと云ふことである。

○七月十八日

世界戰史に比類なき東部戰線の巨大なる戰鬪の結果は、全戰線に亘つて我が參加部隊の武勳により、我が方に有利に展開しつつある。

我が軍はレニングラード方面に向つて進擊中、無傷の飛行機百五十機と共にソ聯の一飛行場を

占領した。

我が軍は十六日敵の猛反撃を撃退して、遂に敵の重要據點たるスモレンスクを占領した。敵は同市奪還を試みたが悉く失敗に終つた。

○七月十九日

ベッサラビヤより進撃中の獨・羅聯合軍は、數個の地點に於てドニエステル河を渡り敵を追撃中。既に特報を以て發表せられたる如く、プリペット沼澤地北方スターリン線の突破は、スモレンスクを越ゆる地點まで達した。スモレンスクは敵が執拗に防禦したにも拘らず、十六日には既に我が軍の占領する所となつた。

芬蘭軍諸部隊は敵の抵抗を排して、早くもラドカ湖北岸まで進出し、勇敢に交戰を續けてゐる。

スモレンスクの占領は、獨逸中央軍のスターリン線完全突破の最も輝かしい象徴であり、對ソ軍事行動の一段階が達成されたのである。赤軍は新來の豫備軍三十萬を驅つてその奪回を圖

つたが、獨逸軍勇士の健闘善戰によつて遂に擊退されてしまつた。

スモレンスク　はドニエプル河に跨がつて建設された露西亞最古の都會の一つである。舊市の城壁はボーリス・ゴドゥノフ時代からのものであると聞いただけでも、その起原が如何に古いかを想像することが出來る。スモレンスクはモスクワ、ワルシャウ鐵道とリガ、オリョール鐵道との交叉點で、モスクワへは東三百五十キロ、ミンスクへは西三百キロの距離にある。軍事上の要衝である爲、古來屢々外國の侵略を蒙り、一四〇四年にはリトアニヤ領となり、一五一五年には露西亞に歸復、一六一一年には波蘭に取られ、一六五四年以後引續き露國の版圖となつた。一八一二年大奈翁モスクワ進擊の途中、當市に於て當時露國の客將であつたスコットランド人バークレー・ド・トーリーの軍を破つた（八月十七日）。また同年十一月佛軍退却の際クツーゾフ將軍は、この地に於てネー元帥の指揮した後衛隊を攻めて大勝を博したので、スモレンスキーと云ふ副名を貰つた。

○七月二十日

ペッサラビヤより進擊中の獨逸及び羅馬尼軍は、ドニエストルの東岸に於ける敵の抵抗を破り

退擊に移つた。

スモレンスク周圍の作戰は順調に進捗中である。

芬蘭戰線に於ても更に成功を收めた。

東部戰線數個所に於て包圍せられたる赤軍の絕望的な突破企圖は悉く失敗に歸し、非常な損失を蒙つて擊退された。

○七月二十一日

東部戰線南部地區に於て、獨羅匈聯合軍は敗敵を追擊中である。東部戰線の各地區に進擊を續ける我が軍の作戰は、極めて有效に展開しつつある。この戰鬪によつて我が軍の重圍に陷つた多數の敵部隊は殲滅された。

赤軍は二十日飛行機合計九十七機を失つたが、內六十五機は空中戰で擊ち落され、殘餘三十二機は地上で爆碎された。獨逸空軍はウィテブスク附近の赤軍集結部隊に低空より投彈し、猛烈な機銃掃射を行つた。

スモレンスク附近では、ソ聯の戰車及び各種車輛三百四十臺と裝甲車二十六輛を破壞した。東

部戰線の南方戰區でも獨、匈及びスロヴキヤ聯合軍は更に進擊を續けてゐる。ベッサラビヤでも獨羅聯合軍はソ軍の頑强な抵抗を排除しつつ引續き猛進擊を續けてゐる。獨軍の進擊は不良の天候と甚しき惡路のために妨げられてゐるにも拘らず、既に二十八日間少しも休むことなく、頑强な敵の抵抗と鬪ひ續けてゐる。

東部戰線の北部では獨軍は、五個の異なつた師團の殘兵により編成された敵の部隊を潰滅せしめ、數千の捕虜を獲た。敵は屍體四千以上を戰場に遺棄して敗走した。

芬蘭戰線でも獨軍は引續き前進中である。赤軍は芬蘭の大森林に火を放つてその前進を阻止せんと試みたが、獨芬聯合軍は之を突破して追擊に成功した。

○七月二十二日

獨逸軍及び同盟諸國軍の突破作戰は、赤軍の防禦線を幾多の孤立せる戰區に分裂せしめた。敵は處によつては頑强な抵抗を試み、時としては反擊に出ることもあつたが、最早や敵方に統一的指揮の缺けてゐることは明かである。東部戰線全部に亘り獨軍の作戰は、依然同一目標即ちソ聯軍の各集團擊破に向けられてゐる。

ソ聯空軍が無防備都市ブカレスト及びヘルシンキを爆撃せる報復として、獨空軍は昨夜初めてモスクワ空襲を敢行した。即ち視野の良好なるに乘じ、我が空軍の大編隊は相踵いでボルシェヴィストの軍事交通中樞施設を襲ひ、クレムリン區及びモスクワ近郊に多數の命中彈を浴びせ、大火災を起させた。ソ聯の文武諸官廳の建物及び同市の倉庫多數は、何れも全壞又は半壞の狀態となつた。

スモレンスクの陷落に踵ぐ獨軍のモスクワ街道への錐揉み狀の進出により、この方面の赤軍中央戰線は南北に中斷せられた形となり、さなきだに命令系統の紊亂勝ちな赤軍のこととて、指揮命令の不統一が著しくなつて來たやうである。陣地に據る防禦戰には、露兵は昔から相當に勇敢に戰へたが、機動戰はどうしても不得手である。今やスターリン線が突破され、楔のやうに打込んで來る獨逸軍隊の兩側には、大集團の赤軍が自然取殘された形になる。これが後續の獨逸兵によつて包圍される。野戰軍が兵站線を斷たれ、完全に包圍せられる程慘なものはない。食料は盡き、彈藥は乏しくなる。敵の重圍圈は次第に狹められる。そこで圍を突いて脫出を圖つても容易に奏効しない。敵の銃火は愈々激しくなる。飛行機からは爆彈が雨下する。西歐の兵士なら早く見切をつけて降伏するのであるが、赤軍は中々手を揚げない。死傷は日々增

える許りである。友軍は勿論之を棄てて置けないので、救援の爲に逆襲して來る。攻めてゐる獨軍が、今度は背後から攻められる形になる。他の獨逸部隊がまた助太刀に出ると云つたやうな有樣で、他に類例のない珍らしい戰況が、七月十六日頃から八月六日獨逸軍最高司令部がスモレンスク方面の戰況一段落を報ずるまで、約三週間スモレンスク、モスクワ街道の北、ウィテベックの前面及びその南方モヒレフの方面で再三再四繰返されたのである。

次に本日の公報は、獨軍のモスクワ市初空襲を報じてゐる。空襲は二十一日午後十時から二十二日の午前四時まで續いて、多大の損傷を與へたやうである。ソ聯側の發表では、獨空軍の二百機以上の編隊は防空砲火及びソ聯戰鬪機の活躍により、爆彈を郊外に落して、市の中央部まで潛入したものは僅か數機に過ぎないと氣休めの放送をしてゐるが、獨空軍の狙ふ所は市民の住宅區域ではない。ソ聯政府中樞部のあるクレムリン宮殿區域や、モスクワ彎曲部の外には市外工場區域や軍用倉庫、鐵道等が爆擊の目標である。ソ聯側では初日の空襲で獨機十七機を擊墜し、全戰線で獨機三十二機を擊墜した。これに對してソ聯側の損失は、僅に八機に過ぎないと報じてゐる。

○七月二十三日

ウクライナ地區に於ける獨、羅、匈及びスロヴキヤ聯合軍は、間斷なく敗敵を追擊してゐる。

東部戰線各處に於て赤軍大小多數の部隊は、我が軍に包圍或は殲滅されつつある。敵は我が重圍圈を突破せんと足掻き、また重圍下にある友軍を援け出さんと試みたが、何れも擊退され、到る處で甚大な死傷者を出した。

芬蘭戰線では作戰は計畫通り進捗しつつあり、戰略的に重要な地歩を占めてゐる。

昨夜我が空軍は大擧再び赤都モスクワを空襲、敵軍事施設を猛爆した。空軍の投下せる重口徑、超重口徑の爆彈及び燒夷彈を浴せられて、敵の重要軍事施設は致命的に擊碎された。この空襲に際し、一昨夜の空襲によつて燃え擴がつた火勢は未だ衰へず、猶燃え續けてゐることが望見された。

軍事專門家の語るところに依れば、獨芬聯合軍は二十一、二十二の兩日ラドカ湖東方に於て赤軍陣地を突破ソ聯深く進入した。赤軍は退却に當り「總べてを破壞せよ」とのスターリンの

命令を守り、無辜の住民をすら拉致し去つた。

東部戰線中央戰區では、數箇師團の赤軍を包圍せる鐵箍を縮小し、二十二日には敵の抵抗が止んだので、一兩日中には投降して來るものと豫測される。

スモレンスク附近の敵は、包圍を脫せんと凡ゆる抵抗を試みたが悉く失敗に歸し、多大の損害を蒙つて潰滅した。我が軍は敵の重戰車十七臺を擱坐させ、砲三十四門、トラック二百臺を破壞した。また空軍の活躍も素晴しく、モスクワ空襲に當つては、同市から出發する列車に十四個の命中彈を浴びせた。ペイプス湖附近では集結中の赤軍に爆擊を加へた。

南部戰線では空軍はオデッサを爆擊し、大戰果を收めた。卽ち爆擊により、猛烈な爆發と大火災が起つたことが認められた。オデッサ港灣施設、就中貯油槽に命中彈を浴びせ、これが爲に生じた火災はまだ燃え續けてゐる。

擊墜された赤軍航空兵取調の際發見された政治委員の報告書によれば、去る七月十日の戰鬪に於けるソ聯戰車師團の損害は激甚にして、戰車二箇師團には一臺の戰車すら殘らず、第一及び第十二戰車軍團では戰車十九輛を失ひ、第十二軍團は戰死者一萬九百四十四名を出したと云ふことである。

七月二十四日ベルリン軍當局の發表によれば、ソ聯側は二十三日中に飛行機百十一機を失つ

た。内八十二機は空中戰及び高射砲隊により擊墜され、二十九機は地上で破壞されたものである。獨逸側の損失はまだソ聯側の十分の一にも達しない。

七月二十四日附ベルリンDNB通信は「英空軍ノンストップ攻擊無効に終る」と題して、ソ聯空軍に對する獨逸空軍の重壓を輕減する爲に、英軍によつて開始された西部獨逸占領地域に對するリレー式空襲の不成績について次の如く報じてゐる。

昨日英空軍は英佛海峽沿岸の占領地に對する空襲で、所謂「ノンストップ攻擊」開始以來最大の敗北を喫した。英空軍の占領地及び獨本土に對する空襲の失敗に關しては、二十日既に概評した處であるが、昨日は更に英機五十四機を射落した。内四十九機は空軍により、殘餘は海軍が擊墜したものである。而も右喪失機の内四十機と云ふ殆ど信じ難き程の多數が戰鬪機であつて、先月十八日に敢行された最初の英佛海峽來襲の際喪失した敵機總數の二倍にも上る慘敗であつた。敵の損失が斯くも多數に上つたに拘らず、我が方は僅に三機を失つたに過ぎなかつた。この大量損失については英空軍の統帥部もこれでは一考せねばなるまい。ボルシェヴィズム盟邦援助の爲の空襲も、結局英空軍の慘敗に終つたのであるから、之を長く續けて行くことは英空軍の弱化を意味し、獨逸にとつては寔に有利である。多大の希望を以て開始された「ノンストップ空襲」も、今迄の處海峽方面だけで早くも五百機を失つたのは實に醜態と云はねば

ならぬ云々と獨紙は報じてゐる。

○七月二十四日

東部戰線全線に亘る我が軍と同盟軍との作戰は、局部的に頑强な敵の抗戰及び道路の狀況非常に不良なるにも拘らず、計畫通り進行中である。有力な我が爆擊機編隊は、昨夜又もや凡ゆる口徑の爆彈をモスクワ市の重要軍事施設に投下した。

○七月二十五日

東部全戰線に於ける作戰は、激戰の中に計畫通り進捗して居る。捕虜の數は日々增加し、鹵獲せる軍用器材は莫大な數量に達した。

若干の爆擊機は昨夜モスクワ東部の軍事目標及びクレムリンの北方に爆彈を投下した。

軍事消息通の傳ふる所によれば、中部戰區の北部ネヴェル (Nevel) 地方に於ける捕虜の數

は刻々に增加し、七月二十二日夕刻には既に二萬人を超えた。他方でも獨逸軍の包圍を蒙つた部隊の抵抗は、漸次下火となつて來つつある。殊に隊附政治委員の戰死した部隊は投降して來た。

東部戰線の南部に於て戰況は極めて順調に展開しつつある。獨羅兩軍は止め度なく退却する敵軍を追跡中である。道路には赤軍兵士の屍體が散亂し、五十二噸型の重戰車が破壞されて殘骸を道端に横へてゐる。自動自轉車、貨物自動車、各種口徑の火砲等莫大な軍用器材を鹵獲した。獨逸の一對戰車砲中隊だけでソ聯タンク四十一輛を破壞した。キエフの最も重要な前進陣地たるジトミールの東方で、獨逸軍はスターリン線の最終障害を突破した。（註。ソ聯側情報發表でも、いつの間にかノヴォグラード・ヴォリンスクの名が激戰地點から消えて、ジトミールが之に代つた）。

芬ソ戰線では獨芬軍は、ラドガ湖畔の舊芬ソ國境に到達した。過般の芬ソ戰役で有名になつた古戰場レポラの附近に於て獨芬聯合軍は、激烈なソ聯軍の銃火を犯して著大の戰果を收めた。芬蘭灣ではソ聯潛水艦二隻を沈めた。第三の潛水艦は急ぎ沈降して獨逸快速艇の攻擊から逃れんとしたが、獨逸の潛水艦は水中擲彈を投じて之を破壞した。

獨逸空軍はまた初めてドニエプル河口のヘルソン（Cherson）港を空襲した。この際一萬

噸級の汽船一隻、二千噸級の汽船八隻その他多數の船舶を爆擊した。オデッサも亦再び獨逸の爆擊機の攻擊を受け、港灣施設に爆彈の雨を降らした。この際防空巡洋艦一隻及び多數の商船が甚大な損害を蒙つた。

尙極北ムルマンスク附近の海上に於て、獨逸空軍はソ聯商船を攻擊した。

スモレンスク戰區に於て獨逸の空軍は、スモレンスク東方の飛行場を襲ひ、地上にありし飛行機二十六臺を破壞した。最後の瞬間に飛び揚らんとした敵機は、地上に燃えつつありし飛行機の爆發によつて破碎された。

○七月二十六日

ウクライナに於ては敵の後衞の抵抗を挫折した。天候の不良と道路の難澁に拘らず、聯合軍は敗敵の追跡を續行。羅馬尼軍によるベッサラビヤの掃蕩も遠からず成就するであらう。

ウヤズマ西方地區に於て新に戰場に增强せられたる强大なる赤軍兵力は、非常な損失を受けて擊退せられた。

爆擊機は晝間攻擊によりモスクワの鐵道施設に全彈を命中させた。

○七月二十七日

東部の全戰線に於て我が作戰は成功裡に繼續されつつある。

爆擊機は昨夜好成績を以てモスクワの交通機關及び工業地帶を空襲した。

○七月二十八日

スモレンスクの戰鬪は今や我が軍の勝利に終結を見んとしてゐる。包圍された赤軍諸部隊は殲滅を免かれようとあらゆる抵抗を試みたが、悉く失敗に歸した。ウクライナでは我が同盟軍諸部隊は甚しき惡路を克服して、退却中の敵に息繼ぐ暇を與へず猛追擊戰を展開しつつある。芬蘭戰線の獨芬軍諸部隊は、敵の頑强な抵抗を打破して更に敵地を攻略した。

○七月二十九日

スターリン線の突破

羅馬尼軍はドニエストル河に達し、遂に全ベッサラビヤから完全に敵を驅逐した。我が軍がスモレンスクの方向にスターリン線を突破したる際、追拔かれた敵軍の大部分は殲滅せられた。

スモレンスクの東方で包圍された敵軍は、今や全滅に瀕してゐる。この大激戰で獲た捕虜及び莫大な軍需資材の數は、數日中に公表せられる筈である。ペイプス湖西でも敵の部隊はエストニヤ掃蕩中の我が軍に包圍せられて、今や殲滅されんとしてゐる。爆擊機の大編隊は昨夜又もやモスクワを襲ひ、軍需工場、鐵道及び橋梁を爆破した。

本月二十七、二十八日の兩日に亘り赤軍二箇師團は、レニングラード方面のペイプス湖附近で獨軍の包圍する所となり、完全に殲滅せられた。即ちフェリン方面からペイプス湖の西北岸方面へ進出した迅速な獨軍の奇襲により、敵の兩師團は完全に後方との連絡を失ひ、退路を斷たれるに至つた。敵は明かに絶望狀態に陷つたにも拘らず、政治委員に絶えず驅り立てられて遂に全滅の悲運を見たのである。

スモレンスクの戰區では、モスクワ方面へ深く突進して作戰中の機甲部隊の兵站路を確保せよとの命を受けた獨逸の一部隊は、後方連絡を遮斷せんとする赤軍の作戰を阻止することに成功した。此處でも激烈な白兵戰が演ぜられ、攻擊して來るソ聯兵は悉く全滅した。

○七月三十日

敵はスモレンスクの東方に於て、我が軍の包圍に陷つた部隊の重壓を輕減せんものと、幾度か攻擊して來たがその都度擊退された。この戰鬪に於て敵の蒙つた損害は實に莫大である。東部戰線の他の戰區に於ける作線は豫定通り進行中である。

○七月三十一日

我が軍はウクライナ地區で擊破された敵の追擊を强行し、敗走中の敵部隊内に深く突入した。スモレンスク東方に於ける我が軍の包圍圈は更に壓縮されつつある。エストニヤに作戰中の我が軍は敵を更に北方へ擊退した。

昨夜空軍はモスクワの軍事目標及び鐵道交叉點オリヨール（註、スモレンスク東南方約四百キロ）を爆擊した。

○八月一日

東部戰線の戰鬪は依然我が方に有利に展開しつつある。爆擊機編隊は昨夜もモスクワを空襲し軍事上の諸施設を爆擊した。

一日午後獨逸軍事通の語る所によれば、スモレンスク南方に於ける激戰の結果、我が鐵環内に包圍されたソ聯軍の一部は殲滅され、殘餘の三萬五千人は獨軍に捕獲された。この激戰の跡はソ聯兵の屍體と破壞された大砲等によつて一面に蔽はれ、實に凄慘なる光景を呈してゐる。赤軍は尙も執拗に包圍圈突破の攻擊を企ててゐるが、獨軍の集中砲火を浴びて擊滅されつつある。

○八月二日

ウクライナでは我が機械化部隊は退却する敵縱列を壓迫追擊中。キエフ南方約二百五十キロの戰區では更に激戰が展開してゐる。スモレンスク東方で包圍された赤軍師團は、益々我が軍の壓

迫を受けつつある。

爆撃機編隊は昨夜もモスクワの市營工場竝に軍事目標を攻撃して大戰果を收め、またヴォルガ上流及びウクライナをも有效に爆撃した。

○八月三日

ペイプス湖西方の敵軍掃蕩戰に於て、敵兵約一萬を捕獲し、無數の戰車、大砲及び其の他の軍需資材を鹵獲した。その他の東部戰線各戰區の作戰も有利に進捗中である。

我が强力な空軍大編隊は、昨日モスクワの軍事施設に對し爆撃を敢行し大戰果を收めた。

獨逸側の戰報には一切地名を擧げてないので、その進出の線が奈邊にあるかを知るに苦しむ。八月三日のソ聯側の發表では北部のポルスクが影を潛め、その代りにその東方のポルホフが現はれ、それよりスモレンスク方面で依然激戰中とある。南部ではキエフの西北方百五十キロのコロステンが出て、ジトミールが昨日戰報から消えてしまつた。その代りキエフ西南方百キロのベーラヤ・ツェルコフが新しく戰線に加へられた。これで見るとジトミールは遂に獨逸軍の

手に歸したものと思はれる。二日の獨逸側公報にキエフ南方二百五十キロの地點で激戰が展開してゐるとあるのは、キエフ攻擊とは別に、曩に退却中の敵集團中に錐揉み狀に突入した機械化部隊が、旋回運動を起して敵の大部隊の捕捉作戰に移つたことを想像させる。

○八月四日

ウクライナに於て進展中の戰線では獨、匈軍機械化部隊は敵の重要鐵道連絡線を遮斷した。

スモレンスク東方に於て包圍中の赤軍は全滅せられた。殘敵の殲滅も間近に迫つた。

我が空軍は昨夜モスクワの多數の倉庫、軍需品工場及び鐵道施設に對し有効なる空爆を行つた。

○八月五日

ウクライナでは我が鐵環により包圍壓縮されたソ聯軍隊の脫出企圖は、我が反擊に遭つて失敗し、その一部は殲滅された。スモレンスク西南約百キロの地點で、廣範圍に亘り包圍線を突破せ

んとした敵の一部は全滅し、一部は我が軍の奇襲的反擊に依つて再び包圍された。更に我が軍はエストニヤのタプスを占領した。

空軍は昨夜も連續大擧してモスクワの重要軍事施設に、爆彈及び燒夷彈を投下して多大の戰果を收めた。

以上の如く獨逸軍最高司令部の發表は、連日抽象的の文字を列べて殆ど據り處がない。之に反しソ聯情報部の報告は、全線に亘つて赤軍の善戰と敵の損害の甚大なることを放送し、その結果英米の新聞雜誌では東部戰線の膠着を信ずる傾向を生じた。そこで獨逸側では北部及び南部に於ける作戰今尙進行中に拘らず、中部スモレンスク方面の戰況一段落に達したるを機として、その驚異的戰果を中外に發表して敵方の惡宣傳を根抵から覆へしたのである。

○八月六日

東部戰線に於ける作戰の成功につき本日特別發表を行つた。

有力な爆擊機編隊は八月六日夜、良好なる視野を利用し、モスクワの軍事施設に對し數噸の爆

彈及び幾萬の燒夷彈を投下した。飛行機工場への命中彈及び軍需工場の數多き火災により本空襲の成功を認めた。

スターリン線の突破完遂

○八月六日特別發表

各種の報道を綜合するに赤軍統帥部は、自軍の狀況を確實に知悉してゐないやうだ。獨逸軍の報道は事實の嚴守を絕對原則となすので、敵を利する如き情報を與へざるため、勢ひ沈默を守る必要がある。從つて日々の作戰の經過を知らんと欲する、獨逸國民の希望に副ふことの出來なかつたことも亦止むを得ない。而もこの爲に本國では間違つた想像が行はれ、敵國側では虛報が傳播せられた。然るに今や新作戰を展開せんとするに當り、スターリン線の突破を以て切つて落された大會戰の經過と其の戰果を公表すべき時期が到來したのである。黑海より芬蘭灣に至る間の戰線に於て、地形及び我が軍の目標決定の關係より三箇所の決戰的突破箇所が選ばれた。卽ちブ

リベット濕地帶の南方、スモレンスク方面及びペイプス湖の南方である。以下この三箇所の戰鬪經過を報告し、最後に全會戰の戰果を發表する。芬蘭戰線の動靜及び我が海軍の作戰については之を他日に讓ることとした。

バルト海沿岸諸國への進擊

激戰によりデュナブルグとリガの間に於てデュナ河を奪取し、ラトヴィヤより敵を掃蕩したる後、リッター・フォン・レーブ元帥麾下の集團軍は、ラ・ソ國境線のスターリン線を突破すると同時に、エストニヤに在る赤軍擊破の任務を授けられた。ブッシュ上將の指揮する軍及びこの方面に作戰中のホェッブナー上將麾下の戰車集團(パンツェルグルッペ)は勇猛果敢なる攻擊により、堅牢且頑强に防衛せられたるペイプス湖南の敵陣突破に成功した。

オストロフ(Ostrow)、ポルホフ(Porchow)、及びプレスカウ(Pleskau)は速戰熱鬪の後陷落した。斯くして北方に侵入してレニングラードを攻擊する態勢が整つた。非常な難路、熾烈な逆襲及び幾多の困難を克服して、ペイプス湖と芬蘭灣間の陸橋を閉鎖すべく、ペイプス、イルメン兩湖間を前進中の部隊の左翼を、ナルワ近傍まで進出せしめた。エストニヤに作戰中のフォン・キュッヒラー上將の軍は、先づ頑强に抵抗せるドルパット(Dorpat)、フェリン(Eellin)及びペルナウ(Pernau)の諸市を攻略し、箇々の戰鬪に於て敵の各師團を擊破し、タプス(Ta

ps) を越えて之を北方に驅逐した。本集團軍の作戰はまだ終了しないが、この戰區に於て今日迄捕虜三萬五千以上、鹵獲又は破壞したる戰車三百五十五輛、砲六百五十五門に達した。

ケーラー上將の指揮する空軍は、この戰鬪に有力なる貢獻をなし、敵機七百七十一機を擊墜又は地上に於て破壞した。

ウクライナに於ける包圍戰への突破

フォン・ルンドステット元帥麾下の右翼集團軍は、開戰當初より殊に困難な地形と、惡天候と、數に於て非常に優勢な敵を克服せねばならなかつた。歩兵大將フォン・シュチュルプナーゲルの軍及びフォン・ライヒナウの軍は、フォン・クライスト上將麾下の戰車集團の援助を得て、曠日且困難なる正面攻擊により敵を擊退し、ジトミールを越えてキエフの城門近く楔を打込むまで前進せねばならなかつた。この深くスターリン線の背後に達する敵陣地突破により、ドニエストル及びドニエプル兩河の中間に於て、廣正面を以て南方に向つて旋回運動を行ひ、敵の大軍を遮斷して、目下進行中の包圍作戰を誘導することが出來たのである。この敵にとつて損失多き戰鬪に於て、匈牙利及びスロヴキヤ軍は誠實なる戰友精神を發揮し、獨逸軍と肩を竝べて大いに重要なる役割を演じた。この作戰と同時にアントネスク將軍總指揮下の獨、羅聯合軍は、防衛堅固なるプルート河の線を奪取し、熾烈なる反擊と歩行困難なる地形を克服して、敵をベッサラビヤ

より撃壊した。また獨逸及び羅馬尼軍團を以て編成せるリッター・フォン・ショーベルト上將の軍は、ドニエストル河の中流を渡河して、北方より來る友軍との連絡を成就した。今日迄の積算によれば、この戰區に於ける捕虜の數は十五萬人を超え、戰車千九百七十輛、砲二千百九十門を鹵獲した。ロェヤー上將麾下の空軍團(ルフトフロッテ)は本作戰に多大の貢献あり、ソ聯機九百八十機を撃墜或は地上に於て破壞した。

スモレンスクの勝利

東部戰線の中央に於てフォン・ボック元帥の集團軍は、スモレンスク大會戰を勝利を以て終了した。空間、時間及び戰鬪の激烈さがボルシェヴィッキー軍隊に與へた殲滅的打撃の數々は、史上に類例なき特徴を本會戰に加へた。殆ど四週間に亘る戰鬪で、フォン・クルーゲ元帥、シュトラウス上將及び男爵フォン・ワイクス上將の指揮する諸軍は、グデリヤン上將及びホート上將麾下の戰車集團と協力して敵に多大の損害を與へた。約三十一萬人の捕虜が我が軍の手に落ちた。戰車三千二百五輛、砲三千百二十門その他無數の軍需品を鹵獲又は破壞した。ケッセルリング元帥麾下の空軍團は、今次の戰勝に決定的の寄與をなした。ソ聯空軍は本戰區に於て飛行機千九十八機を失つた。本戰鬪經過の詳細は明朝の軍報道に於て述べる筈である。

敵軍百萬を殲滅す

スターリン線の突破完遂

本日の軍特報で發表せられた我が東部戰線に於ける綜合戰果の數字は、去る七月十一日發表の捕虜四十萬、戰車七千六百十五輛、砲四千四百二十三門、飛行機六千二百三十三機から飛躍的に增大し、捕虜總計八十九萬五千、戰車一萬三千百四十五輛、砲一萬三百八十八門、飛行機九千八十二機に達した。この成功は我が方の最も大膽な豫想を遙に凌駕した。この戰果は死物狂ひに抵抗した敵軍の死傷が、捕虜數の幾倍にも上るべきを考慮した場合に於てのみ正しく評價される。我が正規軍、武裝親衞隊及び空軍の諸部隊は、勇氣及び忍耐力の點に於て、これ迄最も頑强なる敵と戰ひ、殆ど超人的の功績を擧げた。斯くも强大なる裝備を具へたソ聯軍を粉碎し得たのは、一に獨逸軍統帥の優越、兵器の精良無比なること、軍隊教育の優秀にして實戰の經驗に富めること、殊に獨逸軍將兵竝に友軍の英雄的精神に負ふところである。中でも特筆すべきは步兵師團の行軍力である。彼等は戰鬪機動を込めて往々一千キロ以上を行進したのである。斯かる大規模の作戰が可能であつたのは、全く通信勤務及び後方連絡の優秀なる組織竝に今日では戰鬪地域の直ぐ背後まで、殆ど全面的に占領地域內の鐵道網を再建し得たと云ふ事實に職由するものである。自軍の優越を意識し且最後の勝利を確信する獨逸軍は、今や新作戰地區に於て、既に一聯の最大勝利を以て始めた殲滅戰を續行せんと準備中である。

世界大戰當時にあつては軍の機動は、鐵道線路から百二十キロ以上に出られぬと云ふのが原則であつた。今次の大戰では軍隊機械化の結果、その行動半徑は大いに伸びたが、同時に燃料その他の迅速なる補給が非常な重要性を帶びて來た。前記の發表にある如く、鐵道網が交戰中の軍隊のすぐ背後まで延びて來てゐたと云ふことは、實に驚くべき事實である。これは全く鐵道隊竝に道路橋梁等の修復を擔當したトッド技術部隊の勳功である。獨逸工兵隊の作業につき左の記事は何かの參考になると思ふ。

『我が軍の進擊で完膚なき迄に破壞されたソ聯鐵道は、直ちに我が鐵道工兵隊の手で開通し軍の補給の爲に使用せられる。その一例として某鐵道聯隊は去月二十二日以來一千キロの軌道を修理し、四百四十個の破壞せる轉轍機を改造し、又獨逸國より前線部隊後方の交通連絡地點迄五百二十キロの軌條の軌間を改めた。（露西亞ゲージを標準ゲージとなす）列車の連絡を故障なく運ぶに必要な電線も架設せられ、停車場の給水系統も修理された。此の間我が工兵は炎熱、雷雨、敵の砲火を物ともせず、又敗殘兵の襲來を擊攘しながら、この成績を擧げたのである。』

スモレンスク會戰の經過

〇八月七日

既に軍特報を以て公表された通り、フォン・ボック元帥麾下の集團軍は、ケッセルリング元帥麾下の空軍と緊密なる協力の下に、スモレンスクの大會戰を終了した。

この會戰に於て我が軍の死傷は比較的少數であつたに反し、敵軍の損失は非常に多かつた。我が軍の捕獲した俘虜三十一萬人、外に戰車三千二百五輛、砲三千百二十門、其他莫大の軍需資材を鹵獲した。ソ聯空軍は千九十八機を失つた。

本戰の經過は大略左の通りである。

ビヤリストック及びミンスク附近の會戰終了の直前、我が軍及び親衛隊の快速部隊は、ドニエプル河の後方及びデュナ河の上流に沿ふ非常に堅固に構築せられた、モヒレフ、オルシャ、ウィテブスク、ポロック等の設堡基地を有するスターリン線に肉迫した。激戰數合の後、遂にポロックの兩側に於て橋頭堡の占領に成功した。七月十一日にはウィテブスクが陷落し、赤軍の頑强に死守したモヒレフ及びオルシャ南方のドニエプル戰區は、我が軍の奇襲により計畫通り同河の方

向に向つて突破された。

其の後數日の內に我が快速部隊は、オルシャ、スモレンスク街道の兩側を廣き正面を以て東方に向つて進擊した。

七月十六日には敵が非常に執拗に防禦したスモレンスクが、我が機械化步兵師團の白兵戰によつて陷落し、敵の反覆敢行し來る逆襲を擊退してこれを防いだ。

我が戰車部隊がスモレンスクの東南方、東方及び東北方に於て突破口を擴張しつつある時、我が機械化步兵師團は猛烈なる行軍と戰鬪により、絕えず敵襲に曝されてゐる我が楔狀陣形の兩側面を掩護し、且我が戰車部隊の突進により分散されたが、尙戰鬪力を有する敵部隊包圍の役割を擔當した。

斯くて幅員二百五十キロ、縱深百五十キロに及ぶ戰區に於て巨大なる會戰が展開したが、激戰の中心はスモレンスクの他ウィテブスク、ポロック、ネーヴェル及びモヒレフの諸地であつた。敵は死物狂ひの勇氣と屍山血河の犧牲を以て、殆ど四週間に亘る激戰により機動の自由を回復することを努め、包圍せられたる諸部隊を救ひ出さんものと、續々新兵力を戰場に繰り出して來たが、我が軍諸部隊の運動性と頑强さのために敵の凡ゆる企圖は遂に挫折し、ドニエプル河、デュナ河及びスモレンスク間に取殘された赤軍諸部隊の運命は遂に谷をつてしまつたのである。最も

困難なる補給條件を克服して、今後我が作戰にとつて決定的の重要性を有するこの大戰果を收め得たことは、偏に我が軍統率の優越、諸軍司令官の創意竝に各部隊將士の勇猛果敢にして堅忍不拔なる戰鬪精神の賜である。

空軍はこの戰勝に與つて大いに力があつた。統率部直屬の偵察機隊は絕えず活躍を續け、戰鬪指揮に缺くべからざる報告を齎した。戰鬪機、爆擊機及び急降下爆擊機の諸編隊は、遠距離偵察機掩護の下に、劣惡な條件を物ともせずに敵の遊擊豫備隊竝に遮斷を蒙りたる部隊に對して襲擊を敢行し、敵の抵抗崩るると見るや直ちに之に殲滅的打擊を加へ、また反擊に出づる敵を擊退し高射砲兵隊と協力して敵の空襲を防ぐと云つた有樣であつた。この戰鬪で敵の列車百二十六、裝甲車縱列六、貨物自動車數千、橋梁十五を破壞した。

その他獨逸空軍は、地上部隊の敵トーチカ、砲兵陣地竝に敵戰車部隊に對する戰鬪をも掩護し赫々たる戰果を收めた。

この激烈を極めた戰鬪に參加せるフォン・クルーゲ元帥、シュトラウス上將及び男爵フォン・ワイクス上將の諸軍竝にグデリヤン、ホート兩上將の指揮せる二戰車集團、竝にロエルツェル及び男爵フォン・リヒトホーフェン將軍麾下の二空軍は、何れも拔群の戰功を樹てた。昨夜我が空軍の大編隊は繰返しモスクワを空襲し、モスクワ河彎曲部の飛行機工場に多數の爆彈を投じた。

またその東部各處に大火災が起つた。

スモレンスクの大會戰は八月九日のベルリン電報にある如く、同市東南方百キロの地點で進行中の戰鬪が終つて赤軍の捕虜三萬八千、戰車二百五十輛、砲三百九十五門を鹵獲したことによつて、この完勝の終止符を打つたのである。ボック元帥麾下の中央軍がこゝ十數日を軍容の整備に費した後さて新しく打つ手は何であるか。ウヤズマ（Wjasma）附近まで進出してゐるらしい獨逸中央軍は、あと二百キロの距離を突進して直ちにモスクワを衝くであらうか。それとも懸軍長驅遠くドンの流域に向つて大迂廻戰を試み、ウクライナから東走して來るブジョンヌイ元帥の南軍を悉く遮斷する遠大な作戰に出るであらうか、今の所まだ逆睹し難い。

併し今や敵味方の關心は、目下ウクライナに於て進行中のキエフの包圍戰と、ウマン（Umㅂ）方面に行はれた大殲滅戰の戰果如何にかかつてゐる。レニングラードの包圍は今少し手間取るやうに想はれる。

獨逸側の八月六日附公報がスモレンスク大會戰の驚異的戰果を發表したに對し、八月七日ソ聯情報局の發表は、スモレンスク、コロステン、ベーラヤ・ツェルコフがまだ赤軍の手にあるかの感を與へる。宣傳には稅が掛らぬから何を書いても言つても勝手だが、ソ聯の云ひ分では

獨逸軍の損失は既に百五十萬を超えてゐるが、之に對しソ聯軍の損失はたつた六十萬だと云ふのである。又獨ソ兩軍の武器損失は

獨逸　戰車　六〇〇〇　飛行機　六〇〇〇　砲　八〇〇〇
ソ聯　戰車　五〇〇〇　飛行機　四〇〇〇　砲　七〇〇〇

とのことである。流石に獨逸兵の捕虜何萬を取つたとは書いてない。この表が信賴に値するかどうかは讀者の判斷に任せる外はないが、ソ聯が自認してゐる戰車五千輛、飛行機四千機、砲七千門の損失でも決して少くない數字である。

斯く獨ソ兩國で開戰六週間の綜合戰果を發表したが、その數字に非常な逕庭がある。獨逸のスポークスマンは、獨軍の損失はメーシヒである（大したことはない）と云つてゐるが、何しろ世界の最も機械化した二大陸軍が、各死力を盡して相搏つたのであるから、雙方共に非常な損失のあつたことは想像される。近代戰は消耗戰である。人的資材に於て如何に餘裕がソ聯側にあつても、一度喪失した各種戰用機材の補給には多大の時日を要する。この點では高度に發達した工業を有する獨逸の優勢は否定し難いものがある。

尙八月七日の發表でソ聯情報部は、スターリン線なるものの存在を否定し、あれはアラビヤンナイト物語と同じく獨逸側想像の產物以外の何ものでもない、と嘲けつたのは聊か意外であ

つた。スモレンスク方面でも亦キエフ方面でも、無數のトーチカや陸地要塞があつて、獨逸軍は力戰苦鬪の末漸くこれを蹴破り、蹂躪つて通つたことは爭へぬ事實であるが、やがて其内にはこの謎も解けると思ふ。

ウクライナ方面の戰鬪

○八月八日

獨羅聯合軍はウクライナのウマン東南方で遮斷された敵を殲滅し、ソ聯第六軍司令官を初め多數の高級將校を含む三萬人以上を捕虜とした。又鹵獲軍需資材も莫大な數量に上つてゐる。エストニヤ方面で奮戰中の我が軍は、ウェゼンブルグ（Wesenburg）を攻略し、芬蘭灣沿岸まで進出した。芬蘭戰線では獨芬兩軍の攻擊は好成績を擧げてゐる。

ウマン包圍戰に關する特報

○八月八日特別發表

我が軍はウクライナに展開された新作戰に於て早くも最初の大勝利を收めた。即ちルンドステット元帥の指揮する我が軍は、空軍との緊密な協働の下に、ソ聯第六軍、第十二軍及び第十八軍の一部計約二十五箇師團を擊滅し、第六、第十二軍司令官以下十萬三千人を捕虜とし、戰車三百十七輛、砲八百五十八門、貨物自動車五千二百五十臺及び貨物を滿載せる鐵道列車と共に無數の軍需器材を鹵獲した。敵の戰死者は非常に多く今迄判明せる數だけでも二十萬人に達してゐる。

このウマンの包圍戰により、ブジ■ンヌイ將軍麾下のソ聯南部方面軍の約四分の一は殲滅せられたのである。ニコラエフの北五十キロにあるブグ河畔のヴォスニエゼンスクが既に獨逸軍の手に落ちたから、オデッサ、ニコラエフの運命も旦夕に迫つたと云つてよい。また獨逸南軍の他の一隊は犇々とキエフの外廓に向つて攻寄せてゐるから、その陷落も最早餘り遠からぬことと信ずる。ウクライナ方面軍の次の目標は、ドニエプル下流一帶の重工業地帶及び南露の工業中心地ハルコフ竝にドネッツ地方である。ソ聯の重工業及び軍需工業の中心を衝くことは、器材消耗戰の現狀から見て、モスクワ攻略に劣らぬ戰略上の重大意義を持つものである。

○八月九日

既に特報したる如く、匈牙利部隊により强加せられたる獨逸軍隊は、ウクライナに於て大なる戰果を收めた。

ウマンの會戰に於てソ聯の第六軍、第十二軍及び第十八軍の一部である步兵、山岳兵及び戰車隊總計二十五箇師團は殲滅せられ、第六、第十二兩軍司令官を含む十萬三千人以上の捕虜を出した。其の他戰車三百十七輛、砲八百五十八門、對戰車砲及び高射砲二百四十二門、トラック五千二百五十輛、列車十二及び各種軍需資材が我が軍の手に落ちた。敵の死傷は二十萬人以上である。

プリペット沼澤地帶の南に於て獨逸軍は、跋涉し難き森林及び沼澤地に於ける數日間の健鬪を經て、重要なる鐵道中心點コロステンを占領した。

スモレンスクの東南百キロのロスラウル（Rosslawl）方面で遮斷せられたソ聯部隊も亦同じく殲滅せられ、三萬八千人以上の捕虜、二百五十輛の戰車、三百五十九門の火砲竝に各種軍需資材を鹵獲した。

○八月十日

東部戰線に於ける作戰は計畫通り進行中である。

空軍の大編隊は昨夜モスクワの軍需工場、運輸機關及び格納庫に對し、特に有效な空襲を敢行した。市の中心地及びモスクワ河彎曲部に多くの火災が起つた。

獨逸空軍のソ聯空軍に對する挑戰は、最近數日間再び好成績であつた。六月二十二日以來敵は芬蘭戰區を含む全東部戰線に於て一萬機以上の飛行機を喪失した。

○八月十一日

南部ウクライナに於ける我が軍の敗敵追擊戰は、全面的に急速なる進捗を見つつある。

東部戰線の他の地區に於ける作戰も亦計畫通り進展してゐる。

我が爆擊機編隊は昨夜又もモスクワを空襲、軍需工場、殊に同市の北西及び東部に數噸の爆彈燒夷彈を投下した。

退却中の敵に對して徹底的な追擊戰を敢行し、之を收拾し難き潰亂に陷らしめることは軍の

定石であり、用兵の鐵則である。過去の戰爭に於ては、之は主として騎兵の任務であつた。併し近代戰では戰車を根幹とする機械化部隊と飛行機の出現により、敗敵の追擊は非常に容易になつたのである。緒戰以來戰略的退却を續行中のブジョンヌイ軍の左翼は、かくてウマン附近に於て徹底的打擊を受け、命からがらドニエプル河の線に向つて退却するのに對し、クライスト將軍麾下の機甲部隊は猛追擊を敢行し、之を潰滅すべく勇往邁進しつつあるのである。

○八月十二日

東部戰線の我が作戰は計畫通り進捗を見てゐる。爆擊機は昨夜モスクワの軍事目標並に若干の重要鐵道中心地を爆擊し、鐵道施設に大火災大爆發が起つた。

連日連夜の爆擊にモスクワの損害は甚大であると飛行機の乘員は報じてゐる。同市の東部には重要な自動車、トラクター及び機械工場があり、西北部には化學工場が密集してゐる。獨逸空軍は戰爭續行に最も必要なこれ等の諸工場を狙つて、ソ聯軍事工業の息の根を止めやうと爆擊を續けてゐるのである。獨ソ開戰以來獨逸軍は掛値なしにソ聯飛行機一萬機を空中及び地上

で處分した。而も尙ソ聯空軍は新鋭機を以て打掛つて來る。これ等の軍事工場を徹底的に破壞してしまふことは、ソ聯空中の制空權を完全に掌握する爲に最も緊要である。併し今日では空中戰も地上戰と同じく、もう山が見えたと云つてよい。何はともあれ過去十數年の間虎視耽々として蓄積せられた怖るべきソ聯の空中兵力の大部分が、一擧にして覆沒されたことは、歐洲全土にとつても、又我が國にとつても安心の種であり、獨逸に對して大いに感謝すべきであると思ふ。

南部ウクライナ方面に於ける獨軍及び聯合軍は、息も繼がさず敗敵を追擊して、その一枝隊はオデッサの東方に於て既に黑海沿岸に達したらしい。言葉を換へて言へばオデッサ周圍の殘敵は東方への退路を斷たれて、海路退却の他に脫出の見込みのない窮地に陷つたものと先づ見てよい。キエフはまだ赤軍の手中にあるが、その下流のドニエプル河は既に獨逸軍の制壓下に置かれてゐる。この地方のドニエプル河は深さ三米、幅員七百米を超え、水流滿々たる大河で、遠くスモレンスクに連なり、またデュナ河上流との間の運河により、黑海をバルト海に結ぶ西部ロシヤの大動脈である。これが既に大部分獨逸軍前進部隊の脅威下に曝され、且南部ウクライナの重要鐵道線路が獨軍の制壓を受けてゐるので、これ等の交通機關を奪はれた赤軍の敗殘大部隊は、よくドニエプルを渡つて東方へ引揚げ得るや否や頗る疑問になつて來た。其の

後の情報によればブジョンヌイ元帥麾下の全兵力は、百箇師團二百萬人以上の多數であつたと云ふことである。序戰以來敗戰と退却の連續ではあるが、今猶キエフを保つてゐるのを見ても、まだ相當の殘存兵力を擁してゐるものと考へられる。この大部隊を捕捉殲滅し得ると否とは、來るべきドンバス地方の制覇と、征露第二の目標と考へられるコーカサス油田地方の征服とに多大の影響がある。

○八月十三日

南部ウクライナに於て獨逸軍及び同盟軍の歩兵師團及び機甲部隊は、黑海の諸港灣に向つて退却する敵を猛追擊し、我が軍に抵抗せんとした赤軍後衛部隊に大損害を與へた。

東部戰線の他の地區を進擊する我が部隊の攻擊も亦大戰果を收めた。

空軍大編隊は夜間モスクワ西方地區の鐵道中心地に爆彈燒夷彈を投下し、莫大なる戰果を得た。

目下東部戰線の南方ウクライナの廣大な戰線に展開してゐる、フオン・ルンドステット元帥

麾下の獨逸軍及び伊太利、匈牙利及び羅馬尼等の反共同盟軍の進擊戰は、目覺しい勢で進行中である。獨軍枝隊の黑海沿岸到達地點は、オデッサの東七十二キロの小港オチャコフである。

オチヤコフは今でこそ人口一萬そこそこの小都會であるが、昔は土耳古の領地で堅固な要塞であつた。十八世紀の中葉露土戰爭當時には、この要塞を繞つて兩軍の間に攻防戰が二度展開せられたこともある。この地が獨逸軍の手に歸したことによりオデッサとニコラエフとの連絡を斷たれ、オデッサ守備の赤軍は遂に袋の鼠になつてしまつた。海路によりクリミヤ半島へ脱出を試みてゐるが、獨逸空軍の爆彈に見舞はれてその目的を達することは困難なやうだ。

○八月十四日

ウクライナに於て獨逸軍及び羅馬尼軍は、敵を追ふてオデッサとブグ河の中間に於て黑海沿岸に達した。

その他の戰區に於ても作戰は計畫通り進捗してゐる。

空軍はオデッサとニコラエフとの中間海岸地方に包圍せられたる軍隊の爲に用意せられた運送船舶に甚大なる損害を與へた。合計一萬四千噸の運送船二隻を擊沈し、他の大型船舶に大損害を

與へた。

右の外總統本營から左の特報が發せられた。

獨逸、羅馬尼、匈牙利諸軍の不休の追擊に、西部ウクライナの防禦は全然潰滅に瀕してゐる。オデッサは羅馬尼軍により包圍せられ、ニコラエフは東西より獨逸軍及び匈牙利軍に圍まれてしまつた。ブグ河西の敵の大部隊は將に殲滅せられんとしてゐる。ドニエプル下流へ進擊の途中獨逸の快速部隊は、クリヴォイ・ログ（Kryvoi Rog）の鑛山地區を占領した。この地は良質の鐵鑛石年額千九百萬噸を產出し、ソ聯はこれによつて全國鐵鑛石年產額の六割以上を失ひ、その軍事經濟に及ぼす影響は甚大である。

〇八月十五日

オデッサは羅馬尼軍によつて、またニコラエフは獨匈聯合軍のため、それぞれ連絡を斷たれ全く孤立狀態に陷つた。

猶十五日某方面に達した獨逸側の情報によれば、開戰以來の獨軍の戰果は左の通りである。

一、獨英開戰以來本年七月末までの英國籍竝に敵性を有する船舶の撃沈數は一二、八四〇、五五〇噸である。因に七月中の撃沈數は四〇七、六〇〇噸、今月一日より十五日までに確實と見られるもの二六〇、〇〇〇噸。この數字中には機雷及び海難による喪失を含まぬ。

二、獨ソ開戰後英空軍は牽制の意味で頻々大陸方面の空襲を試みてゐるが、その被撃墜數本日迄に九五九機、その間獨機六九機を失つた。

三、今月十五日迄の赤軍の損害は捕虜一、〇三六、二五〇人、裝甲車一四、〇五三輛、飛行機一〇、四九七機、砲一一、七二二門である。

○八月十六日

東部戰線の戰鬪は作戰通り有利に進捗中である。

○八月十七日

南ウクライナ攻略の我が軍は、匈牙利軍と協力して敵の大經濟中心地であり、又海軍重要基地

であるニコラエフを占領した。ブグ河東では、我が不休の追擊に壓迫せられ、大打擊を蒙れる敵諸部隊の隊形は愈々混亂しつつあり。鹵獲兵器と捕虜の數は益々增大しつつある。

ニコラエフ Nikolajewは一七八八年ポテムキン公によつて黑海艦隊の根據地として創建せられた都會で、道路は棋盤のやうに規則正しくつけられてゐる。人口百萬を越え、モスクワ、レニングラードに次ぐ露西亞第三位の都會であり、黑海沿岸第一の軍港である。ニコラエフはブグ河とイングル河の合流點の半島上に位し、軍港と三つの商港から成立つてゐる。ブグ河はこの邊から河幅が急に廣くなつてゐる。黑河に注ぐ河口までは四十キロあるが、河と云ふよりも入江と云つた方がよい程である。此の地には設備の整つた海軍造船所があり、クロンスタットに次ぐ造船の中心地であるのみならず、各種工業も亦盛んである。

オデッサ Odessa はドニエストル河口の北四十キロ、黑海に面した露西亞第一の貿易港である。人口は帝政時代には五十萬今では六十萬位、商業の非常に盛んな都會で、海岸の散步道や街衢の廣く美しいので有名である。ここはウクライナ產穀物の輸出港で、浦鹽との間にも定期船が通つてゐた。オデッサの全露西亞に對する重要性は、獨逸に於けるハムブルグ、佛蘭西にとつてのマルセイユと云つた形である。港の設計も一寸マルセイユに似て居り、防波堤が

海岸に沿うて横に長く伸びて、その裡に多數の岸壁や倉庫を抱いてゐる。オデッサは貿易港として重要なるのみならず、工業も亦非常に盛んで、廣大な機關車工場や農具工場、造船所、多數の製粉工場、精糖工場等がある。文化的にも大學、各種專門學校、博物館、美術館、動物園劇場、天文臺等の諸機關が具はつてゐる。この地はもと土耳古の要塞であつたが、一七八九年露領となり、一七九四年カタリナ女帝の命により、昔この附近に在つたオデソスと云ふ東ロマ帝國時代の植民地にちなんでオデッサと名附けたのである。帝政時代には附近の海水浴場に近く富豪の別莊が立ち竝んで、南露第一の歡樂鄉であつた。最近ではスターリン線の終點に近いので堅固に防備を施されてゐて、流石の羅馬尼軍も相當に攻めあぐんでゐたやうであるが、その陷落も最早や遠からぬことと思はれる。

獨ソ戰爭も滿二ケ月に垂んとし、八月十七日で開戰後九週間目に這入つた。反樞軸側ではソ聯の勇敢なる防戰に禮讃を送つて、その善戰を我が事のやうに喜んでゐる。

然らば獨逸軍の進擊振は、英米で言ふやうに遲々たるものであらうか。波蘭戰以來の電擊戰に慣れた目にも、一見進軍の速度が如何にも鈍つたやうに見えるが、それは戰線の長さと地域の廣さを度外に置いた觀察と言はねばならぬ。開戰當初責任のない人々が揚言した、二ケ月後にはモスクワを陷入れ、三ケ月後にはソ聯を降參させる、と云つた想像の時間表からは幾分か

手間取つてはゐるに相違ないが、獨逸軍全體としては、豫ての計畫通り着々運んでゐると云つてよい。五十日間に一千キロも進出したことは、一日に二十キロの割合で、それも死物狂ひに抵抗する頑敵を擊破、掃蕩しつつ進軍することを思へば、決して左程遲いとは思へない。この間百何十萬の俘虜を獲、四百五十萬と推測された赤軍第一線兵力の七割强を粉碎擊滅し、戰車裝甲車一萬四千輛、飛行機一萬機、各種火砲一萬二千門を破壞若しくは鹵獲し、かくて戰用機材の約七割を損失させた戰果は、寧ろ滿點以上のものではあるまいか。尤もソ聯には三十五歲以下の壯丁が千二百五十萬人あり、その內一千萬人が召集を受けてはゐるが、これらの新徵募軍隊は第一戰兵士に比し、訓練が不充分なるのみならず、戰車や重火器を持つて居らぬのでその戰鬪力は非常に劣つてゐると言はねばならぬ。加之獨逸は既にクリヴォイ・ログの鐵鑛山を占領し、また今後一ケ月內にはドネッツ炭田地方をも征服するに相違ないから、ソ聯の軍需工場の大部分は、原料及び燃料の不足によつて、操業を停止するの餘儀なき破目に陷らんとしてゐる現狀で、その前途には英米側で期待するやうな樂觀材料は少しもない。

地域的に見ても芬蘭方面では既に舊ソ芬國境を越えて侵入し、ムルマンスク鐵道竝に白海と芬蘭灣を結ぶスターリン運河を遮斷することに成功してゐる。

エストニヤ方面ではウェゼンブルグを取つてレヴル、レニングラード鐵道を中斷し、敗敵を

レヴル（一名タリン）の方へ擊退遮斷した。またペイプス湖の兩岸に作戰中の部隊は敵を掃蕩しつつ湖北に於て連絡を完了した。又イルメン湖北方を進軍中の一枝隊は、既にレニングラードの西南百二十五キロのキンセップ及び南方百八十キロのノヴゴロッド附近に到達し、レニングラードとモスクワを繫ぐ鐵道幹線を脅かしてゐる。更にイルメン湖の南方地區を東進中の枝隊は、プスコフ、ポルホフ、ソルツイを順次攻略して今やストラヤ・ルッサに迫り、かくて北西南の三面よりレニングラード包圍の態勢を整へてゐる。

ボック元帥の指揮する中央軍方面は、目下第三次總攻擊の隊形整理中であつて、その中央部隊はモスクワ街道上のウヤズマ附近に達し、右翼はデスナ河畔の重要鐵道交叉點ブリヤンスクに肉迫中である。この邊から彼我の戰線は西に向つて彎曲し、ゴメルはまだ敵の手にあるが、コロステンからはキエフの背面に進出の氣配が見える。

フォン・ルンドステット元帥麾下の南軍は、戰車師團四乃至六箇師團、獨軍步兵師團約四十箇師團を根幹とし、之に匈牙利、スロヴキヤ、伊太利、羅馬尼の諸聯合國軍を加へ、總計約百五十萬の大軍である。之に對するブジョンヌイ元帥麾下のソ聯南軍は、一時約二百萬の大軍となつたが、既にウマンその他で致命的な大打擊を被り、ドニエプルを越えて退却すべく必死にもがいてゐる。キエフはまだ赤軍の手中にあるが、その以南に於て獨逸軍は既に、キーロヴォ

グラード又びクリヴォイ・ログを席捲し、今や壯大なダムと發電所のあるドニエプロストロイと、重要な渡河點ドニエプロペトロフスクに迫つてゐる。ブグ河口のニコラエフは既報の如く獨逸軍の手に歸し、赤軍は目下ドニエプルの下流に於て渡河脱出に懸命である。同河はこの地方では幅二キロの大江となつてゐるので、渡つて逃げるにも、越えて追ふにも中々大變である。若し前記のドニエプロストロイの發電所とその下流約二百キロのニコポリのマンガン鑛山が獨軍の占領に歸したら、南露西亞全體の工場は電力を奪はれ、製鋼事業は操業不能となるのは火を睹るより明かである。

ルンドステット將軍がソ聯南軍を、ブグとドニエプルの間で捕捉殲滅に成功するか、ブジ・ンヌイ將軍がその本隊を首尾よく彼岸に引揚げ得るか、その成功と不成功は本戰役の前途、殊にコーカサスの攻略作戰に非常な影響を齎すので、茲數日の輸贏が正に天下分け目の關ヶ原と云ふところである。

之を要するに獨逸軍の作戰は、豫測からは約二ヶ月遲れたとは云へ、着々と計畫通りに進行中であつて、既に戰役の峠を越したものと斷言しても何等差支がないと信ずる。

○八月十八日

我が南軍はウクライナのドニエプル下流方面に潰走中の敗敵を追ひつつ進擊を續けてゐる。東部戰線爾餘の地區に於ても我が軍は重要戰果を得た。空軍は夜間モスクワの軍事目標及び若干の主要鐵道線路に攻擊を加へ好結果を收めた。

十八日附のベルリンからの報道によれば、獨逸軍は敗走する敵を急追又急追、ドニエプロペトロウスクに近い、ドニエプル河大彎曲部の下流に到達したと云ふ事である。潰走する敵がオデッサから海路クリミヤ半島へ逃出さうとする輸送船を、空軍は間斷なく爆擊を加へて妨碍してゐる。オデッサ及び同市附近の有樣は、去年のダンケルクの撤退を彷彿させるものがある。非公式の報道ではあるが既に十六萬噸以上の汽船が擊沈された由である。

スモレンスク南方では、十八日同地方に包圍されたソ聯部隊の殲滅戰が終了した。その際獨逸一戰車師團は退却せんとした敵の二箇師團を全滅し、約七百臺の自動車、重戰車、無數の對戰車砲、其の他軍需資材多數を鹵獲、一萬人以上のソ聯兵を捕虜とした。この三日間に亘る激戰中、ソ聯兵は幾多の部隊に分れて我が戰線を突破せんと突擊して來たが、我が戰車に攻擊されてこの企圖は水泡に歸し、彼等は溪谷へ追込まれた。ここからは全く脫出の道なく、敵は勇

敢に戰つたが、遂に大打擊を蒙つて殲滅されてしまつた。

南ウクライナのニコラエフ附近で、敗殘のソ聯四箇師團も亦殲滅されるに至つた。同地域に包圍された共產軍は、主として夜襲を試み、旣に獨逸軍の進出してゐる道路を辿つて遁走し得るとでも思つたのか、反覆その奮回を試み反擊して來たので、砲兵の集中砲擊を喰はせて之を殲滅し、續いて步兵師團も出動して一部は全滅、一部は捕虜にした。

ニコラエフ附近で防戰中の敵の軍艦も亦、獨逸兵の砲火を浴びて甚しく戰鬪力を失ひ、敵の一快速艇は直擊彈を受けて直ちに沈沒した。

空軍もこの戰鬪に參加し大戰果を收めた。ドニエプロペトロウスク南方では敵の飛行場を襲つて、三發マルチン爆擊機を初め地上に待機將に上昇し來らんとする敵機を攻擊して、二十五機を炎上させた。殘餘の敵機も損傷甚しく使用不可能となつた。十七日中敵機計九十機を破碎したが、內五十八機は空中戰で擊墜されたものである。獨逸側は一機をも失はなかつた。

オデッサで抵抗中の赤軍に對する包圍環は、益々緊縮されつつある。晝夜間斷なき砲火の猛擊により、同港ソ聯海軍及び商船の損失は極めて甚大である。

○八月十九日特別發表

南ウクライナの追擊戰に於て、獨、羅、匈、伊聯合軍諸部隊は比類なき戰友精神を以て協同作戰に從事し、非常な戰鬪力と行軍力を發揮した。その結果ドニエプル河以西は遂に我が掌中に歸した。攻擊は引續きオデッサ市及び、尙若干の赤軍部隊が抵抗しつつあるドニエプル下流の小橋頭陣に向つて行はれてゐる。これ等の戰鬪に於て敵の戰死傷者の數は甚大であつた。ウマンの會戰に關する既報の數字以外に我が方は、捕虜六萬、戰車八十四輛、砲五百三十門及びその他の軍需品無數を鹵獲した。

ニコラエフ軍港では目下建造中の敵軍艦數隻が我が手に落ちた。

三萬五千噸級戰鬪艦	一隻
一萬噸級巡洋艦	一隻
驅逐艦	四隻
潛水艦	二隻

更に敵砲艦一隻を擊沈し、他の一隻に大損害を與へ、また多數の機關車を積載せる浮船渠一を鹵獲した。

オデッサ爆擊中我が空軍は、敵大型軍隊輸送船九隻に重爆彈を命中せしめて行動不能に陷入れ

重巡洋艦一隻を含む三隻の敵軍艦に損害を與へた。

キエフ及びコロステン方面の戰鬪では、我が軍は敵に重大な損害を與へた。去る八日以來この方面で捕へた俘虜一萬七千七百五十人、戰車百四十二輛、砲百二十三門、裝甲列車一、その他多數の軍需資材を鹵獲した。

ニコラエフ軍港に於て新造中の排水量三萬五千噸の戰艦を無傷の儘に分捕つたことは、非常な成功であつた。同艦は米國の設計に基いて五年以來建造中であつて、殆ど竣工に近いものである。ソ聯はこの外に姉妹艦二隻をクロンスタット軍港で建造中で、その內の一隻は旣に竣功して目下艤裝中とのことである。レニングラードの陷落も目捷の間に迫つた今日、バルト海方面の大型戰艦は、自沈か鹵獲かの運命に見舞はれるのも餘り遠からぬことと考へられる。

南ウクライナ戰線の赤軍の退却は、愈々破滅的形相を呈して來た。密集して退却中の赤軍は甚大な損害を蒙り、諸部隊は散々な目に遇つた。ドニエプル下流地方では軍隊を滿載せる列車數本を爆碎し、キエフ方面の戰鬪でも同じく莫大な損害を與へた。獨逸軍は進軍の途中確に數千に上るソ聯戰死者を埋葬したと思しき大共同墓地と、未だ埋葬されない數千の死屍を發見した。

十九日ソ聯軍はドニエプル西岸の橋頭堡を死守せんものと新戰車隊を繰出したが、この戰車攻擊は全然失敗に終り、僅に小部隊が全滅から免れ得たに過ぎなかつた。東部戰線の中央地區に於ても、赤軍は戰車掩護の下に屢々反擊に出たが、その都度大損害を受けて敗退した。

最近數週間の軍報道を再吟味して見ると、ソ聯が非常な大兵力をこの方面に集中してゐたことが明かとなる。鹵獲または破壞された戰車其の他の武器の夥しい數だけでも、このことが充分立證される。現在までにウクライナで鹵獲または破壞された敵戰車は二千四百輛、大砲は三千七百門を下らない。赤軍は技術的に、世界第一の裝備を有する軍隊たらんとする名譽心を抱いてゐた。然しこれを結果に徵して見ると、肝要なのは技術的裝備の量だけではない。寧ろ斯かる近代的兵器を操縱する兵員の素質にありと言はねばならぬ。兵數上の優勢も亦その敗運をどうすることも出來なかつた。敵が戰線へ投じた兵數が多かつただけに、損害も亦非常に夥しかつたのである。

○八月二十日

南ウクライナでは尙敵の手中にある個々のドニエプル橋頭堡に對する攻擊が續行された。我が

快速部隊は同方面で絶望的に抵抗する敵と交戰して戰車六十五輛を粉碎し、多數の捕虜を獲た。

獨ソ開戰二ケ月の戰果

八月二十一日獨逸軍當局は獨ソ開戰二箇月を記念して、次の如きステートメントを發した。

『我が軍がソ聯と開戰して以來、本日を以て早くも二ケ月を閲した。その間獨逸軍は超人的偉力を發揮して、その出發地點より直線にして平均六百乃至八百キロの地點まで進出してゐる。獨逸軍隊は兵數及び裝備に於て遙に優勢なソ聯軍を數ケ所の大殲滅戰に於て擊破した爲に、ソ聯軍は貴重な軍需資材を遺棄して潰走するの止むなきに至つた。殊に注目に値するのは、先にソ聯が企圖した攻勢作戰の中心をなした戰車及び飛行機の喪失である。現在までに入手した報告によれば、獨逸軍は戰車一萬四千輛、砲一萬四千門以上（對戰車砲及び高射砲を含む）、飛行機一萬一千機以上を、孰れも鹵獲又は破壞した。また同期間中の捕虜の數も百二十萬人を下らぬ多數に上つてゐる。從來も屢々指摘したやうに、赤軍の死傷者數は捕虜の數倍に上るから、少くも五百萬以上のソ聯軍が既に戰鬪力を失つたことになつてゐる。以上の數字は長驅中歐に侵入せんとした赤軍の戰鬪力を挫折せしめた獨逸軍隊の威力を如實に示すものである。

この二箇月間内に占領した地域の面積も亦宏大なものである。ガリシヤ、ベッサラビヤ及びドニエプル河に至る迄の西ウクライナは、若干の極小地域を除き、我が軍の掌中に歸した。白露西亞及び芬蘭灣に至るまでのバルト沿海諸州も亦我が軍の占領する所となつた。これ等の地域の廣さは八十七萬平方キロに及び、獨逸本國に東西の占領地とボヘミヤ、モラヴィヤ兩保護領竝に總督府領（舊波蘭）を合はせたものよりも廣いのである。かくてソ聯は黑海沿岸の最も重要な諸港、ウクライナの最も重要な工業地帶の一部を失つた譯である。而もこの地方の殘りの部分も今や我が軍の直接脅威下に置かれるに至つたのである。

北氷洋經由にて他の大陸と交通を行はんとする歐露に殘された唯一の可能性は、既にカレリヤ及びコラ半島に進出せる獨逸軍の脅威に曝されてゐる。獨逸空軍はモスクワの軍事工業に對しても徹底的打擊を加へたるをもつて、ソ聯は近き將來急速に武器及び資材の蒙れる損失を補充することは困難であらう。かくの如く我が軍は搖ぎなき戰鬪力に絶對確信を持ち、既に大打擊を蒙つたソ聯軍に對する絶對的優位を認識しつつ對ソ大決戰の第三ヶ月目に臨んだのである。

東部戰線の獨逸軍は、英國が歐大陸に有つ所の最後の武器である赤軍を擊破することによつて目下英國に對する終局戰への前提を作りつつあるのである。今次大戰の第二年の終りに近づくに從ひ、英國自身は自ら火蓋を切つた戰爭の土壇場へ次第に追詰められて行く許りである。』

○八月二十一日

南部ウクライナで我が軍はドニエプル河口の工業都市ヘルソン（Cherson）を占領した。ゴメル（Gomel）周邊及び北方の戰鬪はソ聯軍の大敗北に終つた。獨逸歩兵師團、機械化師團、戰車師團は空軍と協力して、長途行軍の後戰場に到達した所の敵の歩兵十七箇師團、騎兵五箇師團、戰車二箇師團、機械化師團一及び落下傘旅團二を撃滅、または捕獲した。捕虜の數は八萬四千人、鹵獲砲數は八百四十八門。その上戰車百四十四輛、裝甲列車二が我が手に歸した。

イルメン湖とペイプス湖との中間では、赤軍が頑强に抵抗を續けてゐた要害堅固の敵の設堡陣地を、數日に亘る激戰の後奪取した。

我が方はノヴゴロッド（Novgorod）キンギイセップ（Kingisepp）及びナルヴ（Narwa）の三都市を占領し、猶も勝利の進軍を續けつつある。

空軍編隊はオデッサ及びオチャコフより黑海を經て脫出を企圖する敵部隊、及びドニエプル彎曲部東方の敵部隊を猛爆し甚大な損害を與へた。また黑海に於ては敵輸送船一隻六千噸を爆破し大型商船三隻に損害を加へた。

○八月二十二日

我が軍と我が同盟軍は、東部戰線進擊二ヶ月にして更に不撓不屈の戰鬪力を發揮し、敵地深く猛進擊を繼續しつつあり、今や全戰線に對する作戰は着々進行中である。

南ウクライナ、ドニエプル河右岸の最後の據點にある赤軍は、我が軍の組織的攻擊により敗退し、甚大な死傷者を出しつつある。

キエフ西北方の敵はドニエプル河の彼岸に退却しつつある。

ゴメル東方地區に於ては、遁走する敵に對し追擊を續行中である。

レニングラード戰線及びエストニヤの我が軍は、尙戰鬪を繼續進擊中である。ラドガ湖兩岸の芬蘭軍の攻擊は日毎に進捗を見せてゐる。

連續的に殲滅的大打擊を蒙つた赤軍は、想像に絕する多大の戰死傷者を出した。開戰以來我が方は敵兵百二十五萬以上を捕虜とし、戰車約一萬四千輛及び砲一萬五千門を鹵獲または破壞した。ソ聯空軍は總計一萬一千二百五十機を失つた。內五千六百三十三機は地上に於て破壞され、餘は空中戰又は高射砲により擊墜されたものである。更に重要なる原料及び工業地帶の占領によ

ワ、敵の戰爭遂行力は重大なる障害を蒙つた。

開戰二ケ月間の戰果を右の通り獨逸側で發表すると、モスクワでも負けて居らず、同じく次の數字を發表して之に酬いた。

『二箇月間の獨逸軍死傷及び捕虜の數は二百萬を超え、戰車八千、大砲一萬、飛行機七千を失つた。二箇月に亘る間斷なき激戰の結果ソ聯軍は、戰死十五萬、負傷四十四萬、行方不明十一萬、合計七十萬を出し、戰車五千五百、大砲七千五百、飛行機四千五百を喪失した。』

英國の發表する被擊沈船舶噸數に二を掛けたら略々實數に近くなるやうに、ソ聯情報部の數字は少くも三倍する必要があるやうだ。

上記の報道中にある **ヘルソン** は、ドニエステルの河口にあるウクライナの重要海港の一つで、以前は穀物積出港として有名であつた。今日では寧ろ金屬工業の中心地として重要性を持つてゐる。この地は前大戰の末期に獨逸軍に占領せられたことがあり、ノガイ曠地を經てクリミヤ半島の北部へ侵入する戰略上の要地である。

ナルワ はペイプス湖から流れ出たナロワ河の河口にある港町で、附近には綿絲紡績工場を初め種々の輕工業がある。ナルワには昔から獨逸人居住區があつた程獨逸色の濃厚な市街で

露西亞人エストニヤ人等の居住區域はイワンゴロッドと呼ばれた。十四世紀の初めにはエストニヤと共に丁抹領であつたが、一三四六年から獨逸騎士團の領有に歸し、一五五八年露領となつた。その後間もなく瑞典領となり、一七〇〇年十一月三十一日瑞典王カール十二世はこの地に於てピョートル大帝を敗つたが、一七〇四年に露軍によつて占領された歴史を持つてゐる。

ノヴゴロッド　はイルメン湖から流れ出るウォルホフ川に臨む古色蒼然たる都會で、人口は三、四萬の間を上下してゐる。イルメン湖から二キロ半の近距離なので、往々水害に襲はれることがある。ノヴゴロッドは日耳曼民族の一派であるワレーゲル人の創建した町で、九世紀には既に大都會となつてゐた。露西亞の歴史で有名なルーリック王がこの地に都を奠めたが、茲では王權が榮へず、寧ろウェチェと呼ぶ市民議會が權力を握つて、一三〇〇年頃には自由市ノヴゴロッドの勢力は白海までも擴がつた。同市は芬蘭灣まで水路が續いてゐるため、早くから商業が榮へ、十二世紀頃には獨逸やスカンディナヴィヤ方面の商人が盛んに交易を行つたものである。本市の繁昌はモスクワの大公には眼の上の瘤で、一四七九年イワン三世は之を占領して獨逸居留民を驅逐し、一五七〇年にはイワン雷王によつて掠奪された。それからノヴゴロッドは衰運を辿る許りで、遂に芽を吹く時が來なかつた。ノヴゴロッドには寺院の數だけでも百もあつた。現在でも四十餘りが殘つてゐる。中には市街から五、六キロもはなれてポツネン

と野中に立つてゐるもののあるのを見ても、その昔如何にこの市が廣く且盛んであつたかが追想される。寺院の中最も古く且由緒のあるのはソフィヤ大伽藍である。その建立は遠く九八八年の昔に遡り、當時木造であつたものを、一〇四五年から五二年の間に、ビツァンツの棟梁の手でコンスタンチノープルのソフィヤ大伽藍を模して石造に改築したもので、古來の諸聖者や諸王の由緒ある遺物が寺内に充ち滿ちてゐる。

レニングラード包圍戰の序幕

○八月二十二日芬蘭軍司令部發表

芬蘭軍はレニングラードの西北百三十キロ、ラドガ湖西岸のケクスホルムを占領すると共に、ラドガ湖西北部の二地點で赤軍を包圍、特にソルダヴァラの南方で赤軍第百六十八師團の主力を殲滅した。

芬蘭軍はまたカレリヤ地峽の赤軍防禦陣地を粉粹し、レニングラード北方八十キロのキヴィネフを占領し、またヴオク河上流の全地域をも占領、赤軍五箇師團を殲滅した。

以上の報告にあるやうに、復讐心に燃ゆるスオミの健兒は追々レニングラードに向つて進出して來た。レニングラードから芬蘭への鐵道は二線ある。その一はウイボルグ（Viborg 瑞典流にウィボーイと發音してもよい）を徑てヘルシンキに達するもので、他の一線はラドガ湖中の半島の突端にあるケクスホルムを徑て芬蘭東部縱貫鐵道に合流する。ケクスホルムは十八世紀の初頭に戰はれた瑞典、露西亞間の戰役にも出て來る戰略上の要地で、ここで一敗を喫したソ聯軍は、漸次レニングラードに向つて壓迫せられてゐる。芬蘭國內には西端のハンゲ（芬ソ平和條約によるソ聯の租借地）軍港と前紀のウイボルグにソ聯の守備兵がゐるが、芬蘭軍は力攻を避けて遠卷きに包圍してその開城を待つと云ふ、極めて呑氣な作戰に出てゐる。

又タプス及びウェゼンブルグの占領により、レニングラードとの連絡を斷たれた赤軍の一隊は、エストニヤの一角タリン（レヴル港）に押込まれて包圍された。獨逸兵は既にイルメン湖の北側ではノヴォゴロッド、その南側ではワルダイ高地（標高三一一米）方面に達してゐるから、その東を南北に走るレニングラード、モスクワ間の鐵道幹線も程なく遮閉せられるであらう。

レニングラードの運命は、ソ聯爲政者の一大關心事である。同市は一九一七年二月の第一革命によりロマノフ王朝を倒し、同年十月の第二革命によりケレンスキーを逐うて、レーニンのボルシェヴィッキー政權を樹立した共產主義の聖地であるのみならず、軍需工業都市として

近年モスクワに劣らぬ重要性を帶びて來た。軍國主義のソ聯は軍事工業の整備を第一の急務とし、人口三百萬のレニングラード市民の勞働力を總動員して、兵器廠は勿論自動車工業、工作機械工業、化學工業、油脂工業、食糧工業等を市の周邊に集中完成したのである。

若しレニングラードが一朝獨逸軍の手に落ちたとしたら、宿無しになつて途方に暮れるものはソ聯のバルチック艦隊である。同艦隊の現有勢力は明白ではないが、戰艦パリスカヤ・コンムナ（二三、〇一六噸）、マラー（二三、六〇六噸）、オクティヤブルスカヤ・レヴォルーチヤ（「十月革命」二三、二五六噸）の三隻は速力二十三節、三十糎砲十二門、十二糎砲十六門を有する一九一一年進水の老朽艦である。航空母艦クラスノエ・ヅナミヤ（一二、〇〇〇噸）は速力三十節、十二糎砲十二門、搭載機數四十、一九三九年起工の由につき既に竣工就役してゐると思ふ。其の他巡洋艦五隻、驅逐艦七十一隻、潛水艦七十隻、潛水母艦三隻、水雷敷設艦四隻、掃海艇十五隻があると云ふから相當の勢力である。その內スターリン運河を通つて北氷洋へ出た小艦艇が若干ある筈である。右の外基本排水量三五、〇〇〇噸、四十糎砲九門、十五糎砲十二門を搭載するインテルナチオナール級の戰艦二隻が一九三八年七月起工されたと云ふから、既に竣工に近づいてゐるものと考へられる。若しこれを獨逸が無傷の儘鹵獲することが出來たら、何よりの戰利品である。

今やウクライナの戰線では、赤軍の大半はドニエプルの彼岸に敗退し、キエフ、オデッサの陷落も時の問題である。モスクワ正面の中央戰線では赤軍は又もや逆襲に轉じたやうだが、大したこともなささうだ。そこで世界の耳目は自然レニングラード攻略戰に集中されて來た。

この方面の赤軍の總司令はヴォロシーロフ元帥である。彼は市民に檄してレニングラード死守を命じ、男女の市民を武裝し、市内に塹壕を穿ち胸壁を設け、市街家屋を要塞化して獨逸軍に對し抵抗を期してゐるので、ワルシャウに輪を掛けた凄烈悲慘な市街戰が展開せられんとしてゐるのである。

レニングラードが早く陷落すれば、赤軍の意氣を沮喪させる精神的の打擊のみならず、戰略的にもモスクワの防禦を不可能にするものである。併し後方との連絡を斷たれては兵糧攻になる惧が多分にある。人口稠密な大都會ほど防衛が困難な事は說明を要しない。ソ聯の最高統帥部は、如何なる神謀奇策を以てこの危機に對處せんとするか實に見ものである。

○八月二十三日

東部戰線の我が作戰は豫定通り進捗中である。

○八月二十四日

我が軍の諸部隊はウクライナに於て、敵の頑強に守備してゐたチェルカッシーのドニエプル河橋頭堡を奪取した。キエフ西北方では敗敵に對する追擊はドニエプルに達し、更に同河を越えて繼續されつつある。

我が軍はイルメン湖南方で有力な敵兵力を擊破し、之をラワット河彼岸に擊退し、一萬人以上の敵兵を捕虜とし、夥しい軍事資材を鹵獲した。

エストニヤにて戰鬪中の諸部隊は、レヴァルに向つて集中攻擊を開始してゐる。

ラドガ湖兩岸に於て特に猛烈に行はれてゐる芬蘭軍諸部隊の攻擊は著しき進境を示して來た。

○八月二十五日

東部戰線の我が作戰は到る處順調に進行中である。

對ソ戰第三ケ月目を迎へて、ベルリンの某軍事通は、東部戰線の現狀につき左の如く評論してゐる。

『最近の戰鬪の成果は、我が軍が豊饒なドニエプル河の中流及び下流を確保した事にあつた。同地方を確保した後に來るものは、ドニエプル河彎曲部を跳躍臺としての南露新作戰である。

次にキエフ、ゴメル間の地域に殘存する强力なソ聯部隊の捕捉を目標として、ルンドステット集團軍の左翼とフォン・ボック集團軍の右翼とによつて遂行せられんとする一大作戰が、くつきりと泛び上つて來る。猶またバルト沿岸のソ聯海軍基地レヴルに對する第三作戰が明確に認められるのである。』

以上の概評を見ても、獨逸の作戰が今次も亦如何に組織的に遂行されてゐるかを明瞭に認識することが出來る。之に反してソ聯側の作戰は、徒に混亂を極め絶望的な防禦戰を行つてゐるだけで、何等大規模の統帥計畫に基く反擊作戰が認められない。ソ聯は歐露に於ける廣大な地域を活用して、如何樣にも退却戰を行ふ便宜があるにも拘らず、目下の退却狀勢では、重要な生産及び行政地域を獨逸軍の手に委ねねばならぬと云ふことは、重大な意義を有つものである。これらの重要な地域を喪失しては對獨戰爭を有效に繼續することは頗る困難となるであらう。假令英米からの援助が行はれるとしても、米國からの對ソ補給路は遠距離である爲、ウク

ライナ、キエフ、スモレンスクの諸戰區や現在モスクワ及びレニングラードの周邊で、ソ聯の蒙つた生産設備に對する甚大な損害を補充し得ないことは明かである。

西部戰線に於ける英國側の所謂牽制攻勢に於ても、英國は自ら重大損害を引受けねばならなかつた。東部作戰の開始以來一昨日に至る迄(六月二十二日より八月二十三日迄)の間に於て、英空軍の全損害は千四十四機の多きに及び、英國側は貴重な機材を失つたのみならず、充分な教育を施した乘員多數を失つたと云ふ大痛手を蒙つたのである。戰鬪機及び爆擊機の優秀な乘員の大損失を補充することは頗る難事である。獨逸空軍の同期間に於ける喪失機數は百二十七機に過ぎず、獨空軍の卓越さが又もや明かに證明せられた譯である。かくて獨空軍は東部戰線の大戰鬪に決定的に協力すると同時に、西部戰線に於ても英國側に對して大打擊を與へたのである。

○八月二十六日

東部全戰線の作戰は有利に且計畫通り進行中である。

同日附の特別發表によれば、フォン・クライスト將軍指揮の獨戰車軍團は八月二十五日ドニエプル重工業地帶の中心地たるドニエプロペトロフスクを激戰の後完全に占領した。赤軍はこれによりキエフ以南の西ウクライナの最後の據點を失つたわけである。なほクライスト將軍の部下はウマン殲滅戰以後、總計捕虜八萬三千五百九十六名、大砲四百六十五門、戰車百九十九輛を獲た。

また權威ある筋よりの情報によれば、ンニングラードとプスコフの中間にある工業都市ルガは獨軍の手に占領された。ルガ占領に先だち獨軍は、百二十個のトーチカを奪取するといふ激戰を交へ、地雷を爆破した數だけでも九千二百個に上つた。この戰鬪で獲た捕虜二千三百名、鹵獲または破壞したソ聯兵器は戰車百五十四輛、大砲四十八門に及んだ。

ルガはレニングラード南方約百八十キロ、イルメン湖とペイプス湖とから略同距離にあり、人口二萬二千、化學工業及び金屬工業地として知られてゐる。

○八月二十七日

既に特報により發表された如く、フォン・クライスト大將麾下の戰車軍團の一部は、去る二十

五日激戰の後ドニエプロペトロフスクの橋頭堡及び同市を强襲によつて占領した。ドニエプル河口附近及びキエフ南方に於ても、尙同河西岸に據つて抗戰してゐた最後の敵兵の一部を白兵戰を演じて擊破した。

ヴォリキエ・ルキ（Volikije Luki）の東方では、ソ聯第二十二軍を包圍し、數日に亘る激戰の後之を擊滅した。我が方は敵兵三萬以上を捕虜とし、砲四百門を鹵獲した。敵の死傷數は甚大にして戰死者四萬以上に達した。

イルメン湖、芬蘭灣間、竝にレヴル附近及び芬蘭戰線の我が作戰は、計畫的且つ有效に續行中である。

空軍はキエフ東方の敵集團に猛爆を加へ、モスクワ西方及びレニングラード地區內の多數の鐵道要衝を爆擊した。

爆擊機編隊は芬蘭灣內に於てソ聯軍隊輸送船四隻計九千噸を擊沈し、他の四隻に大損害を與へ、驅逐艦一隻及び小艇隊司令艦一隻に爆彈を命中せしめ、同じくコラ半島東方に於ても他の二隻の敵驅逐艦に命中彈を與へる等大戰果を擧げた。

關する軍報道は、マンガン鑛の產地として有名なニコポールからサポロジェ（Saporodshe 舊名アレキサンドロウスク）を經て、ドニエプロジェルシンスクに至る迄の全ドニエプル工業地帶が獨軍の掌中に歸した點で特に重要性を有してゐる。同地域はソ聯工業生產に於て極めて重要な地位を占めてゐる。ドニエプロペトロウスクが、ウクライナとクリヴォイ・ログ鐵鑛地帶黑海沿岸のニコラエフ及びヘルソン、東方に位するドネッツ盆地の炭田、及び北方の重工業都市ハルコフに通ずる鐵道の分岐點であることを以てしても、如何にその重要な土地であるかが窺はれるのみならず、ドニエプル河上に架せる重要な鐵道橋竝に數ケ所の鐵道工場の存在が更にその重要性を裏書する。上記の如き有利な交通狀態に加ふるに、黑海に注ぐドニエプル河の舟運があることが、同市及び隣接都市を打つて一丸としてドニエプロマリナーツと總稱する製鐵業の所在地として發達させた前提條件をなしたのである。同地方三十箇所の製鐵所及び鑛業所の喪失は、ソ聯の戰爭遂行にとつて他の軍需工業、殊に製砲工場及び彈藥工場を失つたと同樣全く致命的の大打擊である。

ドニエプロペトロウスクとサポロジェの中間には、五十五萬キロワットの發電能力を有する電力界の巨人とも云ふべき一大水力發電所がある。同發電所は二百七十キロに亘る長距離送電線によりドネッツ盆地と連絡されてゐる。ドニエプル下流の多數の大都市は、何れも最新式の

ソ聯工業都市であつてモスクワ政府からも優先的に取扱はれ、その工場設備は何れも廣大な面積を有してゐる。これ等の重要工業地域が今や獨軍の手に歸したことは、自動的にドネッツ盆地及びハルコフ地方の生産を障害することとなるのである。この兩地方が全く黑海との連絡を奪はれてしまつた不利は言ふまでもない。

軍事的に見てドニエプロペトロウスク及びサポロジェ間のドニエプル河彎曲部の完全占領は目下最も東方へ進出した獨逸軍楔狀戰線の最尖端を意味するもので、この楔はハルコフ附近及びドネッツ盆地工業地帶を脅威せんとしてゐるのみならず、クリミヤ半島と背後地間の陸路連絡をも遮斷せんとしてゐる。この歐露南部に於ける獨逸軍の脅威的陣形と、レニングラードを繞る危險狀態とにより、クレムリン宮裡のソ聯要人達が神經を異常に昂ぶらせてゐるのも成程と頷かれる。

本日の軍報道にあるドニエプル河口に於ける激戰と云ふのは、同河口防禦の要塞として特に堅固な防備が施されてゐたベリスラウの攻略戰であつた。獨逸軍部隊はその攻擊に際し、歩兵は重砲兵の到着を待たず、直ちに防備堅固なる敵地の攻擊に移り、白兵戰によりソ聯兵を陣地より驅逐した。この際獨軍は赤軍兵一萬五千人を捕虜とし、守備兵の殘部を輸送せんとした商船數隻を同港内に於て擊沈した。

○八月二十八日

東部全戰線に亘り作戰は計畫通り進行中である。

芬蘭戰線に於て獨芬兩軍は、緊密なる協力の下に重要なる成功を贏得た。

サラ（芬蘭）東方地區に於ては、地形の困難と惡天候を冒し、數日に亘り猛烈なる戰鬪を交へたる後、二箇師團より成る赤軍を完敗せしめた。

○八月二十九日

芬南灣に於て獨逸空軍は、ソ聯輸送船三隻計一萬三千噸を擊沈し、ソ聯驅逐艦一隻に命中彈を投じた。

東部戰線のその他の戰區にあつても作戰は迅速に進行中である。

○八月二十九日特別發表

獨逸軍は八月二十八日我が海軍と協力して難戰苦鬪の後、要害堅固なるソ聯海軍基地タリンを占領した。今やこの古きハンザ同盟都市のヘルマン塔上には獨逸旗が飜へつてゐる。同日更に近代的裝備を有するバルティシィキ（通稱バルチック・ポート）の海軍基地を攻擊占領し、數千の捕虜及び海岸砲臺六箇所の外、目測も出來ざる程の鹵獲品を獲た。またタリン軍港に於て軍隊及び兵器滿載のソ聯輸送船十九隻、驅逐艦一隻、その他の艦船九隻を擊沈し、重巡洋艦キーロフ及び軍艦五隻に重大なる損傷を與へた。

タリンの陷落により赤軍は、舊エストニヤ領から完全に掃蕩されてしまつた。芬蘭軍司令部の發表によれば、芬蘭軍は三十日正午ウィボルグを占領したと云ふことである。かくて獨逸軍は今やレニングラード外廓五十キロの地點に迫り、數ケ所に於てモスクワに通ずる鐵道を中斷し東北、西、西南より之を包圍してゐる。

タリン はレヴル（Reval）のことである。タリン（Tallinn）とはエストニヤ名で、獨立後エストニヤの首府であつたが、一九四〇年ソ聯に併合せられてからは帝政時代と同樣、附近のバルチック・ポートと共にクロンスタットに次ぐ重要な軍港となつた。レヴルはリガと同、

じく獨逸色の濃厚な都會である。同市は一九二一年丁抹王ワルデマール二世の創建に係り、一三四六年獨逸騎士團の領有に歸し、十四世紀から十五世紀にかけてハンザ同盟の一員として繁昌した。ラトヴィヤが獨立を失つたにつれ、レヴルは一五六一年瑞典領となり、一七一〇年以後露領となつた。

ウイボルグ　は芬蘭語ではウィープリとも云ひ、レニングラードへは百二十キロの距離に在る芬蘭の港であつたが、ソ芬戰爭の結果昨春ソ聯領に編入された。さればウィボルグの奪回は、芬蘭人にとつては一つの雪辱の記念である。ウィボルグは同名の灣内、花崗岩の丘陵上に建てられた美しい街で、大小の湖水を連ねたサイマ運河の河口に當り、風光明媚な附近一帶の觀光地の中心である。

ウィボルグの奪回は芬蘭國民に非常な喜びと滿足を與へた。ヒットラー總統は直ちに電報を以て滿腔の祝意をリチ芬蘭首相に傳へた。

次に特記すべきはドニエプロストロイの大ダムと發電所のソ聯による爆破である。第一次五ケ年計畫の最高峰であるこの壯大なる發電所を惜しげもなく破壞し去つた所に、ボルシェヴィッキーの並々ならぬ抗戰意識と、露人のニッチェボウ性格がありありと露出されてゐる。

○八月二十九日

我が空軍は芬蘭灣内のソ聯運送船三隻計一萬三千噸を撃沈し、ソ聯驅逐艦一隻に爆彈を命中させた。

東部戰線の他の地區に於ても我作戰は急速に進行しつつある。

○八月三十日

既に特別報道によつて發表せる如く、我が海空軍は、芬蘭灣内に於てソ聯艦隊及び軍隊輸送船團に對し大損害を與へた。敵はレヴル（タリン）其他の港より脱出を企てたが、その際驅逐艦二隻、掃海艇九隻及び哨戒艇三隻は我が機雷に觸れて爆沈した。他の二隻の驅逐艦竝に掃海艇も機雷により大損傷を蒙つた。また爆撃機編隊は間斷なき空襲によつてソ聯巡洋艦一隻及び驅逐艦二隻を撃沈し、命中彈により他の驅逐艦三隻及び補助巡洋艦一隻に損害を與へた。敵がレヴルに於て軍隊及び軍需資材搬出の爲に備へ、且多數の軍艦を以て護衛せしめた一大船隊は、我が機雷封鎖網中に陥つた。今迄の所敵の運送船二十隻、計四萬八千二百噸が沈沒し、八隻は我が機雷の爲

に大損傷を蒙つた。爆擊機隊は敵商船二十二隻、殊に軍隊輸送船計七萬四千噸を擊沈、また敵船三十九隻に猛爆を加へ、その爲これ等船舶の大多數は喪失せるものと認められる程である。

○八月三十一日

特報發表の如く芬蘭軍はウィボルグ地區で激戰を行ひ、殲滅的の打擊を赤軍に與へ、三十日遂に同市を奪回した。又カレリヤ地峽中央の芬蘭軍はレニングラード方面に進擊し、爲に戰況は我が方に頗る有利となつた。

ウィボルグの陷落はソ聯に對して相當な打擊を與へたやうだ。ストックホルム來電によればソ聯は赤軍をカレリヤ地峽から引揚げたので、芬蘭は昨年三月のソ芬平和條約によつて失つた失地を悉く恢復することが出來たと云ふことである。この勝利を機會にソ聯と芬蘭との間に單獨媾和を媒介したいと、極めて蟲のよい計畫を樹てたのがワイナント駐英米國大使であるが、肝心の芬蘭當局がこのデマニウスを一蹴したので、この噂も一應鳧がついた。

東部戰線レニングラード北東のカレリヤ地峽及びラドガ湖東岸の戰線では、赤軍は所によつ

ては二百四十キロも一息に引揚げてしまつた。その内本格的なレニングラード包圍攻撃が始まることと思ふ。

中央軍方面では赤軍の逆襲を撃退した位で、今の處次の作戰に對する準備中と考へられる。ゴメルでは森林中に匿され巧に擬裝された廣大な地下要塞が發見された。ソ聯中央軍の總司令官ティモシェンコ元帥は、永くここから中央軍の戰線を指揮してゐた由である。

南部ウクライナ方面では、キエフとオデッサを除くドニエプル以西の全土は今や悉く獨逸軍の制壓下に入つた。この重要工業地帶の喪失は、ソ聯にとつて强度の機機化を要求する近代戰の遂行を、不可能ではないまでも非常に困難なものにした。既報の如くクリヴォイ・ログの鐵山は獨逸軍の手に歸したが、同鑛山は世界最良質の鐵鑛脈を藏し、鑛脈の幅二キロ乃至六キロ長さ九十キロに亙り、總鑛量八億噸と云ふ專門家の鑑定である。而もその質が非常に良好で、往々七〇%の純分を含む由である。ソ聯の全製鐵業は殆ど原料をこの地から仰ぎ、例へばツーラの大砲工場、裝甲鈑工場、モスクワの小銃製造所等は直ちに原料難に陷るわけである。クリヴォイ・ログの喪失は、計算では全國鐵鑛産額の六割一分に過ぎないが、實際需給關係の影響は地理的關係からもつと深酷である。ニコポール地方のマンガン鑛の喪失も、鐵冶金にとつては極めて重大である。同地のマンガンの年産額は百三十萬噸で、露西亞全國の産額の三分の一

に上つてゐる。ソ聯のアルミニウム年産七萬キロの内、ドニエプロ發電所の電力を利用して約半數三萬四千キロがこの地方で産出される。殘りの二萬二千キロがウラル地方のアラエフスク一萬四千キロがレニングラードに近いウォルホフ河畔のスワンカから出る。しかも今やこの一と三とが失はれてしまつたのである。

またウクライナ地方には大製鐵所三十工場が、ドンバス、ドニエプロペトロウスク、マリウポリ、ザポロジェ、クリヴォイ・ログの諸地方に散在して居り、一九三七年の生産額は銑鐵八百八十萬噸（ソ聯邦全體の六〇％）鋼鐵八百四十六萬噸（ソ聯邦全體の四八％）である。これ等の鐵資源と人口五十萬のドニエストロペトロウスク、十五萬のドニエプロジェリシンスク、三十萬のザポロジェ三工業都市のもつ機械工場施設とを組合せて、之をドニエプロ・コムビナートと稱してゐる。ドニエプル綜合工業地帶とでも譯したらよいと思ふ。ソ聯全國の小麥産額の二九％、ライ麥の一六％、燕麥の一五％、大麥の五五％、甜菜の八五％、煙草の六六％、玉蜀黍の四六％、亞麻の二四％、向日葵の二〇％を産するこの豊饒なウクライナに、天然物資源と工業勞働力が豊富に與へられ、之を動かすに無盡藏のドネッツの石炭と、出力八十萬馬力の水力發電所があることは、寔に鬼に金棒であつた。然るにこの重要工業地帶が一朝にして獨逸軍の領有に歸したのであるから、レニングラード、モスクワ、ハルコフ等の諸工業は、原料供

給の點で痲痺の狀態に陷り、ソ聯の受けた軍需品補給上の打擊は實に非常である。

ブジョンヌイ將軍が幾何の兵力をドニエプルの彼岸に撤收し得たかまだ判然しないが、時々渡河逆襲を試み、また海路からも上陸を企てるなど、今猶相當に反抗力を具へてゐることを見ても、まだ攻擊精神の喪失とまでは行つてゐないらしい。これ等の逆襲の都度、多大の損害を殘して直ちに擊退されることは申すまでもない。要するに此方面の戰況は、次の攻擊前進が發令せられるまで今一寸一服といふ所である。

○九月一日

二十六日以降我が軍は、キエフ北方のドニエプル河上に於て、ソ聯の江上砲艦二十七隻を擊沈した。

殘敵掃蕩中の我が軍は、エストニヤ西岸のハプサル港を占領した。

八月二十八日レヴル周邊の戰鬪の結果、我が軍は赤軍捕虜一萬一千四百三十二名、砲二百九十三門、戰車九十一輛、裝甲列車二列車、その他多數の軍需資材を鹵獲した。

我が海軍は芬蘭灣内に機雷敷設作業を繼續した。我が機雷原内に六十隻以上の敵船舶が、盛ん

に燃えてゐるのが望見された。

現在までに判明せる處によれば、レヴル附近の戰鬪に於て、敵の第十、第二十二軍は全滅し第十、第十六狙擊師團の殘部及び第二十二軍の機械化師團は完全に擊滅された。既に軍報道により發表せる如く、敵のバルチック艦隊は大部分殲滅され、海路よりレニングラードに遁走せんとした多數の敵將兵は戰死したのである。

○九月二日

東部戰線の我が作戰は計畫通り進捗してゐる。我が空軍はハルコフ地區及びモスクワ西南方の鐵道を有效に爆擊し、我が急降下爆擊機はドニエプル河上のソ聯砲艦一隻を爆沈し、他の三隻に火災を起させた。

歐洲戰爭も今日で愈々第三年目に這入り、長期戰の相貌を呈して來た。六月二十二日獨ソ開戰以來十週間を經過し、北部戰線のソ芬國境では昨春のソ芬戰役に際して奪はれた芬蘭領も悉

く奪還され、獨芬聯合軍は既にラドガ湖の東西兩岸に沿ふて、レニングラードに向つて肉迫してゐる。また南方からは獨逸軍先鋒部隊の前衛は、レニングラード外廓を距る二十五キロの露西亞帝室の離宮があつたので有名なツァルスコエ・セロ今のクラスノエ・セロに達し、攻城砲の射程内に入つた。かくてレニングラードとモスクワ竝にヴォログダを繫ぐ兩鐵道幹線は完全に遮斷され、徐々にしかし次第に包圍攻擊の態勢が整へられんとしてゐる。これに對しヴォロシーロフ元帥指揮下の赤軍百萬は、無論屢々反擊を試みるであらうから、この攻防戰は相當手に汗を握らせることと思ふ。

中部戰線では赤軍はゴメルに向つて猛烈な逆襲を試み、その北方ではドニエプル河畔のロハチェフ、ジュロビンの兩市をまだ確保してゐるらしいので、モスクワ進擊はそう早急には進展しないやうである。

一方南部戰線ではオデッサに對する包圍圈も次第に縮小され、羅馬尼軍は二日給水路を絕つたので、同市は既に非常な糧食難に陷つてゐると云ふから、その運命は旦夕に迫つたと云つてよい。

○九月三日

我が軍は東部全線に亘り引續き大戰果を擧げてゐる。羅馬尼空軍は東南戰線の戰鬪に參加し、その大戰果に與つて大いに力があつた。八月迄に同空軍の破壞した敵機は四百三十三機に上り、又地上部隊を掩護して大なる戰果を收めた。

○九月四日

東部戰線の我が作戰は有利に續行中である。

○九月五日

東部戰線に於ける我が軍の作戰は成功裡に進捗してゐる。

獨逸軍はレニングラードの包圍を繼續し同市は既に獨軍砲火の下に曝されてゐる。

エストニヤの敵軍掃蕩は完了した。

例によつて例の如く獨逸軍總司令部の戰況發表が極めて短く切詰められて來た。その間獨逸軍は、西方クロンスタット軍港の對岸から東方ラドガ湖まで半月形にレニングラードを包圍し、その最前線は同市より十キロ乃至十五キロの地點まで、肉迫してゐると傳へられる。獨逸の長距離砲は三日この方砲擊を開始し、市内に火災を生じたことが九十キロを距てた芬蘭舊國境から眺められると云ふことである。レニングラードの守備については、西北方面軍司令官ヴォロシーロフ元帥、レニングラード地方共產黨書記長ジュダーノフ以下計六名の委員から成る最高軍事委員會が組織され、正規兵五十萬、民兵六十萬を以て同市を死守する覺悟であるが、近在から遁入の避難民を加へて約四百四十萬の人口が、外界との交通を遮斷されては間も無く糧食の缺乏で參る惧が多分にある。赤軍現在までの態度では容易に開城を肯じまいから、やがて凄慘な攻圍戰が展開するものと思はれる。

○九月六日

東部に於ける攻勢は我が方の優勢裡に進捗を見てゐる。

○九月七日

東部戰線の我が作戰は順調に進捗中である。

○九月八日

ラドガ湖東方を攻擊中の芬蘭軍は、遂にスヴィル河に到達した。

レニングラード包圍完了

○九月九日

既に特報により發表せる如く、我が軍の快速諸師團は、空軍諸部隊の目覺しき掩護の下にレニングラード東方に於て、廣範圍に亘りネヴァ河の線に到達した。

ラドガ湖畔のシュリュッセルブルグは、我が一歩兵師團の强襲によつて奪取せられ、之により獨逸軍のレニングラードに對する包圍は完成した。今や同市は一切の陸上連絡を遮斷されるに至

つた。爆擊機隊は昨日晝夜に亘り、レニングラード市内多數の軍需工場及び補給施設に猛爆を加へた。空軍は更にモスクワに對して夜間空襲を行つた。

シュリュッセルブルグ

の占領によりレニングラードは一切の陸上連絡を完全に遮斷され孤立の狀態に陷つたのである。シュリュッセルブルグは、ラドガ湖から流れ出てレニングラードを貫流して海に注ぐネヴァ河の東岸に在る人口五千人位の小都會で、レニングラードから約六十キロ距つてゐる。この地は一七〇〇年代に瑞典と露西亞とが互に覇權を爭つた時代に歷史に出て來る要害の地で、ピョートル大帝の命名に係るものである。シュリュッセルブルグとは獨逸語で鍵の堡と云ふ意味である。レニングラード附近にはオラニエンバウムとか、ペーテルホーフとか獨逸語の都會名の多いのも、ピョートル大帝の西歐文化吸收時代の名殘である。

シュリュッセルブルグ占領の結果、白海に通ずるスターリン運河とレニングラードとの交通も全く斷絶することとなつた。レニングラードは平時の人口三百萬、ソ聯第二の都會でモスクワに次ぐ金屬工業及び化學工業の最も重要な中心地である。就中全ソ聯邦兵器製造工場の半數はレニングラードに集中してゐるので、同市と外界との陸上交通が遮斷されたことは、ソ聯國防軍の兵器補充に非常な障害となる。また獨芬聯合軍の進出に伴ひ、レニングラード附近の水

力電氣の源を斷たれることとなつて、同市の電力供給は非常な脅威を感ずることとなつた。

○九月十日

東部戰線に於ける我が軍の攻擊は有效裡に續行中である。

モスクワとスモレンスクの中間に位するウヤズマは、長時間に亘る激戰の後遂に我が軍の攻略する所となつた。同市はモスクワに近接してゐる許りでなく、鐵道分岐點としても戰略上重要である。

○九月十一日

東部戰線の我が軍作戰は成功裡に進捗を見つつある。

○九月十二日

東部戰線の我が作戰は、天候の不良と地形の困難に拘らず着々戰果を收めつつある。

軍事消息通の說によれば、北部戰線に於ける獨逸軍作戰の進捗振りは、頗る好調で且目覺しいものがある。ソ聯軍の抵抗も亦頑强であり、道路の狀況は殊の外惡く、その上地雷原が甚しい困難を與へるにも拘らず、獨逸軍は絕えず猛進擊を續け、無數のトーチカ、野戰陣地及び要塞化された多數の村落を奪取した。赤軍防禦陣地の特徵は無數の地雷を敷設することである。從つて攻擊前進の場合、工兵は先づ身を挺して數千の地雷を處分して、步兵又は戰車隊の爲に突擊口を開鑿せねばならぬ。

獨逸側日々の非公式報道には幾千人の捕虜を取つたとか、戰車何臺、砲何門を破壞または鹵獲したなどと書いてあるが、地名が無いので一向意味をなさぬから凡て省略することとした。

○九月十三日

東部戰線では我が軍の攻擊は計畫通り進捗中である。

レニングラード包圍完了

○九月十四日

東部戰線では我が作戰の順調なる經過により、新戰果獲得への道が開けつつある。

我が有力なる兵團多數がレニングラード要塞地帶に進擊せる結果、敵の抵抗激甚なるにも拘らず、同市包圍の鐵環は益々壓縮せられつつある。

○九月十五日

東部戰線の我が大攻勢は順調に進捗中である。レニングラードの包圍は、近代的要塞設備に對する粘り强い鬪志を以て益々壓縮されるに至つた。多數の重戰車の掩護の下に反覆し來る敵の反擊は、凡て我が方によつて擊破された。

レニングラードは九月九日以來文字通りに獨逸軍の重圍に陷つた。ソ聯側では諸方面で必死の抵抗を試み、多數の重戰車を出動させて反擊に出て來るが、まだ一度も獨軍戰線の突破に成功せず、攻圍圈は日一日と緊縮されつつある。ソ聯が開戰前からレニングラードに極めて强力な最新式の要塞設備を施したことは確實であり、凡ゆる重要地點は總てトーチカ、地雷原等に

よつて防備されてゐる。所々に深さ三米に及ぶ戰車壕を掘連らねてある。赤軍の外に近在から逃込んで來た避難民を合せて四百五十萬の老若男女が、僅か五千平方キロの地域に押込められ日夜獨逸の砲撃と空爆に曝されてゐる。然るにソ聯は武器を執り得る市民は、全部レニングラードの防禦戰に參加すると公表したから、これ等の住民に大犧牲を出すことがあつても、それはソ聯側の責任であつてこちらの知つたことではないと、獨逸當局は言つて居る。

○九月十六日

ウクライナに於て我　諸部隊は、空軍の有效なる掩護の下に勇敢なる攻撃を以て、川幅廣きドニエプル河下流東岸の極めて重要なる諸地點に、多數の橋頭陣地を構築した。戰車隊に掩護されたる敵の絶望的攻撃に對する數日に亘る戰鬪により、これ等の橋頭陣地を確保したる後我が軍の諸師團は、これ等橋頭堡を據點として、今や廣正面に亘り勝利に輝く東方への猛進撃に移つてゐる。

既に總統本營より特別報道として發表せる如く、イルメン湖南方地域に於て、最近數週間内にソ聯第十一、第二十七、及び第三十四軍から成る有力な敵兵力は、ケラー大將麾下の空軍に援助

されたブッシェ大將令下の我が軍により徹底的に打ちのめされた。敵の九箇師團が完全に全滅し他の九個師團は甚大極まる損害を蒙つて完膚なき迄に擊破された。我が方は五萬三千名以上の捕虜を獲、戰車三百二十輛、大小各種の砲六百九十五門竝に夥しい軍需資材を鹵獲又は破壞した。

レニングラードの前進防禦線として赤軍は、ペイプス湖とイルメン湖との間に堅固な防禦陣地を構築してゐたので、このトーチカ列を拔くのに獨逸軍は非常な努力を要したのであつた。イルメン湖の南には、スタラヤ・ルッサの東にラワット河があり、またその東方には露西亞大平原の唯一の高地であるワルダイ高地がある。高地と云つても標高僅三百十一米位のものであるが、歐露では珍らしい山岳地方で、あの有名なヴォルガは源をヴオルギィンスキー森に發し、山中の數小湖を經て恩寵の湖と呼ばれるヴォルガ湖に入り、そこからヴォルガ河となつて生れ出るのである。獨逸のブッシュ元帥軍と前記のソ聯三箇軍十八箇師團との遭遇戰は、ワルダイ高地を東西に横斷するスタラヤ・ルス、ボロゴエ間の鐵道線路に沿ふて行はれたものと想はれる。獨逸北軍總司令官リッター・フォン・レーブ元帥は、五十餘萬のソ聯正規軍をレニングラードに包圍し了つたので、餘分の兵力を割いてレニングラードとモスクワの中間に在る鐵道交叉驛ボロゴエ方面に進出を命じたに對し、赤軍はこれを擊破してあはよくば獨軍の後方連

絡を遮斷する意圖を以て、茲に數週間に亘る熱戰を演じ遂に大敗を喫したので、この會戰はモスクワ攻擊の第一齣として重要な意義を持つものである。

○九月十七日

東部戰線の我が軍の攻擊は極めて大規模に展開中である。

○九月十八日

ウクライナ戰線のドニエプル河東方に於ける我が軍の攻勢は、間斷なく進捗中である。レニングラード設堡地帶攻擊戰に於て我が軍は大戰果を擧げ、一獨立步兵師團のみで百十九個のトーチカを奪取した。

クリミヤ半島水域、オエゼル島周邊、ラドガ湖上、ウォルホフ南方及び白海に於て、我が空軍は輸送船三隻計三千噸を擊沈し、他の船舶六隻に大損害を與へ、その大部分は沈沒せる見込みである。空軍は尙ソ聯驅逐艦一隻、潛水艦二隻、快速艇四隻を擊沈した。

レニングラード包圍完了

キエフ包圍戰

○九月十九日

我が戰車部隊は東部戰線南部地區に於ては勇猛果敢なる進擊を企て、某河畔に進出して一橋梁を占據し、强固なる一橋頭陣地を對岸に構築した。同戰車隊は更にこの地點より勇敢なる進擊を續け、尙完全に運營中の一鐵道線路に到達した。而て同戰車隊は列車多數と軌道とを破壞した。

南部戰線に於てソ聯軍は凡ゆる方法を以て我が軍の進擊を阻止せんと、絕えず反擊を試みてゐるが、その都度我が軍に擊退され莫大なる死傷者を出してゐる。

東部戰線に於ける獨逸軍の作戰は極めて大規模に進行中であると云ふ九月十七日の思はせ振りな軍發表は、次第に事實となつて現はれて來た。卽ちキエフの北チェルニゴフから東南に向つて進軍する獨軍部隊と、同市の南方クレメンチューグから東北に向つて進擊する部隊とは、キエフの東方二百キロの地點に於て敵中連絡を完了し、キエフの內外にある五軍五十箇師團約

百萬の大軍が、獨逸軍の包圍網中に捕捉されてしまつたのである。その內幾何が重圍を脫し得るであらうか、寔に戰史上未曾有の大活劇の進行中と云つてよい。

○九月二十日

既に特別報道を以て發表せる如く、我が軍步兵師團は空軍掩護の下に數日に亘る激戰の後、ドニエプル西岸のキエフを繞る强固なる要塞線を突破し、退却中の敵軍に猛擊を加へて、昨日遂にキエフ市內に突入、城頭高く獨逸軍旗を翻へした。

既にソ聯軍司令部の逃亡後であつたため、同市の守備隊全部は武器を棄てて投降した。

同じく特報により發表せられた通り、獨逸軍は十八日ハルコフ西方百二十キロのポルタワを占領した。

海空軍の協力により我が諸部隊はリガ灣口に位するウォルムス及びメーンの兩島を占領した。バンコフ大尉は率先部下中隊を率ゐてメーン島より、一部敵の破壞せる堤防を橫ぎつてオェゼル島東部に達した。同大尉のかかる奇襲により、目下進捗中のオェゼル島占領作戰を有利に導く素地が出來たのである。

空軍は昨夜オデッサ及びモスクワを猛爆した。

待望のキエフは遂に陥落した。ライヒナウ元帥令下の獨逸將兵がキエフの外廓に取付いてから早や月餘になつた。獨逸側では力攻を避けて左右友軍の進出を待つてゐたが、機到ると見るや猛然强襲に轉じ、割方あつけなくこの要地を占領して、首堡の上にハーケンクロイツの軍旗を掲げた。敵の司令部が後方に於て退路を遮斷されたので、焦土戰術に出る暇さえなく、逸早く遁走してしまつたことが陥落の期を早めたのである。

キエフは露西亞都會の母と呼ばれる位の古い都で、ドニエプルの右岸百米乃至百三十米の丘上に位して遠くウクライナの平野を俯瞰し、風光明媚の地である。傳說によれば同市はキリスト紀元以前に希臘人及びスキーテン人によつて創建せられたと云ふことである。また一說では紀元四三〇年頃スラブ人によつて建設されたとも云ふ。何れにしても露西亞最古の都會には相違ない。八八二年にはキエフは露西亞王國の首府であつた。ウラジミール聖王は九八八年この地に於て基督教に歸依したので、爾來永くキエフは露西亞正教本山の所在地となつた。一一二四年の頃大火があつて寺院の燒失した數が六百に上つたと云ふのを見ても、如何にその盛大であつたかを偲ぶに足る。今日でも希臘正教の寺院が八十以上ある。その中でもペチェルス

ク區の南部にある一〇五〇年アントニウスによつて創立された僧院には、廣大な地下寺院があつて多數の聖者のミーラを藏し、これが善男善女渇仰の的となつて、革命以前には毎年二十萬人を超える巡禮參詣人があつた程だが、今はその儘露西亞文化博物館となつてゐる。金色燦然たる穹窿を頂くミハエルス僧院も一〇〇八年の建立である。舊キエフ區の最高地點に建つてゐるウラジミール大伽藍や聖アンドレアス寺は、十八世紀の建築ではあるが、輪奐の美で有名である。キエフは一一六九年アンドレイ・ボゴルユブスキー大公によつて占領されてから露西亞王國の首府でなくなつた。一二四〇年には韃靼人の侵入を蒙り、一三二〇年にはゲディミン大公部下のリトアニヤ人に占領され、一五六九年には波蘭領となり、一六五四年以後再び露西亞領となつたのである。

近代都市としてのキエフはモスクワ、オデッサ、コウェル、ポルタワからの鐵道の交叉點で人口約八十萬、ウクライナ第一の都會である。舊キエフ區とペチェルスク區を貫く繁華な大街は、キエフ銀座とも云ふべきタレシュチャチック街である。山手とドニエプル河岸との中間地區はポドールと云ふ。キエフには劇場二、オペラ、大學等があり、南露文化の中心である。工業としては精糖工場、機械製造所其他各種の工場が繁榮を極めてゐる。

ポルタワ はウクライナ第一の工業都市ハルコフの西方百二十キロに在る人口五萬内外の

小都會である。この地は一七〇八年瑞典王カール十二世によつて包圍されたが、之を救ふべくピョートル大帝は軍を進め、同年七月八日大いに瑞典軍を敗つてカール十二世の覇業を覆へした有名な古戰場である。同市の郊外にはこの偉業を紀念する爲に、瑞典陣歿者の合葬墳墓上に一紀念碑が建てられてゐる。

○九月二十一日特報

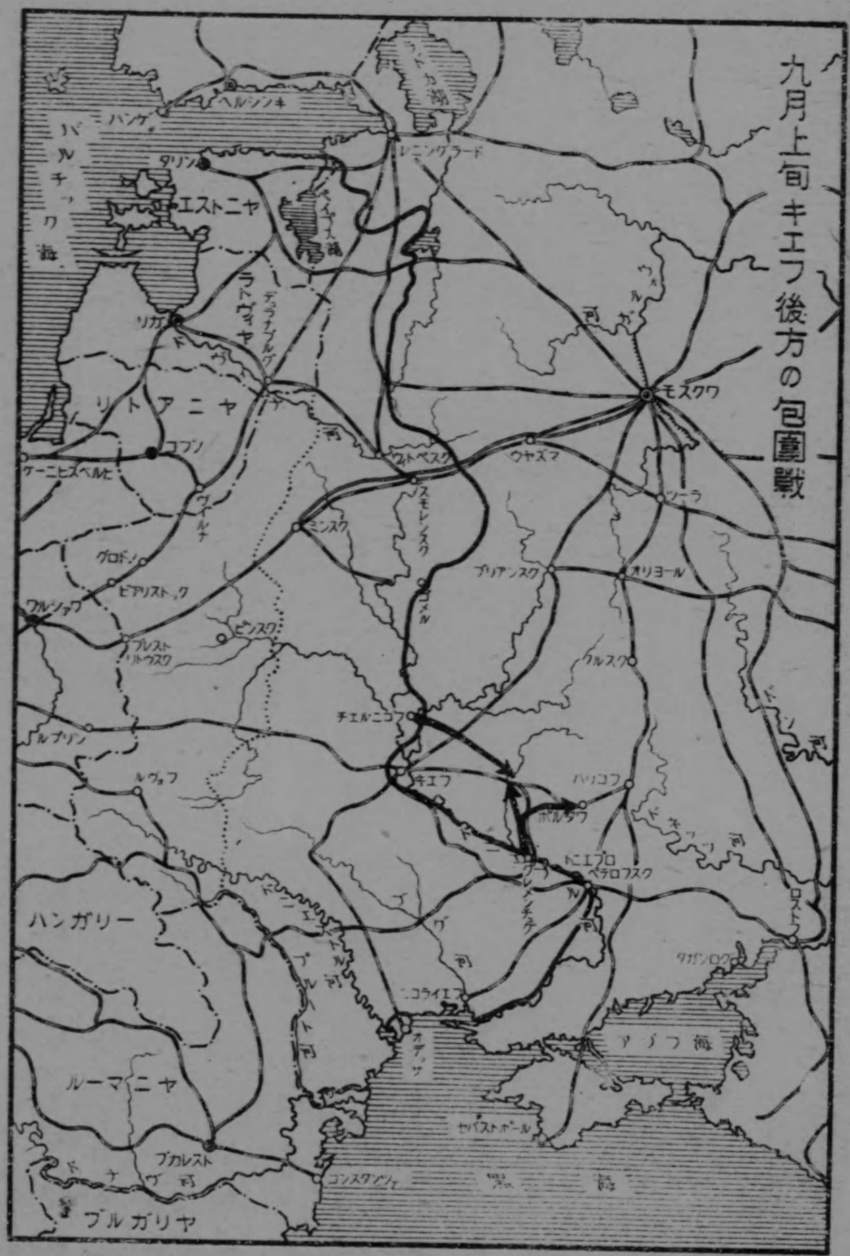
オェゼル島の首邑アレンスブルグは我が軍の强襲によつて占領され、メーン及びオェゼル兩島は今や我が軍の確保する所となつた。ソ聯守備兵若干がまだオェゼル島西端に殘存してゐるが、その殲滅は時間の問題である。

キエフ東方に展開中の包圍戰に於てフォン・ライヒナウ元帥麾下の諸部隊、フォン・クライスト大將及びグデリアン大將麾下の機甲部隊は、包圍圈內にある敵の大部隊を殲滅した。現在までに既に捕虜十五萬、戰車百五十五輛、砲六百二門、その他無數の武器を鹵獲した。尙我が軍は殘存部隊を痛擊中であるから、捕虜の數は莫大な數字に上るであらう。

獨獨逸軍事當局は九月二十三日キエフ包圍に關し次の發表を行つた。

『十日以前にデスナ、ドニエプル兩河間に形成されたる包圍網は、三日目には東西の長さは南獨シュトゥットガルトからレーゲンスブルグに至る距離に等しく、南北の距離はバンベルグからツーグスピッツェ（南獨の高山）に至るものに相當した。この距離はその後次第に短縮され、各師團の無線連絡の報告によれば、大包圍網内の多數脆弱點の掃蕩は續行された。各司令官の地圖上の包圍網が目立つて小さくなり始め、それ等が寄り集まつて全包圍網が漸次壓縮せられる譯である。がそれも間も無く次ぎ次ぎに崩壞しては其の度毎に大量の捕虜を出しつつある有樣である。ブジョンヌイ軍に對するこの包圍戰には、我が征露十字軍に參加した芬蘭、諸威、丁抹、西班牙、伊太利の諸國勇士も共に戰かつた。東部戰線のこの大包圍網に最後の引導をわたしたものは、獨逸戰車諸師團であつた。クレメンチューグから起された作戰開始後二日目の夕刻、ソ聯軍の東方への逃亡に役立つとみられた鐵道及び道路の要衝は、悉く我が軍の手に歸し、ルブヌイ附近と同樣に、一般市民の戰鬪參加を以てしても、亦敵爆擊機及び戰鬪機の襲來を以てしても、我が進擊の快調を阻む事は出來なかつた。我が戰車隊は毎日豫定通りその目的地に到着し、機械化步兵部隊が之に續いて包圍の鐵環を一層强化した結果、最早赤軍の如何なる抵抗をも無效とするに至つた。ソ聯爆擊機の編隊は我が方鐵鉗の强化を妨げんものと、

第四圖


九月上旬キエフ後方の包圍戰
ヘルシンキ
ミハンゲ
バルチック海
タリン
エストニヤ
レニングラード
ラトヴィヤ
リガ
ドヴィナ河
ドニエプル河
モスクワ
リトアニヤ
コブノ
ケーニヒスベルヒ
ウヤズマ
ツーラ
ヴォルガ河
ヴィツベスク
スモレンスク
ミンスク
グロドノ
ビアリストック
ワルシャワ
ブレスト
ルツスク
ピンスク
ブリアンスク
オリヨール
クルスク
チェルニゴフ
ルブリン
ルヴフ
キエフ
ハリコフ
ポルタワ
ドニエプロペトロフスク
ドニエプル河
ハンガリー
ドニエストル河
ドニエプル河
ドン河
ロストフ
タガンログ
ニコライエフ
オデッサ
アゾフ海
ルーマニヤ
セバストポール
ブカレスト
コンスタンツェ
黑海
ブルガリヤ

夜間ドニエプル諸橋梁の破壞を企てたが、我が防空活動に制壓されて、目標の遙か手前に爆彈を投下して逃げ去る他はなかつた。日中强行軍により我が步兵諸部隊は、その受持戰區に到達し、後から後から各種部隊が戰鬪に參加し、一步一步包圍圈を緊めつけて行つたのである。』

○九月二十二日

キエフ東方地區に於て數團に分裂され、狹小の地域に押詰められた敵に對する殲滅戰が、今猶續行中である。昨日の軍報道により既報せる如く、この間に於ける捕虜及び鹵獲品は夥しく增加し、殊に敵が我が包圍圈から死物狂ひの脫出を企てるので莫大な死傷者を出した。

特報せる如く我が軍は果敢なる進擊により、オェゼル島の首邑アレンスブルグを占領した。尙同島守備隊殘兵の掃蕩も終了しつつある。

二十一日空軍はソ聯艦船に對し極めて有效なる攻擊を敢行、夥しき戰果を擧げた。卽ち黑海に於て敵巡洋艦一隻、驅逐艦二隻、高射砲艦一隻及び商船一隻約二萬五千噸を擊沈し、更に軍艦二隻及び大型商船二隻に火災を生ぜしめた。

クロンスタットの西方海上に於て我が空軍は、敵の戰艦「十月革命」號及び重巡洋艦「キーロ

フ」號に各二發、他の重巡洋艦一隻に四發の命中彈を與へた。

獨逸軍は今や東部全線に亘つて總進擊を開始した。北部戰線に在つては激戰の後レニングラード近郊の多數の要塞を攻略し、トーチカを以て特に强化された同市周圍の野戰陣地に突入した。その際同市近郊各所で接戰及び市街戰が演じられた。他の一師團はソ聯軍が將に反擊に移らんとした瞬間、機先を制して攻擊前進を開始して敵の意圖を挫折せしめ、レニングラード近郊の敵塹壕に突入した。また他の箇所に於ては多數のトーチカを戰鬪不能に陷らしめ、野戰陣地を攻略することに成功し、その際反擊に出たソ聯軍を全滅した。

空軍はレニングラード周圍及び他の戰線の戰鬪を掩護して赫々たる戰果を收めた。爆擊機小編隊はモスクワ及びレニングラードの軍事施設を爆擊した。急降下爆擊機はハルコフ戰區の敵戰車集結部隊を有效裡に爆擊し、又堅固に防備されたクリミヤ半島の狹隘なる連絡路を猛爆した。空軍は他方芬蘭灣で排水量二萬三千噸の戰艦「マラー」號に爆彈を浴せ大損傷を與へた。同艦は本月十八日我が投爆により多大の損害を蒙り、港內に曳航せられるの已むなきに至つた後も命中彈三發を蒙つた。姉妹艦「十月革命」號も亦多大の損害を受け、既に芬蘭灣に擱坐してゐる。我が偵察機は同艦が命中彈二發を受けて戰鬪不能に陷り、艦首を水中に沒して立往生

してゐることを確認した。

芬蘭軍は奇襲によりスヴィル河畔の有名な大發電所を占領した。敵は最後の瞬間に同發電所を爆破せんと試みたが、芬蘭將校二名が之を妨げたので、同所は使用可能の狀態に於て芬蘭軍の掌中に歸した。

キエフ東方戰區では包圍圈內赤軍の殲滅戰が引續き行はれてゐる。赤軍は必死となつて包圍を突破せんと試みたが何れも無效に終つた。二十三日の戰鬪ではソ聯第四十六軍司令官が捕虜となつた。樞軸同盟軍はキエフ方面より遁走する赤軍を追擊しながら、早くも有名なるドン河盆地（ドンバス）地方の工業地帶に達した。同地方にはソ聯の炭坑及び重工業の大部分が集中してゐる。この戰鬪に於てソ聯軍の抵抗力が著しく低下したことが目立つて來た。敵軍は今や混亂の極潰走狀態に陷つてゐる。敗敵追擊戰では匈牙利軍隊が殊勳を樹てた。匈牙利空軍も亦出動して赫々たる戰果を收め、退却中の自軍を掩護せんとしたソ聯空軍の計畫を水泡に歸せしめた。

○九月二十四日

キエフ包圍戰

昨日キエフ東方地區では更に敵兵力の他の部分が全滅せられた。未だ殘存せる諸部隊は二つのポッケットに追詰められ、我が空中寫眞は敵敗殘兵の右往左往する混亂狀態を手に取る如く寫し出してゐる。これ等敵兵力の完全掃蕩は尙數日を要する見込みである。

我が爆擊機及び戰鬪機の編隊はクロンスタット灣內のソ聯軍艦數隻及び驅逐艦一隻に命中彈を與へた。また白海沿岸地區では我が爆擊機編隊は一大發電所を破壞した。空軍はまたレニングラード及びモスクワの諸軍事施設に對し有效なる夜間空襲を行つた。

○九月二十五日

我が方はキエフ東方地區に連絡を斷たれて殘存せる最後の敵兵力の絕望的な突破企圖を、甚大な損害を與へて挫折せしめた。同方面戰場の掃蕩中、ソ聯西南戰線司令官キルボノス大將の戰死體が發見され、その幕僚竝にソ聯第五、第二十五軍の司令部は全滅した。

空軍は昨夜モスクワの軍事施設及びツーラ周邊の軍事工場を爆擊して大戰果を收めた。

○九月二十六日

特報にて既に報道したる通り我が軍は、キエフ東方に於て外部との連絡を遮斷せられたソ聯軍に對する殲滅戰を續行しつつあり、現在までに我が軍の獲た捕虜の數は四十九萬二千名に達し、尙增加する模樣である。

ビヤリストック、ミンスクの會戰で獨軍の獲た赤軍捕虜の總數は三十二萬四千人であつた。今度のキエフ東方包圍戰では一網打盡既に四十九萬二千人に達し、猶日々增えつつある。捕虜と敵の死傷數では、恐らく世界戰史上未曾有の大戰勝となるのではあるまいか。

○九月二十七日

特報を以て發表した如くキエフ大會戰は終了を告げた。我が軍は廣大な戰線に於て包圍作戰を行ひ、ドニエプルの要塞群を屠り、ソ聯の五箇軍を全滅した。敵軍の我が包圍鐵環を逃れ得たものはなかつた。

空軍及び地上部隊の緊密な協力の下に遂行された我が作戰は美事にその效を奏し、捕虜總數六

十六萬五千人、戰車八百八十四輛、砲三千七百十八門その他無數の軍需品を鹵獲又は破碎した。敵の死傷は算なく、この戰鬪は戰史上前代未聞のものであり、その戰果は今猶增大しつつある。

空軍はツーラ地帶の軍事工場及びモスクワの軍事施設を爆擊した。

○九月二十九日

獨伊軍はドニエプロペトロウスク東北方面で、ソ聯三箇師團を各方面より攻擊して之を殲滅した。現在我が軍は敵兵一萬三千を捕虜とし、砲六十九門其他多數の軍需品を鹵獲したことが判明した。沼澤地へ追込まれた敵軍の一部は多數の死傷者を出した。

空軍大編隊はドン盆地(ス)並にモスクワ地區の鐵道施設を有效裡に爆擊した。クロンスタットの水域で我が軍はソ聯一巡洋艦に命中彈を浴せた。我が爆擊機は昨夜レニングラード及びモスクワの重要軍事施設を爆擊した。

○九月三十日

ドニエプル河東方に於て作戰遂行中の伊軍諸部隊は、有力なる敵兵力を掃蕩して數千名の捕虜を獲た。東部戰線の北方地區では我が一歩兵師團が、九月二十一日より同二十九日に至る間に頑强に防戰する敵陣地に對して有效なる攻擊を加へた。この戰鬪中我が方は敵のトーチカ二百十個所を强襲により奪取した。

空軍諸部隊はハリコフ地方、鐵道輸送に有效な攻擊を加へ、またレニングラード東方の鐵道網及びムルマンスク鐵道の諸施設に對する破壞を續けた。

○十月一日

ドニエプル河以東の攻擊作戰は依然成效裡に進捗中。ドニエプロペトロウスク東方で我が一機甲師團は、奇襲により數個の敵砲兵陣地を奪取した。同地北方で他の一機甲師團は敵機甲兵力と遭遇戰を演じ、ソ聯戰車八十輛の内四十五輛を擊破し、殘餘を敗走させた。

我が爆擊機隊は十月一日に至る夜間モスクワ市内の軍事諸施設を空襲した。

盛夏六月二十二日に切つて落された獨ソの大戰爭も三ケ月を超え、北歐の短かい秋の季節も

いつしか過ぎて、今は北方では早や時々降雪を見る初冬の氣候となつた。戰線の南方、ブジンヌイ元帥軍の主力は、キエフ後方の大包圍戰で獨軍の爲に散々に打ち破られ、第五、第二十五軍は全滅、他の三軍も完膚なき迄に敲きのめされ、六十六萬五千と云ふ莫大な捕虜を出した割合に、鹵獲又は破壞された戰車の數の寡ないことは、ソ聯戰車の消耗が非常に激しく補給の方が間に合はぬことを如實に語つてゐる。獨逸側ではクレメンチューグからドニエプルを渡河して東進した部隊の一部は、その左側で行はれた大包圍戰に頓着なく、ポルタワを取りハルコフに向つて猛進擊を續けてゐる。また左翼の友軍はハルコフ、オリヨールの中間モスクワ、ハルコフ間幹線鐵路上のクルスクを目標として進擊を開始してゐる。

これと同時にドニエプロペトロウスクから運動を起した獨逸軍最右翼は、遙にドン河口のロストフを目標としてアゾフ海の北岸を東へ東へと進擊を續けると共に、一枝隊を南方に分遣してクリミヤ半島と本土を繋ぐ狹隘なペレコープ地狹の强行通過を試みつつある。獨逸軍が黑海作戰の必要から、峻嶮な山嶽を背面防備に持つ黑海艦隊の根據地セバストポール軍港を奪取しクリミヤ半島全部を席捲するのも餘り遠からぬことと信ずる。

北方地區ではレニングラードの攻防戰酣はである。三十日ソ聯軍はラドカ湖畔のシュリュッセルブルグ東方で增援軍の陸揚げを試みたが、獨軍司令部は早くもこの企圖を察知し敵に大損

害を與へて擊退した。同日獨軍重砲隊はレニングラードの重要軍事工場を砲擊した。帝政時代から有名であつたプチロフ工場は、現在キーロフ工場と云ひ職工五萬人と云ふ大規模の銃砲其他百般の軍用機材の製造所である。またクロンスタットの海軍工廠も相當大仕掛のものであるが、これ等に集中砲火を浴せて次第に壞滅に歸しつつある。クロンズタット軍港內の軍艦も砲擊を蒙り、既に再三命中彈を喰つた一ソ聯戰艦が、又もや若干の命中彈を喰つた。獨逸軍はまたオラニエンブルグ碇泊中の船舶及び港灣施設を砲擊して多大の損傷を與へた。

中部戰線の局地的戰鬪に於て、八月六日から九月二十七日に至る期間に獨軍はソ聯兵九萬一千七百五十二人を捕虜にしたが、これ等の戰鬪は言はばキエフ大包圍戰や、今後將に來らんとするモスクワへの總進擊の小手調べと云ふべきである。それでも捕虜の數は世界大戰タンネンベルグ大會戰と伯仲の間にある。その際戰車千四十四輛及び砲三百二門が獨軍の手に落ちた。

ソ聯カレリヤ地方の首邑であるペトロサヴォドスク（又の名ペトロスコイ）は十月一日芬蘭軍の手に落ちた。英國方面では芬蘭は最早や失地を恢復し盡したのであるから、これ以上の交戰を止め、ソ聯との間に單獨媾和を結ぶやうにしたい。若しこれに反して相變らずソ聯との交戰を續けるやうなら、英國政府は芬蘭を敵國と認める云々の通牒を芬蘭政府へ送つた。芬蘭軍がオネガ湖畔のペトロサヴォドスクを占領したことは、前記の英國政府通牒に對する無言の答

へである。ペトロサヴォドスクは人口五萬二千位、ムルマンスク、レニングラード間鐵道上の要衝である。芬蘭軍による同市占領の報道は芬蘭に於て大歡呼を以て迎へられた。

○十月二日

東部戰線の我が作戰は豫定通り着々進行中である。伊太利軍部隊は九月二十八日より三十日に至る間、ドニエプル河東の包圍殲滅戰に於て八千以上の敵を捕虜とした外、多數の死傷者を出さしめた。カレリヤ戰線に於て芬蘭軍は昨日、オネガ湖西岸に位する東カレリヤの首府ペトロスコイに對し、南方及　西方より勇敢なる攻擊を敢行した。

我が海空軍は對英補給路破壞戰に於て九月中、敵船六十八萬三千四百噸を擊沈したが、その內四十五萬二千噸は潛水艦に依るものである。（斯くて開戰以來の英商船々腹の喪失高は一千四百六萬一千噸となつた。）

ヒットラー總統の演說要旨

獨逸の第九回冬季救濟事業開會式に臨場するため久し振にベルリンに歸還したヒットラー總

統は、九月三日午後五時三十五分シュボルトパラストに於て約一時間に亘り獨逸國民に向つて放送演說を行つた。（全文政治篇にあり）この演說に於て總統は、歐洲大戰就中獨ソ戰爭の見透については何等の示唆をも與へなかつたが、

一、東部戰線に於て四十八時間この方大作戰が開始されて目下進行中であること。

二、赤軍の主力が既に潰滅したこと。

三、チャーチル一派が英國を支配してゐる間は對英平和交涉の意志なきこと。

を言明したが、ボオルシェビッキーの徹底的排擊、竝にソ聯との單獨媾和の風說に關しては口を緘して何も語らなかつた。

總統の演說中今日までの赤軍の損害につき左の戰果を發表した。それによれば赤軍は過去十週間の交戰により

捕虜	二百五十萬人
大砲	二萬二千門
戰車	一萬八千輛
飛行機	一萬四千五百機

を失つた由である。この驚異的數字に比例してソ聯軍の死傷も、恐らく五百萬以上に上ると思

はれる。以上の發表に對しソ聯も默つて居れず、例によつて嘘八百の放送を行つた。即ち今日迄の赤軍の損害は

戰死	二十三萬人
負傷者	七十二萬人
行方不明	十七萬八千人
砲	八千八百門
戰車	七千輛
飛行機	五千三百十六機

に過ぎず、之に反して獨逸側の損害は

死傷者及び捕虜	三百萬人
砲	一萬三千門
戰車	一萬一千輛
飛行機	九千機

であると應酬した。これでは赤軍の方が戰爭に勝つてゐるとしか思はれない。獨逸側で初めて發表した獨軍の獨ソ開戰以來八月三十一日迄の死傷數は

陸軍　戰死者　八四、三五四人
負傷者　二九二、六九〇人
行方不明　一八、九二一人
空軍　戰死者　一、五四二人
負傷者　三、九八〇人
行方不明　一、三七八人
合計　四〇二、八六五人

と云ふことである。

○十月三日

東部戰線に於ける作戰は成功裡に繼續中である。

爆擊機は十月三日への夜間、モスクワの軍事施設及びハルコフ東南の軍事工場を爆擊して顯著なる戰果を擧げた。

ベルリン軍事當局の報道によれば、昨二日レニングラードの赤軍は獨逸軍二箇師團の戰區に於

て脱出を試みた。共産軍は充分なる準備砲撃の後、戰車を先頭に獨軍包圍線の突破を試みたが、獨軍の反撃を蒙り遂に不成功に終つた。昨二日獨軍砲兵はレニングラード施設に集中砲火を浴びせた。またクロンスタット及びオラニエンブルグは絶えず獨逸重砲の砲撃を受け、その際三千噸級の商船一隻は大損傷を蒙つた。

十月三日獨逸空軍はモスクワを空襲し、折柄尙同地に滯在中の英米ソ三國會談出席者も、空襲警報解除迄約五時間地下室へ避難せねばならなかつた。

十月二日中獨逸空軍はソ聯飛行機四十二機を破壞した。その內三十七機は空中に於て撃墜され餘は地上に於て破碎された。

○十月四日

東部戰線に於て目下非常に重大な作戰が進行中である。

空軍は黑海に於て約二萬噸の軍隊輸送船一隻を撃沈した。また昨夜モスクワ及びレニングラードの重要軍事施設を爆撃し、火災が數ヶ所に起つたことを認めた。

獨逸海軍は芬蘭海軍と協力して芬蘭灣の封鎖作業を續行した。

○十月五日

東部戰線に於ける攻擊作戰は順調に進行中である。

南部ウクライナに於て歩兵師團は、ペリコープ地域に於ける堅固に構築され且强靱に防禦せられたる赤軍陣地の攻擊に際し、またドニエプル河口の南に位する半島及び黑海中の一小島を掃蕩するに當り、九月二十四日より二十九日迄の間に捕虜一萬二千人を捕へ、戰車三十四輛、砲百七十九門、機關銃四百七十二挺を鹵獲した。

工兵隊は救命艇に乘込み、勇敢にオェゼル島よりアブルカ島に押渡り守備兵を捕獲した。

東カレリヤに於て芬蘭軍は成功裡に作戰を繼續してゐる。

昨夜ハルコフ東南の重要軍需工場竝にモスクワ、レニングラードの軍事施設を空襲した。

○十月六日

我が方の攻擊作戰は昨日更に戰果を擴大した。レニングラードの西方に於てクロンスタットの

全砲臺及び凡ゆる艦載砲、沿岸砲臺等の掩護の下に上陸を企圖した敵の强力なる部隊は、出動準備中の我が部隊により完全に殲滅された。これがためレニングラードの包圍を突破せんと試みたソ聯の猛攻も遂に挫折し、敵は莫大な死傷者を出した。偶々上陸に成功した部隊は、或は殲滅され或は捕虜となつた。兵士を滿載せる船舶にして我が方の擊沈せるもの數隻、超重戰車七輛を含む戰車二十二輛も擊碎された。

爆擊機編隊は六日の前夜アゾフ海沿岸の某港竝にモスクワ西方の某交通要衝、竝にレニングラード所在の軍事施設を爆擊して戰果を收めた。

本日の軍報道は獨逸軍が又もやハルコフ及び同市東南方の某大工場に猛空襲を敢行した事を發表してゐる。

ハルコフ

はキエフに次ぐウクライナ第二の都會である許りでなく、南部露西亞の工業中心地として重要性を帶びて居る。ハルコフにはクリヴォイ・ログの鐵鑛、ニコポールのマンガン鑛、ドネッツ盆地の石炭、ドニエプル、ドネッツ兩地方の製鐵所の製品が集まつて機械工業の隆盛を來したのである。同市東南方にある大軍需工場は重要なトラクター製造所であり、同時にソ聯の戰車が製造されてゐた。獨逸軍隊は東部戰線で新造ホヤホヤの敵戰車が出動して來たのを認めた。ハルコフ附近のトラクター製造工場が獨軍に占領されたら、ソ聯

軍は今後南部戰線では戰車の補充がつかなくなる。尤もウラル方面から補給を仰げぬこともないが、東部戰線後方の鐵道線路が獨逸空軍のために大損害を受けつつある現狀から見て、ソ聯新戰車の前線への輸送は極めて制限せられることとなり、從つてソ聯軍は獨軍の進擊を防ぐに最も重要な役割を演じてゐる武器を得るのに非常な障害を感じるであらう。

軍報道にもあるやうに、赤軍はペーテルホーフの東方へ敵前上陸を試みた。多分大部隊を揚陸してレニングラードの重圍を突破する計畫であつたらうが、獨軍の反擊により不成功に終つた。ペーテルホーフは芬蘭灣に臨み、レニングラードの西二十九キロの地點にあり、レニングラードとの間に電車が通じてゐる。この地は帝政時代の宏壯豪奢を極めた離宮があるので有名である。

獨逸新聞紙はクライスト將軍指揮の戰車軍團の武勇傳を報じてゐる。同部隊が歐洲大戰以來捕へた俘虜の數は遂に百萬人を突破した由である。對波蘭戰だけでも同戰車部隊は四十萬人の捕虜を得、佛蘭西及びセルビヤで同じく四十萬人、今次の獨ソ戰では今日まで二十萬人の捕虜を捕へた譯である。勿論他の友軍諸部隊の協力もあつたが、近代戰に於ける有力なる戰車隊の偉力とその重要性を示す何よりの實物教訓である。

○十月八日

既報の新作戰進行中アゾフ海北方の地區に於て一大決戰が行はれた。獨逸軍は聯合國諸軍と兵を駢べて敗敵を急追した。機械化及び戰車部隊は深く敵の退路に進入し、その際第九軍の司令部全員を捕虜とした。軍司令官はその直前身を以て空路脫出した。

東部戰線の他の戰區に於て作戰は計畫通り進捗中である。

レニングラードの西方海岸に於て再び繰返されたソ聯軍の上陸企圖は又もや擊退された。この際使用された船舶の大部分は擊沈され、揚陸せる敵軍部隊は全滅した。

昨夜空軍はロストフの軍需工場並にモスクワ、レニングラードの軍事施設を爆擊した。

ロストフ　所在の一大トラクター工場は昨夜初空襲に見舞はれた。同市はドン河の河口にある北コーカサスの首邑で、人口三十萬人、モスクワとバクーを繫ぐ鐵道線路の重要交叉點である。同市はドンバス地方の工業地帶とクーバン及びドン曠野の穀倉との中間に位し、アゾフ海を經て黑海に通ずる南露の重要都市で、獨逸最右翼軍進擊の目標である。同市の占領により獨軍は、裏海沿岸の石油產地と露西亞本土との鐵道連絡を遮斷することが出來る。ロストフには煙草工場、造船所、ペンキ、ガラス、製紙、製革、金屬、機械等の諸工場がある。

中部戰線の突破

○十月九日特報

ウクライナに於ける敗殘ソ聯軍に對する獨軍の攻擊は今尙進行中である。これと時を同じうして十月二日以來、東部戰線の中央部に於て壯大なる數箇所の殲滅戰が展開しつつある。ウヤズマ地區だけでも赤軍の數箇軍が捕捉包圍され、最早や免れ難き運命に陷つた。

十月七日夜レニングラード西方に於ける敵の再上陸企圖は、未だ海岸へ到達せざる前に失敗に歸した。

全露國の背後地に對する空襲により運送船舶及び鐵道線路に大損害を與へ、多數の列車は破碎又は破損を蒙つた。

空軍は昨夜モスクワ及びレニングラードの軍事上重要なる諸施設を空襲した。

總統本營からの發表によれば、伊太利、匈牙利及びスロヴキヤ軍諸部隊により增强せられた

獨逸戰車諸師團は、ドニエプロペトロウスク東方戰區から勇猛果敢な突擊作戰を敢行してアゾフ海岸まで進出した。そしてメリトポールに於て正面攻擊によつて擊破された赤軍第九軍の退路を遮斷した。一方獨羅聯合軍は西方から敵の追擊を續行した。この追擊戰に於て機械化親衛隊はアゾフ海の北岸に沿うてベルジヤンスクまで突進して、北方から來た機甲部隊に合流した。斯くて敵の六乃至七箇師團は諸方面から取圍まれて、將に全滅に瀕してゐる。唯一つ小部分の敵がロストフに向けて遁走中であるが、既にマリユーポールに達した親衛隊によつて追擊されてゐる。

○十月九日

昨日特報を以て報道した如く、伊太利、匈牙利及びスロヴキア軍により增强せられた獨逸戰車軍は、ドニエプロペトロウスク東方の地域よりアゾフ海に向つて進出し、メリトポールに於て敗北したソ聯第九軍の退路を遮斷した。これと同時に獨逸及び羅馬尼部隊は西方よりの追擊を續行した。この際武裝親衛隊の快速部隊はアゾフ海岸に沿ふてベルヂャンスクに突進し、北方より南下した戰車部隊と連絡を遂げた。各方面より包圍されて敵の六乃至七箇師團は茲で全滅に瀕して

ゐる。敗敵の殘存小部隊はロストフを目指して退却中。武裝親衛部隊は之を追跡して既にマリュポールに到達した。

東部戰線中央地區に於ては、既報の如く突破口より大規模の迂回戰を誘導した。强力な戰車部隊により背面より攻擊を受け、赤露の三箇軍はブリヤンスク附近の地域に於て將に殲滅せられんとしてゐる。別にウヤズマ附近に於て包圍せられたる部隊と共に、ティモシェンコ元帥はサヴィエート露西亞の完全な戰鬪力を有する最後の軍隊を犧牲に供した。特にこの軍隊の勝利につき數週間來敵が流布した宣傳の僞畫像は茲に裂けてしまつたのである。

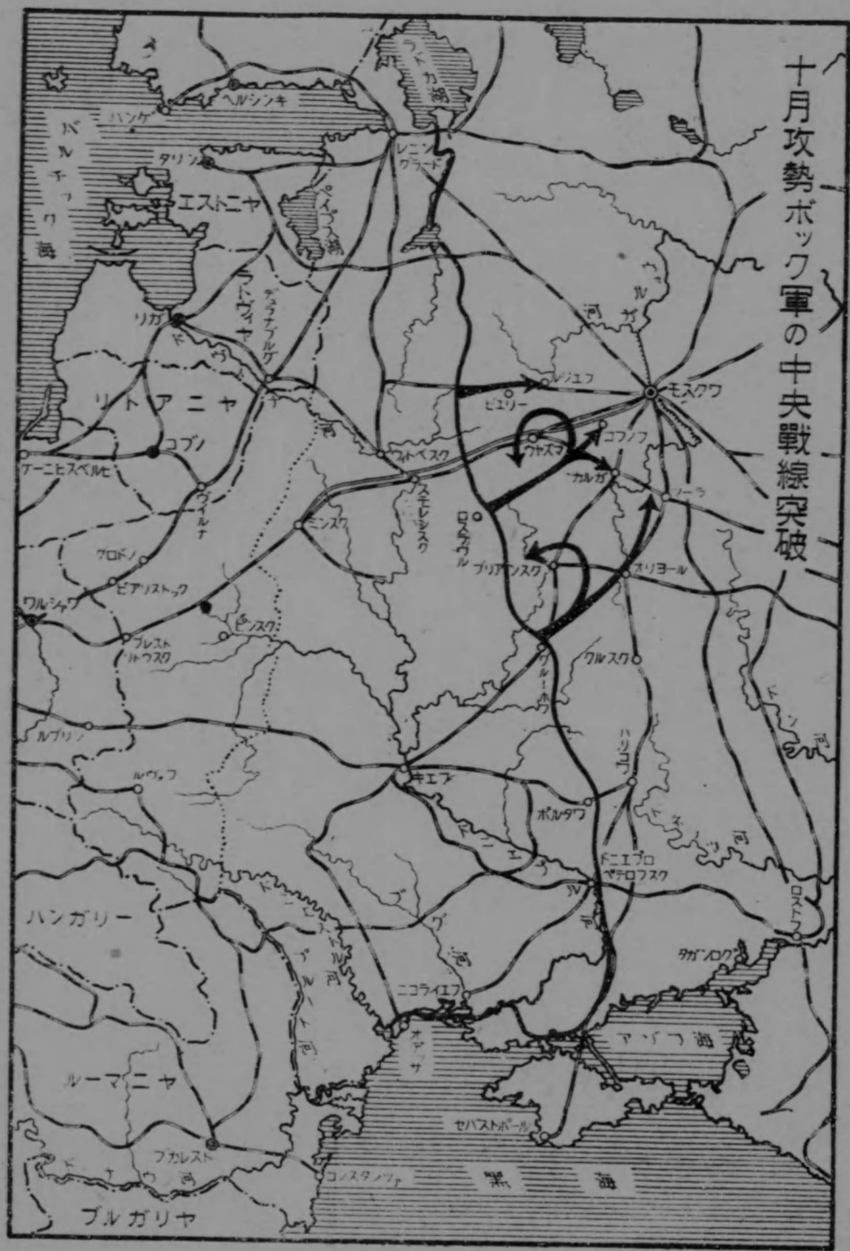
レニングラード西方の包圍線を突破せんものと、戰車隊支援の下に試みられた企圖は敵の大損害となつて失敗した。この際多數のソ聯戰車が破壞された。

空軍は東部戰線全線に亘り强大なる編隊を以て陸軍の作戰に協力した。敵軍の集合地點、砲兵陣地、連絡線及び鐵道施設を有效に爆擊した。ハルコフ東南の軍需工場も亦再び爆擊を蒙つた。爆擊機は昨夜レニングラードの重要軍事施設を空襲した。

レニングラードの包圍は益々固く、敵は屢々出擊を試み獨軍包圍圈を突破せんともがいてゐるが、その都度多大の損害を蒙つて敗退した。また南部方面ではブジョンヌイ軍はキエフの東

方に於て捕虜及び死傷合せて約百萬の損害を被りたる外、左翼の第九、第十八の兩軍はアゾフ海北岸に於て殆ど全滅の憂目を見た。然るに獨りティモシェンコ元帥麾下の赤露中央軍は赤露最大、最强の第一線正規軍をモスクワ西正面に集結し、新鋭部隊の增援を得て屢々逆襲に轉じ、九月八日にはスモレンスク東南五十キロのエルニヤを奪還し、歩兵五箇師團、機械化一箇師團、戰車一箇師團よりなる獨逸軍部隊を潰走させたと、師團番號を列擧して之を中外に報道した程その優勢を誇示した。ティモシェンコ元帥はこれに勢を得てソ聯最强の精鋭部隊をモスクワ、スモレンスク間の自動車專用道路上に集結し、スモレンスクの奪回を圖ると共に、ウヤズマの西北方面に於て獨逸戰線を突破し、レニングラード包圍軍を牽制するため、その後方連絡線を遮斷する企圖を藏してゐたのである。これに對しボック元帥指揮の獨逸中央集團軍の陣營は、約一ケ月半塹壕內に靜まり返つて專ら防禦の態勢を執り、敵を手近に牽き着けて隱忍自重、總進擊の下令を待つた。この間隊伍を補充整頓し、出來得る限り多數の兵力を集中する外、背後の鐵道線路を修築し、兵站線を整備し、また莫大なる彈藥糧秣を前線近くに集積し諸般の戰鬪準備を完了した。ヒットラー總統は十月一日『兵に告ぐ』の布告を發し、過去三ケ月の戰果を列擧してその赫々たる偉勳を感謝すると共に、本年最後の努力と奮鬪を要望した。この布告に感激した獨逸軍は十月二日進擊命令一下と共に勇躍敵陣に殺到し、前記公報の示す如

第五圖


十月攻勢ボック軍の中央戰線突破
ヘルシンキ
ハンゲ
タリン
エストニヤ
バルチック海
ペイプス湖
ラトヴィヤ
リガ
リトアニヤ
コブノ
ケーニヒスベルヒ
ヴィルナ
グロドノ
ビアリストック
ワルシャワ
ブレスト
リトフスク
ルブリン
ルヴフ
ハンガリー
ルーマニヤ
ブカレスト
ブルガリヤ
ラドガ湖
レニングラード
ウルガ河
レジエフ
ビエリー
モスクワ
ゴフノフ
ヴィヤズマ
ウルベスク
カルガ
ノーラ
ミンスク
ロスラヴル
ブリアンスク
ブリヨール
クルスク
ドン河
ハリコフ
キエフ
ポルタワ
ドニエプロペトロフスク
ロストフ
タガンロク
ニコライエフ
オデッサ
アゾフ海
セバストポール
黑海
コンスタンツァ

く三個所に於てティモシェンコ軍の防禦陣地を突破し、約七、八十箇師團の大兵をウヤズマ及びブリヤンスクの附近に於て包圍してしまつた。獨逸中央軍の兵力を蔑視して餘りにも敵陣近くに全兵力を集結してゐたティモシェンコ元帥は、まんまとその術中に陷つたのである。同元帥が幾許の豫備軍を後方に留めてゐたか、また幾許の赤露軍が獨軍の重圍を脱し得るか、今の處想像もつかないが、戰線の廣大さに於ても、兵力の多さに於ても、恐らく本戰役に於ける空前絶後の大活劇が演じられてゐるやうである。

獨逸政府の新聞部長ディトリヒ博士は十月九日戰線よりベルリンに還り、內外の新聞記者に對し長廣舌を揮つた。同博士は作戰の秘密を嚴守するため過去一月有半英米ソ三國新聞紙上の虛報や惡宣傳に對し應酬し得ざりし苦衷を述べた後、本月二日以來展開中の大包圍殲滅戰の現況を詳述し、『東部戰線に於ける戰鬪はティモシェンコ軍の全滅を以て終りを告げた。サヴィエート露西亞聯邦國に對する戰役は軍事的には最早終了したと云つてよい。兩面作戰に對する英國の夢は覺めた。計畫的作戰行動に出で得る大部隊の兵力はソ聯には最早や存在しない』と意氣軒昂として揚言した程今次の戰勝は偉大なものであるらしい。

○十月十日

アゾフ海沿岸、ブリヤンスク周邊及びウヤズマ附近に於て包圍せられた敵の兵力は、昨日更に緊縮せられた。これ等の地點を超えて戰線の中央部に於て五百キロの幅を以て開鑿した突破孔の縱深を深めた。

重要なる鐵道交叉點オリヨールは十月三日以來我が軍の手中にある。

レニングラードの西方に於て戰車を以て掩護せられた敵の出擊企圖は擊退された。

メーン島及びオエゼル島の戰鬪終了後取調べの結果、捕虜一萬二千五百三十一名、砲百六十一門竝に多數の戰車を鹵獲した。戰鬪行爲の間敵の地雷二千六百八十個を除去した。

昨夜空軍はクリミヤ半島の飛行場、中部及び南部戰區の鐵道施設、竝にレニングラードの重要軍事設備を爆擊した。

○十月十一日

アゾフ海の北方に於て狹隘なる地域に壓縮せられた敵は全滅に瀕してゐる。ソ聯第十八軍司令官の死體が戰場に於て發見せられた。ブリヤンスク及びウヤズマの地域に包圍せられた敵兵の掃

蕩も迅速に進捗中である。死物狂ひの脱出企圖も到る處その初期に於て打破せられた。捕虜及び鹵獲品の數量は益々增加しつつある。レニングラードの前面に於ても敵の出擊は昨日悉く水泡に歸した。三日間の戰鬪に於て一歩兵師團の受持地區のみで超重戰車二十八輛を擱座させた。

爆擊機は昨夜モスクワ及びレニングラードの重要軍事設備竝に鐵道線路を爆擊した。

○十月十二日

アゾフ海北岸の戰鬪終了

昨夕特報の通りアゾフ海北方の交戰は終了した。ロエヤー上將麾下の空軍の協力の下に、歩兵大將マンスタイン軍、ドウミトレスク將軍の指揮する羅馬尼軍及びクライスト上將令下の戰車軍により、ソ聯第九軍及び第十八軍は全滅した。敵は死傷者多數の外捕虜六萬四千三百二十五人を出し、戰車百二十六輛、砲五百十九門を失つた。この戰鬪に際し歩兵師團竝に山嶽部隊の功績は、特に顯著なるものがあつた。この際前記各部隊は伊太利、スロヴキヤ及び匈牙利の聯合國軍隊と協力した。かくてフォン・ルンドスッテット元帥指揮下の集團軍は、總計捕虜十萬六千三百六十五人を獲、戰車百二十六輛、砲六百七十二門を鹵獲した。

尙特報を以て既に報道したる如く、本月の初めよりソ聯軍隊に加へたる重大且殲滅的の打擊により、新なる作戰地區が構成せられた。卽ち南はアゾフ海より北はイルメン湖の南方ワルダイ高地迄、約一千二百キロの幅員を持つて獨逸及び聯合軍の攻擊が進められつつある。ブリヤンスク及びウヤズマの兩戰場は、既に我が戰線の後方となつた。死物狂ひの抵抗、屢々反覆せられた脫出企圖、竝に甚大な人命の犧牲に拘らず包圍圈裡の敵兵力がその悲運から免かれることは、最早や不可能となつた。入手した報告では捕虜の數既に二十萬人以上に上り、この數は刻々增加中の由である。

爆擊機は昨夜大成功裡に戰線中央部に於て敵縱列及び鐵道線路を爆擊した。またレニングラードの格納庫設備に有效な爆擊を行つた。

ヒットラー總統が先週金曜日（十月三日）東部戰線に於ける新作戰につき一言したとき、モスクワに於ても亦ロンドンに於ても、四十八時間この方進行中の雄渾壯大なる獨逸の新攻勢につき何等聞知する所がなかつた。獨逸國防軍總司令部の公報も、十月七日に至り始めて一週間來東部戰線に於て展開中の大活劇につき、第一戰果を發表した。これによればソ聯第九軍及び第十八軍は、アゾフ海北岸地區に於て、ドニエプロペトロウスクから東方に向つて進擊した

獨逸及び聯合軍のために徹底的の大打擊を蒙つたのである。獨逸機械化部隊の精鋭は、その快速を發揮して退却中の敵中を驀進し、その退路を遮斷すると同時に徹底的の追擊を敢行して敵を四離滅裂の潰亂狀態に陷入れた。その結果第九軍軍司令部でさえ全滅の憂目を見たのである。その際同軍司令官だけが飛行機により身を以て脫れたのは、如何にも特徵的(テイピカル)だと獨逸軍事當局は評してゐる。第十八軍司令官の戰死は獨逸公報によつて認められた。

地上部隊の進擊が目覺しいのに竝行して、獨逸空軍の活躍も極めて效果的である。空軍は地上部隊に呼應して敵兵の集中地點、輸送路、戰車、車輛縱列、野戰陣地、砲兵陣地等を大編隊を以て空襲する。また重要鐵道線路、交叉點等を破壞し、糧秣、彈藥、兵員等を輸送中の列車を爆擊して脫線破壞せしめ、幹線九を含む約四十四の鐵道線路を滅茶滅茶に破壞して後方との連絡を斷ち、軍需品の前線への供給を殆ど不可能ならしめた。又敵が鐵道を捨て、專ら道路上の自動車を利用する傾向を認め、同じく之を爆擊した。また南部ウクライナの重要軍事工場やレニングラード及びモスクワの軍事施設に爆彈の雨を降らせた。

開戰第四箇月目の初頭に於て、キエフ東方の大包圍戰によつてブジョンヌイ軍の右翼五ケ軍は全滅し、六十六萬五千人の捕虜を出し、敵の損害は死傷者と共に百萬に達したと推定されることは讀者の先刻御承知の通りである。獨逸軍の鋭鋒はその後ボルトワを取りヘルコフに迫

り、他の一隊はドニエプルの下流ペリスラフの橋頭堡からクリミヤ半島の咽喉部目掛けて進出し、ペリコープ地峡地方の要害を奪つて、東方メリトポールまで進擊、間もなく之を陷れた。

かくして總ての人の注意が東南ウクライナ戰線に釘付けとなつてゐる時、フォン・ボック元帥は、三百萬？ の大軍をこの方面に集中し、俄然幅員五百キロに亘る中部戰線の突破作戰を敢行した。月餘に亘る獨逸軍の不活動を弱勢のためと見くびつた赤軍は、まんまと不意打を喰つたのである。月初以來の總攻擊により三つの突破孔がソ聯軍の中央戰線に穿たれた。その一はグルホフ（Gluchow）を經て縱深二百キロのオリヨールに達し、その二は中央部のロスラウリ（Rosslawl）、エルニヤ方面から百五十キロの彼方に至るユフノフ（Jechnow）に達し、その三は左翼部隊によつてビエリイ（Bjelyi）が奪取された。そしてこれ等の突破孔から潮の如く進入し來る獨逸軍は巧みな旋回運動を行ひ、ソ聯軍の非常な大部隊をウヤズマとブリヤンスクに包圍して大殲滅戰が目下展開してゐるのである。運動性に乏しい赤軍が勝戰の積りで獨逸戰線の前面に膠着してゐたのだからたまらない。しまつたと氣附いた時には既に遲く約七、八十箇師團に上る大軍が全く袋の鼠となつてしまつた。ソ聯軍は目下死物狂ひと成つてこの重圍を突破せんと焦つてゐるが、その內の幾何がよく脫出に成功するか蓋し見ものである。

○十月十三日

東部戰線の作戰は計畫通り進捗中。

アゾフ海岸の戰鬪に討洩された殘敵追擊の途中、赤軍の一隊に追及し之を殲滅した。捕虜一千百名及び砲三十三門が我が軍の手中に落ちた。

ドニエプル河東の戰區に於てクロアチヤ軍隊は砲火の洗禮を受けた。

ウヤズマに包圍せられた敵兵の殲滅は將に終らんとしてゐる。

レニングラード前面の脫出企圖はまたもや擊退された。

本日夜總統本營よりの報道によれば、ブリヤンスク及びウヤズマの捕虜は三十五萬以上に上り、尙增加の見込みである。

○十月十四日

東部に於ける作戰は豫定通りの進行を續けてゐる。ブリヤンスクの地域に包圍せられた敵の兵力は數個の集團に分離擊滅された。勦滅作業は困難なる森林地帶に於ても絕えず進捗中である。

昨日迄に收容したるウヤズマ及びブリヤンスクの方面の捕虜は既に三十五萬人を突破し、今猶增加しつつある。

十四日への夜間爆擊機はレニングラードの重要軍事設備を有效に爆擊した。

○十月十五日

特報を以て報道した通り、ウヤズマ地區に包圍せられた敵兵力は悉く全滅した。ブリヤンスク周邊に於て釜中の魚となつた敵兵力の解體も絕えず行はれてゐる。この兩大會戰の捕虜は今や五十萬人を突破し、猶增加中である。

東部戰開始以來收容した赤露の捕虜總數は今日迄に三百萬人を越えた。

爆擊機は十五日への夜中モスクワの重要軍事施設を爆擊し、諸軍需工場に幾多の火災を生ぜしめた。

モスクワ攻擊の開始

○十月十六日

東部戰線に於て戰鬪は、モスクワを距ること約百キロの外廓防禦陣地を繞つて行はれてゐる。モスクワの西南及び西北百六十キロの地點にあるカルガ（Kaluga）及びカリニン（Kalinin 舊名トゥウェル）は數日來既に我が軍の手中にある。

ブリヤンスク及びウヤズマの兩會戰は、既報の如く將に終了せんとしてゐる。ブリヤンスク北方の袋狀陣地内に閉込められた部隊は、昨日中に殲滅せられた。同市南方の森林地帶に遁入した敗殘兵の掃蕩も目下進行中である。敵軍戰線の大突破竝に包圍に從事した獨逸軍の主力は、今や他の任務に就くべく待機してゐる。

現在まで敵の捕虜五十六萬人を收容し、八百八十八輛の戰車及び四千百三十三門の火砲を鹵獲又は破壞した旨報告を受けた。

ソ聯中央軍戰線の突破とこれに續くウヤズマ及びブリヤンスクの兩包圍戰は茲に終了に近づき、獨逸の中央集團軍の主力及び北部集團軍の右翼はモスクワ攻略に向つて驀進してゐる。本日の公報によれば、モスクワの西北約百六十キロのヴォルガ河畔の要衝カリニン、竝に同じく西南百六十キロの距離にあるカルガは既に獨逸軍の手中に歸し、その先鋒はモスクワを中心と

して約九十キロ乃至百キロの半徑を畫く永久築城よりなる防禦線に肉迫してゐる。然らばこの防禦陣地はどこにあるか、聊かその概略を述べて見たい。

獨逸の碩學ロッシェルはその名著工業經濟論で都會成立の條件を列記した中に、大平原にあつては都會は略ぼその中央に生れると記してゐるが、この原則はモスクワの場合に最もよく的中してゐる。外敵防禦の點では東及び南が平坦なので、蒙古襲來の際の如きは一たまりもなく降參して二百年餘もその制壓下に呻吟したが、北方及西方に向つては適當の丘陵地帶が連つてゐて、これに近代的裝備を施せば、相當に堅固な防禦陣地を構成することの出來る天然の地形となつてゐる。即ちモスクワの西方にはスモレンスク＝モスクワ街道に直角に丘陵地帶が連なつてゐる。標高は僅に二百五、六十米に過ぎないが、鬱蒼たる密林に蔽はれてゐる。この高地帶の西麓に有名なボロヂノがある。ここは一八一二年九月七日クツーゾフ將軍が、歩兵十一萬四千人民兵一萬五千人を以て、歩兵十萬、騎兵二萬八千人のナポレオン軍を迎へ擊つて勝敗決せず、唯戰略的に退却した所である。赤露軍はこの丘陵線に堅固な防禦陣地を築いてゐる。

またモスクワの北方にはアレキサンドロフとクリンとの間に丘陵地帶があり、レニングラード鐵道と道路がその西端を貫き、モスクワ川とヴォルガとを連ねる運河が之を貫流してゐる。この丘陵線もまた北方からの攻擊を防ぐに絶好の地勢である。それのみならずボロヂノ、ルシ

ニフの線の北方は沼澤地帶になつて居り、嚴冬の結氷期以外には大兵を行るに不便である。最近ソ聯政府はヴォルガの本流に大堰堤を設けて、一大陸湖を作りモスクワ運河の水量調整を計つたので、カリニンを占領した獨逸軍の北方からのモスクワ進擊には多大の天然及び人工の障碍が横はつてゐる。

更に南方からの攻擊に對してはオカ河の線があるだけである。カルガは既に獨逸軍の手に歸し、ツーラの陷落も目捷の間にあるから、この方面からの攻擊は或は意外に早く進捗する可能性があるのではあるまいか。

○十月十七日

羅馬尼國指導者アントネスク元帥指揮下に、軍團長ヤコビチ將軍の率ゆる羅馬尼軍は、小數の獨逸特科兵部隊及び空軍の支援を得て、十月十六日オデッサ市及港を占領した。これにより二ケ月以來オデッサ前面の、縱深深く構築せられた野戰陣地に據つた頑敵に對する苦戰が終了した。戰利品はまだ整理が出來ない。オデッサの陷落と共に敵は有力な工業中心、重要都市の一及び黑海に於ける最大港を失つた。

オデッサ水域に於て獨逸空軍は、同市より逃走中の敵を運搬する輸送船を攻撃して大戰果を收めた。空軍は全彈の命中により商船六隻約三萬噸を擊沈し、大船八隻を損傷したる他、ソ聯快速艇一隻を破壞した。

アゾフ海とドネッツ市との中間に於て敗敵の追擊は、獨逸、伊太利、匈牙利、スロヴキアの軍隊によつて繼續中である。

東部戰線の北段地區に於て西班牙義勇軍が戰鬪に參加した。其他東部の作戰は順調に進行中。

空軍は昨日竝に昨夜モスクワの重要軍事施設を空襲した。また十七日の夜、更にレニングラードを爆擊した。

○十月十八日

東部戰線の攻擊作戰は計畫通り進捗中。爆擊機は日中ムルマンスクの港灣施設竝にモスクワ市內及び市外の重要軍事設備を爆擊した。昨夜も亦モスクワ及びレニングラードの給養機關を空襲した。

○十月十九日

アゾフ海とドン河盆地との中間地區に於ける敵の追擊は有效に進捗中。

獨逸軍部隊は家傳ひの市街戰を以てタガンログ市（アゾフ海東北隅の海港）を占領した。

クリミヤ半島上のソ聯飛行場を爆擊す。

既に特報を以て發表したる通り、ブリヤンスク、ウヤズマの兩會戰は我が軍の勝利を以て終了した。

フォン・ボック元帥總指揮下の獨逸陸軍は、ケッセルリンク元帥令下の空軍と緊密な協同の下に、歩兵六十七箇師團、騎兵六箇師團、戰車師團七、戰車旅團六より成るティモシェンコ元帥麾下のソ聯軍八ケ軍を殲滅した。戰鬪地域の掃蕩も終了した。

昨日附特報を以て發表した捕虜及び鹵獲品の數は、其後捕虜六十五萬七千九百四十八人、戰車千二百四十一輛、砲五千三百九十六門に增加した。其他目測し難き程の各種軍用資材を鹵獲または破壞した。敵の死傷は又もや非常に慘澹たるものであつた。フォン・クルーゲ元帥、フォン・ワィクス上將及びシュトラウス上將の軍は、グデリアン上將及びラインハルト戰車兵大將の戰車軍と共に本作戰の遂行に參加した。

〇十月二十日

東部戰線の南段に於て獨逸、伊太利、匈牙利、スロヴキヤの諸師團は、ドン河盆地の工業地帶に向つて絕えず前進中である。

戰線の他の地區に於ても作戰は同じく有利に進捗中。

空軍は東部全線に亘り鐵道線路及び交通機關に對し效力ある攻擊を加へた。

最近の戰況を概觀するに、東部戰線の南段最右翼の行動の特殊性がくつきりと浮び上つて來る。これ迄の獨逸軍の戰術は强力な戰車隊を放つて敵の戰線を突破し、巧妙な迂回戰術により敵の大部隊を包圍殲滅したのであるが、メリトポールの戰ではこれ迄の慣用戰術と少しく趣を異にし、專ら正面攻擊により敵の第九軍に殲滅的の大打擊を與へたのである。獨逸、伊太利、匈牙利、スロヴキヤの諸軍より成る聯合反共十字軍は、此處で久し振りに電擊戰を發揮し、アゾフ海の北岸に沿ふて驀進、ベルジャンスク、マリウポールを陷れ、ドン河口の要衝ロストフに向つて前進を續けてゐる。ロストフとメリトポールの距離は直線で三百四十キロ、オデッサからは七百キロ離れてゐる。即ち東京と下關との距離に略比敵する。メリトポールで僅に全滅

を免かれた赤露の第九軍及び第十八軍の殘部が、東方に向つて退却したのに對し、獨逸側の戰車隊はメリトポールから約百五十キロ上流にあるドニエプロペトロウスクから行動を起して、驀進また驀進、マリウポールとメリトポールの中間約百五十キロの東方にあるベルジャンスクに於て東方に向つて退却中の赤軍に追つき、之を殲滅してしまつた。マリウポールからロストフ迄の距離は百五十キロを少しく超える位で、このコーカサスに通ずる南露鐵道の要衝竝にドネッツ工業地帶の中心スタリノがこの次の獨逸軍進出の目標である。

獨逸軍の公報は十月十九日ウヤズマ及びブリヤンスク地區の包圍戰終了を報じたが、本隊は既に遠くモスクワに向つて進擊し十月三日オリヨールに達し、スモレンスクの如きは戰線の後方二百キロの重要兵站基地に成下つてしまつた位、快調の進擊を續けたのである。

開戰後四ケ月目卽ち十月二十二日前後の獨逸軍の戰線は、アゾフ港岸のタガンログに起りドネッツ河の上流に沿ひ、ハルコフ及びクルスクの西方數キロを北走してオリヨールの東方を通り、ツーラから左折してカルガの北五十キロのマーラヤロスラヴェッからモスクワ街道上の古戰場ボロヂノの東モジャイスクに達し、遙かにカリニンを望んでゐるものと想定することが出來るのである。

○十月二十一日

獨逸及び伊太利軍部隊は昨日、ドネッツ工業地帶に於ける重要軍事産業の中心地スタリノ周邊の地區を奪取した。同市は山嶽兵が占領した。同市の一大工場の上に獨逸軍旗が飜つてゐる。ブリヤンスク東方の戰場掃蕩の際、ソ聯第五十軍司令官サヴィエート最高委員ペトロフ將軍は多數の幕僚と共に戰死した。

爆擊機はモスクワ及びレニングラードの最重要施設を爆擊した。

スタリノ はドネッツ盆地最大の工業都市である。もとユシウカと呼ばれた地で、一九三九年の國勢調査によれば人口四六一、三九五人あつたが、今日では五十萬を超えてゐると思はれる。スタリノはドネッツ炭田地方の化學工業及び金屬工業の中心であり、多數の軍事工場もあつて南露經濟上の要地である。

○十月二十一日特別發表

モスクワ攻擊の開始

ダゲ島（Dagoe）は占領された。これでバルト海の島々は悉く獨逸軍の手に歸し、全バルト海域から敵を擊攘し盡した。海軍及び空軍との模範的協力の下に獨逸軍の一歩兵師團は、早くも十月十一日突如本島の南端に上陸することに成功した。十日間の頑强な單獨戰により敵を本島より擊退してしまつた。その際捕虜三千名を捕へた。また海岸砲臺六箇所を占領した。敵守備兵の殘部は海を渡つて逃亡を試みたが、我が海空軍によつて殲滅された。

猶本日總統本營から左記の發表があつた。

『本日發表のダゲ島占領は、今やバルト海面よりの敵軍掃蕩を完了し、本年八月以來東部戰線北段に於て展開せられた戰爭行爲につき、報告してもよい時機の到來を意味してゐる。

スターリン線突破の後リッター・フォン・レーブ元帥の指揮する集團軍は、ケラー將軍令下の空軍部隊と協力して、イルメン、ペイプス兩湖間の敵兵力を殲滅し、南方よりレニングラード要塞を遮斷し、エストニヤ竝にバルト海上の諸島嶼より敵兵を掃蕩する任務を授けられた。

この作戰行爲と時を同うしてキュッヒラー將軍の軍は、廣正面を以てペイプス湖より芬蘭灣沿岸に向つて進出した。レヴル及びペルナウ占領後バルト海諸島への上陸を企圖する傍、軍の强大なる部隊はペイプス湖北地區より東進し、レニングラード周邊の包圍戰に從軍する事となつた。

バルト海諸島占領の際は、カール海軍大將麾下の海軍兵力は極めて重大なる役割を演じた。上陸

部隊の輸送以外に海軍は、深く芬蘭灣内に突入して、ソ聯海軍による側面攻撃の危險を除いた。それのみならず海軍はバルト海諸島周邊の機雷を除去し、敵の陸地要塞を砲撃した。東方側面からの脅威を常に感じながらブッシュ將軍の軍の本隊は、ホェプナー將軍令下の戰車軍と共に北方に嚮つた。非常なる難戰苦鬪の後、イルメン湖とペイプス湖との間に位する鬱蒼たる森林及び沼地にあるソ聯陣地を突破した。この際五千以上のトーチカを接戰により拔かねばならなかつた。猶レニングラード周圍の要塞線攻擊に移るまでに、幾多の激戰を交へてソ聯兵力を擊破せねばならなかつた。イルメン湖の兩側に於て反擊に出て、レニングラードの包圍を妨害せんとしたソ聯の企圖は總て水泡に歸した。男爵フォン・リヒトホーフェン及びフェルスター兩將軍麾下の空軍掩護の下にフォン・レーブ元帥の集團軍竝に武裝親衞部隊は、總司令部八月八日附の報告以後、捕虜三十萬人を獲、タンク千五百八十一輛、竝に砲四千六十三門を破壞又は鹵獲した。これ等の戰鬪行爲の最重要目的はレニングラードの包圍であつて、ソ聯軍の絕望的反擊に拘らず之を達成することに成功した。この集團軍の主要部隊及びケラー將軍指揮下の空軍部隊は、先日來既に東部戰線の他方面に向けられた。』

○十月二十二日

獨逸及聯合國軍によるドネッツ盆地のソ聯工業地帶の占領は昨日更に擴大された。ブリヤンスク南方の戰場淸掃に當り更に五千名の捕虜を得た。

特報を以て發表せられたる如く、ダゲ島は獨逸軍の占領する所となつた。これによりバルト海諸島は悉く獨逸の手中に落ち、全バルト海面より敵を掃蕩してしまつた。

海軍及び空軍との模範的協力の下に獨逸軍の一歩兵師團は、十月十二日早くも同島の南端に奇襲的上陸を敢行し、十日間に亘る激戰の末同島の敵を掃蕩した。その際捕虜三千名が我が軍の手中に落ち、海岸砲臺六個所を破壞した。バルト海諸島への上陸成功の蔭には、獨逸突擊端艇工兵の努力が大いに與つて力があつた。芬蘭海軍も亦獨逸海軍の作戰を有效に援助した。

空軍は晝も夜もソ聯の首府モスクワを爆擊した。

○十月二十三日

惡天候に拘らずソ聯首府の外廓防禦陣地線は、西南より西方にかけ廣正面に於て突破された。

我が前衛は處によりモスクワを距る六十キロの地點まで進出した。

モスクワは昨夜もまた燒夷彈及び爆彈の攻擊を蒙つた。

昨日で獨ソ開戰以來四ヶ月目を經過した。この間獨逸は約百五十萬キロ平方の土地を占領した。この地域にはソ聯邦全人口の三分の一に當る六千五百萬の人口が住んでゐる。ソ聯邦內の都會は八十一市、その人口總數は二千七百四十萬人であるが、その內十七市人口五百七十萬が獨逸の占領下に這入つた譯である。この外十市總人口一千萬の都會が將に獨軍の手に落ちんとしてゐる。この內には人口四百三十萬のモスクワ、三百二十萬のレニングラード、五十萬のロストフがある。

○十月二十四日

東部戰線に於ける攻擊と追擊は依然として續行中である。東部戰線北段に於て西班牙の『藍色師團』は、ソ聯兵の出擊を擊退する際敵に多大の損害を與へ、數百の捕虜を獲た。

空軍はクリミヤ水域に於て六千噸級のソ聯汽船を沈め、モスクワに爆彈及び燒夷彈を落した。

十月二十一日を以て終つた開戰四箇月目の戰績を省ると、何と云ふてもウヤズマ及びブリヤンスク包圍戰の戰果の偉大なのに驚かされる。世界歷史の上で之に比肩し得るものは『キエフの戰』以外にはない。總統本營は十月十五日既に捕虜總數五十萬を報じたが、戰場の淸掃が進むにつれてその數は益々增加し、遂に捕虜總數六十九萬三千と云ふ驚くべき數字に達した。戰車の鹵獲數は一千二百四十輛、砲は五千四百五十門となつた。戰車の數が赤軍の總損害に比し割合に尠ないことは、敵軍の裝備が著しく低下したことを雄辯に物語つてゐる。この兩會戰に於てティモシェンコ中央方面軍の主力八箇軍、即ち步兵六十七箇師團、騎兵七箇師團、戰車七箇師團及び戰車六箇旅團が粉碎されてしまつたのである。この大包圍殲滅戰がまだ進行中、獨逸軍の裝甲快速部隊は包圍作業を後續の步兵師團に讓つて一路モスクワに向つて驀進を續け、十月三日には早くも重要鐵道交叉點オリヨール（Oriol）を奪ひ、同地とルシェフ（Rschew）間四百キロの正面に於て破竹の勢を以て前進また前進、十月十五日にはスモレンスクを去る三百キロ、モスクワからも百六十キロのレニングラード鐵道線路上のカリニン（舊名トウェル）を占據し、他の一隊は同日カルガ（Kaluga）を占領したのである。カルガはブリヤンスクの北二百キロの距離にある。また他の部隊は約百キロの半徑を以てモスクワを繞る外廓防禦陣地の一部に突入した由である。

これと劣らぬ迅速果敢な熱戰が、南方でも同じくアゾフ海の東北海岸で展開され、出擊地點から三百キロを疾驅して十月九日にはマリウポール港を占領し、十月十九日にはタガンログ港を取り、更に二十一日は重要な工業地スタリノを占領し、尙もロストフ方面に向つて敗敵を追擊中である。

○十月二十五日

特報を以て發表した通り、十月二十四日ハルコフは我が軍によつて占領された。かくてソ聯邦の最も重要な軍需工業及び經濟中心の一つが、獨逸軍の手に落ちたのである。また同日獨逸兵はハルコフの東北七十五キロにある交通の要衝ベルゴロッドを占領した。

爆擊機の夜間攻擊はモスクワの軍事施設竝に軍需工業に向つて行はれた。

○十月二十六日

ドネッツ地方の占據は引續き進行中である。戰線の他の地區に於ても攻擊は續いてゐる。

獨逸空軍の編隊はドネッツ、ドン兩河の中間、モスクワ周邊の戰場及びウォルヒョブ東方に於て敵兵の集團、陣地及び輸送隊に對し多大の損害を與へた。

モスクワ夜間空襲の際クレムリンに命中彈を投下した。

極北に於て爆擊機は、ムルマンスク鐵道線路の一部分及びコラ半島の幕營を破壞した。

○十月二十七日

天候の不良に拘らず東部戰線の攻擊作戰は進行しつつある。

ドネッツ盆地に於ける我が軍の前進を阻止せんとする敵の企圖は伊太利軍によつて破られた。敵は多大の損害を蒙つて擊退され、數百名の捕虜を我等の同盟軍の手に委ねた。

○十月二十八日

ドネッツ盆地に於ける敗敵の追擊は續行中。獨逸軍隊は昨日クレマトルスカヤを占領した。これによりソ聯は最大の戰車製造工場を失つたのである。右の外多數の重要工業都市は匈牙利兵に

よつて占領せられた。

南部戰線に於ても作戰は進行中である。

クリミヤ半島の攻略

○十月二十九日

既に特報を以て報じたる如く、歩兵師團は空軍部隊と協力して、頑强なる戰鬪の後クリミヤ半島への入口を奪取した。十月十八日より二十八日に亘り、敵の堅固に構築した防禦陣地を突破する際、總計一萬五千七百人の捕虜と戰車十三輛、砲百九門及び多數の軍需品を鹵獲又は破壞し、更に敗敵を追跡中である。

羅馬尼軍はアゾフ海の北岸近く羅列せる嶋嶼を取り敵を驅逐した。

ドネッツ盆地に於て聯合軍は敗退する敵を有效に追擊中である。

戰線北段に於て西班牙の藍色師團は、迂回戰により多數の村落を奪取し、多數の捕虜を獲た。

強大なる爆擊機編隊は、晝夜ともモスクワに爆彈及び燒夷彈を投下した。大火災及び大爆發が起つた。尙レニングラードに對しても空襲が行はれた。

この發表で見ると獨逸軍は十月十八日頃からいよいよクリミヤ半島攻略に掛つたやうである。クリミヤの西南端には、一八五三—五六年に土耳古、英、佛、サルヂニヤの聯合軍と露軍との間に戰かはれた、あのクリミヤ戰爭で有名なセバストポール軍港がある。ニコラエフ陷落後ソ聯の黑海艦隊は、悉くこのセバストポールへ逃込んで、黑海々上に於ける獨逸側の進出を妨害してゐるので、早晩行はるべきトランスコーカサスの油田地方に對する計畫を實行するためには、どうしても先づセバストポール軍港を取り、黑海艦隊を宿無しにして之を擊破殲滅する必要があるのである。

地圖でご覽の通り、クリミヤ半島は幅五乃至七キロの細長いペレコープ地峽によつて本土に繫がつてゐる。ロマノフ王朝の初期に於て、土耳古サルタンに隷屬せる韃靼汗國は、この地峽に濠を掘つて難攻不落の根據地を構へ、ここから約二百年間モスクワ侯國を制御してゐたのである。赤軍はこの天然の要害に數段の堅固な防禦陣地を設けて、獨逸軍のクリミヤ侵入を防いだが、遂に獨逸軍の空軍及び步兵、砲兵の攻擊の前に兜を脫いでしまつた。

クリミヤ半島の南方はヤイラ・ダグ山脈が北方の寒風を遮ぎるので、南向きの海岸線は氣候が溫和で半熱帶植物が繁茂し、オレンジの花咲き、密柑が實り葡萄が實り、露西亞唯一の避寒地であるが、その北側は平坦な草原で、冬季は非常に寒く牧畜以外には適しない。アゾフ海は十一月末には結氷する。鐵道はモスクワからの線が一本あるだけで、セバストポールどまりである。途中から支線が分岐して東に走り、半島東端のケルチュに達してゐる。半島の首邑をシンフェロポールと云ひ、ヤイラ山脈の北側にあり土耳古領時代からの舊都である。クリミヤにはこれぞと言ふ產物もないが、鹹湖が多いので天日鹽が年產四、五十萬噸ある。尤も近年ケルチュ半島で鐵鑛石が發掘され、次第に產額を增して來たやうだ。

○十月三十日

クリミヤ半島の獨逸軍は絕えず敗敵を追擊中。その際更に數千の捕虜と若干の砲を獲た。

ドネッツ盆地の敵軍追擊に當り獨軍竝に聯合軍は、廣正面を以てドネッツ河上流に到達した。

イルメン湖及びラドガ湖中間の攻擊作戰中、戰車隊は果敢なる奇襲により敵の裝甲列車を襲ひ多數の捕虜を獲た。

軍の最重砲兵は有效にレニングラードの軍事施設を砲擊した。またモスクワ及びレニングラードに對し有效な夜間空襲を行つた。

○十月三十一日

獨逸軍及び羅馬尼軍により激しく攻擊を蒙りつつあるクリミヤ半島内の敵兵は、倉皇として遁走中である。これにより、フォン・マンスタイン歩兵大將麾下軍の歩兵師團と、ブルーグバイル中將令下の空軍團との共同作戰になる、長時間に亘り困難なりし突破戰の成功を見たのである。

ドネッツ盆地に於ても獨逸軍及び聯合軍は、敗敵を盛んに追跡しつつある。レニングラードの包圍戰線では、敵の數度の突破企圖を水泡に歸せしめた。軍の重砲隊はレニングラードの軍事上重要な設備を砲擊して、その效果を認めることが出來た。

東部戰線の其の他の地區に於ても、作戰は極めて順調に進捗中である。

黑海水域に於て爆擊機編隊はユーパトリヤ及びケルチュの港灣設備を爆擊し、商船五隻一萬三千噸を沈めた。

○十一月一日

クリミヤ半島に於て獨逸軍及び羅馬尼軍は絶えず敗敵を追擊中。

ドネッツ盆地に於ては數箇所に於てドネッツ河を渡河した。

東部戰線の北段、ウォルホフ(Wolchow)の西方に於て一歩兵聯隊は、白兵戰を演じて堅固に構築せる敵の防禦線を突破し、トーチカ五百三十三箇を奪取した。

レニングラード包圍線にあつては、ネヴ河を渡らんとする敵の數次の企圖を斥けた。

我が空軍はクリミヤ半島に於て有效に敵の後方兵站線を攻擊して陸軍の計畫を援助し、またソ聯海軍に重大損害を與へた。その際三千噸の商船一隻を沈め、軍艦三隻及び大運送船一隻を損傷した。

その他の空襲はモスクワに向つて行はれた。

○十一月二日

クリミヤに於ける勝利に乘じて我が軍は、盛んに敗敵を追擊してゐる。既に特報を以て發表し

た通り、我が軍は廣正面を以てヤイラ山脈の北端に達した。獨羅聯合軍は昨日クリミヤの首都シンフェロポールを取り、セバストポールに向つて更に進擊中である。

ドネッツ盆地に於て獨逸及び伊太利軍隊は、惡路を冒して敵の抵抗を排除しつつ工業地域の占領を續けた。

レニングラードの前面では、又もや渡河を試みたる敵に損害を與へて之を擊退した。レニングラード及クロンスタットの重要軍事目標の砲擊は、好成績を以て繼續されてゐる。

空軍は晝夜を分たずセバストポール要塞を爆擊し、港灣施設に命中彈を投じ、ソ聯軍艦一隻を損傷、大運送船一隻に火災を起させた。

〇十一月三日

獨羅聯合軍の急追によりクリミヤの敗敵は二手に分かれ、一方はセバストポールへ、他方はケルチュを越えて遁走を企てている。

空軍はこれ等の逃走兵のために準備された運送船を空襲して、商船十隻凡そ三萬八千噸を命中彈により擊沈し、尙十四隻に重大なる損傷を與へた。また他の爆擊機はセバストポール及びヤル

タの港區、竝にケルチュに向ふ路上及び黑海東北岸に在る軍事目標を爆擊した。

クリミヤ戰線の突破竝に追擊戰に際し、今日迄總計五萬三千百七十五人の捕虜を獲、二百三十輛の戰車及び二百十八門の砲を鹵獲又は破壞した外に、我が軍の進擊を妨げる爲に埋設した一萬三千個の地雷を除去した。

伊太利軍隊はドネッツ盆地に於て更に多くの工業都市を戰ひ取つた。

東部戰線の中央地區に於ける鐵道交叉點及び工業中心地として重要なる該地方の首邑クルスクは、歩兵及び戰車部隊により占領せられた。

○十一月四日

クリミヤ半島に於ては獨羅聯合軍は追擊を續けてゐる。所々に散在する敗殘兵の抵抗は打碎かれ、黑海々岸の海港フェオドシヤが占領された。

戰車に掩護せられたレニングラード脫出の企圖は、二回とも獨逸戰線に到達せざる前、多大の死傷者を出して擊退された。

空軍はクリミヤの水面に於てソ聯船舶に對する攻擊を續行し、一千噸の商船一隻を沈め、大運

送船五隻に命中彈を投下した。

モスクワは晝間爆擊を蒙つた。レニングラード夜間空襲の際各區に於て大火災が起つた。

○十一月五日

クリミヤに於ける敵の追擊は、南方及び東方に向つて續けられてゐる。地形の困難に拘らず一地點に於てヤイラ山脈を横斷して黑海沿岸に到達した。

空軍はクリミヤ半島の諸港、セバストポール、ヤルタ及びケルチュを爆擊し、この水面に於て運送船二隻計一萬噸竝に護送船一隻を沈め、他に商船五隻及び小巡洋艦一隻に可なりの損害を與へた。

レニングラード附近に於て敵は、激烈な準備砲擊の後再びネヴの渡河を企てたが、獨逸軍の防禦陣は敵に多大の損害を與へてこれを挫折せしめた。端艇約百隻の內半數は沈沒し、餘は退却せざるを得なかつた。戰車掩護の下に我が包圍線を突破せんとする敵屢次の企圖は、大概準備中に失敗に歸した。

爆擊機の大編隊は晝間、戰車及び飛行機製造に重要なる工業都市ゴルキーに大空襲を敢行した

大口徑の命中彈は、モロトフ工場及びヴォルガ河畔の造船所並に市内の鐵道施設に大破壞を生じ多數の大火災を惹起した。

レニングラード空襲の際重要軍事施設は爆擊により火災を起した。モスクワも亦昨夜空襲を蒙つた。

○十一月六日

クリミヤに於て敗敵の追擊は、全戰線に亘つて順調に進行中である。ヤイラ山中に於て獨羅聯合軍は、散亂した敵兵を掃蕩しつつ廣正面を以てヤルタとフェオドシヤの中間に於て黑海沿岸に突出した。またセバストポール東方の山嶽地帶に於ける敵の抵抗も破碎された。空軍はこの作戰を援けて、クリミヤ水域並に黑海の北岸に於てソ聯の船舶に甚大なる損害を與へ、合計一萬三千噸の運送船三隻を沈め、大型商船四隻に爆彈による損傷を與へた。

レニングラード前面に於て敵の脫出企圖は又もや水泡に歸した。軍の重砲及び最重砲兵隊は、レニングラードの重要なる軍事目標及び芬蘭灣內の船舶交通路を砲擊した。この際敵艦二隻及び貨物船一隻は命中彈を蒙つた。

空軍の工業都市ゴルキーに對する夜襲の際、軍事工場及び糧秣工場に大破壞を生ぜしめた。他の爆擊機編隊は昨夜モスクワ及びレニングラードに爆彈及び燒夷彈を投下した。

〇十一月七日

獨羅聯合軍はクリミヤに於て、歩行困難なる山地と敵後衞の頑强な抵抗を排して追擊を續行中である。

急降下爆擊機はセバストポール防衞區域内の敵陣地を爆擊して、多數の砲臺を沈默させた。

ドネッツ盆地に於ける獨伊の部隊は更に前進した。東部戰線の中央地區に於て歩兵師團は、堅固に構築された敵の陣地を突破し、多數の俘虜を獲、また多くの砲を鹵獲した。

ペーテルホーフ前面に於て軍の砲兵は、敵貨物船一隻を擊沈した。夜間レニングラードに重爆彈及び超重爆彈を投下した。

以上連日の軍報道は、クリミヤ戰線については巨細に發表してゐるが、目下進行中のモスクワ攻擊については例によつて深き沈默を守つてゐる。

モスクワ攻略戰の序幕とも云ふべきウヤズマ及びブリヤンスクの包圍戰の戰果については、十月二十四日附を以て書いて置いたが、最近稍精しい報告が手に入つたので、多少重複を省みず再說することとする。

ブリヤンスク及びウヤズマの包圍戰

これより先きヴォロシーロフ軍はレニングラードに於て重圍に陷り、ブジョンヌイ軍はキエフで大敗を喫したが、中央のティモシェンコ軍だけは七月以來獨軍の鐵槌を免れたのみならず東方からの增援を得て軍容中々優勢であつて屢々逆襲を試み、最近では軍の主力をスモレンスクの東方に集中して、ボック將軍麾下の獨逸中央軍と對峙してゐた。地圖にもある如く、ミンスクからスモレンスクを經てモスクワに達する廣い自動車道路がある。表面のアスファルト塗がまだなので未完成の狀態で凹凸してゐるが、それでも雨が降れば泥田のやうになる舊式道路に比ぶれば、腐つても鯛である。從つてティモシェンコ軍の集結はウヤズマを中心に主にこの自動車道路上で行はれた。同元帥はスモレンスクとモスクワとの恰度眞中にある小都會グシャドスクに司令部を構へて、そこから全軍を指揮した。

フォン・ボック元帥の率ゆる獨逸中央軍は既に一箇月半餘も膠着狀態を示し、この分ではレ

ニングラードの陥落や南方友軍の進出をじつと待つてゐるやうに見えた。或はこの塹壕線で越年する氣かも知れぬと、ティモシェンコ元帥は誤まつた狀況判斷をして、獨逸側の兵力を過小評價してゐたらしい。

表面不活潑に見えたフォン・ボック軍の背後では盛んに軍隊の入換を行ひ、增援隊を搔き集め、兵站線を整備し、後方連絡の道路及び鐵道を修理し、燃料や兵器、彈藥、糧秣を集積するなど、萬端の準備が完成するを待つて十二月二日猛然として大攻勢に轉じ、幅五百キロの廣正面に於て三個所で敵の戰線を突破したのである。

敵は獨軍がスモレンスク、モスクワ街道の兩側から攻めて來るものとその備へをしてゐたが獨軍は不意にその南方にあるモスクワ、ロスラウル街道の南から强大な戰車軍を先頭に、敵の抵抗の比較的に手薄な所を突破し、翌日には嚴重に防禦陣地が構築してあつたデスナ河の線を超えて前進したのである。第三日になつても敵はまだこの運動を局地的の企圖位に輕視してゐたが、俄然大旋回運動を展開し、ウヤズマ附近に密集してゐた敵軍を包圍し始め、獨軍戰車隊はロスラウル、ユフノフ街道を驀進し、その一部は北に旋回し、他の一部はその儘前進を續けた。これと同時に南方ではグルーホフから二百キロの彼方にあるオリョールを目標として錐もみ狀の突擊前進を開始し、その一部はブリヤンスクに於て敵の大部隊を包圍した。攻擊前進後

第三日目になつても敵はまだ狀況の判斷を誤まり、應援の爲モスクワから急行して來た豫備軍は驀ぐらにこの包圍圈內に突入してしまつた。それと氣がついたときは既に遲く、南方から圍を破つて包圍圈內の友軍を救はんとする敵の運動は悉く失敗に歸してしまつたのである。十二月六日頃から敵は全面的に退却を開始したが、友軍同志の連絡が斷たれ非常な混雜を惹起した。その內天候が急變して、雪は降り出し、霧が掛り、地形の見透しが利かず、脫出せんと焦る敵の擊退は頗る困難であつたが、敵方の士氣と反撥力はこれ迄に比し著しく弱つて來て、遂に有史以來空前の大戰果を擧げたのである。

一八一二年九月七日クツーゾフ將軍がナポレオン軍をグロドノで防いだやうに、ヒットラーの軍を同じモスクワ街道で迎へ擊つて、獨軍戰線の中央突破を試み、成功の曉には獨軍左翼の背面を席捲して、レニングラードの急を救ふのがスターリンの計畫であつた。その目的の爲めに步兵六十七箇師、騎兵七箇師、戰車十箇師の大兵がこの地點に集合されたのであるが、守勢を採るものと侮つたボック元帥に機先を制され、赤軍はマンマとその術中に陷つたのである。

この敗戰の責を負ふてティモシェンコ將軍は南部方面軍司令官に轉じ、ジューコフ將軍が之に代つてモスクワの防備に當ることとなつた。尙ヴォロシーロフ、ブジョンヌイ兩老元帥もこれと前後して第一線を退き、專ら新編師團の訓練に從事することとなつたと云ふことである。

前にも述べた如く、戰線突破に成功した獨逸機甲部隊は、敵の包圍殲滅を後續歩兵師團に委ねて驀進また驀進、カルガ、ユフノフ、ルシェフ、カリニンの線に進出、また軍事工業中心地の一つであるツーラに迫つて、今や北西及び西南からモスクワ包圍の態勢を執つてゐる。

ウヤズマ、ブリヤンスクの大包圍戰區の掃蕩も十月二十一日頃終了して、歩兵師團は漸次第一線に參加し、目下次第に包圍圈を緊縮することに成功しつつあるのである。モスクワの防禦陣地としては、北にはアレキサンドロフとクリンとの間に一帶の丘陵が横はり、更にその北にはヴォルガとその貫流する人造湖があるから、北方カリニン方面からの攻擊を防ぐには屈竟の陣地である。また西から西南に亘つて標高二百五、六十米位の丘陵地帶が森林に蔽はれて絶好の防禦陣地を構成してゐる。ソ聯側ではこれ等の丘陵上に永久的の堡壘を築いて死守してゐるので、その突破には非常な努力を要した。併し今日ではカルガの前面に於てはマーロヤロスラヴェツ、モスクワ街道ではボロディノの前方モジャイスク、またルシェフ、モスクワ間ではウオルコラムスクを確實に占領し、獨軍の前衛は都心を距る四十キロ内外まで肉迫してゐるやうである。目下カリニン、ツーラの兩翼で激戰が展開してゐる。モスクワの南方にはオカ河とその支流ナラ河があるだけであるから、人工防禦が如何に堅固であつても、若しツーラの一角が崩壞したら、獨逸軍は雪崩を打つてこの方面からモスクワに殺到する危險が多分にある。獨逸

軍が外廓防禦線に取ついてから既に月餘を經過してまだ捗々しい進捗を見せぬのは、天候不良の爲道路が泥田のやうになつて戰車や重砲の前進を阻む故である。尤もその内には天候も恢復し土地が凍結すると共に、目覺しい進出を見ることと期待されてゐる。

○十一月八日

クリミヤ半島に於ける追擊中獨逸軍及び羅馬尼軍部隊は、ヤイラ山脈の南端に於て赤軍一騎兵師團を全滅した。ケルチュ岬の附近では縱深十キロに亘る近代的築城陣地を突破し敵を急追中。

空軍はヤルタ南方の水域に於て八千噸の輸送船一隻を破壞した。一羅馬尼潛水艦は黑海に於てソ聯運送船計一萬二千噸を擊沈した。

○十一月九日

クリミヤに於ては獨逸及び羅馬尼部隊は、南岸竝にケルチュ岬の敗敵を有效に追擊しつつある。

○十一月十日

クリミヤ半島セバストポールの東方及びケルチュの西方に於て、頑強に抵抗する敵の後衛を更に壓迫した。強力な空襲が晝夜を分たずセバストポールに向けられた。油タンク竝に倉庫に大火災が起つた。港内及び海岸砲臺に於けるソ聯巡洋艦一隻竝に大商船一隻に爆彈が命中して大損害を與へた。

ドネッツ及びヴォルガの中間竝にモスクワ地區に於て空軍は、多數の軍隊輸送列車を破壞した強大なる爆擊機編隊はモスクワに爆彈及び燒夷彈を投下した。

イルメン湖とラドガ湖との中間に於てウォルホフを越えて行はれた作戰中、歩兵及び戰車部隊は十一月九日夜襲を以て重要交通交叉點ティヒヴィンを取り、多數の捕虜と多くの鹵獲品を收容した。ソ聯第四軍の幹部は、自動車及び重要書類を殘して生命からがら捕獲を免かれた。この戰區の戰鬪に於て十月十六日以來、約二萬の捕虜及び戰車九十六輛、砲百七十九門、裝甲列車一その他の軍用材料を鹵獲した。また約一千の地雷を除去した。

東部戰線に於て今日迄に獲たソ聯兵捕虜の數は三百六十二萬人に上つた。

○十一月十一日

クリミヤ半島進擊中の獨羅兩軍は、引續きセバストポール及びケルチュ方面に赤軍を追擊中。空軍は地上部隊に協力、兩港を爆擊した。空軍はまたモスクワ周邊の赤軍陣地竝に軍事施設を爆擊して多大の戰果を收めた。

カレリヤ地峽北部の獨芬聯合軍は、惡天候と困難なる地形を冒して赤軍を猛攻、有力なる敵師團を殲滅し、トーチカ七百、戰車四輛、砲三十門、機關銃百挺以上、その他軍需品多數を鹵獲すると共に、赤軍將兵一千名以上を捕虜とした。この戰鬪に於て赤軍の死傷數千に上る見込である。

○十一月十二日

クリミヤの獨羅軍は果敢なる追擊戰を行ひ、ケルチュ南方の海岸に到達した。空軍はセバストポール、ケルチュ及びアナパの港灣に有効なる爆擊を續けた。

ツーラ南方地區に於て步兵竝に戰車部隊は、赤軍騎兵師團を包圍攻擊して多數の捕虜を獲、砲

九十一門竝に其の他の器材を鹵獲した。

混成兵團より成るレニングラードよりの脱出企圖は、獨逸軍の反擊により挫折し、非常に多數の死傷者を出した。その際攻擊して來た戰車十七輛の内十一輛を全滅したが、内七輛は最大型のものであつた。

戰鬪機及び爆擊機の編隊は、全線に亘り敵の後方連絡線及び飛行場等を攻擊し、多數の列車及びソ聯空軍に多大の損害を與へた。モスクワは晝夜爆彈及び燒夷彈を見舞はれ、鐵道施設に重大な損害を蒙つた。其他ゴルキーの軍需工場に對して夜間襲擊を行つた。

○十一月十三日

クリミヤに於ける獨逸軍は今やケルチュの要塞を攻擊中である。同市南部に近き多數の海岸砲臺は既に陷落した。强大なる爆擊機編隊はセバストポール港内、ケルチュ海峽及び黑海北岸に於てソ聯の艦船を攻擊し、巡洋艦一隻、驅逐艦一隻及び大商船五隻に大損害を與へた。爆彈の命中により港灣地區にも大損害を生ぜしめた。

爾餘の東部戰線に於ても局地的軍事行動により戰果を擧げた。

軍の重砲はレニングラードの重要軍事目標並にクロンスタットの港灣及びドック施設を砲擊し、またモスクワ及びレニングラードに對し有效なる空擊を行つた。

○十一月十四日

クリミヤに於ける我が軍はケルチュに取ついた。同市街及び港は獨逸砲火の瞰制下にある。空軍は命中彈によりセバストポールの海岸砲臺を沈默させ、同軍港の重要軍事施設を破壞し、二大貨物船に損害を與へた。尙ケルチュより逃亡する敵軍隊を空襲した。爆擊機はその際計五千五百噸の輸送船二隻を爆沈した。爾餘の東部諸戰線に於ても局地的戰果を收めた。

○十一月十五日

空軍は地上部隊のケルチュ攻擊と呼應して、クリミヤ半島の諸港を猛爆し、セバストポール軍港、ケルチュ南方の海峽並にクリミヤ東北海岸沖合に於て巡洋艦三隻、驅逐艦一隻、大型商船二隻に大損傷を與へた。

獨ソ開戰以來の獨空軍戰果

獨逸國防軍當局の發表によれば、六月二十二日獨ソ開戰以來十一月十五日迄の獨空軍のソ聯艦船に與へたる綜合戰果は次の通りである。

▼船舶　撃沈せるもの
百三十五隻　合計　三十八萬三千六百五十噸
損傷を與へたるもの　百三十一隻

これを水域別にする時は

バルチック海　撃沈　七十七隻　十五萬六千六百五十噸
損傷　六十七隻

黑海　撃沈　五十八隻　二十二萬七千噸
損傷　六十四隻

▼艦艇　撃沈せるもの　五十二隻
損傷せるもの　五十七隻

これを水域別に區別すれば

バルチック海　撃沈　巡洋艦　二　驅逐艦　九
掃海艇　九　沿岸警備艇　一
その他　九
損傷　戰闘艦　一　重巡洋艦　三
輕巡洋艦　三　補助巡洋艦　一
驅逐艦　一六　砲艦　一
掃海艇　二

黑海　撃沈　戰闘艦　一　巡洋艦　二
驅逐艦　六　潜水艦　二
砲艦　二　防空艦　一
哨戒艇　一　快速水雷艇　一
沿岸警備艇　一
損傷　重巡洋艦　一　輕巡洋艦　六
驅逐艦　一　水雷艇　三
砲艦　一　掃海艇　一

其他艦船　一〇

○十一月十六日

獨空軍はセバストポール及びケルチュ方面を空襲、ソ聯砲艦一隻及び輸送船二隻に直撃彈を與へた。またティヒウィン（レニングラード東北百二十キロ）地區に於て獨軍工兵二箇中隊は、敵トーチカ百十三を占領した。

○十一月十七日

獨羅兩國軍隊は昨日激烈な戰鬪の後海港市ケルチュを奪取した。かくてクリミヤ半島の東部は悉く我が手に落ちた。クリミヤ半島の突破及び追擊戰により收容した捕虜の數はその後十萬一千六百人に上つた。地上戰に於て多數の死傷者を出した敵の軍隊は、ケルチュ海峽を渡つて脫出を試みたが空襲により重大なる損害を蒙つた。

爆擊機及び戰鬪機より成る空軍の大編隊は、モスクワ地區及びヴォログダ周邊の赤軍集團及び

輜重縱列竝に飛行場、鐵道等に對し有效なる攻擊を遂行した。また昨夜モスクワ及びレニングラードを爆擊した。

○十一月十八日

クリミヤに於て爆擊機及び急降下爆擊機は、セバストポールの要塞竝に港灣施設に對し殲滅的打擊を加へた。その際大型輸送船一隻を爆沈し、驅逐艦一隻及び商船一隻に損傷を與へた。ドネッツ盆地の作戰は、天候及び道路の關係良好となると共に再び續行を見ることとなつた。敵は場所に依つて頑强に抵抗した陣地より驅逐せられ、其の他の工業地帶も占領せられた。多數の運轉準備を完了した貨物列車は奇襲により我が軍の手に落ちた。

極北地方に於て爆擊機はカンダラクシャ灣西方の赤軍バラックを破壞した。空軍はまたモスクワ及びレニングラード、その他ヴォログダ地方の飛行場を爆擊した。

○十一月十九日

東部戰線に於ては目下新攻勢が展開中である。最近三日間の戰鬪により一萬人以上の捕虜を獲、戰車百七十一輛を鹵獲した。セバストポール要塞空襲の際造船所及び火藥庫に大爆發を起した。同港内に在りし大型貨物船一隻は爆彈の爲に損傷を蒙つた。

戰鬪機は昨夜モスクワ及びレニングラードの重要軍事施設、竝に中央部戰線に於ける敵の後方連絡路を爆擊した。

〇十一月二十日

東部戰線に於ける攻勢は順調に進行中である。空軍は黑海東北岸及び中部及びドネッツ盆地のソ聯飛行場を爆擊した。追擊機と爆擊機の編隊は、中部戰線竝にウォルホフ前方の鐵道運輸機關及び交通路を爆擊した。モスクワは晝間强大なる爆擊機編隊により爆彈及び燒夷彈を投下された。レニングラード附近に於て戰鬪機二箇大隊は、勇猛果敢なる攻擊により敵の大空輸部隊を襲ひ飛行機八機を擊墜した。

○十一月二十一日

東部戰線ドネッツ盆地及び中央部戰區に於て戰況は更に進捗を見た。レニングラード前面に於ける敵の脱出企圖は、獨逸軍の反擊により失敗に歸した。

○十一月二十二日

フォン・クライスト上將指揮下の快速部隊竝に武裝親衞隊は、激戰の後ドン河下流のロストフを奪取した。これによつて今後の戰爭繼續に特に重要なる商業及び交通の中心地が、獨軍の有に歸したのである。

この成功に對しては、リッター・フォン・グライム航空兵大將の率ゆる空軍が、大いに與つて力があつた。

東部戰線の他の地區に於ける攻擊も更に進捗を見た。

レニングラードの前面に於て戰車及び低空飛行機により掩護されたる數度の脱出企圖は、我が軍の反擊により挫折し、敵は戰車十五輛を失つた。

軍團長フォン・グリーゼン歩兵大將は東部戰線に於て陣歿した。

待望のロストフは遂にフォン・クライスト將軍麾下の機甲部隊により占領された。

ロストフ　の本統の地名はロストフ・ナ・ドヌーである。ドンのロストフとも云ふてモスクワ東北のロストフと區別する。同市はドン河に面し、アゾフ海の河口から五十キロの地點にある水陸交通の要衝である。年產三千萬噸の石油を產するコーカサスと露西亞本土を繫ぐ咽喉の地で、ドン河の水運も加はり南露交通の一大中心と云つてよい。人口は最近の調査では五十二萬ある。同市を取られたことは赤軍にとつては非常な痛手で、萬難を排してその奪回を圖つたのも尤も千萬である。

○十一月二十三日

東部戰線に於ける獨軍の攻擊は有利に進行中。

○十一月二十四日

東部戰線中央地區に於ける我が軍の攻擊は更に地歩を進めた。我が戰車部隊は激烈なる戰鬪の後モスクワの西北五十キロのソルネチュゴルスキーを占領した。モスクワ地區の鐵道施設に對して空襲を敢行し、全彈命中により多數の鐵道線路を破壞した。

レニングラードの前面に於ける敵の脫出企圖は、又もや多大の損害の下に擊退された。この際敵のタンク八輛の內大型七輛が破壞された。我が軍の重砲はレニングラードの重要軍事目標の砲擊を續行した。

○十一月二十五日

東部戰線中央地區の攻擊は有利に進行中である。

○十一月二十七日

東部戰線の北段竝に中央地區に於て我が軍の攻擊は更に進捗を見た。ロストフ附近及びその北方に於ける敵襲は多大の損害を以て擊退された。レニングラードの包圍線にあつての敵の脫出企

圖は悉く失敗に歸した。

○十一月二十八日

ロストフ附近並にドネッツ河彎曲部に於て飛行機及び戰車掩護の下に進擊して來た赤軍は、大損害を蒙つて擊退された。

東部戰線中央地區に於ける堅固なる敵陣地は突破された。

レニングラード前面の我が重砲兵は有效に同市前方の船舶を砲擊した。全戰線に沿ふて敵方鐵道の破壞が繼續された。爆擊機の編隊は晝夜ともモスクワ及びレニングラードの軍事施設を爆擊した。

十一月十六日より二十一日迄の間に赤露空軍は飛行機百六十八機を失つた。その內七十三機は空中戰に於て擊墜され、二十四機は高射砲により射落され、その餘は地上に於て破壞されたのである。同期間內に我が軍は十二機を失つた。

○十一月二十九日

モスクワに對する攻擊は更に進捗した。ロストフ附近竝にドネッツ彎曲部に於ては、果敢に遂行したる攻擊により敵に多大の損害を與へた。我が軍は國際法の規定に反して獨逸軍に對する戰鬪に參加した市民に對して報復の擧に出づるため、一先づロストフの中心部から撤退した。レニングラードに於て强大なる兵力を以て試みられた脫出の企圖は失敗に終つた。

ガソリンの一滴は血の一滴である。コーカサス油田からの送油管を失つては、赤露軍は燃料の供給を斷たれて足搔がつかぬやうになる。この理由だけでも、怎うしてもロストフを獨逸人の手から奪回する必要があるので、ティモシェンコ將軍は大兵を集合して逆襲に轉じた。それのみならず撤退の際赤軍が、市中目貫きの場所に仕掛けて置いて逃げた時計信管附きの大型爆彈が、續々炸裂して家屋を崩壞さすので、流石の獨逸兵も遂に居たたまらず、同市を撤退しかけた所を優勢な敵に進擊されて、遂にタンガローグのこちら迄一時退却して隊伍を整へつつあるやうに思はれる。この際伊太利の二箇師が全滅して多數の捕虜を敵手に委ねたとのソ聯側の報知があるが、眞僞の程は保證し兼ねる。獨逸側ではドネッツ地方及びクリミヤから大急ぎで增援軍を急派中であるから、頽勢を挽回する日も遠からぬことと信ずる。

○十一月三十日

ロストフ附近竝にドン地方に於ける獨逸軍は、空軍と協力して防禦戰に於て昨日も擊退された敵軍に多大の損害を與へた。獨逸爆擊機はタンゲログ灣の東方に在るソ聯の一石油倉庫を爆破した。モスクワ附近に於ては歩兵竝に戰車部隊の奮戰により、次第に土地を蠶食しつつある。レニングラード戰線で敵は、戰車援助の下に脫出を試みたが擊退された。極北地方に於て獨逸爆擊機は、ムルマンスクの重要軍事設備及び鐵道線路の破壞を繼續中。爾餘の有力な空襲は南部及び中部戰線の飛行場及び重要軍事施設に向つて行はれた。またレニングラード及びモスクワに對して晝間空襲を敢行した。

○十二月一日

ロストフ地方の敵は昨日も亦反擊を續行し、毫も人的及び物的資材の消耗を意とせざるため多大の死傷を出した。モスクワ地區に於て歩兵竝に戰車部隊は、ソ聯首府の方向に向つて更に地域

を獲得した。レニングラードでは敵は又もや無益な脱出企圖を繰返した。右反撃の際ネヴ河の氷上を渡つて來襲した敵は、多數の戰死者の外に多數の捕虜を出し戰車三十輛を失つた。その内六輛は最大型であつた。中部及び北部戰區に於て空軍は、良好の成績を以て敵の兵站線を攻撃した。ウォルホフの東方に於て敵の舍營及び材料倉庫に爆彈を投下した。クロンスタットの水面に於て碎氷船一隻が爆撃機により爆沈された。また大商船一隻は命中彈により大破した。モスクワもレニングラードも引續き空襲を蒙つた。

〇十二月三日

モスクワ戰線に於て、强大なる爆撃機及び急降下爆撃機編隊により援助せられたる我が歩兵及び戰車部隊は、敵の頑强なる抵抗及び局地的反撃に拘らず更に若干の地域を獲得した。この交戰に當り昨日中に敵の戰車二十輛を破碎した。

〇十二月四日

クリミヤ半島の攻略

ドネッツ盆地に於ける强力なる敵の攻擊は多大の死傷者を出して擊退された。

レニングラード前面の敵の脫出企圖は又もや失敗に終つた。

空軍はムルマンスク鐵道線路の一部を爆破し、晝夜に亘りレニングラードを爆擊した。

芬蘭軍隊はハンゲ（Hangoe）を占據した（註。同市及び同半島は芬ソ平和條約に基くソ聯の租借地）。同地より退去の際一萬二千噸の汽船スターリン號は獨逸側の機雷に乘上げ損傷を被つたが、合計僅に八十名の乘組員を有する獨逸前哨船二隻に曳行され、船中の各階級のソ聯將兵六千名及び多量の軍需品とも某獨軍基地に入港引渡された。

○十二月五日

東部戰線の南段に於て敵の攻擊は再び擊退された。

レニングラードの重要軍事目標攻擊の際、彈藥庫に猛烈なる爆發と火災とが起つた。既報のスターリン號の外ハンゲ港より遁走せる多數のソ聯汽船は、獨逸側の機雷網に掛り三千噸の軍隊輸送船一隻、七百噸の汽船一隻及びソ聯快速艇一隻は沈沒した。

空軍の大編隊は南部戰區並にモスクワ周圍の戰域に於て、敵兵の集團並に野戰陣地に對し空襲

を敢行した。敵は夥しき死傷者を出し、多數の砲及び車輛を失つた。有效なる空軍の夜間爆擊はモスクワ竝にレニングラードに向つて行はれた。

○十二月六日

東部戰線の數箇所に於て敵は局地的攻擊により擊退された。レニングラードからの脫出企圖も亦甚大なる損害の下に挫折した。

芬蘭灣内のオスムッサル島は海軍突擊隊により占領された。空軍はヴォログダ地區に於て多數の空輸飛行機に命中彈を投じ、昨夜モスクワの鐵道設備及び糧食工場を襲擊した。ヴォルガ河畔リビンスクの飛行機工場に大口徑の爆彈を投下した。

○十二月七日

酷烈なる寒氣に拘らず、獨伊軍はドネッツ地區に於て局部的勝利を博した。東部戰線の諸地に於て敵襲を擊退した。レニングラード前面に於て戰車及び爆擊機掩護の下に行はれた敵の脫出企

圖はまたもや失敗に歸した。同市の重要軍事施設に對する砲擊續行中。東部戰線の全面に亘り空軍は、敵陣地、敵集團竝に鐵道施設を空襲して地上部隊を援助した。

十一月二十九日より十二月五日迄の一週間內に、ソ聯は飛行機二百二十八機を失つた。その內百三十六機は空中戰により、六十七機は高射砲により擊墜され、餘は地上に於て擊破された。我が方は東部戰線に於て同一期間內に二十一機を失つた。

○十二月八日

東部戰線に於ける軍事行動竝に作戰の方法は、今後露西亞の冬によつて甚しく影響されることとなつた。長距離に亘る東部戰線では唯局地的の戰鬪が行はれるのみである。

クリミヤの西岸に對する敵の上陸企圖は失敗に終つた。ドネッツ地方では獨伊兩軍の攻擊により占領地域を擴めた。レニングラード附近では敵は脫出企圖を繰返した。天候不良に拘らず我が空軍は、赤軍の集團、戰車の集合及び野戰陣地を猛攻し、敵は人的資材、武器、運輸機關に重大なる損失を蒙つた。モスクワに通ずる諸鐵道線路は所々に於て爆擊により破壞された。

本日の獨逸國防軍總司令部發表通り、東部戰線の全線に亘り、寒威凛烈のため大規模の戰鬪行爲は全く不能となつて、戰爭は來春まで持越されることとなつた。都心まで四十キロの地點まで進んで、望遠鏡でモスクワ市の高塔が映る位に近寄つたにも拘らず、『嚴冬將軍』の猛威には人間は屈する他に仕方がない。昔の戰史に見える冬營ではなく、また第一次世界大戰當時の塹壕生活とも違うが、兎に角戰線を整理し、場所によつては幾分後退して防禦越年の態勢を執ることとなつたのも是非がない。ソ聯側では獨軍が敗退したかのやうに全世界に宣傳してゐるが、それは眞赤な嘘である。

六月下旬開戰以來五箇月半、獨逸軍の戰果は壓倒的に目覺しいものではあつたが、レニングラード未だ降らず、モスクワも健鬪を續け、一度撤退したロストフはまだ奪回するに至らず、セバストポール軍港も今猶赤露軍の手中に殘つてゐることは、獨軍統帥部の甚だ遺憾とする處である。併し目下氣溫は零下二十五度に低下し、戰車の使用が不可能となつたので、來春の解氷期迄は局地的の小戰鬪以外には全面的に停戰するより外に致方ない狀況である。

むすび

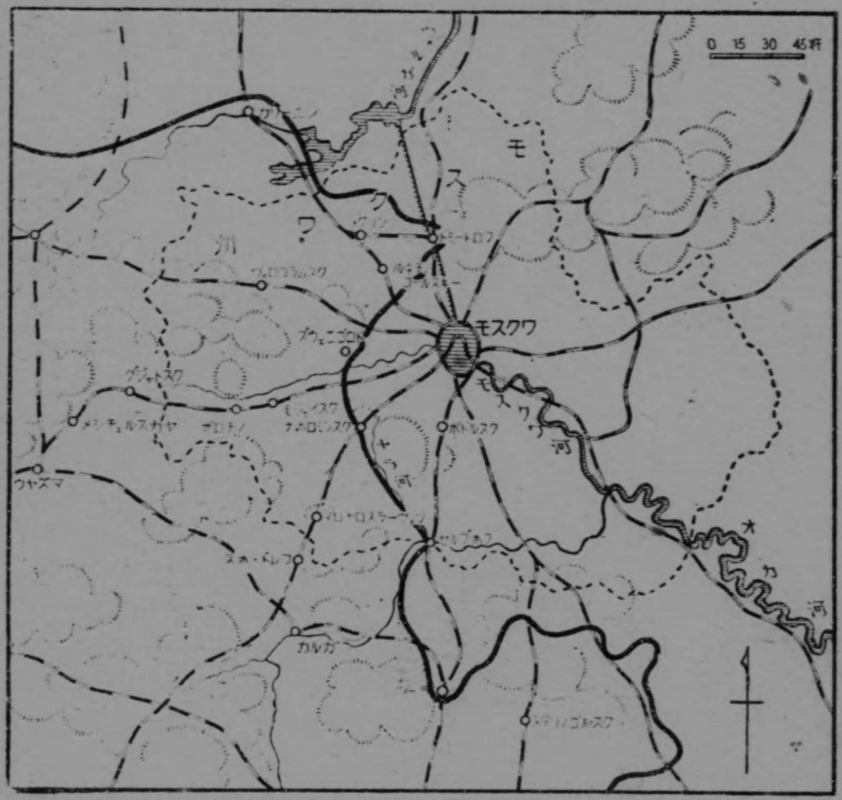
著者の希望としてはモスクワ陥落を契機として本書を鉛槧に附したかつたのである。然るに嚴寒の到來と赤軍必死の防戰によつて、同市の陥落は少しく手間どることとなつた。背後の補給路の開いてゐる大要塞の攻擊は非常に困難で、殷鑑遠からずヴェルダンにある。かてて加へて『嚴冬將軍』の襲來は大規模の戰鬪行爲を不可能にしてしまつた。十二月八日の獨逸國防軍總司令部の發表にもある如く、獨逸軍は恨を呑んでモスクワ攻擊を中止し、東部戰線の戰爭は來春まで持越すことゝなつた。獨逸側では戰線を整理して越年の態勢に入り、不用の軍隊を撤收して休養させ、または他の戰線に使用することとなつた。されば本戰記も一先づこの邊で打切り、その後の戰況は追て增補の時に補足することとした事を諒とせられたい。

併し著者の責任としてそれ迄のモスクワ攻防戰の狀況を、讀者に略報する義務がまだ殘つてゐる。（附圖參照）

モスクワの攻擊は十月二日から始まつた中部戰線の總攻擊を序幕とする。ウヤズマ及びブリヤンスクの大包圍殲滅戰に就ては、既に前後二回に亘つて記したから之を再びしない。

第六圖

冬季停戰前の獨逸軍進出最前線



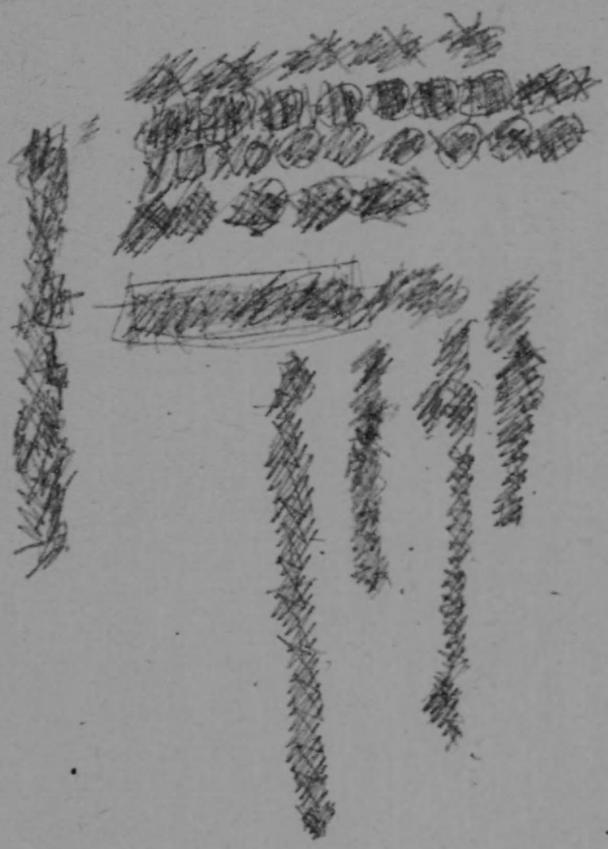
五百キロの敵戰線を三個所に於て突破した獨逸軍は、機甲部隊の快速を利用して、モスクワを中心として約百キロの弧を畫く第一防禦線に殺到した。卽ちブリヤンスクの南方約百六十キロのグルーホフから出動した右翼部隊は、十月三日早くもオリヨールを拔き、十月十二日頃ツーラの西南に到達した。またスモレンスク＝モスクワ大道を避けてロスラウル＝モスクワ街道の南方から發足した中央部隊は、同じくユフノフ＝カルガ線に到達、左翼部隊はルジェフの西南約百二十キロのビエローに達し、また北部集團軍より分遣せられたる大部隊は十月十五日モスクワの北方、レニングラード鐵道線路上のカリニン（舊稱トウェル）を占領し、茲にモスクワ攻擊の態勢を整へたのである。

然るにその頃から淫霖晴間を見せず、道路はぬかるみと成つて戰車、自動車の進行を阻み、飛行場は沼澤と化して攻防兩軍共に非常な困難を極めた。それでも獨逸將兵の超人的努力によりモスクワ＝スモレンスク街道上に於てはモジャイスク、ルジェフ＝モスクワ街道ではウォロコラムスク、またカルガ＝モスクワ鐵道沿線ではマーロヤロスラヴェツに達し、就中モジャイスクに於ては既に丘陵地帶の防禦陣地を蹂躪通過してモスクワ西郊の平坦地に到達、茲に防禦軍との間に一進一退の激戰を展開しつゝあつたのである。

その內、連日連夜の雨が止むと共に、天地は一面白皚々の雪景色と變り、例年よりも早い寒波

の襲來により土地は凍結して、車輛部隊の行動が自由となつたので、獨逸軍は十一月十八日再び一齊に行動を起し、モスクワ占領を目指して勇往邁進したのである。獨逸側の公報は例によつて例の如く要領を得ないが、クイヴイシェフのソ聯側報道によれば、獨逸軍はこの方面に四十箇師團の兵力を集め多數の戰車師團を動員して、嚴寒の到來前にソ聯の首府を攻略せんと非常な努力を拂つたやうに見える。その結果として北部カリニン方面ではレニングラード、モスクワ鐵道線路に近き小都會クリンを取り、次でソルネチノゴールスキーの小村(モスクワを距る五十キロ)を奪ひ、また一隊はその東方モスクワ=ヴォルガ運河上のドミトロフに達したやうである。同運河の兩側には幅廣の道路があるので、今後の進展に對し非常に重要な據點が獨軍の手に落ちた譯である。モジャイスク方面ではその東北のスヴェニゴロッド(モスクワを距る四十キロ)も獨逸軍の手に歸した。カルガ方面ではナラ河畔のナホロミンスク並にナラ、オカ兩河の合流地點セルプホフも既に獨軍の手中に在るもののやうである。ツーラ方面では同市はまだ獨軍の重圍の下にあるやうだが、獨軍の一部は更にその東方五十キロのスタリノゴルスクを占領した。以上が十二月八日頃までの戰況である。戰線の一部は市の中心から四十キロの地點まで達して居り、この邊で一氣呵成に急攻擊の手段に出さうにも思はれたが、北方ではモスクワ運河の方面に伸び、南方ではスタリノゴルスクの方向に進出する所を見ると、無理攻めを好まぬ獨逸最高司令部では、或は

モスクワの完全包圍を目指してゐたやうにも考へられる。孰れにしても『嚴冬將軍』が暴威を揮ふやうになつては萬事休すで、歴史的のモスクワ攻略戰も遂に明年解氷期の前後まで持越すより他に致方なき次第である。



概

評

獨ソ戰役の概評

反共十字軍の意義

共產主義の本據サヴィエート社會主義露西亞聯邦の首府モスクワは、將に獨逸を盟主とする反共十字軍の屠るところとならんとしてゐる。獨逸だけの戰ではない。歐洲全體の戰である。芬蘭羅馬尼を初めとして伊太利、匈牙利、スロヴキヤの諸國軍、クロアチヤ、佛蘭西、西班牙の義勇軍も、この歷史あつて以來空前とも言ふべき大戰爭に、多かれ少なかれ寄與する所があつた。

戰役はしかしまだ終了しさうにもない。獨ソの間に單獨媾和が結ばれるであらうか？　或はウラルの彼方に後退し、全シベリヤの人的及び物的資源を動員し、英米の後援を頼みの綱といつまでも頑張る積りであらうか、現在ではまだ逆睹し難い。唯これだけは確かである。獨逸軍並に聯合軍の威力の前には、さしも强大なりし赤軍も既に散々に打負され、少なくとも來る一世代の間は獨逸、芬蘭、バルト沿海地方、羅馬尼等の接壤國は申すまでもなく、爾餘の中歐、西歐の諸國に對しても、サヴィーエートから來る精神的及び物質的の脅威は全く消え失せてしまつた。同じ

ことがまた我が國にとつても言へるのである。言葉を換へて言へば、共產主義打倒の爲にヒットラー總統の幕下に馳せ參じた二十世紀の十字軍本來の目的は茲に達成せられ、歐羅巴の基督敎文化はこの偉大なる戰勝によつて、唯物主義の侵略から救はれたのである。その文化史上の意義は一二四一年四月九日リーグニッツ附近のワルスタットに於て拔都麾下の蒙古軍の襲來を敗つて、歐羅巴文明を拯つた獨逸騎士軍の功績に比肩すべきものである。然るに如何に政略上とは言ひながら、自由民權の保護者を以て自ら任ずる英米の民主主義政府が、人權蹂躙の張本サヴィエート政府と合流して共同戰線を張り反共十字軍に對抗することは、實に世紀の大錯誤であり、基督敎文明の大汚點と言はねばならぬ。筆者は兩國の指導者が深く想ひを人類歷史の推移に馳せ、赤露の敗績から見えざる神の審判につき學ぶところあらんことを祈つて止まざるものである。

本書は出版者の意圖に從ひ、開戰六箇月目を以て一先づ筆を擱くこととする。今後の戰局の變遷に就ては他日增補の際之を補遺する積りである。本書の軍事篇は日誌の體裁となつて居るので解說中にその時々の戰局の闡明に勉めた積りではあるが、それでも錯綜せる戰鬪記事の爲に、全體としての作戰行動の明瞭を缺く憾がないでもない。よつて茲に過去六ケ月間の戰鬪經過を概評し以て『むすび』とする。

獨逸はなぜソ聯を討たねばならなかつたか

私の近業『第二次歐洲大戰史略上卷』に於て詳述した如く、ヒットラー總統本來の理想は獨ソの握手ではなく、共通の利害の上からもイデオロギーの上からも、靈犀相通ずる所のある日獨伊三國間の防共協定の强化にあつた。あの當時若し日獨伊三國の間に軍事同盟條約が締結せられてあつたら、チェンバレン首相も一層愼重な態度を以て獨波問題を處理したであらうし、今次の歐洲大戰は恐らく勃發し得なかつたであらうと云ふのが筆者の管見である。然るに運命の惡戯は一時相思の仲を割いて、獨逸は想ひもよらぬパートナーと握手してしまつた。獨逸の不信を憤る聲は當時我國の朝野に充ち滿ちたが、それが背に腹は代へられぬ窮餘の一策であつて、決してヒットラー總統本來の意志でなかつたことは、本年六月二十二日の出師の宣言で明かである。（政治篇參照）私は嘗てヒットラー總統百八十度の轉回を、彼の世界觀の破產と呼んだ。而もこの苦き盃を傾けてまでも一九三九年八月二十三日の獨ソ不侵略條約の締結を命じたことは、政治家に課せられた至上命令であり現實の悲哀でもある。

爾來獨逸のミッヘル（正直者の代名詞）はこの協約を正直に遵守することに汲々とした。波蘭分割の結果、獨ソの兩國は二十年振りに再び國境を接することとなつた、獨逸が兩國間の紛爭を

豫防せんものと如何に努力を傾倒したかは、一九三九年九月二十八日の獨ソ修交境界條約が最も雄辯に之を物語つてゐる。即ち該條約の規定により獨逸は、舊波蘭の土地十八萬八千平方キロと二千二百二十五萬の人口を領有したに對し、ソ聯は一千八百二十萬の人口を有する二十萬一千平方キロの土地を併呑したのである。殆ど兵に衂らず單に軍事的に進駐しただけでソ聯は獅子の分前に與つたのである。今一つの證據は、獨逸が咽喉から手の出る程欲しかつたレムベルグ周邊の石油地帶を、あつさりソ聯に讓つたことである。獨逸がソ聯との間の國交の圓滑を如何に重視したかは、五十萬人にも上る獨逸人をソ聯の新しき權益地域、就中バルト海沿岸諸國から本國へ引揚げさせたのを見ても、思ひ半に過るものがある。獨逸がこれ位ソ聯に對して媚態外交の誠を盡しても、ソ聯は之に對して殆ど無關心であり、無感覺であつた。なぜか。ソ聯の外交國策の奥底に潜む指導精神は、この機會に英獨兩雄國を咬み合せ、その疲弊を待つて共產革命即ち無產階級の支配を歐洲全土に擴めるにあつた。またソ聯の他の一面は、その帝國主義の貪婪飽くことを知らぬ領土慾である。矢つぎ早やに行はれた芬蘭領一部の奪取並に租借、エストニヤ、ラトヴィヤ、リトアニヤのサヴィエート聯邦への併合、ベッサラビヤの奪回、北部ブコヴィナの占領等、平等人類愛の假面の下に、帝國主義的の領土併合が極めて不遠慮に强行せられた。かくてソ聯は短日月間に、勞せずして三十七萬平方キロの土地と二千五百萬の人口を併呑してしまつたのである。

ソ聯の危險性は間もなく一層明瞭になつた。赤軍師團は絶え間なく獨逸國境へ增遣せられた。獨逸が大戰鬪に臨んだ時またはその進行中、例へば一九四〇年夏の佛蘭西戰の最中、一九四〇年秋の對英部隊集結の當時及び一九四一年春のバルカン作戰の途中、赤軍は絶えず攻擊準備を整へてゐた。その上ソ聯と英國との默契は一層露骨に現はれて來た。例へば、ユーゴースラヴィヤのクーデターが、英米ソ三國の合作であつたことは隱れもない事實である。

間もなく獨逸の諜報機關はソ聯の獨逸に對する攻擊計畫を探知した。若し獨逸が英本土攻擊に出づれば、ソ聯は直ちにその背後を衝くべく、萬端の準備がおさおさ怠りなく進められて居る旨が報告された。最早や一刻の猶豫もなし難いのである。總統一流の『斷』が下された。彼は先づソ聯を討つて後門の狼を平げ、然る後徐ろに前門の虎に嚮はんと決心し、英ソの包圍策に向つて突然先手を打つたのである。

對ソ戰の困難なる理由

ソ聯と雌雄を決することについては容易ならぬ困難がある。波蘭戰この方戰はれた何れの戰爭よりも困難なものとなることは、獨逸參謀本部にも明瞭に判つてゐた。

第一、赤軍は數的に優勢であり、優に三百箇師團を第一線に投じ、一千萬人以上の動員を行ふ

能力を備へてゐる。

次にソ聯が政治的に嚴格に統制され、イデオロギー的に二十年一日の如く指導され訓練されて居り、その上に思想的にも統一された鞏固な指導者階級を戴いてゐることは、獨逸とその撲を一にしてゐる。これは一九四〇年の佛蘭西とは非常な相違である。二個の相異なつた世界觀の間の戰は、自然に激烈なものであつて、實に喰ふか喰はれるかの惡戰苦鬪となるべき性格を具へてゐる。

第三に對ソ戰の難點はその廣大なる領域にある。今次大戰の諸作戰地區と比較して、國土の廣大さとその特異性が、如何に大きな影響を征共作戰の上に及ぼしたかを研究することも亦、一つの興味ある課題である。

例へば深く獨逸國領土内に突入してゐる波蘭の地形は、その中央部に於て約五百キロの幅をもつてゐる。この地形のため獨逸軍の集中攻擊が迅速に效力を發揮し、南北からの鋏を締めつけて戰局は僅に三週間で片付いてしまつたのである。

佛蘭西とその同盟國に對する作戰は、獨逸が强固なる白佛國境線上の要塞體系の突破に成功することを前提として、同盟國軍を英佛海峽乃至大西洋岸に壓迫すればよいのである。即ち先づ第一にトリエル方面からセダンを越へてソンム河畔に突進し、更に同河に沿うて北上、出發點を去

る約四百キロの英佛海峽に到達した獨逸軍突破戰略の成功により、獨逸の西部國境と英佛海峽との中間地帶にあつた敵兵力の過半數を遮斷することが出來たのである。遮斷的效果を有する海はここで完全にその效力を發揮した。

次に獨逸軍右翼は更に新出擊陣地から行動を起してウェーガン線を突破した。また軍の主力が戰線の中央に於て東南に向つて急進することを得たので、東部佛蘭西に於て尙抵抗を續けてゐた敵軍の側面と背後を襲ひ、之をマヂノ線の前面に對峙してゐた獨逸の第三集團軍（C軍）の方向に壓迫し、同集團軍と協力して之を全滅することに成功した。

佛蘭西作戰の第三段階に於ては、大西洋岸が第一段階に於ける英佛海峽と同樣の役割を演じたのである。卽ちオルレアン、トゥール、ポアティエを經て突進する獨逸快速部隊は、大西洋岸の遮閉作用を利用して敗殘の佛軍を掃蕩した。斯くて六週間の短時日內に、この西部作戰は終了したのである。

ユーゴースラヴィヤ及びギリシャに對する作戰に於ても、地理的狀況が獨逸軍の作戰を容易ならしめた。卽ち比較的國土の狹隘なユーゴースラヴィヤは、三方面から獨、伊、匈、三國の軍隊によつて包圍され、希臘は海によつて圍まれてゐるので、その征服は比較的迅速に遂行されたのである。

さてソ聯の場合は如何であらうか。攻撃すべき敵國土が狹いこと乃至はその主要部分を包圍することの可能性、または敵軍を例へば海の如き絶對的の障壁に向つて壓迫し得る蓋然性の存することは、攻撃者にとつては防禦者側の有する築城を以てすら、相殺することの出來ぬ程の有利な條件である。

然るに地圖を一瞥すれば解るやうに、ソ聯の場合に於ては右に該當する條件卽ち領土の狹隘、包圍の可能竝に絶對障碍に向つて敵を壓迫する機會が極めて寡ない。これは支那と云ふ宏大な地域に於て作戰を遂行してゐる日本の立場と相似たものがある。歐露方面では二千五百キロの擴りを持ち、亞細亞方面ではそれが五千五百キロに擴つてゐる。軍事工業も地域の廣大さに應じて深く梯形をなして分散配置されてゐる。

そこで獨逸軍に殘されてゐる攻撃方法としては、例へば戰線の中央を狙つて錐もみ狀の深い突破孔を作り、そこから北方または東南方に旋回しつゝ、赤軍の主力を海の方向に壓迫するより外なかつた。これが幸に成功して北方では芬蘭灣へ、南方では黑海へ敵を壓迫することが出來たのである。

机上の戰略家はソ聯の地圖を按じて、北は芬蘭のラドガ湖方面から、南は羅馬尼のガラツ地方から發足してソ聯の全軍を包圍する可能性のあることを說くが、これは遺憾ながら現實に卽した

計畫ではない。第一獨逸には事實上これに要するだけ強大な兵力を芬蘭へ派遣することが不可能であつた。また現に芬蘭軍が東プロシヤからレニングラードを目指して進出する獨逸軍と協同作戰を執るには、七百キロを隔つる兩軍の距離が餘りにも廣すぎたのである。加之當時ソ聯海軍はまだ健在であり、タリン、エーゼル、ダゲ、ハンゲ等のソ聯空軍基地竝に海軍根據地が儼存する間は、芬蘭灣方面から補足的に行ふ包圍運動は不可能であつたのである。

南方では東羅馬尼からドーナウ河口地帶を越え、またその支流であるプルート河下流の堅固な築城線を越えて攻擊前進することは、この兩地區に配置せられた兵力では實行不可能であつた。芬蘭と羅馬尼を左右兩翼として、赤露の全軍を包圍する企圖は壯大な計畫には相違ないが、その中間に横はる所の二千五百キロの距離が、この壯圖を實行不可能なものとするのである。

かやうな具合でソ聯に對しては、敵の全軍を對象とする大規模な包圍作戰の遂行は不可能であつたが、小規模には各個擊破的に極めて有效な包圍の可能性が所々にあつた。これは序戰に於ける正面の中央突破と聯繫して極めて有效に利用された。その一つはビヤリストックの突出部であり、他はレムベルグ地方やツェルノウィッツ地方で、何れも獨逸軍の勝利に歸したのである。

勝利の秘訣

本作戰に於ても、獨逸軍が今次歐洲大戰の凡ゆる場面に於て應用して勝利を收めた、同一の作戰上の原則がその眞價を發揮してゐる。卽ち

一、奇襲により敵に不意打を喰はすこと。

一、最初から敵軍の完全勦滅を目的とする大膽なる決心を以て作戰計畫を樹てること。

一、必要に應じて決定的な地點に兵力の集中を行ふこと。

一、上から下まで一絲亂れざる嚴格な統率を行ふこと。

一、一旦開始された殲滅作戰は、十分成功の見込みがある間に、最も迅速にまた最も大膽果敢に之を遂行すること。

一、だが決して無理はしないこと。意味なく損害を生ずる如き無駄な戰鬪を行はざること。

一、機械力を充分に活用すること。

等である。

新作戰を開始するに當り最も重要な要素である不意打ちは、獨ソ戰では獨逸側により遺憾なく實行された。卽ち開戰不可避と見るや、何等政治的の折衝を事前に行ふことなくして突然ソ聯軍に向け、猛烈果敢なる空陸の攻擊が開始されたのである。その折ソ聯軍自身が既に攻擊態勢にあり極めて密集して國境地方に待機中であつたため、獨軍は奇襲の效果を充分に發揮する事が出來

たのである。次に赤軍統帥部は、獨逸が經濟的見地から最も重視するウクライナ地方に向つて攻撃の重點を置くものと豫想したのに反して、獨軍が主力をプリペット沼澤地帶の北方に集中したため、まんまと計略の裏をかかれた。それのみならずソ聯は、羅馬尼及びカレリヤ地方にある獨逸軍の最左翼及び最右翼の兵力及び行動を誤測して、最初は之を過大視してゐたのである。

今次大戰の特徴は廣汎に亘る動力の驅使である。これは獨ソ戰役に於てそのクライマックスに達した。十月末に獨逸軍が鹵獲または破壞した飛行機の數は一萬五千、戰車の數は二萬を突破した。其の他のトラック及び自動車の數は數へきれない。この尨大な器材戰に對抗して勝利を博すべく、獨逸側の用意した對空、對戰車火器竝に戰車、飛行機の優勢と、これを供給した軍事工業の生産力は實に驚異の至りである。茲にも獨逸の勝因の一つが存する。

獨逸軍の攻撃開始

ブラウヒッチ元帥を總司令官と仰ぐ獨逸陸軍主力の主將竝に集結地は左の通りである。

一、北部集團軍　司令官　リッター・フォン・レーブ元帥

空軍司令官　ケラー上將

集結地　キヨニヒスベルグ

二、中央集團軍　司令官　フォン・ボック元帥
　　空軍司令官　ロェルツエル將軍、フォン・リヒトホーフェン將軍
　　集結地　ワルシャウ

三、南部集團軍　司令官　フォン・ルンドステット元帥
　　空軍司令官　ロェヤー上將
　　集結地　ルブリン

これに對するソ聯側の陣容は

一、北部方面軍　司令官　ヴォロシーロフ元帥
一、中央方面軍　司令官　ティモシェンコ元帥
一、南部方面軍　司令官　ブジョンヌイ元帥である。

獨逸軍の主攻撃は、ワルシャウ＝キョニヒスベルグの線から二個の集團軍を以てビヤリストックの弓狀地帶の敵を兩側より挾撃しつつ、一般方向を東方にとつた突破作戰として實施された。またこれよりも稍劣勢な一箇集團軍が、軍の右翼方面卽ちプリペット沼澤地帶の南方に向つて强力な兵力を集結しつつ、獨逸領内に突出せるレムベルグ、チェルノウィッツ地方の赤軍を包圍攻撃し、更に東方に向つて進出したのである。

第七圖

獨ソ両軍の集結

芬蘭軍
ヘルシンキ
ハンゲ
タリン
エストニア
バルチック海
レニングラード
ラドガ湖
リガ
リトアニア
コブノ
ケーニヒスベルヒ
モスクワ
ヴィルナ
ミンスク
スモレンスク
ヴィテブスク
ヴィヤズマ
ツーラ
クロドノ
ビアリストク
ブリアンスク
オリヨール
ブレスト・リトフスク
ポリペット沼澤地
クルスク
ルブリン
キエフ
ハリコフ
ポルタワ
ドニエプロペトロフスク
ロストフ
タガンログ
ハンガリー
獨羅軍
ニコライエフ
オデッサ
アゾフ海
ルーマニヤ
セバストポール
ブカレスト
コンスタンツァ
黑海
ブルガリヤ

ドイツ軍の集結　ソ聯軍の集結

獨逸軍の攻撃開始

この獨逸軍主力の行動開始より遲れること約一週間にして、マンネルハイム元帥麾下の芬蘭軍及びアントネスク將軍令下の羅馬尼、獨逸聯合軍がそれぞれ攻擊前進に移つたのである。

以上で獨逸軍主攻擊の三針路が明瞭になつたと思ふ。即ち

一、最南端はプレミッズルを越え、レムベルグ北方を圍んでキエフに向ふのもの

二、中央は同時に最强の集團軍であつて、ビヤリストックの兩側面を包圍して、ミンスク、スモレンスクを經てモスクワに向ふもの

三、最北端はコヴノ、デュナブルグ、プレカウを經てレニングラード南方へ向ふもの

である。

堅固に構築されたソ聯の國境防禦陣地線のうち攻擊を蒙つた個所は、獨逸軍の勇猛果敢な攻擊の前に忽ち脆くも崩壞してしまつた。空軍の援助を最大級に享けた大戰車部隊は、國境要塞の崩壞により深く敵地に侵入する運動の自由を得た。かくて强力なる戰車集團は步兵部隊を遙かに乘り越えて强力な敵軍の包圍を完成した。やがて彼等は、ソ波舊國境に沿つて走つてゐる第二の要塞線即ち所謂スターリン線を三箇所に於て突破して、狹き錐もみ狀の攻擊路をキエフ、モスクワ、レニングラードに向け突き進めたのである。これと前後して獨逸空軍も亦ソ聯空域の制空權を戰ひ取ることに成功した。

開戰一箇月目の戰績

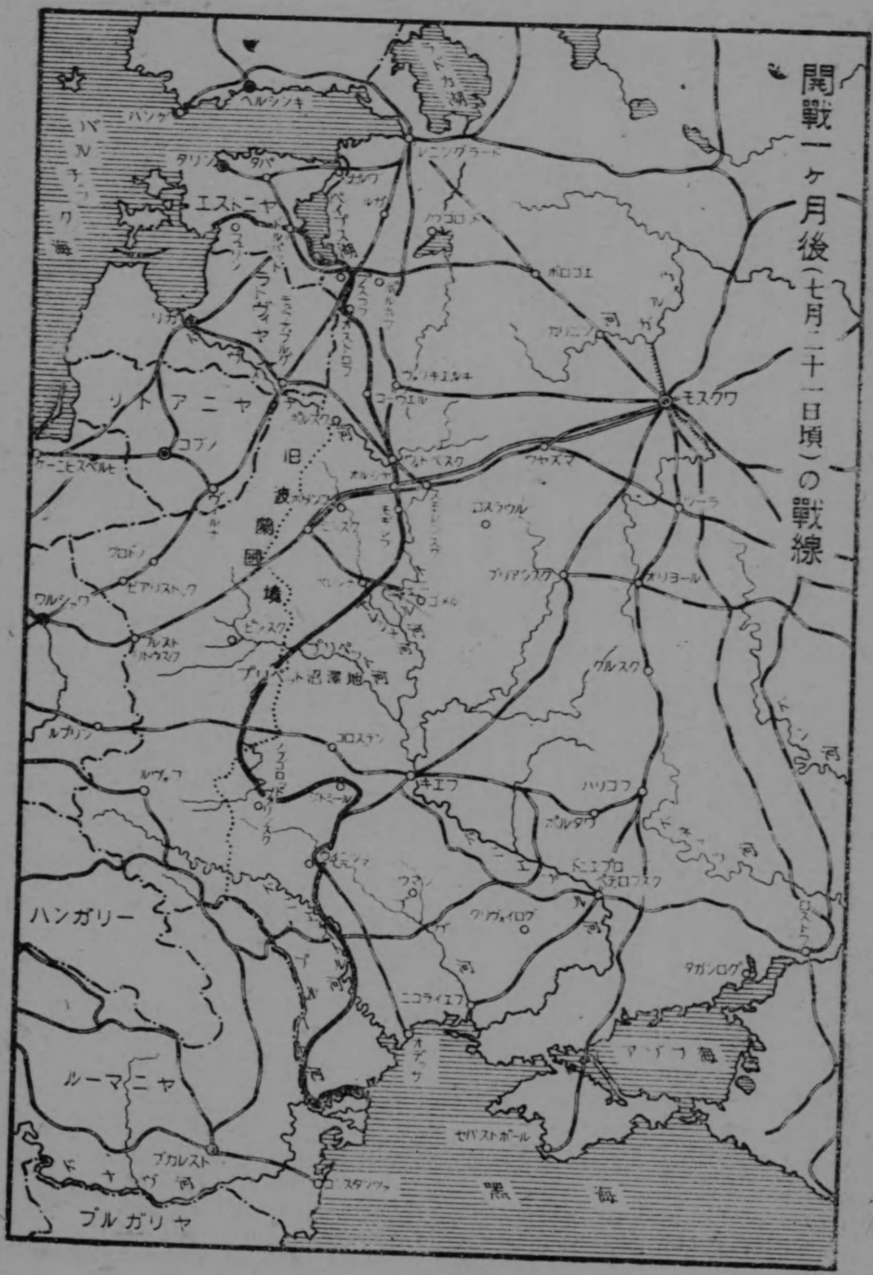
開戰一箇月目の終りには獨逸の戰車軍は、步兵部隊に先だつこと百乃至二百キロの前方に到達し、キエフの前面、スモレンスク附近及びその南方、イルメン湖とペイプス湖の中間迄進出してゐた。つまり七百五十キロ、卽ち東京、岡山間の空路よりも大きな距離を敵國領內に侵入してゐたのである。而もこの際最も重要な點は、敵が自國の縱深を利用して獨逸軍の攻擊を回避するの策に出でづして、却て逆に獨逸軍に立向つて來て、マンマとその術中に陷つたことである。赤軍大敗の最大原因は、この自國に有利なスペースを閑却した戰略の結果であると愚考する。

戰線整備の二箇月目

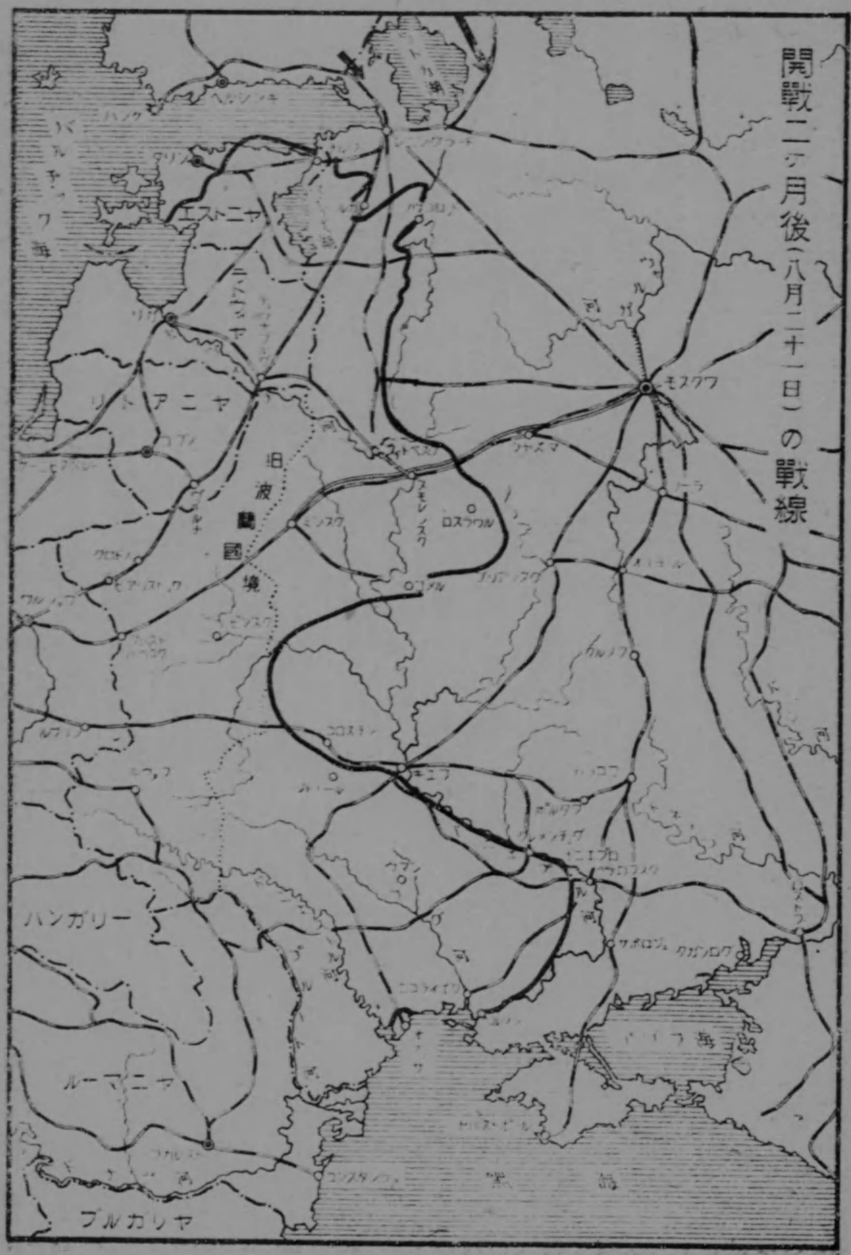
國境の序戰に續くスターリン要塞線の突破は、凡て開戰第一箇月中に行はれたのである。之に續く第二箇月目は戰線の動きが寡なく、一見膠着狀態に陷つた如く見えるが、その實は最早や補充のきかぬ人的また物的の損害を赤軍に與へた月でもある。卽ち敵の損害は累計して捕虜百二十五萬、砲一萬五千門、戰車一萬四千輛、飛行機一萬一千二百五十機に增加したのである。

單に表面的に觀察すると、開戰第二箇月目の初めの三週間は餘り動きを見せなかつたやうであ

第八圖


開戰一ヶ月後(七月二十一日頃)の戰線
ヘルシンキ
ハンゲ
タリン
エストニヤ
バルチック海
ラトヴヤ
リガ
リトアニヤ
コブノ
ケーニヒスベルヒ
旧波蘭國境
ワルシャワ
ビアリストク
ルブリン
ルヴフ
ハンガリー
ルーマニヤ
ブカレスト
ドナウ河
ブルガリヤ
ペトログラード
ノヴゴロド
モスクワ
ワヤズマ
ロスラウル
ブリアンスク
オリヨール
ゴメル
ビツスク
プリペット沼澤地
ルツク
ロスチン
キエフ
ハリコフ
ポルタワ
ドニエプロペトロフスク
ドネツ河
ドン河
ロストフ
タガンログ
ニコライエフ
オデサ
アゾフ海
セバストポール
黑海
コンスタンツ

第九圖



獨逸軍の攻撃開始

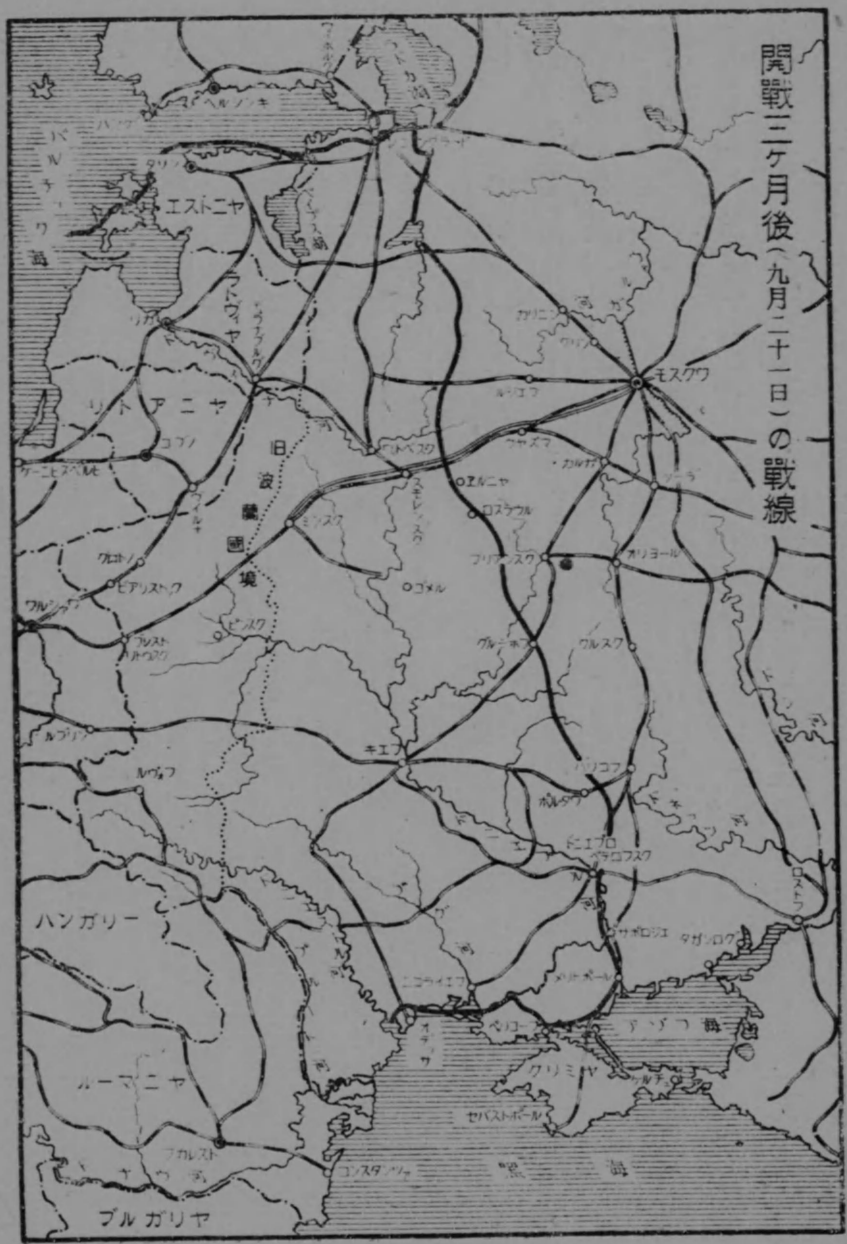
るが、其實極めて事件の多い月であつた。獨逸軍第一線の背後に殘された敵軍の包圍殲滅、歩兵部隊の第一線への集結、空軍地上組織の機甲部隊の線までへの前方移動、スターリン線突破孔の擴大、極東より移動して來た師團竝に新編成師團等多數の新鋭兵力による敵の强力な反擊の擊退鐵道、道路等の修復、補給基地の前方移動等がこの期間内に行はれたのである。

開戰三箇月目の特徵

開戰三箇月目の特徵としては、歐露に於ける赤露軍の崩壞が、人力を以ては最早や支へられぬことが明白に認められて來たことである。下世話に云ふ戰爭の山が見えたのである。豫てイルメン湖とペイプス湖との間に斜に構築されてゐたレニングラード防衛の非常に堅固な前進防禦陣地線が突破された。そこでこの方面からレニングラードに迫る獨逸軍は、ラドガ湖の方面から同市に迫る芬蘭軍と戰術的に協働し得るやうになつた。第三箇月目の下旬の初めには、レニングラード内外の敵兵は完全に外界から閉塞されてしまつた。

三箇月目の終りに獨軍及び同盟軍によつて占領されたソ聯領土は、アルサス、ローレン、ルクセンブルク、チェック保護領、波蘭總督府領を含む大獨逸と殆ど同一の面積である。卽ち朝鮮、臺灣、南樺太を含めた日本の廣さに當る。如何にボルシェヴィッキーが野蠻でも、斯くの如き廣

第十圖


開戰三ヶ月後（九月二十一日）の戰線
エストニヤ
ラトヴィヤ
リトアニヤ
旧波蘭領
モスクワ
ロスラウル
ゴメル
ビリスク
ウルスク
キエフ
ハルコフ
ドニエプロペトロフスク
ロストフ
タガンロク
ハンガリー
ルーマニヤ
ブカレスト
ブルガリヤ
クリミヤ
セバストポール
黑海

大な地域を悉く焦土化してしまうことは不可能である。別に説明の必要もないが、獨逸が占領地の資源を急速に、且計畫的に作戰遂行上に利用し得ることは自明の理である。

この尨大な土地の占領に加へて、開戰三ケ月目の戰果は捕虜二百二十五萬、砲二萬六百門、戰車一萬六千三百輛、飛行機一萬三千機である。

この巨大な物質的消耗の一部分だけでも補充すると云ふ可能性は、ソ聯にとつては最早や存在しない。ソ聯の歐露に於ける軍需工業の大部分は、既に獨逸軍の手中にあるか、然らずんば餘りに戰場の間近にあるために用をなさなくなつたのである。シベリヤの工業は跛行的であつて、まだ完全に自給自足的とは云へない。ソ聯全體の穀倉と云ふべきウクライナは最早一粒の麥をも赤軍に供給し得ない。然らば外部からの物資供給は可能であるか？　現在の情勢に於て飛行機を除けば、敢て取立てて擧げる程の軍用資材は供給されてゐない。北氷洋岸の不凍港ムルマンスクと背後地との交通は芬蘭軍によつて遮斷され、アルハンゲルスクは來春五月までは結氷して碎氷船でさえ入港が出來ぬ。バルト海、黑海は共に物資運搬に役立たぬ。浦鹽は日本の砲門の下に横はつてゐるのみならず、距離も非常に遠く、シベリヤ鐵道は途中單線の處もあり大した輸送力はない。殊に最近米國は日本の感情を顧慮してこの航路を遠慮することとなつた。英ソの合作で占領されたイラン・ルートは、軌間一米の輕便鐵道で、その輸送力は甚だ不充分である。コーカサス

からの鐵道はタブリスまでで、そのあと四百八十キロ程陸路連絡の必要がある。英米の諸港から波斯灣までの航路が既に一萬一千海里以上もある上に、イラン縱貫鐵道の北端バンダル・シャーフから裏海を渡つてヴォルガ河口のアストラハンまで、約一千百キロの湖上輸送もまた能率が甚だよくない。到る所に所謂フラスコの口がある。之を要するに、假令英米兩國の軍需工業を傾けて援ソに熱中しても、敗殘の赤軍を再起せしめるために充分なる武器、彈藥、戰車等を供給することは、目下のところ到底言ふべくして行ひ難き事業である。

開戰四箇月目の戰果

開戰三箇月目の終り（九月二十一日）に於ける獨軍及び聯合軍の戰線は、クリミヤ半島の咽喉部ペレコープよりサポロジェ、ドニエプルペトロウスク、ポルタワ、ロスラウル、スモレンスク等の東を通り、ヴォルガ湖及びイルメン湖を經てラドガ湖の南端に達し、更にスウィル河に沿ふてオネガ湖に到り、それよりムルマンスク鐵道と約三十キロを距ててその西に並行北氷洋に迄達してゐる。獨軍戰線の後方に於ては敵の有力なる部隊が、オデッサに於ては獨逸軍及び羅馬尼軍により、レニングラードに於ては獨逸軍及び芬蘭軍によつて狹隘なる地域內に完全に包圍されてゐるのである。その他ダゲ島の大部分はまだソ聯軍の手中にある。また僅か一箇師團弱のソ聯兵

が、戰爭勃發前から引續いて芬蘭のハンゲに駐屯してゐる。

開戰第三箇月目の終りに於て占領した土地の尨大さに相應はしい多數の鹵獲品が、獨軍の手中に落ちた。卽ち

捕虜	二百二十五萬人
砲	二萬五百門
戰車	一萬六千四百輛
飛行機	一萬二千九百五十機

に上つた。斯くて赤軍の武力も次第に潰滅に近づかんとするの徵候が現はれて來た。

開戰第四箇月目は收穫の月となつた。本月の初めにキエフの大包圍戰が終了した。ボック集團軍の一部はゴメル＝ロスラウルの線から東南に向つて行動を起し、ルンドステット集團軍の比較的微弱な一隊は之と呼應してクレメンチューグの橋頭陣地から東北の方向に進出し、兩軍はキエフの東方約二百キロの地點に於て敵中連絡を遂げ、キエフ後方の敵五箇軍を一網打盡、完全に捕捉してしまつた。敵の死傷が算なき上に、獨逸軍は六十六萬五千人の大量捕虜の外、砲二千二百五十門、戰車五百七十輛を鹵獲した。赤軍の左翼ブジョンヌイ軍の主力は、餘りにもキエフに執着したために、巧妙なる獨逸軍の迂回運動により退路を遮斷され、殆ど全滅の憂目を見たのであ

る。

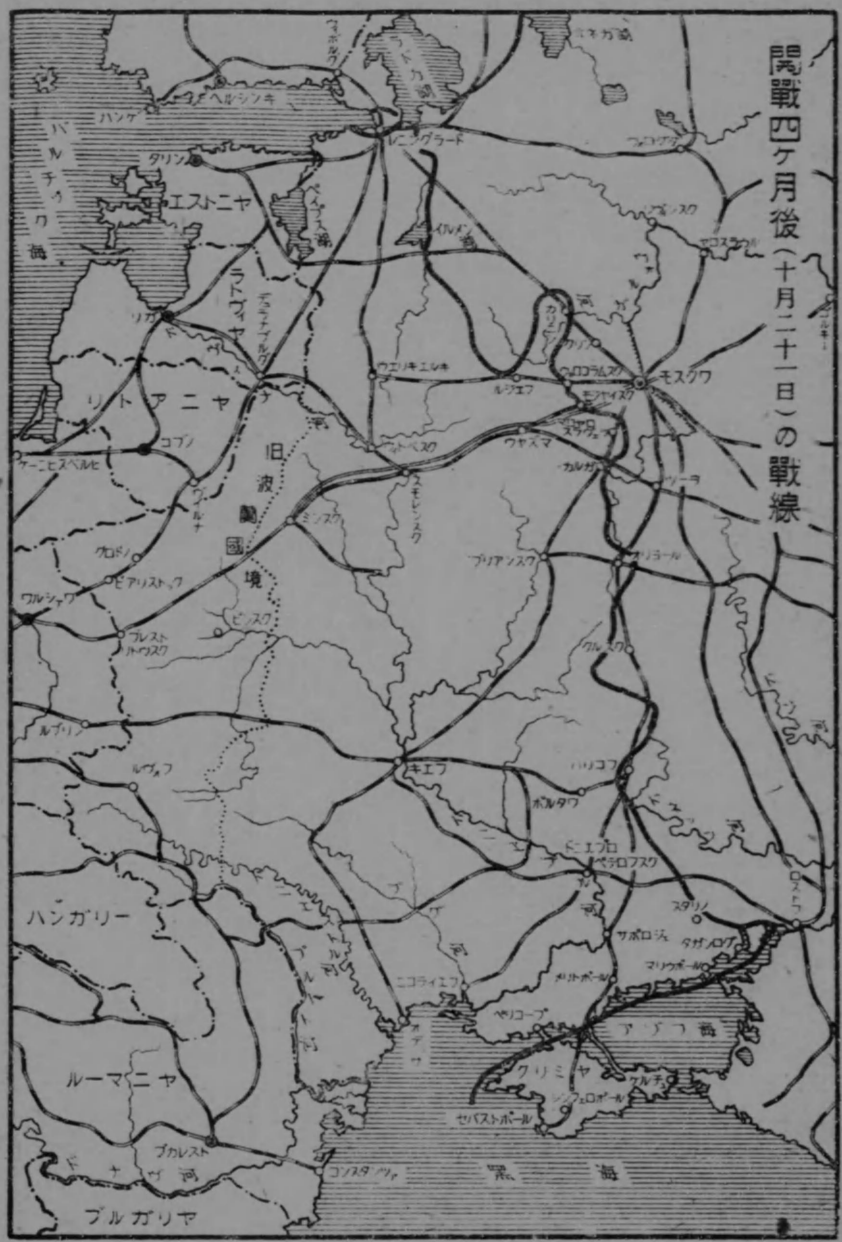
斯くて獨逸軍は敗殘の敵を追ふて、ポルタワ東方のクラスノグラードを陷れ、開戰四箇月目の終りにはハルコフの前面六十キロの地點に迫つた。これと同時に他の獨逸部隊はクリミヤ半島の咽喉部に對して攻擊を開始し、該地峽を瞰制するペリコープの堅壘を奪ひ、深く地峽内に侵入すると共に、側面の防禦線を西はヘルソン南方の半島、東はマリュウポール迄推進めたのである。

斯くの如く世界の視聽がまだ戰線南段の動靜に集中されてゐる間に、ボック元帥麾下の中央軍は十月二日突如として大攻勢に轉じ、幅五百キロの正面に於て赤軍戰線の突破に成功したのである。これより先赤軍は、スモレンスクの東南八十キロのエルニヤ竝にブリヤンスク附近に於て獨逸軍の進出を阻止することに成功したのみならず、この方面の獨逸軍は約一箇月半塹壕に據つて持久戰の態勢を執り、ひたすら南方友軍の進出を待つものの如く見えたので、ティモシェンコ將軍は前面の敵兵力を過小評價したらしく、從つて稍油斷の氣味があつたやうに思はれる。然るにボック將軍はこの休閑期を利用して先づ兵站線の整備を完了し、戰線の直ぐ背後に充分の燃料彈藥を蓄積すると同時に、出來得る限りの兵力を增强集中して十月二日より全力を擧げて猛然攻擊前進に移り、三箇所に於て赤軍の戰線を突破したのである。即ちグルーホフ (Gluchow) より前進した一隊は、十月三日赤軍戰線の後方二百キロの重要鐵道交叉點オリョール (Oryol) を

占領し、ロスラウル＝ヌルニヤの線より出撃した部隊は同じく百五十キロの彼方にあるユフノフ(Juchnow)に達した。また左翼の軍は敵の抵抗を排除しつつビエロー(Bielo)迄進出した。この勇猛果敢な進撃に直面した敵軍は全滅され、且獨軍の迅速巧妙なる旋回運動により非常に尨大な敵兵力はブリヤンスクとウヤズマ附近の二箇所に於て見事に包圍されてしまつた。斯くて翼にブジョンヌイ元帥の南軍がキエフの背面に於て捕捉殲滅せられた如く、ティモシェンコ元帥の中央軍の主力も亦同一の運命に呻吟することとなつたのである。その際敵の受けた損害は、莫大なる死傷者の外に捕虜六十九萬三千人、砲五千四百五十門、戰車一千二百四十輛と云ふ空前の巨額に達した。寔に未曾有の大戰果である。今やモスクワへの進擊を遮ぎるものは、同市の北方及び西方に横はるところの丘陵地帶に構築せられた設堡陣地以外には何ものもないのである。

ウヤズマ及びブリヤンスクの包圍戰は十月十九日を以て其の幕を閉ぢた。而してこれ等の兵力は犇々とモスクワ外廓の第一防禦線に向つて殺到し、カルガ、マーロヤロスラヴェッツ、モジャイスク(Kaluga-Malojaroslawetz-Moschaisk)の諸點に於て既に之を突破した。また北方に於てはカリニン(舊名Twer)を占領し、ソ聯政府をして十月十五日倉皇としてモスクワを退去せしめたのである。その後赤軍必死の防戰と、天候不良のため道路泥濘膝を沒する有樣で車輛の行進を阻み、獨兵進出の速度稍々鈍つたやうに見えるが、既に都心より四十キロの近くまで攻め寄せ

第十一圖


開戰四ケ月後（十月二十一日）の戰線
ヘルシンキ
ハンケ
タリン
エストニヤ
ラトヴィヤ
リガ
リトアニヤ
コブノ
ケーニヒスベルヒ
旧波蘭國境
ワルシャワ
ブレスト
ルブリン
ルヴフ
キエフ
ハリコフ
ポルタワ
ドニエプロペトロフスク
スタリノ
タガンログ
マリウポール
メリトポール
ニコライエフ
ペリコープ
クリミヤ
セバストポール
ケルチ
アゾフ海
黑海
ハンガリー
ルーマニヤ
ブカレスト
ブルガリヤ
モスクワ
ウヤスマ
カルガ
ブリアンスク
ミンスク
ポロツク
レニングラード
ペツサモ
ムルマンスク
ウラル山脈

てゐることとて、モスクワの運命は最早や決したと云つてよい。ソ聯側ではティモシェンコ元帥を南軍司令官に轉じ、ジューコフ將軍をモスクワ方面の防衛司令官に任じ、新來の極東軍を增援して決死の抵抗を續けてゐるが、到底頽勢を挽回することは不可能と思はれる。

北部戰線に於て獨逸軍は、開戰四箇月目の終り頃ノヴゴロッドの北方より百キロの幅を以て攻勢に轉じ、月末迄には相當の進出を見た。かくて獨軍はスウィル河畔の芬蘭軍との協同作戰に於て、又南方カリニン方面への進出にとつて必要なる素地を造つたのである。レニングラードに閉込められた敵兵の包圍環は益々狹隘となり、クロンスタットに逃避せる敵の艦船に對しては砲擊が計畫的に進行中である。芬蘭灣口にあるダゲ島に對する攻擊は、南方のオェゼル島から勇猛果敢に實行されて十月二十一日之を奪取した。カレリヤ戰線にあつてはオネガ湖畔の要衝ペテロサヴォドスク（Petrosawodsk）が芬蘭軍の手に歸し、ムルマンスクとレニングラード地方との鐵道連絡が中斷された。またその北方ムルマンスク鐵道沿線の戰鬪に於ても著しき進出を見た。

南部戰線に於ては北段に比し顯著なる成功が贏得られた。この方面に於て獨羅聯合軍は有力なる赤軍をアゾフ海に壓迫して捕虜六萬五千、砲五百二十門及び戰車百二十五輛を獲、ベルジャンスク（Berdjansk）並に經濟的に非常に重要なマリウポール（Mariupol）を取り、敗敵を追ふてロストフ西方二十五キロの地點に達し、尙追擊を續行しつつある。またこの猛進擊により後續

梯隊の進出を容易ならしめ、第四ヶ月目の終りに於てはスタリノを占領し、ハルコフに迫り、その陥落も一兩日中に迫つた。本戰線の後方にあつては、敵が勇敢に防衛したオデッサは十月十六日遂に羅馬尼軍の手に落ちた。

ソ聯軍は立直ることが出來るか

開戰第四箇月目の獨逸軍の綜合戰果は、重要地域の奪取並に鹵獲品の高に於て遙かに前月を凌ぐものがある。開戰以來十月二十二日迄にソ聯軍の喪失した戰利品の總數は

捕虜	三百三十六萬六千人
砲	二萬九千四百五十門
戰車	一萬九千四百五十輛
飛行機	一萬五千三百八十機

の多數に上つた。

獨逸側の占領した土地の面積は約五十萬平方キロに近づき、略大獨逸國にチェック保護領、波蘭總督府領、ルクセンブルグ、アルサス・ローレーン、和蘭、白耳義、瑞西、諸威及びスロヴキヤを加へた面積と伯仲の間にある。これを東洋と比較すれば滿洲國に朝鮮を加へた面積に匹敵す

る。

俘虜三百三十萬と云へば既に世界大戰當時の露兵俘虜の數を凌駕してゐる。また今次の獨ソ戰の性格から考へても、死傷數は非常に高率であるから赤軍兵力の消耗は恐るべきものがあると想像してよい。實際ソ聯が善く戰つたことは敵方も認めてゐる。しかし度重なる大敗北に第一線の常備兵や豫備の訓練ある應召兵は殘り寡なくなつて、ソ聯は今や老朽者や少年を徵募して軍隊の再建に夢中になつてゐる。極東からの軍隊及び器材の引揚げが近來著して目立つやうになつた。專門家の意見では近來兵隊の素質が著しく低下したやうである。これは經驗ある將校の補充難と共に赤軍將來の難關である。赤軍全體としての裝備が最早や昔日の如く充實してゐないことは、鹵獲又は破壞する戰車及び飛行機の數の著しき減少からも結論することが出來る。現在に於てはソ聯軍の師團數は、恐らく百箇師團を超えまいと云ふのが獨逸側の觀測である。然らばソ聯は來らんとする嚴冬休戰期に於て新軍隊を編成し、頽勢を挽回するまでに之を訓練整備することが可能であらうか。

前節に述べた如く、海外からの大量軍需品の供給は目下のところ種々の障害があつて、到底ソ聯軍再建の急場に間に合ひさうにもない。然らば國內產業の現狀は如何であるか。

ソ聯側の統計によれば、ソ聯邦工業全體に對する歐露（但ウラルを含む）の割合は八五%、重

工業は七五%、電力八五%、石炭七五%、石油九〇%、鐵鑛七〇%、銑鐵七五%、非鐵金屬七五%、金屬工業八〇%、化學工業八五%となつてゐる。今や獨逸軍はウクライナ及びドネッツ盆地の全工業地帶を席捲し、ハルコフも陷落、レニングラードは完全包圍により問題外となり、モスクワ周邊の工場は獨軍の接近により全機能を停止し、機械を取外して安全地帶への移轉に懸命の努力を傾倒してゐると云ふことである。果して然らば最も內輪に見積つて

石炭	六七%
鐵鑛石	六八%
マンガン	七〇%
石油	一五%
銑鐵	六七%
鋼鐵	六四%

はソ聯の權力範圍外となり、銃砲彈藥の製造、戰車飛行機等の供給にも非常な支障を來すことは火を睹るよりも明かである。

レニングラード、モスクワの二大都市の陷落は最早や時間の問題に過ぎない。ロストフがやがて獨軍の手に歸すると共に、コーカサスからの石油の歐露に入る道が杜絕してしまうこともソ聯

にとつては非常な痛手である。尤も我が國の所謂露西亞通の說では、ソ聯政府がよしんばヴォルガ河の彼岸に後退しても、ウラル及びシベリヤの資源を動員すれば、尠なくも四割强の工業殘存力を擁して、充分に自給自足が出來る經濟上の可能性がある。獨逸はまさかヴォルガの線を越えて敵を追窮すまいから、同河を隔てゝ長期戰、ゲリラ戰が展開するであらうと言ふのである。この說の當否に就ては私は何れとも斷言し得ない。しかし獨逸側では、ソ聯の前途についてはそんな樂觀說は單に露西亞側、英米側の希望的意見に過ぎないと言ふのである。本年度の戰鬪は酷寒期の襲來と共に自然停戰狀態に入り、徹底的討共作戰は來春に持越される譯である。ヴォルガの彼方に後退したソ聯の手に殘る工業力は、ウラル、カザクスタン及びアルタイ山脈(クズナスク)の西部シベリヤにある所謂ウラル・クズネッツ工業地帶で、精々大目に見積つてソ聯全產額の三割を占めるに過ぎない。しかもそれらは主に重工業生產原料の產地に過ぎず、レニングラード、モスクワ、ツーラ、ハルコフ及びドネッツ工業地帶の軍需工業、わけても精密工業を奪はれては蟹が鋏を捥がれたやうなもので、輕火器、重火器及び火藥は勿論、戰車の殆ど全部、飛行機の約八割の製造能力が失はれ、今僅に殘つてゐるであらうところの狙擊兵百箇師團の充實が關の山である。如何に人的資材にまだ徵募の餘裕があつても、新編兵力の裝備は到底自力では不可能であると云ふのが獨逸側專門家の意見である。コーカサスの石油輸送にはバクーからバツーム及びボ

ティヘのパイプラインと、同地からグロヅニー、マイコップの兩油田地方を經て一端はロストフ、一端は黑海岸のトゥアプセ港に達するパイプラインとがある。ロストフは陷落し、アストラハンまでが若し獨軍の手に歸する時には、コーカサスの豊富な石油は一滴もソ聯軍に屈かぬ。さうしたらスターリン政權の手に殘るものは、ウラル南方から裏海の北岸へかけて散在する目下開發中の新油田だけで、ソ聯全產油量の約一割內外を出すに過ぎない。戰車やトラックが激減したからよいやうなものの、これでは近代的機械化戰には到底事足りないのである。

銃後の護りとして一番問題になるのは、人口の問題である。ウラル以東でスターリン政權の利用し得る人口は、精々三千萬から三千五百萬程度で、それも荒漠たる地域に散在してゐるのである。人口の密度は一平方哩に十人か或はそれ以下でもある。シベリヤ領域の四割七分は土地の凍結が甚しいために問題にならず、更にその一割は不毛地帶である。殘りの四割三分の內約三割が草原地で牧場に適し、殘りの一割が耕地である。極東に於ても農業に利用出來る土地面積はほんの僅である。從つて食糧の自給自足も覺束ない。その上に交通路と云ふものがお話しにならぬ位原始的なので、重要物資の能率的な輸送は到底むつかしいのである。

之を要するにウラル以東に敗退後も尙ソ聯に再起の餘裕綽々たるものがあるなどと云ふのは、爲にせんとするアングロサクソン側の宣傳であり、事實に卽せざる架空の囈語に過ぎない。かく

ソ聯の軍備再建が不可能である以上、英米が如何に對ソ援助に血の道をあげても、頽勢の挽回は愚か、今迄の喪失資材を補充することすら到底急に出來るものでないと云ふのが、獨逸側の主張であることを附記する。

十月末迄の赤軍の損害

ソ聯軍再建の爲に缺くべからざる軍用器材の海外よりの補給が殆ど絶望であるのみならず、國內資源及び工業設備の喪失により赤軍の再起が全く不可能でないまでも、非常に困難であることは前節に於て之を述べたが、一體ソ聯は今日迄どれ程の損害を受けたのか。

對ソ戰の戰果として獨逸軍當局の非公式發表によれば、十月中の赤軍の損害は、狙擊兵師團六十七師、騎兵六師、戰車八師と六旅團、この總兵力は百六十萬人を突破すると云ふことである。また六月二十二日開戰以來九月末迄の約百日間に、獨逸軍によつて徹底的に打破せられたソ聯兵力は、狙擊兵師團二百十七師、戰車五十師、騎兵十九師、山岳兵九師、民兵二師、總計二百九十七師團の外に、落下傘部隊三旅團、步兵一旅團、戰車隊一旅團、その總兵力六百萬乃至七百萬。十月末迄の總決算は、擊滅された兵力約四百ケ師團、七百乃至八百萬人に達してゐるらしいと云つても敢て過言ではないと思ふ。その內約半數は捕虜、殘りは戰死者と見てよい。獨逸軍當局で

は、これらの敵師團の司令部は悉く獨軍の手に落ち、その幹部も皆之を確認してゐるから、以上の師團數を完膚なき迄に擊滅したことは、絶對に疑問の餘地がないと云つてゐる。

開戰五箇月目の戰果

十月二十二日より十一月二十一日に至る開戰五箇月目は、秋から冬に移り更る境目である。

この季節には露西亞では天候が不良で、爲に獨逸軍及び同盟軍の軍事行動に非常な障碍を與へた。冷たい雨は連日降り續いて晴間を見せず、道路は泥濘膝を沒する泥田と化し、飛行場の多數は水浸しと成つて使用に堪へず、視野も狹くなつて交戰甚だ難澁を極めた。それ許りでなく本年は寒氣が例年よりも急に襲來して、飛行場等の凍結はよいとしても、河川が氷結し始めたので機械化部隊の難儀は非常であつた。

そんな譯で征露戰役第五箇月目の戰果が稍前月に劣つたのは止むを得ない。併しそれでも約五十萬の捕虜と、戰車約二千五百輛、砲八百五十門、飛行機五百機を鹵獲破壞した上、約十三萬平方キロ卽ち希臘全國にクレタ島を加へた面積、我が國で言へば北海道に九州を合せた程の土地を占領したのは相當なものであつた。

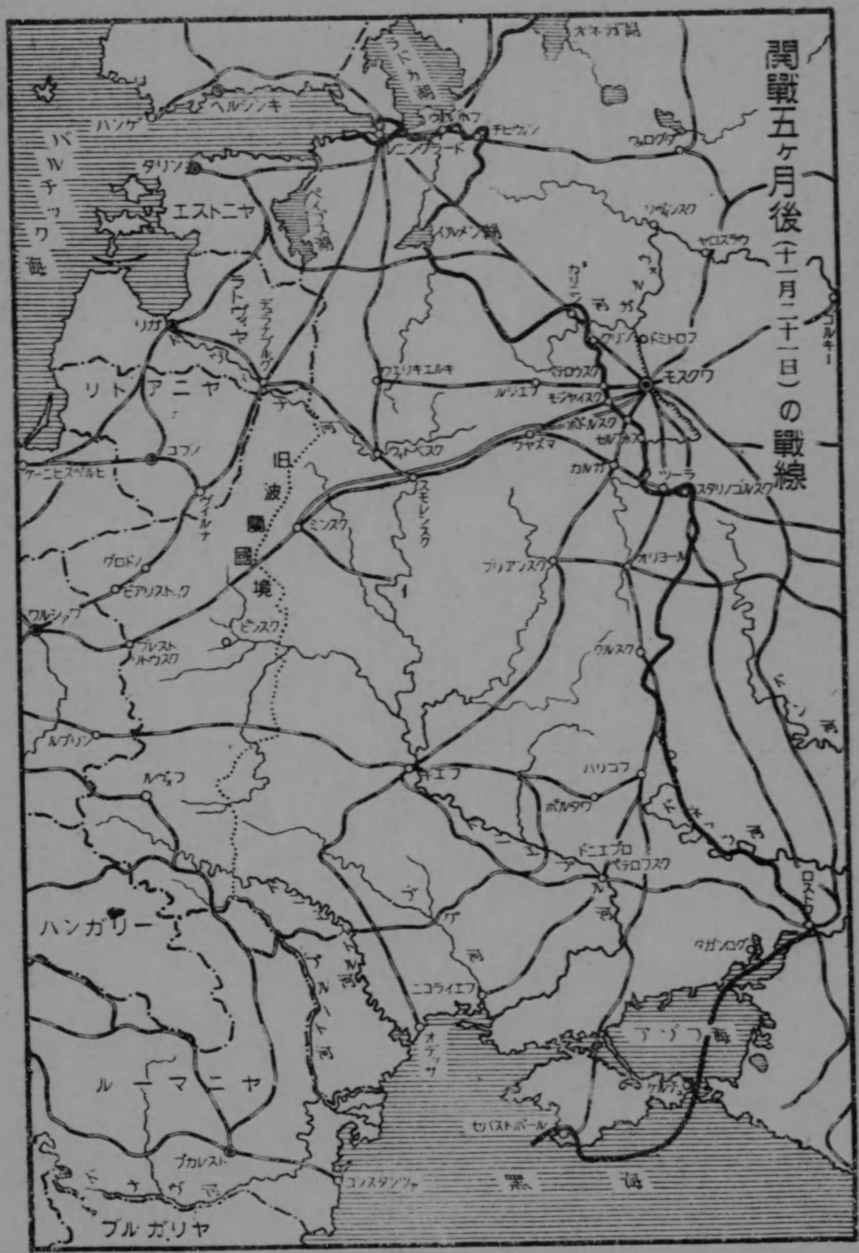
本月の最大事件は何と云ふてもクリミヤ半島の攻略であつた。獨逸軍が初めてクリミヤを攻擊

したのは九月の後半であつたが、方面軍司令官リッター・フォン・シューベルト上將が不幸にも戰死したので、一時停頓を見たのである。本作戰の重點は幅僅に二十キロに過ぎぬ要害堅固なペレコープ地峽の突破である。赤軍はこの要地に非常に堅固な防禦工事を施した上に、歩兵九箇師團、騎兵四箇師團を以てクリミヤの防禦に充てたのである。この天嶮を利用して永久築城的に構築せられた敵陣地に對し、獨羅聯合軍は十日間の力戰奮鬪の後漸くこの地峽を強行通過して運動の自由を獲得した。その後間もなく羅馬尼軍によつて鐵道線路に沿ふ敵の戰線突破が成功した。この二勝によりクリミヤ戰の運命が決したと云つてよい。かくて迅速果敢な追擊戰に於て楔をヤイラ山脈中に打込んで黑海沿岸の東南端に達し、敵をセバストポールとケルチュの二方面に分散せしめた。セバストポール要塞内に逃込んだ敵に對する攻擊は徐々に進行中であるが、一方ケルチュ方面の敵は之を海に壓迫して全滅させることに成功した。

開戰五箇月目の終りに於てクリミヤ全島を平定し、敵は僅にセバストポールの一角に據るだけとなつた。この作戰中獨逸側の損害は戰死一千百九十五名、負傷五千五百八十八名、行方不明二百四十九名であつた。敵の損害は捕虜約十萬人、砲四百五十門、戰車百六十六輛である。

本月第二の重大戰績はロストフの陷ir である。秋雨陰霖の極ロストフ＝ハルコフ＝クルスク戰線の道路は殆ど通行不能に陷り、軍隊の前進を阻んだ。前記諸都會の間に介在せる工業都市の占

第十二圖


開戰五ヶ月後(十一月二十一日)の戰線
オネガ湖
ラドガ湖
ヘルシンキ
ハンゲ
ペトログラード
チヒヴィン
ウラログダ
タリン島
エストニヤ
バルチック海
ペイプス湖
イルメン湖
リベンスク
ヤロスラフ
ウラル
カリニン
ゴルキー
リガ
ラトヴィヤ
ヴィテブスク
ドミトロフ
モスクワ
リトアニヤ
ヴェリキエルキ
ブロウスク
ルジエフ
モジャイスク
ボロルスク
ヴヤズマ
セルプホフ
コブノ
ヴィルナ
旧波蘭國境
ミンスク
スモレンスク
カルガ
ツーラ
スタリノゴルスク
グロドノ
ピアリストック
ワルシャワ
ブレスト
リトウスク
ピンスク
ブリアンスク
オリヨール
クルスク
ルブリン
ルヴフ
キエフ
ハリコフ
ポルタワ
ドニエプロペトロフスク
ロストフ
ハンガリー
タガンログ
ニコライエフ
オデッサ
アゾフ海
ルーマニヤ
セバストポール
ブカレスト
コンスタンツァ
黑海
ブルガリヤ

據は單に歩兵によるもので、それも車輛を殘して前進したのである。十一月の初め天候が恢復したが永續きせず、ソ聯軍の大反擊も同樣成功しなかつた。その後突如として氷結が始まり氣溫も零下二十度に降り、軍隊の行進は中々自由でなかつた。殊に泥中に落込んだ車輛が皆固く凍りついてしまつた爲、これを氷結から解放するに非常な勞力を要した。

そんな譯で月末に成つてやつと大規模な作戰行動に移ることが可能となつたのである。ロストフの西方にあつたフォン・クライスト將軍の戰車隊は、この機に乘じてロストフ攻擊の擧に出で激烈な市街戰の後、遂にこの重要な、將來コーカサス作戰の基地となるべき都會が獨軍の手に落ちたのである。

オリヨールからカリニン（トゥウェル）までの中部戰區では、連日の降雨の爲に月初の三週間は殆ど目ぼしい戰鬪行爲は行はれなかつた。モスクワ攻擊の爲めの軍隊の配置替へすら、最惡の道路狀況では非常な努力を盡して漸く計畫通り遂行することが出來た。反對に獨軍の手中にあるカリニンに對する敵の猛擊も多大の死傷者を殘して擊退された。そしてその結果カリニン西方の占領地域を著しく擴張することが出來た。

寒氣が加はつて月末最後の週になつて土地が凍結したお蔭で、軍隊は機動の自由を恢復することが出來、獨逸側では大規模の攻擊前進に移る機會を攫んだ。ツーラの南方に重點を置いて同地

の南方からカリニンの南方まで三百二十キロの正面に於て、東北乃至東方に向つて攻撃前進が開始された。南方攻撃部隊は急速にスタリノゴロッドを越えて約百キロの地域を奪取した。北方ではタリン及びノヴォペトロウスコエを攻略したが、成功は捗々しいものではなかつた。孰れにしてもこの兩戰鬪行爲により、來月のモスクワ包圍攻撃が約束されたのである。

その間ルシェフ附近ではヴォルガ河北の赤軍防禦陣地に深き突破孔を作ることに成功し、これを利用してゼリシャレヴォ（ヴォルガ湖西南五〇キロ）の敵陣地を席捲した。

既に開戰四箇月目の終り頃から引續き、ノヴゴロッド北方の攻撃は多大の成功を收めた。東北の方向を採つて奥深き敵の防禦陣地を突破しつつ、先づティヒウィン、次でノヴヤ・ラドガの南七十五キロのウォルホフを取つた。この地域の奪取により間もなくスウィル河畔にある芬蘭軍との協同作戰が可能となるのみならず、ラドガ湖の氷上を渡つて密に逃亡を試みる敵の、利用し得べきラドガ湖東南最後の鐵道線路を遮斷した譯である。それのみならずティヒウィン附近のボーキサイト坑の奪取は、ソ聯軍需工業にとつて重大な打撃である。かくてティヒウイン、ウォルホフ兩地に向つて行はれたシベリヤ師團の反撃は、甚大なる損害の下に撃退された。またネヴ河を渡つて脱出を試みる赤軍屢次の企圖も悉く失敗に終つた。

カレリヤ戰線に於てはペトロサヴォドスク奪取後、ムルマンスク鐵道に沿ふて北進中の攻撃は

成功の下にポウヱネツセゴセロの線にまで達し、兼てオネガ半島から敵を撃攘してしまつた。

因に過去五箇月間に獨軍の獲たる戰果は次の如くである。

	捕虜	戰車	砲	飛行機
第一月目	四一七、〇〇〇	八、七五一	四、四九七	八、〇〇〇
第二月目	一、二五〇、〇〇〇	一四、〇〇〇	一五、〇〇〇	一一、二五〇
第三月目	二、二五〇、〇〇〇	一六、三九六	二〇、五八九	一二、九五二
第四月目	三、三〇二、〇〇〇	一九、四六三	二九、四三八	一五、三八〇
第五月目	三、七九二、六〇〇	二二、〇〇〇	* 二七、四五二	一五、八七七

* 再調査結果訂正

これに對し獨逸軍の損害は、開戰以來十二月一日迄を合計して左の通りである。

陸軍

戰死	一五八、七七三
負傷	五六三、〇八二
行方不明	三一、一九一

機械化部隊

戰死　一六二、三一四
負傷　五七一、七六七
行方不明　三三、三六九

空軍
戰死　三、二三一
負傷　八、四五三
行方不明　二、〇二八

海軍
戰死　三一〇
負傷　二三二
行方不明　一五〇

冬期停戰

開戰五箇月目の戰績は既に寒氣襲來の影響で餘り捗々しくなかつた。名にし負ふ露西亞の冬は氷點下二十度乃至三十度を示し、獨逸の野戰軍にとつては赤露軍以上の强敵である。豫て期して

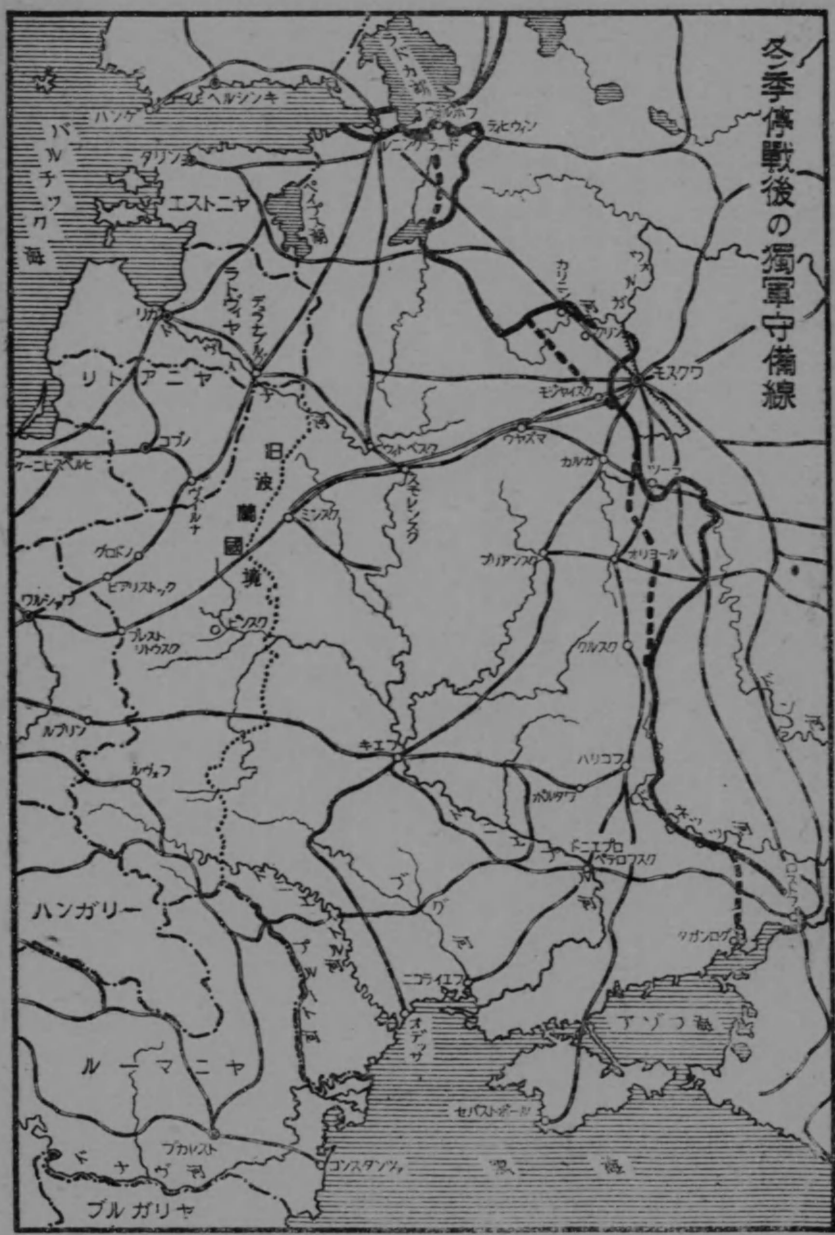
はゐたものの、酷烈なる寒威が人馬に及ぼす影響はまだ對策の講じやうがあつても、戰車、自動車等機甲部隊の器材は遂に動きがとれなくなつてしまつた。嚴冬將軍の來襲と共に極度に機械化せられた近代戰の面影は俄然失はれ、戰場は第一次世界大戰以前の相貌を呈し、ドン・コサックの昔を偲ぶ騎兵戰術の壇場に急變した。獨逸軍の電擊を喰ひ止めて『嚴冬將軍』の來援まで持耐へたことは、赤軍の成功と云はねばならぬ。

赤軍掉尾の成功はロストフの奪回であつた。フォン・クライスト將軍の機甲部隊は、土民軍と『嚴冬將軍』との加勢を得た優勢なる敵軍に對し、最後一人まで陣地を死守すると云つたやうな舊體制下の戰術を捨てて、潔くロストフを敵手に渡してタンゲローグの線まで後退した。

中央戰線に於ては、オリヨール東方のウェルヒョヴォ（Werchowo）地區より東北に向つて進出したグデリヤン將軍令下の戰車軍は、天候の不良を意とせずリヤザン（Rjasan）方面に向つて驥足を伸ばし、ツーラを完全に包圍した。またこれより北に當るタリン方面でも獨軍の攻擊は、徐々に而も着々進捗して、附圖に示す如くモスクワ包圍の態勢が整つて來たやうに見えたが、十一月の末頃一層酷しい寒波が襲來して、寒暖計は零下三十五度まで降り、遂に交戰停止の已むを得ざる場合に立ち到つた。

これが舊體制下の獨逸軍隊であつたら、血を以て占領した土地は寸地尺地と雖も敵に渡さぬと

第十三圖



獨逸軍進擊最前線　十二月二十一日獨逸軍退却線

頑張る所であるが、ヒットラーの常勝軍はそんな小節には拘泥しない。十二月八日停戰の發令と共に潔く陣を撤し、戰線を縮小整理して、來春の捲土重來を期したのは實に水際立つて鮮かな用兵振と禮讃せざるを得ない。ソ聯軍はこの機に乘じ死傷を構はず獨軍に喰つて掛つたが、到る處擊退されてしまつた。唯北方ティヒウィン（Tichiwin）方面の戰線は餘りにも敵中に突出してゐるので、戰略的に後退させる必要があつた。またカリニン方面でも戰線整理の必要から若干の後退を餘儀なくされた。

以上戰線整理の結果、目下獨軍の守備する戰線は南方アゾフ海岸のタンゲログを起點として、ドネッツ河上流に沿ひハルコフ、クルスクの東方を過ぎ、ツーラとカルガの中間を通りオカ、ナラ兩河の合流地點に達し、ナラ河の西岸を經てモジャイスクよりルシェフ街道上のペトロウスク に到り、それよりカリニン西方約百キロの地點に於て十月末の獨軍戰線に合流してゐる。斯くの如くレニングラードとセバストポールの包圍はその儘として、戰線の短縮により、前線兵士に冬期休養の時を與へ、航空兵力の如きはこれを他戰線に轉用するなど、ひたすら來春の捲土重來を期して後方連絡の整備に務むる獨軍統帥部の志は決して小さくない。殊に獨軍冬期停戰發令の日に大東亞戰宣戰の大詔が渙發せられたことは、豫期されざりし暗合とは申しながら奇しき機緣と云はねばならぬ。筆者は茲に擱筆の好機を得たことを衷心より慶賀するものである。

[illegible]の[illegible]を得たことを衷心より慶賀するものである。

フィンランド
ラドガ湖
ヴィブリ
30.
ヘルシンキ
フィンランド湾
ハンゲ
レーニングラード
シュリュセルブ
29.
ペトロザヴォドスク
1.10.
スウィル
7.9.
ラヒウン
9.11
ヴォルホフ
21.8.
ナルヴ
28.8.
タリン
(レヴル)
タパ
ダゲー
21.10.
エストニヤ
オニーゼル
21.9.
ペルナウ
ペイプス湖
ルガ
26.8.
24.8.
ノヴゴロッド
イルメン湖
ドルパット
5.8
フェリン
2.8.
プスコフ
ポルホフ
ヴェルス
ウスヴルガ湖
オストロフ
8.7
ポストロフ
21.8.
リガ湾
21.7.
ウィンダウ
2.7.
ラトヴヤ
.11.
10.
9.

ラトヴィヤ
リトアニヤ
旧ソ波國境戰
ドヴィナ河
ベレシナ河
プリペット沼澤地
プリペット河
21.7.
ウィンダウ
2.7.
リガ
2.7.
ポストロフ
8.7
27.8.
ウォルキエルキ
ネーウェル
26.6.
デュラナブルグ
ポロスク
ウィトベスク
スモレンスク
16.7.
オルシヤ
ロスラウル
9.8.
モギレフ
ポリソフ
1.7.
ミンスク
30.6.
ベレシナ
ボブルスク
1.7.
ゴメル
21.8.
チェルニゴフ
ピンスク
ブレストリトウスク
24.6
ビアリストック
1.7.
グロドノ
24.6.
ヴィルナ
24.6.
ゴラウ
スベルグ
9.

ウォログダ
ブイ
リヴィンスク
コストロマ
ヤロスラウ
ウ
ゴルキー
ガ
河
ジェルジンスク
15.10.
カリーニン

15.10.
カリーニン
ドミトロフ
クリン
ソルネチ
ゴルスキー
ウォロコラムスク
テロウスク
ライスク
モスクワ
スヴェルニゴロド
モジャイスク
ボドルスク
モスクワ川
ナホロジンスク
マロヤロ
セルプホフ
オカ川
リャザン
スラヴィツ
カルガ
15.10.
ツーラ
3.10.
オリヨール
クルスク

國境戰
ミンスク
30.6.
ボリソフ
1.7.
ベレシナ河
モギレフ
9.8.
グロドノ
ビアリストック
1.7.
ベレシナ
ポブルスク
1.7.
ゴメル
21.8.
ピンスク
プレストリトウスク
24.6
プリペット沼澤地
プリペット河
チェルニゴフ
デスナ河
ルブリン
9.8.
コロステン
ルック
ブロディ
ウリンスク
キエフ
20.9.
ジトミール
2.8.
ドウブノ
ブロディ
(レムベルグ)
ルヴォフ
30.6.
プレミズル
タルノポール
ウィニツア
ウクライナ
ウマン
8.8.
カルパチ
ンガリー

ンガリー

カルパチヤ

チェルノウィチ
7.7.

ベッサラビヤ

ドニエストル河

プルート河

キシノフ
17.7.

ガラツ

ルーマニヤ

ウマン
8.8.

ブグ河

ニコライエフ
17.8.

オデッサ
16.10.

21.7.

21.8.

21.9.

0 50 100 150 200 250 km.

凡例

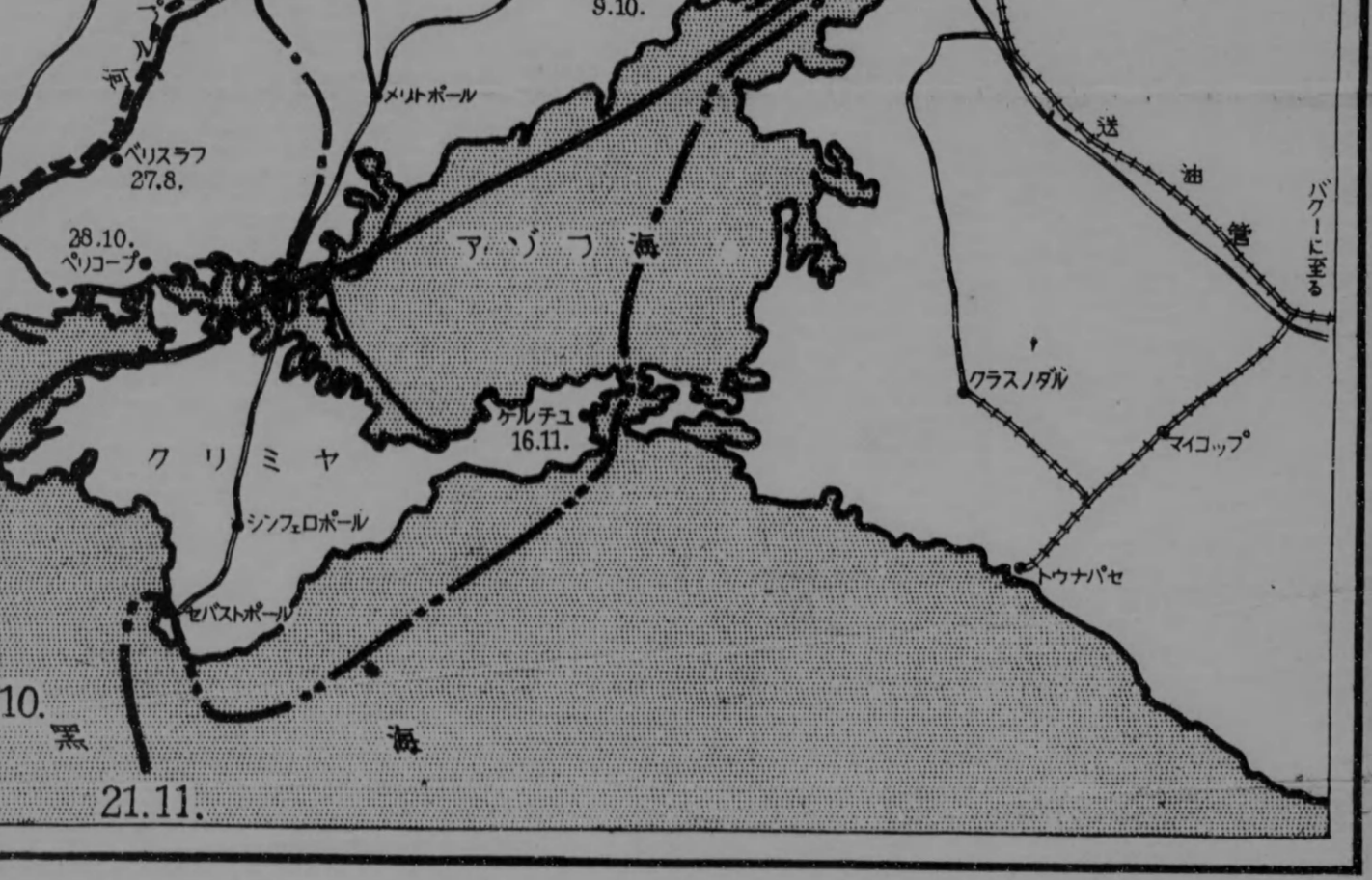
スターリン線要塞

関戦

関戦

関戦

クルスク
3.11
ブエルゴロド
24.10.
24.10.
ハリコフ
18.9.
クラスノグロッド
ポルタワ
18.9.
ドンバス地方
ドネツ河
ドニエプロペテロフスク
河
スターリノ
21.10.
サポロジェ
タガンログ
ロストフ
22.11.
マリウポール
9.10.
ドン河



月後の戦線
月後の戦線
月後の戦線
月後の戦線

開戦五ヶ月後の戦線
獨軍最進出線
十二月二十一日の獨軍守備線

（註） 本圖中の數字 21.7.は七月二十一日の畧

日

誌

反共十字軍進擊日誌

反共十字軍進擊日誌

六月

二十二日　開戰

二十三日　グロドノ要塞陷落

二十四日　ブレスト・リトヴスク要塞陷落
ウィルナ及びコヴノ占領

二十六日　デュナブルグ占領、コヴノ北方の遭遇戰終了

三十日　レムベルグ要塞陷落、ミンスク及びリバウ占領

七月

一日　ビヤリストック附近の包圍戰終了、獨軍ボリソフ及びボブルイスクに達す

二日　リガ及びウインダウ占領

六日　スターリン線の攻擊開始

七日　チェルノウチ占領、セレト河渡河

八日　ソ芬國境都市サラ及びエストニヤ領ペルナウ、フェリン、オストロフ占領

十一日　スターリン線突破、ウィテブスク要塞陷落

十六日　スモレンスク及びキシネフ（ベツサラビヤ主邑）占領

十八日　獨羅聯合軍ドニエストル河渡河

二十一日　モスクワ空襲開始

八月

二日　ポルスク占領、ジトミー　陷落
四日　スモレンスク東方の包圍戰終了（赤軍全滅）
五日　エストニヤ領タプス占領
八日　ウマン方面の包圍戰終了、エストニヤ領ウェーゼンブルグ占領
九日　コロステン占領、ロスラウル（スモレンスク方面）戰終了
十三日　オデッサの東方に於て獨軍黑海岸に達す、オチャコフ占領
十四日　クリヴォイ・ログ鐵鑛山占領
十五日　オデッサの包圍完了
十七日　ニコラエフ占領
二十一日　ヘルソン占領、ノヴゴロッド、キンギイセップ、ナルヴ占領
二十二日　ケクスホルム占領、キヴィネフ占領
二十五日　ドニエプロペトロウスク占領
二十六日　ルガ占領
二十七日　ベリスラウ要塞（ドニエプル河下流）陷落、ヴォリキエ・ルキ東方の包圍戰終了
二十八日　タリン占領
三十日　芬蘭軍ウィボルグ占領

九月

八日　芬蘭軍レニングラード東方のスウィル河に達す
九日　獨軍ネヴァ河に達し、シュリュッセルブルグ占領
十日　ウヤズマ（スモレンスクとモスクワの中間）占領、レニングラードの包圍完了
十六日　イルメン湖南方の遭遇戰終了
十八日　ポルタワ（ハルコフ西方）占領
二十日　キエフ占領

二十一日　オェゼル島（バルト海）占領
二十一日　ダゲ嶋（バルト海）占領

二十一日　オェゼル島（バルト海）占領
二十七日　キエフ大會戰終了
二十九日　ドニエプロペトロウスク東方の殲滅戰終了

十月

一日　芬蘭軍ペトロサヴォドスク（カレリヤ）占領
三日　オリヨール占領
八日　アゾフ海北岸の殲滅戰終了
九日　獨軍アゾフ海北岸ベルヂャンスクを經てマリユウポールに達す
十五日　カルガ及びカリニン占領
十六日　オデッサ陷落
十九日　ウヤズマ及びブリヤンスクの包圍戰終了、アゾフ海北岸のタガンロッグ占領
二十日　スタリノ占領

二十一日　ダゲ嶋（バルト海）占領
二十四日　ハルコフ占領、ベルゴロッド（ハルコフ東北）占領
二十八日　クレマトルスカヤ（ドネツ）占領
二十九日　クリミヤ半島の咽喉ペリコープ占領

十一月

一日　ウォルホフ（北部）占領、クリミヤの首都シンフェロポール占領
三日　クルスク占領
九日　ティヒヴィン（北部）占領
十七日　ケルチュ（クリミヤ半島東部）占領
二十二日　ロストフ占領
二十四日　ソルネチュゴルスキー（モスクワ西北）占領

十二月

八日　寒[illegible]のため大規模軍事行動停止

（日本出版文化協會會員番號一二二一〇一）

昭和十七年二月二十三日印刷
昭和十七年三月一日發行

反共十字軍

定價 三圓

著者 原田瓊生

發行兼印刷人 東京市淀橋區西大久保二ノ二六二 瀧口潔

印刷所 東京市芝區濱松町一ノ三 松壽堂印刷所

不許複製

發行所 東京市麹町區大手町一ノ六 日獨出版協會 電話丸ノ内(23)〇一七五番 振替東京三〇一四六番

配給元 東京市神田區淡路町二ノ九 日本出版配給株式會社